

1998年度

# 経済学部シラバス

獨協大学

---

---

# はじめに

経済学部長 千代浦昌道

## 1. 天野貞祐先生のこと

諸君は天野貞祐先生のことはたぶん知らないだろう。なんて、はじめからこう書いてしまうと、お叱りを受けるかもしれない。しかしながら私などは、諸君のような若い人たちが、天野先生のことにはよく知っているなどと答えるほうがむしろおかしいと思ってしまうのである。でも、獨協大学に入学したんだから、天野先生のことには少しは知ってほしいと思う。

天野貞祐先生は獨協大学の創立者である。もちろん、先生を中心としてたくさんの方が一緒に創ったのだが、天野先生をリーダーにして創ったという意味である。リーダーになったということは、天野先生がなにか優れたものを持っていたからだろう。

まず、天野先生は哲学者であった。先生は、18世紀後半のドイツで活躍したイマニュエル・カントという著名な哲学者の研究者であり、カントの主要著作である『純粋理性批判』という1781年に書かれた非常に難しい本の優れた翻訳者としても知られている。

先生は明治39年に現在の獨協中学・高校の前身である獨逸協会中学を卒業後、旧制一高、それから京大へと進学され、大正15年からは京都大学で教鞭をとられた。先生は、太平洋戦争直前の軍部が支配する日本においても反軍思想の自由主義者としての初志を貫かれた。先生が大正12年にドイツに留学された時に目の当りにされた第一次大戦後のドイツ国民の惨状から当時の日本の前途を憂いてその気持ちを率直に述べられた著書『道徳の感覚』（昭和12年発行）は、反軍思想があると見なされて自発的絶版に追い込まれ、その出版元である岩波書店にあった4000部の製本前の本まで裁断されてしまった。太平洋戦争直前の軍部跋扈の時代に、よくもまあ自由主義を貫かれたものだと、初志貫徹などとはおよそ縁のない私などは、これだけでもう先生への尊敬の念がこんこんと湧き出てきてしまうのである。

戦後は、昭和25年に当時の吉田茂首相に請われて約2カ年の間、文部大臣を務められ後、昭和28年には獨協学園の校長に就任されたが、その間に先生はそれまでに培われた理想の大学を創設することを決意され、初代理事長であった関湊氏の協力を得て昭和39年に獨協大学を開設するに至ったのである。

---

---

---

## 2. 天野先生の大学教育への基本的な考え方

もちろん、天野先生はもういまから17年ほど前の昭和55年に95歳で亡くなられた。先生は昭和39年から昭和44年までの約5年間、獨協大学の学長を務められた。その間にさまざまな大学行事の式辞やらあるいは折に触れての学長講話という形でお話をされている。

私自身は、天野先生が学長を辞められた翌年に獨協大学に着任したので、そのような形での天野先生にお目にかかったり、お話を聞いたりする機会はなかった。そのため、私のここでの話はだいぶ迫力を欠くことになるのだが、その点はお許し願いたい。

さて、そのような先生のお話の中から見えてくる先生の大学教育についての基本的な考え方は、つぎのようなものと思われる。すなわち、「人間は非常に難しい存在であって、動物でもなければ神でもない。動物に宿った神であるとも言えるし、神を宿した動物であるとも言える。したがって、その難しい存在である人間を指導するある力が必要であるが、それが理性であり知性と呼ばれるものである。(ここは、映画「スターウォーズ」のテーマとよく似ている) その理性や知性を蓄える過程が人間形成と呼んでもよい。この人間形成というのは、いろいろな方法を通じて可能である。仕事を通じて、あるいはスポーツや音楽を通じて、あるいは家庭生活を通じても行われる。しかし、いちど大学という場に入ったなら、それは当然に学問を通じて行われなければならない」。以上が、獨協大学の創立以来のキャッチフレーズになっている。「大学は学問を通じての人間形成の場である」という、なにやらありがたいフレーズの少し詳しい解説である。

## 3. 獨協大学の教育理念と学則第1条

天野先生はこの大学教育についての基本的な考え方を中心に据えられて、戦争中の経験などからの日本人の国際性の欠如、あるいは従来の形骸化した日本の大学入試あるいは大学教育への反省から、つぎのような具体的な教育方針を打ち出された。

すなわち、入学試験については「真の才能を見いだすための入試」、日本人の置かれた地理的・歴史的環境に由来する国際性と外国語能力の欠如を克服するための「生きた外国語の修得」、さらに学生の大学生活の本来の目的は「学問を通じての人間形成」であること、そして最後に「真に努力した者のみに許される卒業」が待っている。

実は、この獨協大学の教育の基本的な考え方は、諸君が大学からもらった学生手帳の中に書かれている「獨協大学学則」というなにやら難しそうな文章の第1条に述べられているので、一度ゆっくり読んでおいてほしい。

---

#### 4. 経済学部としての教育方針

さて、諸君の入学した経済学部では、以上のような大学の基本方針に沿ってつぎのような学部独自の教育方針を作っている。すなわち、

- 1) 経済学部は、経済学科と経営学科の2学科に分かれているが、いずれも現代の日本社会の国際化、情報化、専門化、多様化に適応するための豊かな教養と専門知識を備えた良識ある職業人の養成を目的としている。
- 2) 国際社会に対応する外国語教育の重視は獨協大学創設以来の全学的伝統でもあるが、とくに経済学部では、経済学あるいは経営学、情報科学等の専門知識の修得のうえに外国語の実務能力を十分に身につけた人材の育成に努めている。
- 3) 現代の急速な情報化社会の要請に応じて全学的にも情報処理基礎教育の徹底を図っているが、とりわけ経済学部においては統計学ならびに情報科学関連科目の充実が維持され、学生の現代的ニーズに的確に応えている。
- 4) 高度な専門化の要請ならびに学生一人ひとりの能力と個性を大切に育てる専門教育の充実のために、獨協大学では創設以来、演習必修制を導入して期待された成果を上げてきた。この演習必修制は、教員の懇切かつ人間的な指導に支えられて、現在も経済学部の教育理念の根幹を創り上げている。

#### 5. 学生諸君に期待すること

獨協大学が以上のような基本方針をもって諸君の教育に望んでいることを理解してもらえたならば、反対に諸君もまたできればそのような方針に沿った努力をお願いしたい、というのが学部長である私からのお願いである。

いままで、いかにも学生の味方みたいな口振りで話していたのに、最後の土壇場になってついに大学側管理者の本音を出したなと思っている人もいるかもしれない。まあ、それはほんとうのところだから仕方がない。「先生、そんなことを言わなくても、獨協大学の教育の基本方針を知っていたからこの大学に来たんじゃないか」と言ってもらえれば、たいへんありがたい。そんなことを聞けば、すぐに「優」を上げてしまう。それでは諸君、どうかよろしく。



---

---

## 目次の見方

### <1998年度入学者>

「1998年度入学者用」の目次で検索してください。

### <1994年度～1997年度入学者>

「1994年度～1997年度入学者用」の目次で検索してください。

### <1993年度入学者>

「1994年度～1997年度入学者用」の目次で検索してください。科目名が異なる場合は〈 〉内に対応する科目名を併記してあります。

### <1992年度以前入学者>

「1994年度～1997年度入学者用」の目次で検索してください。科目名が異なる場合で不明な点は、教務課第3係窓口でおたずねください。

---

# 目 次

## (1994年度～1997年度入学者用)

1993年度入学者は、各自のカリキュラムの科目を参照して下さい。  
(科目名が異なる場合、〈 〉内に併記してあります。)

### (経済学科/経営共通) 一般基礎科目群

文 学	(日本文学)	飯 島 一 彦	1
"	(日本文学)	北 村 進	3
"	(日本文学)	肥田野 昌之	5
"	(世界文学)	北 澤 滋 久	7
"	(世界文学)	松 山 恒 見	9
"	(世界文学)	山 路 朝 彦	11
国 語		飯 島 一 彦	12
"		小 島 幸 枝	14
"		中 村 文	16
"		肥田野 昌之	18
歴史学	(日本史)	新 井 孝 重	20
"	(日本史)	齊 藤 博	22
"	(東洋史)	熊 谷 哲 也	24
"	(西洋史)	御園生 真	26
日本文化論	(社会)	柴 崎 信 三	(最初の授業で説明します)
思 想	(哲学)	高 尾 由 子	28
"	(哲学)	松 丸 壽 雄	29
"	(宗教)	鈴 木 康 治	31
法 学		野 村 武 司	33
地理学		犬 井 正	35
"		山 本 正 三	37
心理学		杉 山 憲 司	39
"		増 田 直 衛	41
数 学		遠 藤 信	43
自然科学概論	(A)	加 藤 僖 信	45
"	(B)	加 藤 僖 重	46
保健論		藤 井 賢 一 郎	47
体育理論	(再履修)	本 田 稔 祐	49

### (経済学科) 専門基礎科目群

経済学	(再履修)	益 山 光 央	51
-----	-------	---------	----

経済原論	-----	高橋房二	.....	52
"	-----	西村允克	.....	54
日本経済史	-----	齊藤博	.....	56
経済地理	-----	犬井正	.....	58
経済政策	-----	伊藤正昭	.....	60
日本経済論	-----	波形昭一	.....	62
統計学	-----	富田幸弘	.....	64
"	-----	本田勝	.....	66
"	-----	松井敬	.....	68
経済統計	-----	松本正信	.....	70
情報処理概論	-----	各担当教員	.....	72

### (経済学科) 主要専門科目群

経済変動論	-----	松本正信	.....	74
近代経済学	-----	小林進	.....	76
経済社会学	-----	高橋善四郎	.....	78
経済学史	-----	鈴木勇	.....	79
経済哲学	-----	高橋善四郎	.....	81
一般経済史	-----	原剛	.....	82
日本社会史	-----	新井孝重	.....	84
西洋経済史	-----	御園生眞	.....	86
東洋経済史	-----	駒形哲哉	.....	88
国際経済論	-----	益山光央	.....	90
産業構造論	-----	山越徳	.....	92
産業組織論	-----	青木雅明	.....	94
流通経済論	-----	西村允克	.....	96
交通経済論	-----	岡田博	.....	98
経済開発論	-----	千代浦昌道	.....	100
地域経済論 (1) 北米	-----	本田浩邦	.....	102
地域経済論 (2) 西ヨーロッパ	-----	大島通義	.....	104
地域経済論 (3) 東ヨーロッパ	-----	鈴木勇	.....	106
地域経済論 (4) アジア・オセアニア	-----	森健	.....	108
地域経済論 (6) ラテンアメリカ	-----	山本正三	.....	110
地域産業政策論	-----	伊藤正昭	.....	112
社会政策	-----	桑原靖夫	.....	114
労働経済論	-----	桑原靖夫	.....	116
財政学	-----	大島通義	.....	118
日本財政論	-----	伊藤為一郎	.....	120
公共財政学	-----	伊藤為一郎	.....	122
金融論 (A) (B)	-----	田村申一	.....	124
国際金融論	-----	山本美樹子	.....	126

(経済学科) 一般専門科目群

社会科学概論	-----	宮 澤 清	.....	128
地域精神衛生論	-----	佐々木 雄 司	.....	130
経営学	-----	河 野 重 榮	.....	132
保険論	-----	岡 村 国 和	.....	134
会計学	-----	宮 澤 清	.....	136
応用統計学	-----	本 田 勝	.....	138
プログラミング論	-----	高 柳 敏 子	.....	140
"	-----	立 田 ル ミ	.....	142
情報処理論〈情報処理論(1)〉	-----	高 柳 敏 子	.....	144
"    〈情報処理論(3)〉	-----	立 田 ル ミ	.....	146
"    〈情報処理論(2)〉	-----	富 田 幸 弘	.....	148
民 法	-----	武 川 幸 嗣	.....	150
商 法	-----	坂 本 延 夫	.....	152
政治学総論	-----	杉 田 孝 夫	.....	154
〈2学年 第一外国語〉				
ドイツ語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	.....	156
英語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	(最初の授業で説明します)	
英語Ⅱ (会話特別)	-----	各 担 当 教 員	(最初の授業で説明します)	
フランス語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	.....	157
〈2学年 第二外国語〉				
ドイツ語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	.....	158
英語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	(最初の授業で説明します)	
フランス語Ⅱ	-----	各 担 当 教 員	.....	160
スペイン語Ⅱ (総合)	-----	各 担 当 教 員	.....	161
スペイン語Ⅱ (会話)	-----	各 担 当 教 員	.....	162
中国語Ⅱ (総合)	-----	泰 敏	.....	163
中国語Ⅱ (講読)	-----	張 繼 濱	.....	164
外国書研究Ⅰ	-----	青 木 雅 明	.....	165
"	-----	井 出 健 二 郎	.....	166
"	-----	伊 藤 為 一 郎	.....	168
"	-----	伊 藤 正 昭	.....	169
"	-----	氏 原 茂 樹	.....	171
"	-----	内 倉 滋	.....	173
"	-----	遠 藤 敏 喜	.....	175
"	-----	遠 藤 信	.....	176
"	-----	岡 下 敏	.....	178
"	-----	岡 田 博	.....	179
"	-----	岡 村 国 和 (A)	.....	180
"	-----	岡 村 国 和 (B)	.....	181
"	-----	奥 山 正 司	.....	182

外国書研究 I	香 取 徹	184
"	小 林 進	185
"	小 林 哲 也 (最初の授業で説明します)	
"	斎 藤 正 章 (A)	186
"	斎 藤 正 章 (B)	187
"	高 橋 善四郎	188
"	高 松 和 幸	189
"	立 田 ル ミ	190
"	中 村 泰 将	192
"	波 形 昭 一	194
"	原 亨	195
"	本 田 浩 邦 (A)	196
"	本 田 浩 邦 (B)	198
"	益 山 光 央 (最初の授業で説明します)	
"	松 本 正 信	200
"	百 瀬 房 徳	202
"	森 澤 拓 (最初の授業で説明します)	
"	山 越 徳	204
"	山 田 浩 一	205
"	山野邊 義 方	207
"	山 本 栄	209
"	山 本 美樹子	211
"	湯 田 雅 夫	213
"	米 山 昌 幸	214
"	Warren Brent Roby	215
"	(外国人学生用) 駒 形 哲 哉	217
"	(独語) 御園生 眞	219
"	(仏語) 千代浦 昌 道	220
外国書研究 II	岡 村 国 和	222
"	小 林 進	223
"	高 松 和 幸	224
"	森 健	225
"	山 本 美樹子	226
"	(外国人学生用) 駒 形 哲 哉	228
"	(独語) 御園生 眞	230
"	(仏語) 千代浦 昌 道	231
貿易英語	山 崎 静 光	233
総合講座 (1)	経 済 学 部	235
特殊講義B	Warren Brent Roby	236

## (経営学科) 専門基礎科目群

経済学 (再履修) -----	岡 田 博 .....	238
" (再履修) -----	山 越 徳 .....	239
" (再履修) -----	米 山 昌 幸 .....	241
経営学総論 -----	河 野 重 榮 .....	243
" -----	増 田 茂 樹 .....	245
マーケティング論 -----	大久保 貞 義 .....	247
企業論 -----	西 川 純 子 .....	249
貿易論 -----	米 山 昌 幸 .....	251
簿記原理 -----	井 出 健 二 郎 .....	253
" -----	氏 原 茂 樹 .....	255
" -----	内 倉 滋 .....	257
" -----	岡 下 敏 .....	259
" -----	香 取 徹 .....	261
" -----	中 村 泰 将 .....	263
" -----	細 田 哲 .....	265
" -----	百 瀬 房 徳 .....	267
" -----	湯 田 雅 夫 .....	269
会計学原理 -----	内 倉 滋 .....	271
" -----	中 村 泰 将 .....	273
統計学 -----	富 田 幸 弘 .....	64
" -----	本 田 勝 .....	66
" -----	松 井 敬 .....	68
情報処理概論 -----	各 担 当 教 員 .....	72

(経営学科) 主要専門科目群

経営管理論	-----	増田茂樹	.....	275
経営労務論	-----	宮城浩祐	.....	277
財務管理論	-----	細田哲	.....	279
国際経営論	-----	小林哲也	.....	281
一般経営史	-----	原剛	.....	283
日本経営史	-----	齊藤博	.....	285
行動科学論	-----	大久保貞義	.....	287
広告論	-----	梶山皓	.....	289
交通論	-----	山野邊義方	.....	291
証券市場論	-----	原亨	.....	293
保険論	-----	岡村国和	.....	134
企業形態論	-----	栗村英二	.....	295
協同組合論	-----	栗村英二	.....	297
財務会計論	-----	中村泰将	.....	299
社会会計論	-----	湯田雅夫	.....	301
管理会計論	-----	香取徹	.....	303
経営分析論	-----	百瀬房徳	.....	305
原価計算論	-----	齋藤正章	.....	307
会計監査論	-----	長吉眞一	.....	309
税務会計論	-----	山田浩一	.....	311
上級簿記	-----	内倉滋	.....	313
〃	-----	細田哲	.....	315
管理工学	-----	山本栄	.....	317
経営数学	-----	前田功雄	.....	319
応用統計学	-----	本田勝	.....	138
オペレーションズ・リサーチ	-----	本田勝	.....	321
システムズ・エンジニアリング	-----	天笠美知夫	.....	323
情報システム論	-----	前田功雄	.....	325
標本調査論	-----	松井敬	.....	327
情報検索論	-----	福田求	.....	329
プログラミング論	-----	高柳敏子	.....	140
〃	-----	立田ルミ	.....	142
情報処理論 (1)	-----	高柳敏子	.....	144
情報処理論 (2)	-----	富田幸弘	.....	148
情報処理論 (3)	-----	立田ルミ	.....	146

(経営学科) 一般専門科目群

老年社会学	-----	奥山正司	.....	331
-------	-------	------	-------	-----

宗教学	鈴木康治	333
高齢者エルゴノミクス	山本栄	334
経済原論	高橋房二	336
〃	西村允克	338
国際経済論	益山光央	90
民法	武川幸嗣	150
商法	坂本延夫	152
政治学総論	杉田孝夫	154
第一外国語	(経済学科「第一外国語」参照)	
第二外国語	(経済学科「第二外国語」参照)	
外国書研究Ⅰ	(経済学科「外国書研究Ⅰ」参照)	
外国書研究Ⅱ	(経済学科「外国書研究Ⅱ」参照)	
貿易英語	山崎静光	233
総合講座(1)	経済学部	235
特殊講義B	Warren Brent Roby	236



# 目 次

## (1998年度入学者用)

### (経済/経営共通) 学科基礎科目

経済学 (経済学科)	小林 進	340
"	仙波 憲一	342
"	田村 申一 (最初の授業で説明します)	
"	益山 光央	51
"	松本 正信	344
"	山越 徳	239
"	山本 美樹子	346
経済学 (経営学科)	岡田 博	238
"	山越 徳	239
"	米山 昌幸	241
統計学	富田 幸弘	64
"	本田 勝	66
"	松井 敬	68
情報処理概論	各担当教員	72
経営学 (経済学科)	河野 重榮	132
経営学 (経営学科)	河野重榮・西川純子	348
"	栗村英二・高松和幸	350
簿記原理	井出 健二郎	253
"	氏原 茂樹	255
"	内倉 滋	257
"	岡下 敏	259
"	香取 徹	261
"	中村 泰将	263
"	細田 哲	265
"	百瀬 房徳	267
"	湯田 雅夫	269
〈1学年 第一外国語〉		
ドイツ語Ⅰ	各担当教員	352
英語Ⅰ (会話)	各担当教員 (最初の授業で説明します)	
英語Ⅰ (会話特別)	各担当教員 (最初の授業で説明します)	
英語Ⅰ (講読)	各担当教員	353
フランス語Ⅰ	各担当教員	354
〈1学年 第二外国語〉		
ドイツ語Ⅰ	各担当教員	355
英語Ⅰ	各担当教員 (最初の授業で説明します)	

フランス語Ⅰ	各担当教員	356
スペイン語Ⅰ(総合)	各担当教員	357
スペイン語Ⅰ(会話)	各担当教員	358
中国語Ⅰ(講読)	秦 敏	359
中国語Ⅰ(講読)	陳 跡	360
中国語Ⅰ(文法)	頼 明	361
高齢化社会論	奥 山 正 司	331
社会学	有 吉 広 介	363
法学	野 村 武 司	33
現代文化論	柴 崎 信 三 (最初の授業で説明します)	
文化人類学	井 上 兼 行	365
心理学	杉 山 憲 司	39
〃	増 田 直 衛	41
歴史学(日本史)	新 井 孝 重	20
〃	齊 藤 博	22
〃(東洋史)	熊 谷 哲 也	24
〃(西洋史)	御園生 眞	26
哲学	高 尾 由 子	28
〃	松 丸 壽 雄	29
文学(日本文学)	飯 島 一 彦	1
〃	北 村 進	3
〃	肥田野 昌之	5
〃(世界文学)	北 澤 滋 久	7
〃	松 山 恒 見	9
〃	山 路 朝 彦	11
国語	飯 島 一 彦	12
〃	小 島 幸 枝	14
〃	中 村 文	16
〃	肥田野 昌之	18
地球環境論(A)	加 藤 僖 信	45
地球環境論(B)	加 藤 僖 信	46
数学	遠 藤 信	43
地理学	犬 井 正	35
〃	山 本 正 三	37
精神衛生論	佐々木 雄 司	130
医療・福祉概論	藤 井 賢 一 郎	47
スポーツ・健康論	和 田 智	367

### (経済学科) 学科専門科目

経済統計論	松 本 正 信	70
日本経済史	齊 藤 博	56
日本社会史	新 井 孝 重	84

東洋経済史	-----	駒形哲哉	.....	88
西洋経済史	-----	御園生眞	.....	86
日本経済論	-----	波形昭一	.....	62
北アメリカ経済論	-----	本田浩邦	.....	102
ラテンアメリカ経済論	-----	山本正三	.....	110
西ヨーロッパ経済論	-----	大島通義	.....	104
東ヨーロッパ経済論	-----	鈴木勇	.....	106
東アジア・中国経済論	-----	駒形哲哉	.....	369
東南アジア・オセアニア経済論	-----	森健	.....	108

### (経済学科) 関連専門科目

会計学	-----	宮澤清	.....	136
データベース論	-----	高柳敏子	.....	144
コンピュータシミュレーション論	-----	富田幸弘	.....	148
マルチメディア論	-----	立田ルミ	.....	146
プログラミング論	-----	高柳敏子	.....	140
〃	-----	立田ルミ	.....	142

### (経営学科) 学科専門科目

経営管理論	-----	増田茂樹	.....	275
経営史	-----	原剛	.....	283
会計学原理	-----	内倉滋	.....	271
〃	-----	中村泰将	.....	273
上級簿記	-----	内倉滋	.....	313
〃	-----	細田哲	.....	315
経営数学	-----	前田功雄	.....	319
データベース論	-----	高柳敏子	.....	144
コンピュータシミュレーション論	-----	富田幸弘	.....	148
マルチメディア論	-----	立田ルミ	.....	141
プログラミング論	-----	高柳敏子	.....	140
〃	-----	立田ルミ	.....	142

### (経営学科) 関連専門科目

日本経済史	-----	齊藤博	.....	56
-------	-------	-----	-------	----

科目名	文学（日本文学）	担当者名	飯島一彦
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現していて重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」をとりあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深く長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>	
講義概要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」をとりあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>	
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。
	参考文献	その都度教室で指示する。
評価方法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。	
受講者に対する要望など	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。	

1. 「お伽草子」とは何か？
2. 「浦島太郎」を読む①
3. 「浦島太郎」を読む②
4. 「浦島太郎」を読む③
5. 奈良時代の「浦島太郎」① 日本書紀
6. 奈良時代の「浦島太郎」② 万葉集
7. 平安時代の「浦島太郎」①
8. 平安時代の「浦島太郎」②
9. 昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10. 国定教科書の「浦島太郎」
11. まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12. 予備日「絵本の中の浦島太郎」
13. 「一寸法師」を読む ①
14. 「一寸法師」を読む ②
15. 「一寸法師」を読む ③
16. 奈良時代の「一寸法師」①
17. 奈良時代の「一寸法師」②
18. 平安時代の「一寸法師」①
19. 平安時代の「一寸法師」②
20. 芸能に見る「一寸法師」
21. 国定教科書の「一寸法師」
22. 昔話の「一寸法師」
23. まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
24. 予備日「絵本の中の一才法師」

科目名	文学（日本文学）	担当者名	北村 進
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>近代の代表的な短編小説を読み味わいながら、小説のおもしろさ、奥深さを学ぶとともに、人間・社会・愛・自己などについて考える。いろんな作品を取りあげることによって、それぞれの作者の考え方、ものの見方の違いを知り、小説に対する興味を持たせたい。今が一番本を読める時期なので、本を選ぶ手助けとしたい。</p>	
講義概要	<p>近代を代表する作家の短編小説を多く読み、作者及び時代背景について解説し、その作品の内容を把握しながら作品世界について考察する。作品の朗読・解説が中心となるが、作品を読んだ後に、簡単な読後感を書いてもらうことがある。これも評価の対象となることもちろんである。</p>	
使用教材	テキスト	『近代の短篇小説』（榎おうふう）、その他必要に応じて指示する。
	参考文献	
評価方法	<p>前期はレポート、後期は未定。出欠は毎回とり、評価の参考とする。その他講義時に課すさまざまな課題。</p>	
受講者に対する要望など	<p>休まず出席すること。講義中、無駄話をしないこと。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 一年間の講義の概要について説明する。近代文学について簡単な試験を試みる。
2. 坂口安吾について解説する。安吾のおいたち、作家生活、文学史的な位置付けなどについて説明する
3. 「桜の森の満開の下」を読む。
4. 同 上。 読後感を書いてもらう。
5. 「桜の森の満開の下」の作品世界について考察し、他の作品についても解説する。
6. 太宰治を取り上げる。太宰治の生涯をたどりながら、文学活動について解説する。
7. 同 上
8. 「桜桃」を読み、晩年の太宰について解説する。
9. 中期を代表する作品「走れメロス」をシラー「人質」と比較しながら読んでみる。
10. 「走れメロス」と「人質」の相違を指摘しながら、太宰の意図について考える。
11. 横光利一「頭ならびに腹」「蠅」を読み、その作品の意図を探り、「新感覚派」について解説する。
12. 同 上。 「春は馬車に乗って」を読み、解説する。
13. 中島敦について解説し「名人伝」を読む。
14. 「名人伝」を読み、解説する。
15. 樋口一葉の生涯について解説する。
16. 「十三夜」を読む。
17. 同 上。 「十三夜」について解説する。
18. 武田麟太郎「雪の話」を読む。
19. 「雪の話」について解説する。
20. 森鷗外「普請中」を読み、解説する。
21. 鷗外の歴史小説について解説し、「阿部一族」を読む。
22. 同 上。
23. 大江健三郎「他人の足」を読む。
24. 有島武郎「小さき者へ」を読む。

科目名	文学（日本文学）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的事件などについて解説し、教養人として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。	
講義概要	前期は主として、初期万葉の歴史的な事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女の恋などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説するとともに代表歌人たる柿本人麿や山部赤人についても考察する。後期は主として、伝説・説話の歌から東歌・防人歌の問題および山上憶良・大伴家持などの有力歌人についても広く検討してみたい。	
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）
評価方法	授業への出席と前・後期試験によって決定する	
受講者に対する要望など		



1. 一年間の講義概要の説明、『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。
2. 巻一 1番・雄略天皇の歌について考える。
3. 中大兄の三山歌について、いろいろな角度から考察する。
4. 額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5. 柿本人麿とその長歌を中心に読む。
6. 大津皇子・大伯皇女について謀反事件を考察しながら、それらの歌を読む。
7. 穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8. 有間皇子の謀反と歌について『日本書紀』を参考に考える。
9. 再び柿本人麿の短歌とその終焉について考える。
10. 前期のまとめとしてプリント二枚を配って、前期試験の傾向と対策について説明する。
11. 山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心に読む。
12. 大宰帥大伴旅人「酒を讀むる歌」を中心にして読む。
13. 真間娘子について一赤人と虫麻呂一
14. 山上憶良とその歌一貧窮問答歌を中心にして一
15. 万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしての歌と説明。
16. 高橋虫麻呂の伝説歌について一浦島子・菟原処女など一
17. 寄物陳思・正述心緒一巻十一の歌を読む。
18. 万葉集の用字法一特に義訓・戯訓など一
19. 東歌についての説明と歌。
20. 中臣宅守と狭野弟上娘の悲恋とその贈答歌について。
21. 巻十六有由縁并雑歌を中心に読む。
22. 後期のまとめとしてプリント二枚を配り、後期試験の傾向と対策について説明する。
23. 大伴家持とその歌について講読する。
24. 防人歌についての説明と歌、上代特殊仮名遣についても説明する。

科目名	文学（世界文学）	担当者名	北澤 滋久
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。</p>		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—  英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいもののはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会って、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テキストは特に定めません。</p>	
	参考文献	<p>参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。</p>	
評価方法	<p>前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、殊に昨年は異常現象が生じ、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20%以上の不合格者が出ています。</p>		

1. 登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2. 開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3. I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂  
THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4. 『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5. 『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩  
THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6. II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔  
TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7. 『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて  
THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8. 『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9. III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス  
WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10. 『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11. IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇  
LORD JIM by Joseph Conrad
12. 『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
13. V 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人  
THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
14. 『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
15. VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気  
THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
16. 『アッシュー館の崩壊』他：至上の美を求めて  
THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
17. 『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って  
THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
18. VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎  
HAMLET by Wiliam Shakespeare
19. 『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
20. 『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて  
A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
21. VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想  
THE TURN OF THE SCREW by Henry James
22. 『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
23. 『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
24. 閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答

科目名	文学（世界文学）	担当者名	松山恒見
-----	----------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。	
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させたい。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2. ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3. ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4. 中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨーン。
5. 十六世紀(ルネッサンス) ——モンテーニュとラブレー。
6. 十七世紀——古典主義、コルネィユ、ラシーヌ、モリエール。
7. 十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人(クレヴの奥方)。
8. 十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9. 十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10. フランス革命をめぐって。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11. 十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、(姉)コンスタンの「アドルフ」。
12. 十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
13. ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
14. スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐって。
15. ジルジュ・サンド、バルザック。
16. スタンダール、メリメ。
17. フロベール、モーパッサン。
18. ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
19. 十九世紀のその他の作品。
20. ゴッテ、自然主義。(課題図書発表)
21. アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
22. コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
23. サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
24. 現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニエまで。

科目名	文学（世界文学）	担当者名	山路朝彦
-----	----------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。		
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。		
使用教材	テキスト	カフカの作品『変身』、『城』、『審判』	
	参考文献		
評価方法	前期レポート、後期試験		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質</li> <li>2. 3. 4. 5. カフカの作品紹介</li> <li>6. 文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌</li> <li>7. 8. 文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史</li> <li>9. 10. 文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究</li> <li>11. 12. 文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド</li> <li>13. 文学研究の立場と方法 ①精神史的方法</li> <li>14. 15. ②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法</li> <li>16. 17. ③マルクス主義の立場から</li> <li>18. 19. ④構造主義的方法</li> <li>20. 21. ⑤文学社会学的方法</li> <li>22. 23. ⑥「エッセイ」という方法</li> <li>24. ⑦新たな立場と方法</li> </ol>		

科目名	国語	担当者名	飯島一彦
-----	----	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、その中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行なう。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>		
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	特になし	
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果、夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行なわれる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 授業ガイダンス。
2. 講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3. }
4. }
5. }
6. }
7. 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8. }
9. }
10. }
11. }
12. 夏休み課題ガイダンス。
13. 夏休み課題提出。後期ガイダンス。
14. }
15. }
16. }
17. }
18. 諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
19. }
20. }
21. }
22. }
23. }
24. 冬休み課題提出。年間のまとめ。



科目名	国語	担当者名	小島幸枝
-----	----	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の吸収および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方の習得、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読、敬語の使い方など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙文のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	松村明編『国語表現法』おうふう	
	参考文献	・都度、紹介する。	
評価方法	提出物による平常点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思っています。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説</li> <li>2. 音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識</li> <li>3. 音声言語の種々相</li> <li>4. 日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴</li> <li>5. 美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか</li> <li>6. スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする</li> <li>7. 反省とまとめ（次週ディベートの予告）</li> <li>8. ディベート（ビデオ鑑賞）</li> <li>9. 反省とまとめ</li> <li>10. 敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）</li> <li>11. 同上（中世末～現代）</li> <li>12. 漢字テスト</li> <li>13. 文字言語——文章を書く手順、材料の収集法</li> <li>14. 文章を書く——自由文又は意見文</li> <li>15. 交換、添削しあう</li> <li>16. 手紙を書く——型のある文章、敬語</li> <li>17. 材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く</li> <li>18. 文献、資料を用いて文章を補強する</li> <li>19. 漢字テスト</li> <li>20. アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために</li> <li>21. 評論を書く</li> <li>22. 段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く</li> <li>23. 交換、批評しあう</li> <li>24. 推敲のポイントを学ぶ。まとめ</li> </ol> <p>備考 前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。</p>
----------------------------	--

科目名	国語	担当者名	中村文
-----	----	------	-----

講義の目標	<p>同じ教室で学ぶ誰かと、何か一つの問題について話したことがあるだろうか。或いは、自分一人で何事かを突き詰めて考えたことがあるだろうか。現代は解決するのが困難な問題に覆われていて、この世界に向かい合おうとするとき、私たちは深い無力感にとらわれる。だが、その答えを「識者」や「権威」に任せきりにして、挨拶と相づちだけで通じ合う仲間と楽しく過ごしているだけでは、私たちは決してこの世界の姿を見ることができないし、世界と切り結ぶための「言葉」も獲得できない。無気力に陥ることなく、状況に向かい合い渡り合うには、言葉をどういう形で用いたらよいか、自分のアタマで考え判断するための、「自分自身の言葉」を探していきたい。</p>		
講義概要	<p>基本的には、作文を書いてもらうことと、これを添削及び批評することを繰り返す。誤字の訂正、段落の付け方、文章の構成など初歩的な指摘から始めるが、何よりも学んでもらいたいのは、言葉によって対象や問題を理解・認識する方法、自分の考えを言葉で表現して他者に伝えるやり方である。自分が普段、どのように言葉を用いているかを自覚することから始めよう。言葉の使い方一つで、自分の意志とは異なる方向の結論が導き出されることだって、往々にしてある。この世界や自分自身を掘り起こし、粘り強くわかっていくための小さなシャベル=ことばを手に入れよう。</p> <p>前期は主としてテーマに沿った作文、後期は現代的なテーマを扱った文章を読んで作文を書いてもらう予定である。他の学生の作文に対する批評文や感想なども提出を求めることがある。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	適宜、プリントを配布する。	
評価方法	<p>提出された作文によって評価し、試験・レポートは課さない。評価の基準は作文の上手下手や、内容が高邁であるかどうかという点によるのではなく、対象を言葉によって捉えようとする姿勢の度合いや、言葉を用いてどれほど考えを掘り下げようとしているかといった観点による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>400字詰め原稿用紙を用意すること。作文の上手な書き方を教えてもらうという気持は捨て、自分の言葉はあくまでも自分で探し出すしかないのだという考えで授業に臨んでもらいたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス。授業の進め方と受講の注意点。</li> <li>2. 自己紹介をかねた作文を書く。テーマ「今、怒りを感じること」</li> <li>3. 前回の作文の批評。</li> <li>4. 折句を作ってみる。〈自分の言葉の掘り起こし〉</li> <li>5. 他の学生の折句を読んで批評・評価する。(プリントを配布)</li> <li>6. テーマに沿って作文を書く。テーマ例「ニュースは信じうるか」(第2講で書いてもらう作文を基に、テーマを変更することがある。第8講も同じ)</li> <li>7. 前回の作文の批評。</li> <li>8. テーマに沿って作文を書く。テーマ例「大学とはどういう場所か」</li> <li>9. 前回の作文の批評。</li> <li>10. 新聞記事を批評してみよう。〈硬直した言語のつまらなさ〉</li> <li>11. 前回の作文の批評。</li> <li>12. マークス寿子『ひ弱な男とフワフワした女の国日本』を読んで、作文を書く。〈概念的な大人の言説に反論してみる〉</li> <li>13. 前回の作文の批評。</li> <li>14. 大平博『拒食の喜び、媚態の憂うつ』を読んで、作文を書く。〈自分の心に降り立ってみる〉</li> <li>15. 前回の作文の批評。</li> <li>16. 鷺田清一『ちぐはぐな身体』を読んで、作文を書く。〈私とは何なのか〉</li> <li>17. 前回の作文の批評。</li> <li>18. 橋本治『男になるのだ 男に生まれるのではない』を読んで、作文を書く。〈一人前になるということ〉</li> <li>19. 前回の作文の批評。</li> <li>20. 松浦理英子『優しい去勢のために』を読んで、作文を書く。〈現代を生きることの困難さ〉</li> <li>21. 前回の作文の批評。</li> <li>22. 佐藤春夫『言述のすがた』を読んで作文を書く。〈制度としての言語〉</li> <li>23. 前回の作文の批評。</li> <li>24. 一年間のまとめ。テーマに沿って作文を書く。</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	国語	担当者名	肥田野 昌之
-----	----	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識の学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。		
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基本的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。		
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。	
	参考文献		
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。		
受講者に対する要望など	原則として1/3以上の出席が必要。四年生は特に注意。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2. 現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3. 「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4. 文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5. 文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6. 文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7. 豊かな内容とは一物の見方や読書などについて考える。
8. 国語表記の問題—段落の分け方や送りかななどについても言及する。
9. 原稿用紙の使い方や校正などについて説明する。
10. 作文を書く（添削と採点）。
11. 作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。
12. 学生が黒板に出て、漢字かなづけ・漢字書き取りを行う。
13. 小説の面白さ—地獄変・春琴抄など—
14. 教養としての能・狂言・歌舞伎入門—鉄輪・花子・勸進帳など—
15. 文字について—特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
16. 仮名づかいについて—仮名づかいの歴史、特に歴史的かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
17. 標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
18. 文章のさまざま—実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など—
19. 手紙の書き方—手紙の形式を中心にして説明する。
20. 課題作文を書く（添削と採点）
21. 作品を返還し、感想や注意事項を述べる。
22. まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
23. 学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
24. ことばと社会について—ことばの乱れや敬語法について考える。

科目名	歴史学（日本史）	担当者名	新井孝重
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>14世紀の内乱期は、日本の歴史の大きなまがり角であった。社会は南北朝の内乱を通過するなかで、どのように変化したのか。内乱期の諸相をながめながら、歴史の深いところに分け入り、社会の変化の様相をつかまえる。</p>		
講義概要	<p>悪党とはどのような人々のことを云うのか。悪党の生態を観察することによって鎌倉末期の社会矛盾をつかまえる。そのさいの視点として、「武勇」と「武装」の問題は重要。つぎに、内乱の諸相を、なるべく具体的に、人間の行動と思想を通して観る。そのあとで、戦乱のなかで安穩をもとめる民衆のすがたを注目したい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>新井孝重「悪党の世紀」、吉川弘文館、1997年。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、後期の試験の成績をもってする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>30分以上の遅刻者は出席者とみなさない。 紳士的な態度で気楽に聴いていただければよい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1.	〈大仏を領主にする村〉伊賀の農村、出作をする人びと。
	2.	〈大仏を領主にする村〉奈良寺院社会の風景、南京大衆の周辺 在地住民の寄人（よりうど）・神人化による「僧兵」の出現
	3.	〈悪党の活動〉村の悪党Ⅰ  荘園在地武士の悪党化
	4.	〈悪党の活動〉村の悪党Ⅱ  荘園在地武士の悪党化
	5.	〈寺の悪党〉  武装する僧徒
	6.	〈寺の悪党〉  預所（あずかりどころ）の僧、悪党になる 東大寺僧快実について
	7.	〈崩れる一揆の「作法」〉  中世の一揆とは 一揆の淵源である寺僧の衆会について
	8.	〈崩れる一揆の「作法」〉  荘園体制の一揆的構造 荘民の一揆の「作法」、「武」をともなわなない一揆
	9.	〈崩れる一揆の「作法」〉  悪党の登場 「武」をともなう悪党の行動様式が荘園制の一揆的構造を破壊
	10.	〈武装の行粧〉  民間における武装の禁忌性 甲冑を着ることの意味
	11.	〈武装の行粧〉  武装すがたの異形性 中世の祭礼と武装
	12.	〈武装の行粧〉  悪党の武装……禁忌と異形との関連で武装は“悪”そのものである
	13.	〈内乱の風景〉  楠木の勢力 身体の武装の拡大したすがた……館の武装化
	14.	〈内乱の風景〉  楠木の勢力 在地に城郭がつくられることの意味
	15.	〈内乱の風景〉  金剛山の攻防 戦争を社会史的に観察すると
	16.	〈内乱の風景〉  移動する大軍 北畠顕家奥州軍長征の実相
	17.	〈内乱の風景〉  戦いの日々 内乱期武士の戦争観をみる
	18.	〈内乱の風景〉  軍忠と恩賞 武士はなぜ戦うのか
	19.	〈内乱の風景〉  備われる凡下（ぼんげ）の輩 凡下と呼ばれる人々の生態をみる
	20.	〈内乱の風景〉  戦争に疲れて 合戦にあけくれる武士の人生、負傷・討死・没落
	21.	〈内乱の風景〉  武士たちの生きるための知恵 国人（こくじん）一揆
	22.	〈悪党の美学〉  バサラをみる
	23.	〈地下（じげ）の芸能と民衆〉  猿楽の形成 伊賀の猿楽
	24.	〈悪党の終焉〉  「平和」をもとめる民衆



科目名	歴史学（日本史）	担当者名	齊藤 博
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新时期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 差別史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤 博『歴史の精神』学文社</li> <li>・齊藤 博『民衆史の構造』新評論</li> </ul>	
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない</p>	
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないとう理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性</li> <li>2. 日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友（近世史）</li> <li>3. 日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之総、羽仁五郎（近代、現代史）</li> <li>4. 日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎、渡部義通、石母田正（古代史、中世史）</li> <li>5. 日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治（地域民衆史の視座と方法）</li> <li>6. 「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築</li> <li>7. 「天への想い」Ⅱ（天皇制論を含む）</li> <li>8. アジア的共同体と差別Ⅰ 島崎藤村『破戒』を読む</li> <li>9. アジア的共同体と差別Ⅱ 島崎藤村『破戒』を読む</li> <li>10. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む</li> <li>11. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む</li> <li>12. 幕末明治期豪商家の具体像、齊藤博『大和屋物語』を読む</li> <li>13. 近世史と近代史の問題点Ⅰ 高橋貞樹『被差別部落一千年史』を読む</li> <li>14. 近世史と近代史の問題点Ⅱ 民衆信仰（中山みき、金光大神、出口王仁三郎）を考える</li> <li>15. 明治維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰論を含む</li> <li>16. 明治維新論Ⅱ（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰論を含む</li> <li>17. 明治維新論Ⅲ（日本資本主義発展史の視座から）高杉晋作『東行詩集』を読む、吉田松陰論を含む</li> <li>18. 幕末維新論Ⅰ 島崎藤村『夜明け前』を読む</li> <li>19. 幕末維新論Ⅱ 島崎藤村『夜明け前』を読む</li> <li>20. 幕末維新論Ⅲ 島崎藤村『夜明け前』を読む</li> <li>21. 幕末維新論Ⅳ 島崎藤村『夜明け前』を読む</li> <li>22. 幕末維新論Ⅴ 島崎藤村『夜明け前』を読む</li> <li>23. 日本近代化をどう考えるか（北村透谷、石川啄木、夏目漱石、永井荷風）</li> <li>24. まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	歴史学（東洋史）	担当者名	熊谷 哲也
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードであるが、その鍵を解くためには、現在のイスラーム諸国が成立する背景に、宗教・民族・国家といった新旧にわたる理念がどのように関係し合っているのかを知ることが大切である。そのためには、本来イスラームが何に価値を置き、何を理想として求めてきたかを考えることから始めねばならない。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマド（マホメット）の出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、広大なイスラーム世界が形成されるまでの様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識を学ぶ。</p> <p>後期はイスラーム世界の近代化の歴史を地域別・テーマ別に考察する。今日のイスラームがかかわるさまざまな問題について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない	
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらう。詳しくは授業で指示する。	
評価方法	試験とレポート。発想のオリジナリティを重視する。		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2. イスラーム誕生以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3. 預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島内に広まる経過を理解する。
4. 最初の4人のカリフ（正統カリフ）の時代について考える。シーア派の出現を理解する。
5. ウマイヤ朝の歴史を考える。これがヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6. アッバース朝の歴史について考える。その成立と、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7. イスラームの聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発展した初期思想と学問について考える。
8. アッバース朝時代から発達したアラビアの科学とその内容について、また、中世イスラーム社会において民衆教化の役割をはたした神秘主義教団について考える。
9. アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現した軍事政権とその展開について概観する。
10. エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度が西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11. イスラーム世界とヨーロッパ世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが形成したヨーロッパのイスラーム観について検討する。
12. 前期のまとめをおこなう。
13. オスマン朝の成立と発展について、この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。
14. 列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概述し、西アジアにおける近代化の枠組みをひとまず一般論として把握する。
15. 西洋の衝撃によってイスラーム世界の内部にあらわれた改革運動と、その内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）が成立するメカニズムを理解する。
16. さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィズムなどについて考える。
17. エジプトの近代化とその過程について考える。
18. トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
19. 近代化がイスラーム世界の人々の生活と信仰におよぼした影響について、いくつかの点から考察する。
20. イスラーム知識人階層であるウラマーと、その役割について、広く時代を通して考える。
21. 今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題を考える。
22. パレマチナ問題について検討する。
23. 東西冷戦終結後におけるイスラーム諸国と欧米諸国との関係を考える。
24. 後期のまとめをおこなう。

科目名	歴史学（西洋史）	担当者名	御園生 眞
-----	----------	------	-------

講義の目標	近代ヨーロッパの歴史を社会経済の側面に重点をおいて講義し、経済学部での専門科目の学習の基礎となることを目標とします。		
講義概要	<p>前期：市民革命を主要テーマとして、近代社会と近代資本主義経済の成立過程を講義します。</p> <p>後期：産業革命と帝国主義を主要テーマとして、19世紀からのヨーロッパ史を、国際的経済関係に視点をおいて講義します。</p>		
使用教材	テキスト	大下尚一・西川正雄・服部春彦・望田幸男編『西洋の歴史〔近現代編〕』ミネルヴァ書房、1987年	
	参考文献	最初の講義の時に指示します。	
評価方法	定期試験（前後期2回）の成績と簡単なレポートの両方で評価します。なお試験は、文章で解答する論述式です。		
受講者に対する要望など	履修希望者は必ず第1回の講義に出席すること。 事情により講義の内容が変更される場合があります。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. ガイダンス。参考文献の紹介。
2. I 市民革命 1 大航海時代
3. I 市民革命 1 大航海時代 (続)
4. I 市民革命 2 絶対王政
5. I 市民革命 2 絶対王政 (続)
6. I 市民革命 3 市民革命(1)イギリス
7. I 市民革命 3 市民革命(1)イギリス (続)
8. I 市民革命 3 市民革命(2)アメリカ
9. I 市民革命 3 市民革命(2)アメリカ (続)
10. I 市民革命 3 市民革命(3)フランス
11. I 市民革命 3 市民革命(3)フランス (続)
12. I 市民革命 3 市民革命(3)フランス (続)
13. II 産業革命 1 イギリス産業革命とその波動
14. II 産業革命 1 イギリス産業革命とその波動 (続)
15. II 産業革命 2 後発国の産業革命
16. II 産業革命 2 後発国の産業革命 (続)
17. III ナショナリズムの時代 1 1848年の革命
18. III ナショナリズムの時代 1 1848年の革命 (続)
19. III ナショナリズムの時代 2 ドイツの統一
20. III ナショナリズムの時代 2. ドイツの統一 (続)
21. IV 帝国主義の時代 1 ドイツ
22. IV 帝国主義の時代 2 オーストリア
23. IV 帝国主義の時代 3 フランス
24. IV 帝国主義の時代 4 イギリス

科目名	哲学(98年度) 思想(哲学)(94~97年度)	担当者名	高尾由子
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	さまざまな情報が氾濫する現代、「確実な知」はいかにして得られるのか。そもそも知とは何なのか。主に西洋哲学の基本的な概念を学びながら、「自分自身の知」の形成を中心課題として、「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。		
講義概要	西洋哲学史上、主要な思想家の著作を読みながら、何が問題となっているのか、その問題がどのように考えられているのか、を検討する。		
使用教材	テキスト	プラトン『ソクラテスの弁明』、新潮文庫、デカルト『方法序説』、岩波文庫、カント『純粋理性批判』上巻、岩波文庫	
	参考文献	田中美知太郎『ソクラテス』、岩波新書、野田又夫『デカルト』、岩波新書、石川文康『カント入門』、ちくま新書、その他、授業で指示する。	
評価方法	前後期末各1回のレポートによる。テーマその他は授業で指示する。		
受講者に対する要望など	テキストを読んてくること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 1年間の予定と授業の進め方の説明。哲学という学問について。</li> <li>2~8. プラトンの『ソクラテスの弁明』を読みながら、「知を求めること」と「われわれの魂を気づかうこと」の結びつきについて考える。</li> <li>9~11. 近世哲学の出発点となるデカルトの『方法序説』の第1部~第3部を読み、哲学の「方法」について考える。</li> <li>12. 前期のまとめと課題について。</li> <li>13・14. 『方法序説』の第4部~第6部を読み、「確実な知」について考える。</li> <li>15・16. 大陸合理論とイギリス経験論の比較を通じて、「経験」と「知」について考える。</li> <li>17~23. カントの『純粋理性批判』第2版序文を読みながら、理性自身が理性を吟味することによって変革される知と世界のあり方について考える。</li> <li>24. 1年間のまとめと課題について</li> </ol>		

科目名	哲学(98年度) 思想(哲学)(94~97年度)	担当者名	松丸壽雄
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	人間は存在する限り、様々な問題と遭遇し、それと対峙せざるを得ない。その場合に、どのような立場から、どのように問題に対処するかを、様々な角度から考えることができるように目指す。		
講義概要	人の生涯は、生まれ、世界の中に生き、死にゆく。それぞれの人の生涯の中で様々な局面において何時かは考えなければならないのは、生、愛、世界、死をめぐる問題であろう。これらの問題を、どう対処するかを、何人かの思想家の考えたところから知ることとする。続いて、これらの問題を自分の問題として捉えたらどうなるか、をディスカッションを通じて検討して行く。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	最低二回のレポートとディスカッションの積極的参加度により評価		
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加する用意のある人たち。		



年 間 授 業 計 画	1. 講義の概要説明
	2. ディスカッションのグループ分け
	3. 愛についての考察
	4. 同 上
	5. 同 上
	6. 愛をめぐる諸問題
	7. ディスカッション
	8. 同 上
	9. 「生とは何か」についての考察
	10. 同 上
	11. ディスカッション
	12. 同 上
	13. 世界についての考察
	14. 生きる「場所」について
	15. 同 上
	16. 同 上
	17. ディスカッション
	18. 同 上
	19. 生に対する死の問題についての考察
	20. 同 上
	21. 安楽死、脳死について
	22. ディスカッション
	23. 同 上
	24. 全体をふりかえってのディスカッション

科目名	思想(宗教)	担当者名	鈴木康治
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>現実に見聞きする東西の宗教は、さまざまな形や姿をあらわしている。</p> <p>ここでは、宗教とは何か(定義も難しい)を中心にする事なく、現実の宗教(例えば、民族宗教、世界宗教等)の変遷・経緯を辿ってみる。</p> <p>幅が広いので、つまみぐいの場合もある。</p>	
講義概要	<p>年間授業計画を参照のこと。尚、順不同や変更もありうる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>特になし。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>テスト。但し、あらかじめ問題提示もありうる。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 授 業 計 画	1. 概要の説明
	2. 一応、宗教の定義のことに触れる
	3. 既成宗教における三要素
	4. エジプト、ギリシャの宗教、ゾロアスター
	5. 仏教（原始仏教）Ⅰ
	6. 仏教 Ⅱ
	7. 日本の平安仏教まで
	8. 鎌倉新仏教
	9. 以上の日本仏教
	10. ユダヤ教
	11. キリスト教
	12. プロテスタント史
	13. 前期概観
	14. イスラム教
	15. ヒンズー教
	16. 道教・儒教
	17. 日本人の宗教Ⅰ 宗教心
	18. 日本人の宗教Ⅱ 習合の問題
	19. 日本人の宗教Ⅲ 修験
	20. 米国における教会
	21. シャマニズムの諸問題
	22. 神道の歴史
	23. 祭祀の問題Ⅰ
	24. 祭祀の問題Ⅱ

科目名	法 学	担当者名	野 村 武 司
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>現代社会において法は重要な機能を果たしている。それが社会でしばしば起る紛争の解決に有意義な手段を提供していることはいうまでもない。また、そうした法があるから、違法な行為を差し控えるということがあるかもしれない。一方、日常の生活レベルではあまり法を意識することはないかもしれないが、法に根拠づけられた許認可等の規制がなされていることで滞りなく生活ができるという側面も見のがすことはできない。そして、政策を遂行するための法もある。こうした法の機能を念頭に置きながら法の仕組みを素描できればと考えている。</p>	
講義概要	<p>法および法学についてのイントロダクションを経た後、できるだけ具体的な事例に即し、かつ現代的な問題も取り入れながら、憲法と人権、行政と法、市民生活と法、企業および経済生活と法、犯罪と法、国際社会と法のそれぞれの分野につき概観する。そして、さらに裁判・裁判制度及び紛争解決の法については別に詳しく扱うつもりである。講義形式を基本とし、ときに指名をし質問をすることがあるが、答えることに遠慮をする必要はない。また、小テストをすることなどもあるが、その結果を不利に扱うようなことはしない。</p>	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	随時指示する。
評価方法	原則として定期試験による。	
受講者に対する要望など	特になし。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. イントロダクション 法とは何か(1)
2. 法とは何か(2)
3. 法の歴史と法構造
4. 日本法の特質
5. 法の諸分野 憲法と人権(1)
6. 憲法と人権(2)
7. 人権保障と統治機構(1)
8. 人権保障と統治機構(2)
9. 行政と法(1)
10. 行政と法(2)
11. 市民生活と民法(1)
12. 市民生活と民法(2)
13. 市民生活と民法(3)
14. 企業と法(1)
15. 企業と法(2)
16. 経済生活と法(1)
17. 労働者と法
18. 犯罪と法(1)
19. 犯罪と法(2)
20. 国際社会と法
21. 法と救済 裁判および裁判所の仕組み
22. 裁判手続の法(1)
23. 裁判手続の法(2)
24. 裁判の担い手

科目名	地理学	担当者名	犬井 正
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならない。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。</p>		
講義概要	<p>熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、開発の結果どのようなことが生起しているのか。なにが適切な解決策なのかなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTRなども援用しながら講義をすすめる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』1994、農林統計協会</p>	
	参考文献	<p>・T.C.ホイトモア著『熱帯雨林総論』1993、築地書館          ・ジョン・C.クリッチャー著『熱帯雨林の生態学』1992、どうぶつ社          ・四手井綱英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』1992、NHK ブックス</p>	
評価方法	<p>前期、後期各1回ずつの定期試験による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「経済地理学（犬井担当）」、およびその「演習」を履修する予定者は、本講義を履修しておくことが望ましい。</p>		

1. 本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容についてのオリエンテーションをおこなう。
2. 1次生産者としての森林の重要性について。
3. 世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4. 熱帯雨林成立の過程と特質。
5. 熱帯雨林の森林としての構造。
6. 熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7. 熱帯雨林の生態学的多様性。
8. VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9. 熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10. 様々な開発形態と開発速度。
11. 薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊か？
12. 人口爆発と集落再編計画。
13. 商業的木材生産による森林破壊。
14. プランテーション経営と牧畜業。
15. ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
16. VTR『緑を守る男たち』視聴。
17. 熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
18. 熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
19. 熱帯雨林破壊の経済と生態系の損失。
20. 熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
21. VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
22. 日本の熱帯材輸入と森林破壊。
23. 熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策は？
24. まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。

科目名	地理学	担当者名	山本正三
-----	-----	------	------

講義の目標	今日、地球の表面はどのようになっているか、そこでどのような生活が営まれているかを地域的に理解することをめざす。		
講義概要	前期には地表面の自然の特色を概観し、後期には、自然的基盤のうえでくりひろげられる人々の生活状態を地域的に説明する。		
使用教材	テキスト	山本（他）著『世界の自然環境』大明堂	
	参考文献		
評価方法	定期試験の成績と出席状況を加味して行う		
受講者に対する要望など	地図帳を必ず持参すること		



年 間 授 業 計 画	1.	自然のしくみ
	1.	1. 地形の諸類型、山のでき方、地形の発達、大地形と小地形
	2.	2. 侵蝕地形と堆積地形
	3.	河川による侵蝕地形と堆積地形
	4.	氷河による侵蝕地形
		乾燥地形（砂漠の地形、風の侵蝕作用）
	5.	3. 構造地形
		火山地形・断層地形
	6.	4. 世界の大地形
		世界の大山脈と平野の配置、プレートテクトニクスと大陸の移動
	7.	5. 世界の気候地域
	8.	気候地域の形成要因、気候と降水量と風
		気候の諸類型と世界の気候地域区分
	9.	6. 植生地域
		世界の植生の水平分布と垂直分布
	10.	7. 土壌類型の分布
		成帯土壌と非成帯土壌の分布とその要因
	11.	8. 海洋と陸水
		地表における水の循環（海洋と陸水）海流、地下水、河川
	12.	9. 自然災害と環境破壊
	13.	世界の自然地域における人間の生活
		1. 人間と自然環境の関連についての諸理論
	14.	2. 熱帯地域
	15.	高温湿潤環境の人間への影響、風土病、第3世界としての特質
	熱帯の開発の歴史、植民地時代、温帯への従属	
	熱帯環境への現代的対応、東南アジアの新興工業国	
16.	3. 砂漠地域	
17.	乾燥への適応によって形成された生活形態、砂漠とイスラム教	
	地下資源開発と中近東の近代化とその諸相	
18.	4. 地中海性気候	
19.	乾燥地域と冷温帯との漸移地域としての特質	
	夏季高温乾燥冬季温暖湿潤な気候への特殊な人間生活の適応形態	
	地中海地域とカリフォルニアの文明論的比較	
20.	5. 中緯度草原地域	
	中央アジアと合衆国西部とアルゼンチンパンパの比較	
21.	6. 温帯混合林地帯	
22.	四季の変化の明瞭な気候と人間生活、先進工業国と自然環境との関係	
	西ヨーロッパ、中国、アングロアメリカの温帯混交林地帯の比較	
23.	7. 寒帯森林地域	
	きびしい冬季への適応を中心とする生活形態	
24.	8. 山地地域	
	高度に適応した生活形態。アンデス山地、ヒマラヤにおける生活の高度による変化	

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、動機づけ、社会などの心理学の諸領域からなるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学のキー概念や諸理論を学ぶ。そして、現代の様々な日常的諸問題に諸概念や諸理論を適用し、諸課題を捉える心理学の視点や問題への対処法について講義する予定である。</p> <p>心理学から見た科学的な人間の理解が講義の最終的な目標である。しかしその人間観は単一ではなく、複数の多様な人間観とその背景をなす研究成果とを学ぶことになる。</p>		
講義概要	<p>心理学の研究内容は日常的で身近な現象が多い。従って、学生は、既に、一定の意見を持っていることが多い。例えば、良心や道徳性の問題、知的理解と行動の関係、社会現象や自分の行動の因果帰属、人の性格の形成と変容過程などであるが、案外、解っていないことも多く科学的研究の成果を講義する。また、心理学は自分自身を研究対象にすることも多く、心理学は自分自身が研究者でありながら同時に研究対象という特徴があり、自己意識についても講義する。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、①性格や知性などの様に、一人一人の個性・個人差の領域と、②人間に共通する学習・知覚・動機づけなどの一般的な共通特性とに分けられるが、これらと日常生活との関わりについて講述する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）「こころのサイエンス」「トピックスこころのサイエンス」福村出版（各¥1,900）</p>	
	参考文献	<p>教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。</p>	
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。</p> <p>リーディングレポートの実施については授業の始めに相談する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用すること。</p> <p>授業を聞く際、自分の専攻や、将来の職業、現代社会の諸問題との関連を考えながら聴講するよう希望する。</p>		

1. 心理学への導入：心理学の全体的体系について。心理学の研究対象と研究方法。他の学問との比較。人間に共通な一般法則を学習する意味。一人一人の個性や個人差について。
2. 前期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）：1）気質類型論とクレベリン検査、DSM-IV と精神障害
3. 2）パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
4. 3）パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷 4）人間性心理学説のパーソナリティ論
5. パーソナリティの形成・発達と病理 1）初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性 2）パーソナリティの病理と対処法、クライエント中心療法
6. II. 知能と創造性（2章）：1）知能研究の源、知能観と知能検査、2）新しい知能観、偏差値の功罪、能力か動機づけか
7. 創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1）拡散的思考と集中的思考 2）創造性の育成と活性化
8. III. 生涯発達（3章）：1）研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点 2）研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
9. 初期発達 1）乳児の気質の型、アタッチメント 2）コンピテンスと自己原因性の獲得
10. 社会性の発達 1）道徳性と向社会性の発達段階 2）仲間関係のルールとスキル
11. 青年期と自己意識 1）公的自己・私的自己、自我同一性の獲得 2）自己主張、対人不安
12. 生涯発達と生き甲斐 1）仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業 2）老人の喪失感、統制感の喪失
13. 後期目標：人間理解のために、IV. 行動の視点からの人間研究（4章） 1）行動の種類と発達・進化 2）学習の基本型、しつけ、情緒の統制など、他律から自律へ
14. 行動の視点から人間研究（その2） 1）模倣の理論、役割、影響力のあるモデルの特性など、観察学習の影響 2）行動の自己制御（良心の仕組みと機能）
15. 重要な学習・行動の種類と内容 1）スポーツと健康の自己管理、2）技能学習の特徴、自動車運転の要因と交通安全
16. 重要な学習・行動の種類と内容（その2社会的行動）：1）リーダーシップ 2）同調と服従、実験室のアイヒマン
17. 社会的行動（その2）：3）攻撃行動、愛他行動 4）課題達成と愛他行動のバランスと育成
18. V. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章） 1）感覚（受容器の特徴や種差など、対人感受性も人毎に違う 2）知覚（恒常性や錯視などの特徴、人毎にもの見方は違う
19. 3）認知のプロセス 4）人間の情報処理モデル、日常的判断との異同 2）社会的認知、事象の原因帰属
20. 記憶の構造や特徴 1）短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など 2）記憶の情報処理モデル
21. VI. 動機づけと情緒の視点から（6章）： 1）生理的動機、ホメオステシス 2）情緒、快不快が行動に及ぼす効果
22. 内発的動機 1）知的好奇心、自己原因性、有能感、動機の自発性と活性化の条件 2）内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
23. 対人社会動機 1）愛着、共感性と愛他動機 2）動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス
24. 最終のまとめ 1）心理学からみた人間、2）現代の問題にどれだけ答えられたか、3）自己について何を学び得たか等と、残された諸課題について。

科目名	心理学	担当者名	増田直衛
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>心理学とはどんな学問なのでしょう。おそらく多くの人々にとっては、心理学というとTVや雑誌に登場してくる性格診断やフロイトの精神分析学を思いおこすと思います。もちろん、このような分野も心理学の一部ではありますが、それらはほんの一部分なのです。ここでは、心理学が自然科学の一分野として誕生してから、今日までどんな分野の学問と連携しつつ、自らの学問を築いてきたかを考えてみます。その中で心理学の対象、心理学の方法などを具体的に理解しながら、心理学とはどんな学問かを考えます。</p>		
講義概要	<p>最初に心理学とはどんな学問か、心とはなんだろうか、心理学の誕生、心理学の分野、心理学の方法、個体と環境との関係、などについて考察します。次に、感覚・知覚心理学を中心に、主として人間の認識機構について講義をします。その次に、行動・学習心理学を中心に、人間以外の動物も含めた行動の発達、変容について講義をします。さらに小集団の社会心理学の問題にも触れていくつもりです。スライド、OHP、VTRなどを使って具体的に理解できるようにこころがけます。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しません。	
	参考文献	<p>宇津木 保ほか著『心理学のあゆみ』（有斐閣新書） 野口 薫ほか著『心理学入門』（有斐閣新書） この2冊は心理学の扱う領域と歴史を概観するのに便利です。 手元に置くと便利な本を開講時に指示します。</p>	
評価方法	<p>評価は2回の定期テストと、随時行う出席調査をかねる小レポートなどによります。</p>		
受講者に対する要望など	<p>岸田 秀「ものぐさ精神分析」（中公文庫）や橋本 治「帰ってきた桃尻娘」（講談社文庫）に戯画化されている大学で講義されている心理学の記述にはあらかじめ目を通しておくことをお勧めいたします。</p>		

1. ガイダンス、心理学とはなんだろう
2. 心理学の過去、現在
3. 心理学の方法とその実例(1)観察
4. 心理学の方法とその実例(2)実験
5. 心理学の方法とその実例(3)調査
6. 心理学の方法とその実例(4)臨床的方法ほか
7. 個体と環境
8. 環境の認知(1)物理的世界と心理学的環境
9. 環境の認知(2)感覚の世界
10. 環境の認知(3)まとまりのある知覚世界
11. 環境の認知(4)知覚世界をこえて
12. 行動とその変容(1)生得的な行動
13. 行動とその変容(2)学習の基本様式
14. 行動とその変容(3)高次の学習
15. 行動とその変容(4)問題解決
16. 行動とその変容(5)言語の獲得
17. 個性(1)さまざまな人
18. 個性(2)どうやって個性を記述するの
19. 個性(3)個性の形成
20. 社会の中での行動(1)態度
21. 社会の中での行動(2)状況の中で
22. 社会の中での行動(3)社会的現実の構築
23. もう一度、心理学ってなに(1)
24. もう一度、心理学ってなに(2)

科目名	数 学	担当者名	遠 藤 信
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。</p>	
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。
評価方法	前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。	
受講者に対する要望など		

1. 行列の定義 行列の演算
2. 行列の定義 行列の演算
3. 行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
4. 行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
5. 行列式の定義
6. 行列式の性質
7. 行列式の性質
8. 余因子とその性質
9. 余因子とその性質
10. 余因子を用いて逆行列を求める方法
11. 連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
12. 連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
13. 関数と関数の極限 関数の連続
14. 関数と関数の極限 関数の連続
15. 微分係数と導関数の定義
16. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
17. 微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
18. 平均値の定理 関数の極大・極小
19. 平均値の定理 関数の極大・極小
20. 偏微分の定義 偏微分の応用
21. 偏微分の定義 偏微分の応用
22. 不定積分と定積分
23. 不定積分と定積分
24. 微積分の社会科学への応用

科目名	地球環境論 (A) (98年度) 自然科学概論 (A) (94~97年度)	担当者名	加藤 億重
-----	--	------	-------

講義の目標	この科目は、近年問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。毎日の新聞・雑誌等の記事を話題にする。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピー配布をする。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	新聞・専門雑誌を毎日読むこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。</li> <li>2. <u>日本の抱える環境問題①</u> ヒトの影響が大きくなった地球。</li> <li>3. <u>日本の抱える環境問題②</u> 人口増加に追いつかない食糧の総量。</li> <li>4. <u>トピックス①</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>5. <u>生態系</u> 無機物→有機物→…→…の流れにのって。</li> <li>6. <u>生産者の役割</u> 環境ごとの現在量を比較する。</li> <li>7. <u>消費者の現在量</u> 生産者以上に数量が増えてはならない理由。</li> <li>8. <u>日陰者の分解者</u> 有機物から無機物に還元する働き者。</li> <li>9. <u>トピックス②</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>10. 環境を規定する<u>温量指数</u>と<u>乾湿指数</u>。</li> <li>11. <u>日本の森林</u> 固有種の豊富な自然。</li> <li>12. <u>日本の自然環境</u> 世界的にもユニークな日本の自然。</li> <li>13. <u>古赤道分布説</u> 北極圏に化石林がある。</li> <li>14. <u>身近な自然</u> 夏期休暇のレポートを書くために。</li> <li>15. <u>ナショナルトラスト制度</u> 地域文化を保存するために。</li> <li>16. <u>国立公園制度</u> 手本はアメリカ?、ヨーロッパ?</li> <li>17. <u>種の多様性保全条約</u> なぜ他の生物を守らなければならないか。</li> <li>18. <u>ラムサール条約</u> 日本のフライウエイを渡る鳥たち。</li> <li>19. <u>トピックス③</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>20. <u>ワシントン条約①</u> 絶滅の危機に瀕している動物。</li> <li>21. <u>ワシントン条約②</u> 絶滅の危機に瀕している動物。</li> <li>22. <u>トピックス⑤</u> 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>23. <u>世界遺産条約</u> 地球の自然・歴史環境を守るために。</li> <li>24. <u>まとめ</u> 一年間のまとめと試験の説明。</li> </ol>		



科目名	地球環境論 (B) (98年度) 自然科学概論 (B) (94~97年度)	担当者名	加藤 億重
-----	--	------	-------

講義の目標	この科目は、近年問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。毎日の新聞・雑誌等の記事を話題にする。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など	新聞・専門雑誌を毎日読むこと。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、これについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。</li> <li>2. 世界的になった環境問題① ヒトの増加は人口爆弾。</li> <li>3. 世界的になった環境問題② 総現存量の中の食糧の総糧。</li> <li>4. トピックス① 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>5. 生態系 有機物から無機物への変化 エネルギー不滅の法則。</li> <li>6. 生産者の役割 環境ごとの現存量を比較する。</li> <li>7. 消費者の現存量 微妙なバランスの上で生存しているヒト。</li> <li>8. 日陰者の分解者 もし無機物に還元されなければ。</li> <li>9. トピックス② 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>10. 環境を左右する温度と湿度 温量指数と乾湿指数の関係。</li> <li>11. 日本の森林 日本固有の種類を紹介。</li> <li>12. 日本の自然環境 世界的にもユニークな日本の自然。</li> <li>13. 古赤道分布説 極圏に植物化石林がでてくる理由は。</li> <li>14. 身近な自然 自分の家の周囲を散歩してみよう。</li> <li>15. ナショナルトラスト制度 イギリスを見習おう。</li> <li>16. 国立公園制度 日本の国立公園は真の国立公園？</li> <li>17. 種の多様性保全条約 なぜ他の生物を守らなければならないか。</li> <li>18. ラムサール条約 世界の湿地を守る。</li> <li>19. トピックス③ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出</li> <li>20. ワシントン条約① 絶滅の危機に瀕している動物。</li> <li>21. ワシントン条約② 絶滅の危機に瀕している動物。</li> <li>22. トピックス④ 新聞・雑誌記事を読み、レポートを提出。</li> <li>23. 世界遺産条約 日本の登録地はどこか。</li> <li>24. まとめ 一年間のまとめと試験の説明。</li> </ol>		

科目名	医療・福祉概論(98年度) 保健論(94～97年度)	担当者名	藤井賢一郎
-----	-------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、医療・保健・福祉それに対する社会制度・仕組みの現状や今後のあり方について議論し理解することを目標としている。特に、「こころの健康」や精神障害者に関する制度・仕組みの現状と課題について議論し、その中からわが国の医療・福祉の制度、システムに及ぶ問題点を抽出する。なお、制度、システムの分析に際しては、特に経済学の視点・手法を用い、問題点の一般化・普遍化に力点を置く。</p>	
講義概要	<p>①精神医療・保健・福祉の現状と課題（こころの病と健康の理解、精神医療・保健・福祉の制度・仕組みの現状と課題）</p> <p>②医療・保健・福祉の現状と課題（わが国の医療・保健・福祉の現状と課題、わが国の社会保障制度の現状と課題、医療・保健・福祉の経済学）</p> <p>※なお、授業に関する意見・感想があれば随時レポート・電子メールで提出してもらい、それを授業にできる限り反映する。</p>	
使用教材	テキスト	福祉士養成講座編集委員会（編）「精神保健」中央法規出版
	参考文献	<p>①西村周三「医療と福祉の経済システム」ちくま新書</p> <p>②厚生省監修「日本の社会保障の歩み」中央法規出版</p> <p>③池上直己、J. C. Campbell「日本の医療」中公新書</p> <p>④鴨田忠彦「日本の医療経済」東洋経済</p> <p>⑤藤井賢一郎「精神障害の生活と医療の費用負担に関する研究」獨協経済65号</p>
評価方法	<p>後期終了試験（小論文形式）の成績を主とする。ただし、①平常成績（授業への意見・感想に関する随時レポート、課題に対するレポート）や②その他（講義への貢献度等）も含めて評価を行う。詳細は第1回講義時に説明する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>①医療・福祉分野やこころの健康に問題意識を持ち、②問題を客観的・分析的に捉え、自分なりに考えようという姿勢を持っていただきたい。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. オリエンテーション：本講義の目標と概要、評価の方法について説明を行う。受講希望者は必ず出席すること。
2. 健康と障害：死因や疾病・健康状態に関する統計をもとに、わが国の現状を概説する。
3. 医療・福祉総論 (1)：病院や診療所などの機能について概説を行う。
4. 医療・福祉総論 (2)：予防や保健の意義について概説を行う
5. 医療・福祉総論 (3)：保健所、保健センターなどの機能について概説を行う。
6. 医療・福祉総論 (4)：福祉サービスの対象とサービス内容について概説を行う。
7. 医療・福祉総論 (5)：保健・医療・福祉サービスの連携について概説を行う。
8. グループディスカッション1 (前半) 配布した課題をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。
9. グループディスカッション2 (後半) 各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。
10. 医療・福祉各論(1)：ビデオをもとに、精神障害についての概説を行う。
11. 医療・福祉各論(2)：community mental healthに関する概説を行う。
12. 医療・福祉各論(3)：精神障害者の処遇とその変遷に関する概説を行う。
13. 医療・福祉各論(4)：精神障害者の処遇と財源問題に関する概説を行う。
14. グループディスカッション2 (前半)：配布した課題をもとに、4～6名のグループでディスカッションを行う。時間内に、グループの意見をまとめる。
15. グループディスカッション2 (後半)：各グループの意見を発表の後、講師より説明を行う。
16. 経済学と医療・福祉(1)：「情報の非対称性」「エイジェント理論」について概説を行う。
17. 経済学と医療・福祉(2)：「不確実性」「逆選択」と保険の意義についての概説を行う。
18. 経済学と医療・福祉(3)：「人的資本論」「外部性」の概説および、制度学派の観点について概説を行う。
19. 経済学と医療・福祉(4)：医療・福祉における公的意思決定問題とわが国の現状について概説する。
20. 社会保障制度(1)：わが国の公衆衛生、社会福祉、国家扶助制度について概説を行う。
21. 社会保障制度(2)：わが国の社会保険制度（医療保険制度、年金保険制度、介護保険制度）に関する概説を行う。
22. 社会保障制度改革(1)：今後の社会保障制度改革の必要性とその方向性について概説を行う。
23. 社会保障制度改革(2)：社会保障制度の財源問題について概説を行う。
24. まとめ 講義全体に関するまとめを行う。

科目名	体育理論（再履修）	担当者名	本田 稔 祐
-----	-----------	------	--------

講義の目標	<p>運動不足がからだにおよぼす影響について。</p> <p>われわれ人間は、運動不足になると、さまざまな障害が起ってくる。そこで、その障害には、どのようなものがあるか、その解消法はどうすれば良いかなどについて考察し、健康な日常生活が送れることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>運動不足によって起る運動不足病、成人病などの症状、予防法などを考え、具体的にどんな運動をどのように実施したらよいかなど、生涯にわたり健康な生活が送れるような内容の話しをする。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しない	
	参考文献	『大学生の体育と保健』 道和書院 『保健体育概論』 教育の科学社 『健康スポーツライフ』 スキージャーナル 他	
評価方法	筆記テストと授業への出席状態を加味して行う （授業中にも小テストあり）		
受講者に対する要望など	欠席をしないこと。遅刻は入室をことわることあり。		

1. 講義計画の説明、授業のガイダンス
2. 最初に運動不足の影響を理解するためビデオを見る。
3. 今日の日常生活と運動、運動の概念について
4. 運動不足からくる、体力、身体機能など生体の変化。
5. 運動不足からくる、疾病と障害。その症状について
6. 運動不足を解消するための対策
7. 運動の種類と健康との関係
8. 健康スポーツに適した種目とその実施方法
9. 体力と、体格のちがいと、正しいトレーニングの仕方
10. 運動と呼吸、循環の関係
11. 運動と疲労
12. テスト

科目名	経済学（済）（98年度） 経済学（済）（再履修）	担当者名	益山光央
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	「近代経済学」の基本理論を学ぶ。		
講義概要	経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期はマイクロ経済学、後期はマクロ経済学を講義する。現実の問題は扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 未定	
	参考文献	近代経済学（非マルクス経済学）の文献であれば全て可。	
評価方法			
受講者に対する要望など	数学を履修してほしい。まじめに勉強してほしい。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義のアウトライン</li> <li>2. 消費者行動の理論Ⅰ</li> <li>3. 消費者行動の理論Ⅱ</li> <li>4. 消費者行動の理論Ⅲ</li> <li>5. 生産者行動の理論Ⅰ</li> <li>6. 生産者行動の理論Ⅱ</li> <li>7. 生産者行動の理論Ⅲ</li> <li>8. 完全競争市場Ⅰ</li> <li>9. 完全競争市場Ⅱ</li> <li>10. 独占Ⅰ</li> <li>11. 独占Ⅱ</li> <li>12. まとめ</li> <li>13. 国民所得の諸概念</li> <li>14. 消費関数と貯蓄関数</li> <li>15. 所得決定メカニズムⅠ</li> <li>16. 所得決定メカニズムⅡ</li> <li>17. 投資関数</li> <li>18. 利子率の決定（流動性選好説）Ⅰ</li> <li>19. 利子率の決定（流動性選好説）Ⅱ</li> <li>20. 貨幣供給メカニズム</li> <li>21. IS曲線とLM曲線</li> <li>22. 金融政策と財政政策Ⅰ</li> <li>23. 金融政策と財政政策Ⅱ</li> <li>24. まとめ</li> </ol>		

科目名	経済原論(済)	担当者名	高橋 房二
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本年は経済原論として現代経済理論にしたがってマクロ経済学の基礎を体系的に講義する。経済学科の専門課程の学生としての巨視的経済理論に関する必要不可欠な基礎学力の涵養をはかる。それと同時に現実経済の動きに関する認識の基礎を与えることをめざすものである。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学に関して取扱うべき内容は多く、また多岐にわたるが下記のように限定される。まず、国民経済において最も重要な経済量の一つである国民所得と以後の議論の展開において必須の重要な若干の概念について述べる。ついで、均衡国民所得の決定の基礎的な関係について講義される。それにつづいて、乗数理論に関して閉鎖・開放両体系について議論する。つぎの段階として、ケインジアン体系についてその重要な経済概念と理論の講義が展開される。さらに、経済動学として経済成長、景気変動の問題についてふれる。ついで、インフレと失業に関して議論される。また、マネタリズムや合理的期待仮説がとりあげられそれらの特質や問題点に関して講義が行われる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ドーンブッシュ、フィッシャー『マクロ経済学』マグローヒル</li> <li>・バロー『マクロ経済学』多賀出版</li> <li>・中谷巖『入門マクロ経済学』日本評論社</li> <li>・ホール・テラー『マクロ経済学』多賀出版</li> <li>・サツクス・ラレーン『マクロエコノミックス』日本評論社</li> </ul>	
評価方法	定期試験、レポート、ミニテスト、出席状況		
受講者に対する要望など	出席が重視される。授業内容の理解につとめ、反復して復習すること。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 経済原論の授業内容と展開の概要の説明、国民所得に関する若干の基礎概念 GDP、NDP、分配国民所得、個人可処分所得等、所得分析
2. 最終消費と貯蓄に関する基礎的關係 事前的概念と事後的概念、消費関数、消費曲線、貯蓄曲線、APC、MPC、APS、MPS
3. 単純な国民所得の決定關係（Ⅰ） 貯蓄と投資による国民所得の決定（閉鎖体系）、広義と狭義における完全雇用、均衡国民所得、均衡理論
4. 単純な国民所得の決定關係（Ⅱ） 最終消費と投資による国民所得の決定（閉鎖体系）、均衡の存在と安定条件
5. インフレギャップとデフレギャップ、およびその対策 乗数理論（Ⅰ）—閉鎖体系— 単純な乗数理論、投資乗数、比較静学
6. 乗数理論（Ⅱ）—閉鎖体系— 政府活動と乗数理論、その一般的關係、赤字予算と均衡予算の場合、税率変化と乗数効果
7. 乗数理論（Ⅲ）—開放体系— 2国貿易モデル、輸入関数、限界輸入性向、2国の国民所得の変化、2国の貿易収支の変化、外国貿易乗数
8. ケインズ経済学（Ⅰ） ケインズの「一般理論」の意義とその特質、新古典派理論との相違
9. ケインズ経済学（Ⅱ） 非自発的失業、非自発的失業の再決定仮説による説明、不均衡理論、企業の投資、予想、資本の限界効率、投資のインセンティブ
10. 貨幣需要理論 貨幣、貨幣需要、流動性、ケインズの流動性選好説、流動性のトラップ、債券価格と利率、ポーモル・トービンモデル
11. 消費関数の理論（Ⅰ） ケインズ型消費関数、相対所得仮説
12. 消費関数の理論（Ⅱ） 恒常所得仮説、恒常所得とその導出、ライフサイクル仮説
13. 投資の理論 誘発投資、加速度原理による投資関数とそのパラメティ、ストック調整モデル
14. 経済成長の理論（Ⅰ） 動学、長期理論、経済成長率の諸概念、均衡成長、恒常成長、ハロッド・ドーマーモデルとその不安定性
15. 経済成長の理論（Ⅱ） カルドアによる定型化された事実、新古典派成長モデル、技術進歩と経済成長、最適成長
16. 景気変動 景気循環、各種のサイクル、単純な乗数加速度モデル
17. IS・LM分析（Ⅰ） 生産物市場とIS曲線、貨幣市場とLM曲線、古典派と初期ケインズ学派のLM曲線、生産物市場と貨幣市場の均衡と均衡国民所得および均衡利率の決定
18. IS・LM分析（Ⅱ） IS曲線のシフト、LM曲線のシフト、両曲線のシフトと均衡国民所得と均衡利率の変化、IS・LM分析と金融政策
19. 物価水準 総需要関数、総供給関数、物価水準、マークアップルール
20. 失業とインフレ（Ⅰ） フィリップス曲線、インフレ期待、適応的期待、インフレ率
21. 失業とインフレ（Ⅱ） 短期インフレ率、自然失業率仮説、短期フィリップス曲線のシフト、長期フィリップス曲線
22. 合理的期待仮説 合理的期待、単純な合理的期待モデル、合理的期待仮説とその評価
23. マネタリズムとケインズ学派 マネタリズムとマネタリストの主張、マネタリストのモデルとケインズモデルの比較、両者の議論の相違
24. 国際経済学 国際収支、為替レートの決定、国民所得と為替レートの決定



科目名	経済原論(済)	担当者名	西村 允克
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は一つの組織である。組織が永続的に機能するには、そこに秩序が維持されなければならない。経済学では、この秩序を市場均衡として把握する。それゆえ、市場均衡をいかに理解するかが、この講義の第一の主要課題となる</p> <p>だが、市場経済は単に均衡を維持するだけでなく、変動しながら成長する組織である。それゆえ、この変動と成長の過程を理解する論理システムを学ぶことが第二の主要課題となる。このようにして、現実の経済を理解するための論理システムを習得する。</p>
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑である。複雑なシステムを理解するには、システムを、そのシステムを構成する基本的要素と基本的要素間の関係によって、複雑なシステムを理論的分析が可能なモデルに変える必要がある。1～8は経済を構成する基本的要素と要素間の関係を理解し、経済分析の基礎的分析ツールを学習する。9～16では、理論モデルに基づいて、基本的経済分析を行ない、現実経済分析のやり方を学習する。17～18では失業とインフレを問題とするが、それはこれまでのモデル分析を通じてなされる。19～24では、変動と成長の関係を取扱う。経済理論はマクロとミクロに分けられるが、講義はマクロに重点を置くが、ミクロも必要なかぎり論じられる。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中谷 巖 著『入門マクロ経済学』 日本評論社</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広松毅、R. ドーンブッシュ、S. フィッシャー『マクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・幸村千佳良 『マクロ経済学事始』 多賀出版</li> <li>・J. P. クワーク著、久保雄志訳『現代ミクロ経済学』 マグロウヒル</li> <li>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</li> </ul>
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題とその採点は講義において注意した点をよく理解しているかについてなされる。</p>
受講者に対する要望など	<p>学習効果は日々学習し、その学習成果を次の講義において役立てることによって完全なものとなる。講義に出席するには、必ずテキストの関連する部分を読んでいなければならない。</p>

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学を学ぶための基礎(1) 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役、実物資産と金融資産</li> <li>2. 経済学を学ぶための基礎(2) 分析ツール 関数と曲線、関数の限界値、数式と図表の読み方、市場均衡と主体均衡、完全競争市場、独占的競争市場、不完全競争市場、独占市場</li> <li>3. 国民経済計算(1) 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、三面等価の原則、内需と外需、グロスとネット</li> <li>4. 国民経済計算(2) 物価指数(デフレーター)、名目値と実質値、経済成長率</li> <li>5. 生産関数 投入量と産出量 等産出量曲線 限界生産力、規模の経済</li> <li>6. 消費関数(1) 限界消費性向、限界貯蓄性向、平均消費性向、平均貯蓄性向</li> <li>7. 消費関数(2) 恒常所得仮説、合理的期待仮説、ライフサイクル仮説</li> <li>8. 投資関数 投資の限界効率 加速度原理(独立投資と従属投資) 技術革新(イノベーション)</li> <li>9. 市場均衡理論(1) 価格を調整変数とする場合 価格の決定と価格の変動理論(生鮮食料品はなぜ日々価格が変化するか。工業製品の価格はなぜ変化しないかなどの問題を考える基礎理論)</li> <li>10. 市場均衡理論(2) 生産量を調整変数とする場合 国民所得の決定と国民所得の変動理論</li> <li>11. 市場均衡理論(3) 生産量を調整変数とする場合 投資乗数の理論を中心とした問題</li> <li>12. 前期のまとめ</li> <li>13. 貨幣と貨幣市場 マネーサプライ、その決定因、金融政策とマネーサプライ 貨幣数量説、ハイパワードマネー</li> <li>14. 貨幣供給と貨幣需要(貨幣市場の均衡理論) 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要</li> <li>15. IS・LM分析(1) 国民所得と利率の同時決定 IS曲線とLM曲線の導出とその意味、国民所得、利率の同時決定のメカニズム</li> <li>16. IS・LM分析(2) 国民所得と利率はどのように変化するか。IS曲線とLM曲線を変化させる要因、これらの要因が変化すればどのように両曲線は変化するか。財政・金融政策の効果</li> <li>17. 失業問題 自然失業率 フィリップス曲線</li> <li>18. インフレーション マネーサプライとインフレ、スタグフレーション</li> <li>19. 成長と変動の理論(1) 景気変動、在庫循環、設備投資循環 リアル・ビジネス・サイクル</li> <li>20. 成長と変動の理論(2) 経済成長の理論。(ハロッドモデル、新古典派モデル)</li> <li>21. 成長と変動の理論(3) 戦後日本の成長と変動</li> <li>22. 国際マクロ経済理論 外国貿易乗数、外国為替相場制(固定相場制と変動相場制)、国際収支(貿易収支、貿易外収支、移転収支、経常収支、長期短期資本収支)</li> <li>23. 総供給・総需要分析(I) 総供給曲線と総需要曲線の導出</li> <li>24. 総供給・総需要分析(II)</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	日本経済史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>世界でもっとも華麗な超一流選手となった現代日本の社会経済の、「栄光」の土台と繁栄の原因は、なにか。その歴史的な過程の問題点はなにか。現代における「悲惨」はなにか。本講義は、これからの課題に対して、いわゆる「社会経済史学」の方法、「地域社会史」の視座、「民衆史」の見方をもって、答えようとしている。日本社会経済史の展開過程の特徴を概観しながら、学問的に、真摯に、知的な好奇心と生真面目な問題意識をもち、さらには社会的な同情心を身につけて、日本および日本人に関する「過去と現在との対話」を試みてみたい。</p>				
講義概要	<p>本講義の枠組みと範疇がもつ、基礎概念と問題意識のキーワードは、以下の通りである。</p> <p>1. 本源的蓄積期 2. 人間疎外 3. 零細過小農経営 4. 商品経済 5. 貨幣 6. 農民分解 7. 村落共同体 8. 地域社会史</p> <p>いわゆる、上すべりの現代経済風俗や繁栄風潮の一般的原因や動向を描写することはしない。歴史的かつ社会的な人間諸関係の特殊具体像を細密に歴史描写しながら、日本および日本人についてきびしく、かつ暖かい自己批判と反省を加え、21世紀に生きる日本人の生き方の指針の参考にしたい。地域民衆社会史という「新しい歴史学」の立場に立つから、従来の学問教養で安易に考えることはできない。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社</li> <li>・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社</li> <li>・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店</li> </ul>	参考文献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤博『概観日本社会経済史』学文社</li> <li>・齊藤博『地域社会史の誕生』藤原書店</li> </ul>				
参考文献	<p>最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。また講義をよく聴いていないと、「新しい歴史学」の思潮はもとより、歴史学の本筋である特殊具体像の微細な描写（秩父事件）などが、まったく理解しえないだろう。</p>				
評価方法	<p>前期および後期末に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートをきちんと作成していることを評価の際に重視したい。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。なお、受講生有志の強い希望があれば、(金5)に少人数の自主研究として「資本論輪読会」を開設することができる。</p>				

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. ① 社会経済史学の課題と問題点Ⅰ「歴史的なものの見方」、あるいは「歴史とはなにか」への考察を含む
2. ① 社会経済史学の課題と問題点Ⅱ 近代日本資本主義発達史論の立場から考える
3. ① 社会経済史学の課題と問題点Ⅲ ブルジョワ革命、本源的蓄積、産業革命をめぐって
4. ② 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 (地域社会史、地方史をめぐって)
5. ② 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 (民衆史をめぐって)
6. ② 社会経済史学研究の動向と「新しい歴史学」の新風 (いわゆる「解放の神学」「全体史」「社会史をめぐって」)
7. ③ 日本に於ける社会経済史学の発達 (羽仁五郎を読む) 幕末維新社会経済史Ⅱ
8. ③ 日本に於ける社会経済史学の発達 (『窮乏の農村』の世界)
9. ③ 日本に於ける社会経済史学の発達 (『職事情』の世界)
10. ③ 日本に於ける社会経済史学の発達 (服部之稔を読む) 幕末維新社会経済史Ⅰ
11. ④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
12. ④ 近世封建社会の構造と展開、および問題点 封建領主制と封建農奴、零細過小農経営、商品経済
13. ⑤ 社会経済史学の課題—地域民衆史学と全体史
14. ⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
15. ⑥ 本源的蓄積期の歴史的意義といわゆる「近代化」 封建制社会から近代社会への過渡期・移行期
16. ⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 秩父事件にみる、地域社会史と民衆史の全体史的な把握
17. ⑦ 近代日本形成確立の全体像と問題点 (井上幸治と色川大吉を読む)
18. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
19. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
20. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
21. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
22. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
23. ⑧ 秩父事件の特殊具体像と日本近代の分水嶺
24. ⑨ 総括—近代日本の批判的考察と現代日本への展望

科目名	経済地理	担当者名	犬井 正
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済地理学は経済の諸事象の地理的配置を説明し、経済地域の成立・構造・機能を明らかにすることを目的とする。経済事象は農業、工業、商業など多岐にわたるので、本講義では農業地理学を主体にしながら、経済地理学の方法と内容を学んでいく。</p>		
講義概要	<p>単に講義による農業地理学の理論だけでなく、前期、後期に各1回ずつのフィールドワークをおこなうとともに、スライドなどを用いできるだけ農業の具体的な現実のすがたが把握できるように努める。また、適当なトピックスを選んで、ディベート形式などもとり入れ、受講者の意見を発表する場も設定する。さらに受講者は前期・後期各2回（それぞれ4000字程度）の小論を提出し、レポート・論文の書き方の基本を習得する。</p>		
使用教材	テキスト	D.グリッグ著『西洋農業の変貌』1997年、農林統計協会	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ D.グリッグ著『農業地理学入門』1986年、原書房</li> <li>・ 定本正芳著『農業地理学の理論』1983年、大明堂</li> <li>・ 山本正三他編著『日本の農村空間』1990年、古今書院</li> <li>・ 山本健児著『経済地理学入門』1993年、大明堂</li> </ul>	
評価方法	<p>年間指定小論、およびフィールドワークのレポート結果と講義への貢献度などから総合的に判定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回必ず講義に積極的に出席できる勉学意欲旺盛な者に限る。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 本講義の1年間の受講の心構えおよび、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションを行い受講者数を決定する。
2. 経済地理学の研究方法と研究対象について、経済学と地理学の方法の相違をふまえながら講述する。
3. 経済地理学研究のためのデータの収集とその活用の方法。特にセンサスデータ、地図の活用などを中心として。
4. 農業活動と自然環境との関係を、具体的な農業地域を事例にして考察する。
5. 農業生産と農業労働力を中心として、専業・兼業別農家の経営形態の地域的差異を考察する。〈前期小論1提出〉
6. 農業経営規模と土地の保有形態を中心として、農業経営形態や他産業との競争を視点として考察する。
7. 農産物と市場・流通・輸送形態の関係について具体的な農業地域を事例として考察する。
8. 国家と農業政策、土地利用と土地利用計画・政策について考察する。
9. 日本と世界の諸地域の農業経営形態の差異と農業地域区分の方法を考察する。〈前期小論2提出〉
10. 東京近郊洪積台地上の農業地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
11. 同上
12. 前期のまとめと評価。前期フィールドワークのレポート提出
13. 日本の農業の特色と農業地域の概観。
14. 首都圏の農業地域の構造と特色。
15. 輸送圏圏農業地域の構造と特色。
16. 米作地域の農業経営の特色と問題点。〈後期小論1提出〉
17. 農産物の自由化と日本の農業の関係を文化、経済の視点からみる。
18. イギリスの農業の特色と農業地域の概観。
19. イギリスのLFA地域と集約農業地域の特色を考察する。
20. イギリスの工業化する農業と農業地域の特色。
21. 農産物の過剰生産と農業補助金政策をイギリスの小麦、日本の米を対象にして考察し、それぞれの国の農業地域の対応の仕方を考察する。〈後期小論2提出〉
22. 同上
23. 草加市の綾瀬川流域沖積低地の伝統的農産物生産地域のフィールドワーク実施（日曜日に振り替えて実施する）。
24. 1年間の講義のまとめと評価。後期フィールドワークのレポート提出。

科目名	経済政策	担当者名	伊藤正昭
-----	------	------	------

講義の目標	<p>資源配分のゆがみ、不公平な所得分配、経済の低成長、景気の変動、地価や内外価格差問題、そして、談合などにみられる企業の独占的な行動、消費者・生活者を重視した経済への体質転換（構造調整）、規制緩和など現代的な経済問題が山積している。こうした経済問題へのいわば処方箋を検討するのが経済政策（論）ということができるであろう。</p> <p>経済問題に関心をもつ者に、経済政策の理論と現実をできるかぎりやさしく解説することにより、受講者の経済政策をみる目を養うことを目的としたい。</p>		
講義概要	<p>経済政策は応用経済学の一分野であり、マクロおよびミクロ経済学で蓄積された諸理論を応用することになる。経済政策の方法論から始め、マクロ経済学のエッセンスを学んだ後、財政学、金融論などを応用して財政、金融政策について学習する。ついで、マクロ経済学をベースにした経済成長政策、そして、景気循環や雇用・物価問題にかかわる経済安定政策を学ぶ。</p> <p>さらに、価格理論ともいわれるミクロ経済学をベースとする産業組織政策などに触れ、市場経済の役割、規制緩和の是非など現代的な経済問題へアプローチする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正昭『現代経済と経済政策—理論と実際—』1998（4月末入手可能）</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正昭他『経済政策の基礎理論』八千代出版、1990年</li> <li>・黒川・大塚・高山・武蔵他著『経済政策入門(1)理論』有斐閣、1993年</li> <li>・永井・藤井・阪本・安田他著『経済政策入門(2)理論』有斐閣、1993年</li> <li>・尾上久雄・新野幸次郎編『経済政策論（新版）』有斐閣、1993年</li> <li>・ドーンブッシュ・S、フィッシャー／廣松訳『マクロ経済学（上・下）』マグローヒル</li> <li>・中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年</li> <li>・倉澤資成『入門／価格理論（第2版）』日本評論社、1993年、その他。</li> </ul>	
評価方法	<p>前期末および学年末に筆記試験を行い、その結果で成績評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学部必修科目である「経済学」の単位をすでに修得していることを前提に講義を進める。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済政策序説(1) 経済政策とはなにか (講義のフレームワークの説明とガイダンス) 資源の希少性、効率的な資源配分、経済問題、経済体制</li> <li>2. 経済政策序説(2) 戦後日本の経済政策のレビュー ブラザ合意以降の政策、財政・税制改革、規制緩和と自由化</li> <li>3. 政策の主体と経済政策思想(1) 政策主体と政策決定メカニズム 政治と経済、公共選択、政治家・官僚の行動原理、審議会</li> <li>4. 政策の主体と経済政策思想(2) 現代の経済政策思想—政府介入をどうみたらよいか— ケインズ、新古典派総合、新自由主義、サプライ・サイド</li> <li>5. 経済政策の目的と手段(1) 経済政策における価値判断の問題 ウェーバー、ピグー、パレート最適、厚生経済学の基本定理</li> <li>6. 経済政策の目的と手段(2) 政策の目的と階層性—目的間のトレード・オフ— 政策手段 (財政・金融政策、経済的規制) の多様性と有効性</li> <li>7. マクロ経済政策の原理(1) 完全雇用と政府介入の論理—ケインズのねらい— 古典派とケインズの雇用理論 (2つの公準)、価格調整と数量調整</li> <li>8. マクロ経済政策の原理(2) 国民所得決定の理論—マクロ経済政策の基礎理論— 有効需要、国民所得、消費 (貯蓄) 関数、投資乗数、<math>I = S</math></li> <li>9. 財政政策(1) 財政政策と手段 財政の機能、予算と財政投融资、財政制度改革、公債負担問題</li> <li>10. 財政政策(2) ビルト・イン・スタビライザーと裁量的財政政策 経済安定化政策、累進税制、政府支出乗数、政策のラグ</li> <li>11. 金融政策(1) 金融政策の理論的基礎 貨幣の需要と供給、流動性選好、マネー・サプライ、<math>L = M</math></li> <li>12. 金融政策(2) 金融政策の目的と手段 ハイパワード・マネー、マネー・サプライの管理、金融自由化</li> <li>13. 財政政策と金融政策の IS—LM 分析(1) 財政政策と金融政策の有効性と条件 生産物市場と貨幣市場の同時均衡、ポリシー・ミックス</li> <li>14. 財政政策と金融政策の IS—LM 分析(2) 財政金融政策に関する諸見解 ケインジアンとマネタリストの論争、貨幣数量説、合理的期待</li> <li>15. 経済成長と経済安定の政策(1) 経済成長の基礎理論と政策 ハロッド＝ドーマー／新古典派モデル、生産関数、技術選択</li> <li>16. 経済成長と経済安定の政策(2) 景気変動と政策 景気循環の理論、リアル・ビジネス・サイクル、景気動向指数</li> <li>17. インフレーションの理論と政策(1) 総需要曲線と総供給曲線 物価水準、インフレ供給・需要曲線、スタグフレーション</li> <li>18. インフレーションの理論と政策(2) ケインジアンとマネタリスト フィリップス曲線、自然失業率仮説、オーカンの法則</li> <li>19. 産業政策(1) 産業構造政策と産業調整政策 サプライ・サイド、保護主義、NAP と PAP、技術革新</li> <li>20. 産業政策(2) 産業組織論と独占禁止政策—日本とアメリカの比較— S—C—P パラダイム、シカゴ学派、コンテストアビリティ、サンク・コスト</li> <li>21. 規制緩和と経済政策(1) 現代の市場システムと問題 市場の失敗、自然独占と規制の論拠、レント・シーキング</li> <li>22. 規制緩和と経済政策(2) 産業規制と規制緩和 規制緩和の経済理論、規制緩和のプラスとマイナス</li> <li>23. 国際協調の経済政策(1) 自由貿易と保護主義の論理と現実 GATT から WTO へ、国家主権、地域統合の時代</li> <li>24. 国際協調の経済政策(2) 経済摩擦の分析と政策 日米経済摩擦の3つの局面、経済政策摩擦、日本の経済体質</li> </ol>
----------------------------	--



科目名	日本経済論	担当者名	波形 昭一
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解すぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだろうが、どうも学生諸君には不向きのような。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないで見受けられる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目標としたい。</p>		
講義概要	<p>〔前期〕では、戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>〔後期〕では、ドル・ショック、オイル・ショックを契機に高度経済成長のシステムが崩れ、新たなシステム再構築を迫られる現代日本経済の諸問題を論ずる。</p> <p>詳細については、次頁の年間講義予定を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	統計資料等のプリントを配布して授業を進める。	
	参考文献	<p>中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986年</p> <p>竹内宏著『昭和経済史』筑摩書房、1988年</p> <p>隆旗節雄著『日本経済の構造と分析』社会評論社、1993年</p> <p>柴垣和夫著『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局、1995年</p> <p>佐々木隆爾編『昭和史の事典』東京堂出版、1995年</p>	
評価方法	<p>前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の修得はほとんど不可能であることを心得ておいてほしい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義中の「私語」と「飲食」を固く禁ずる。大学は歌舞伎座や新橋演舞場ではない。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 日本経済の近代化とその構造(1) 産業・貿易構造
2. 日本経済の近代化とその構造(2) 金本位制の成立
3. 恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4. 井上財政から高橋財政への転換
5. 戦時統制経済とその実態
6. 戦後経済復興(1) 4大経済改革
7. 戦後経済復興(2) ドッジ・ラインとシャープ勧告
8. 高度成長時代の到来とその構造
9. 高度成長の精神的土台
10. 高度成長の時代背景—大衆消費社会との関連で—
11. ドル・ショックとオイル・ショック—高度成長の終焉—
12. 日本経済の構造転換
13. レーガノミックスとプラザ合意
14. バブル景気
15. バブル崩壊、不況の長期化
16. 「複合不況」の時代
17. 日本経済の諸問題(1) 対外経済摩擦
18. 日本経済の諸問題(2) 産業空洞化
19. 日本経済の諸問題(3) 高齢化・少子化社会
20. 日本経済の諸問題(4) 行財政改革の難航
21. 日本経済の諸問題(5) 金融システムの硬直化
22. 日本経済の諸問題(6) 「法人資本主義論」
23. 日本経済の諸問題(7) 「1940年体制論」
24. 大競争時代の到来

科目名	統計学	担当者名	富田幸弘
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学や経営学を含む諸科学にも多くの貢献をしてきている。特に、近年のコンピュータの発達はそのデータの取り扱いと統計的方法への接近を容易にしている。こうしたことから、統計学の背景にある科学的方法としての理論の枠組とその重要性を十分に理解し、応用能力を身につけることを目標としている。</p>	
講義概要	<p>出来るだけ具体的な問題を意識しながら教科書にそって進める。その内容は以下のようなものである。</p> <p>(1)記述的な統計  (2)主要な確率分布  (3)統計的推定  (4)統計的仮説検定</p> <p>講義内容を良く理解してもらうために、適宜演習問題に取り組んでもらう。</p>	
使用教材	テキスト	『統計学——データから現実をさぐる』内田老鶴圃 池田貞雄・松井敬・富田幸弘・馬場善久共著
	参考文献	
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果により評価する。</p> <p>また、出席状況等も考慮する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義内容を理解するためのノートと電卓が必要です。</p>	

年 間 授 業 計 画	1. 今年度の「統計学」の講義について (キーワード:教科書・ノート・成績評価)
	2. 統計的な考え方と例 (キーワード:国勢調査・品質管理・コンピュータ)
	3. 統計学の発達と先駆者 (キーワード:コルモゴロフ・ピアソン・フィッシャー)
	4. データの整理〈1〉 (キーワード:尺度・平均値・標準偏差)
	5. データの整理〈2〉 (キーワード:中央値・最頻値・四分位数)
	6. データの整理〈3〉 (キーワード:度数分布表・ヒストグラム・階級値)
	7. データの整理〈4〉 (キーワード:簡便法・平均値・標準偏差)
	8. データの整理〈5〉 (キーワード:散布図・相関係数・回帰直線)
	9. データの整理のまとめと演習
	10. 確率と確率分布〈1〉 (キーワード:組み合わせ・互いに独立・条件付き確率)
	11. 確率と確率分布〈2〉 (キーワード:離散型確率変数・二項分布・漸化式)
	12. 確率と確率分布〈3〉 (キーワード:連続型確率変数・正規分布・標準化)
	13. 前期試験の結果と前期の復習
	14. 母集団と標本 (キーワード:標本調査・乱数・中心極限定理)
	15. 統計的推定〈1〉 (キーワード:区間推定・信頼係数・点推定)
	16. 統計的推定〈2〉 (キーワード:比率の推定・二項分布・サンプルサイズ)
	17. 統計的推定〈3〉 (キーワード:母平均の推定・正規分布・最尤推定)
	18. 統計的仮説検定〈1〉 (キーワード:帰無仮説・第1種の過誤・有意水準)
	19. 統計的仮説検定〈2〉 (キーワード:比率の仮説検定・比率の差の仮説検定・両側検定)
	20. 統計的仮説検定〈3〉 (キーワード:2×2の分割表・独立性の仮説・r×sの分割表)
	21. 統計的仮説検定〈4〉 (キーワード:母平均の仮説検定・母平均の差の仮説検定・等分散の検定)
	22. ノンパラメトリックな方法〈1〉 (キーワード:スピアマンの順位相関係数・ケンドールの順位相関係数・適合度検定)
	23. ノンパラメトリックな方法〈2〉 (キーワード:符号検定・順位和検定・検定のまとめ)
	24. 「統計学」のまとめ

科目名	統計学	担当者名	本田 勝
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>我々の身の回りには大量のデータが存在する。それらは観測や測定あるいは実験のデータであったり、各種の調査から得られたデータであったり、その種類は様々である。これらのデータを解析し、推論していく、推測統計学を軸とする近代統計学の手法は、経済学や経営学の分野でもいろいろな形で応用されている。</p> <p>この講義では、統計学の基本的考え方とそれらを具体的に応用していく方法について述べていく。</p>	
講義概要	<p>講義は年間を通して系統的かつ段階的に進めていく。</p> <p>(1)記述統計と呼ばれる、データの整理の方法。 (2)確率の概念。  (3)確率分布の考え方。 (4)特殊な確率分布。  (5)標本分布の考え方。 (6)点推定や区間推定の考え方。  (7)統計的仮説検定の考え方。 (8)2変量の相関と回帰。</p>	
使用教材	テキスト	拙著：『基本統計学』（産業図書）
	参考文献	講義時にそのつど指示
評価方法	前期および後期の定期試験と、レポート、出席調査による総合評価	
受講者に対する要望など	講義は指定の教科書にそって進めるが、教科書はあくまで補助であり、教室での講義が中心であるから、必ず講義に出席し、ノートに講義内容をまとめて欲しい。	

1. 統計学とは何かについて、統計学の導入を行なう。(母集団、標本、記述統計、推測統計)
2. 標本として得られるデータの整理のしかたについて述べる。  
位置の尺度のとらえかたなど。(度数分布、平均、中央値、最頻値)
3. ばらつきの尺度によるデータ特性の把握のしかたについて述べる。  
(分散、標準偏差、チェビシェフの不等式)
4. データ整理の方法を理解するための演習をおこなう。
5. 確率導入のための準備として、集合および事象について述べる。  
(和事象、積事象、組み合わせ)
6. 確率を導入し、加法定理、条件付確率および乗法定理について述べる。  
確率に関する問題演習を行なう。
7. 確率変数と確率分布の考え方を述べ、離散型および連続型の例を考えてみる。
8. 確率分布の数学的定義を、密度関数と分布関数を用いて説明し、分布の平均や分散などの特性値について述べる。
9. 2項分布を例に、確率分布(離散型)の性質を調べる。
10. ポアソン分布の性質を調べる。問題演習。
11. 連続分布とその特性について、一様分布、指数分布、正規分布を例に述べる。
12. 正規分布の確率の求め方と確率度数の標準化について述べる。問題演習。(標準正規分布)
13. 標本分布とは何か、標本分布はどのような確率分布をするかについて述べ、中心極限定理についても言う。
14. 標本比率の分布はどのような確率分布をするかについて述べ、2項分布の正規近似についても言及する
15. カイ2乗分布およびスチューデントのt分布を説明したあと、標本分散の確率分布について述べる。
16. 母集団パラメータの推定について、点推定、区間推定の考え方を述べる。(不偏推定量、信頼係数)
17. 母平均の区間推定のし方を述べる。問題演習
18. 母集団比率及び母分散の区間推定のし方を述べる。
19. 統計的仮説検定の考え方と母平均の検定法について述べる。  
問題演習。(帰無仮説、対立仮説、検定の過誤)
20. 2変数間の相関とは何かについて述べる。(共分散、正の相関、負の相関、完全相関)
21. 回帰直線について述べる。(線形回帰、最小2乗法)
22. カイ2乗検定の考え方について述べる。問題演習。(適合度検定、分割表、独立性の検定)
23. ノンパラメトリック検定の考え方について述べる。(符号検定。順位和の検定)
24. 一年間の総復習を行う。

科目名	統計学	担当者名	松井 敬
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>近代統計学の手法は、品質管理、種々の調査、実験データの処理などを通じて広く社会一般に受け入れられ、経済学、経営学を含む諸科学に大きく貢献してきた。近年は、コンピュータなどのデータ処理システムの目ざましい発展もあって、人間活動のあらゆる分野で広く利用されている。</p> <p>本講義は、統計学の基礎的な概念と方法について正確な知識と応用能力を身につけることを目標とするが、出来るだけ具体的な問題を意識しながら進めることにする。</p>				
講義概要	<p>前期では記述的な統計から始め、単純回帰、初歩的な確率論を経て、確率分布までを扱う。既知の内容も多いと思うが、後期で扱う応用のための方法論の基礎となるものなので、後期の内容との関連の上で体系的に説明してゆきたい。後期のテーマは、統計的方法として様々な分野で応用される内容を含んでいる。すなわち、推定、検定、ノンパラメトリック法などの理論と方法である。</p> <p>実験、観察、調査などには数量的なデータが付随するが、これらの処理にはデータの背景を十分に考えた適切な統計的方法を選択する必要がある。講義の中ではこういった点に十分配慮し、統計的応用に際して留意すべき点を明確にしてゆきたい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。</td> </tr> </table>	テキスト	・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃	参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。
テキスト	・池田貞雄、松井敬、富田幸弘、馬場善久共著 『統計学—データから現実をさぐる』 内田老鶴圃				
参考文献	上記テキストは入門書としてはかなり広い範囲をカバーし、しかも分かり易く説明しているため、特別に参考文献が必要とも思われない。この後で進むべき本としては、たとえば、竹村彰道『現代数理統計学』創文社などがある。洋書も数知れずある。また、応用のための各論的な本も数多い。興味のある学生は個別に相談してほしい。				
評価方法	前・後期二回の期末試験による。				
受講者に対する要望など	講義内容をより良く理解してもらうために、適宜演習を取り入れている。そのために、電卓を常に持参してほしい。				

年 間 授 業 計 画	1. 統計学とは何だろうか：(1)統計学とはどんな学問か、なぜ統計学を学ぶのかについて概説する。あわせて、統計学の位置づけや統計的な考え方についても述べたい。(2)年間の授業の進め方、方針、その他。
	2. 統計学の考え方、データを記述する尺度：(1)統計的な見方、考え方とはどんなことか。(2)変量(変数)と尺度。(3)データを記述する尺度について。
	3. データを記述する尺度：(1)位置と散らばりの尺度、(2)データを記述する様々な尺度の意味と特徴およびそれらを求める(計算する)上での注意。(3)度数分布表、ヒストグラムなど。
	4. 2つの変数の間の関係をさぐる-1：身長と体重、需要と供給、打率と打点といった2つの変数の間の関連性を説明する尺度について考える。相関係数と回帰。
	5. 2つの変数の間の関係をさぐる-2：2つないし3つ以上の変数間の“線型”な関係を調べる。回帰直線、重回帰。
	6. 確率-1：(1)なぜ確率を学ぶか、どんな点に注意すべきか。(2)確率を考える立場、用語、定義。
	7. 確率-2：(1)順列、組み合わせなど。(2)独立性など事象についての諸概念。(3)条件付き確率、ベイズの定理。(4)復元抽出、非復元抽出。
	8. 確率分布-1：(1)確率の考えを借りて、試行(実験)の結果を分布という概念でとらえる。(2)離散型確率分布—超幾何分布、二項分布、ポアソン分布など。
	9. 確率分布-2：(1)確率分布の意味を再考し、一般化する。(2)離散型確率分布の平均値と分散、期待値。
	10. 確率分布-3：(1)連続型確率分布—連続型確率分布の意味。(2)正規分布—分布の形状、特徴その他。
	11. 正規分布その他：データ処理の様々な場で見られる正規分布とその周辺のことについて考察。(1)正規分布。(2)二項分布の正規近似。(3)その他の連続分布。(4)連続型確率分布の平均と分散(期待値)。
	12. データの要約：(1)データを記述する尺度とデータの特徴づけを終えたところで、統計的な考え方を再考する。(2)前期のまとめ。
	13. 無作為標本、母集団と標本：母集団と標本の概念は、現代の統計学の枠組みを与えていて大変重要。(1)無作為標本。(2)乱数、無作為抽出法。(3)母集団と標本、統計量、標本分布。
	14. 母集団と標本-2：(1)標本平均の標本分布、中央値の標本分布、一般に標本分布。(2)中心極限定理。カイ2乗分布、t-分布、F-分布。
	15. 推定-1：標本(サンプル)にもとづいて母集団のパラメータ(母数)を推定する方法とその意味。(1)点推定。(2)比率の区間推定。(3)サンプルの大きさについて。
	16. 推定-2：(1)正規分布の母平均 $\mu$ の区間推定。(2)なぜ標本平均を用いるか—推定量の意味、推定量の性質、推定量の比較。(3)最尤推定法—データから母数を探る。
	17. 統計的仮説検定-1：“仮説”の検定を、どんな考え方にそって行うのかを、まず、(1)手法(考え方)の理解、次に、(2)様々な場合への対応という点から理解してもらう。
	18. 統計的仮説検定-2：(1)比率の検定—考え方と手順。(2)2×2表—2×2表にもとづく検定の意味。
	19. 統計的仮説検定-3：(1)2×2表—モデルとの関連、タイプの異なる2×2表。(2) $r \times s$ 表。
	20. 統計的仮説検定-4：正規分布の母平均の検定—母集団が1つの場合、母集団が2つの場合(平均の差の検定)。それぞれの場合について、分散が既知、未知の場合にわけて検討する。
	21. 統計的仮説検定-5：(1)相関係数の検定、分散の検定(母集団が1つの場合、2つの場合)。(2)一般に統計的仮説検定を行う際の手続きと注意—具体例を通して、統計的仮説検定の問題を考えてみる。
	22. ノンパラメトリックな方法-1：(1)ノンパラメトリックな方法とは？なぜノンパラメトリックな方法を用いるのか。(2)順位相関係数。(3)符号検定。
	23. ノンパラメトリックな方法-2：(1)順位にもとづく検定。(2)適合度検定。
	24. 統計的推測：(1)統計的方法の枠組みの理解と様々な手法の関連を再考する。(2)後期のまとめ。



科目名	経済統計論（98年度） 経済統計（97年度以前）	担当者名	松本正信
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>経済統計は現に経済現象のほとんどあらゆる方面に関連し、また実際調査もなされているから、これを全て講義の対象としたのではとても時間が足りないし、また大学の経済学講義の一環としての意義も乏しい。それらは実社会にあって実際に必要になってから参照すればよい。本講では「経済統計」をば、むしろその体系的、方法的ならびに経済理論的な対応において、つぎの三部構成でなされよう。すなわち経済統計学の理論的枠組を理解していただくことが、講義の狙いである。</p>		
講義概要	<p>第Ⅰ部 指数の問題、その成り立ちと理論的根拠 第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表 第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析</p> <p>以上、詳しくは後の年間講義予定を見られよ。ただし、講義の順序はこの通りとは限らない。また、例年時間的余裕があるので、教科書の付録にしたがって、付論「オペレーションズ・リサーチとゲームの理論」を現代の経済・経営の実際応用と経済戦略という有意義な視点で講話します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・森田優三『経済統計読本』東洋経済新報社、1991年（21刷）</p>	
	参考文献	<p>・講義の都度指示</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に、出席状況・受講態度を加味して評価する。2回の試験のうち、学年末の後期定期試験にややウエイトを置いた配点としたい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>まずは講義を聴き給え。きっと面白いぞ。</p>		

以下の、序論を含めた19の項目を年間を通じて1～3回にわたる講義で進める予定である。

序 論

経済と経済統計と経済学

第Ⅰ部 指数

- 1 指数について（指数理論）
- 2 平均値について
- 3 物価指数と数量指数
- 4 消費者物価指数（付論：消費者選好理論とヴォルトケウイッチの関係式）
- 5 その他の物価指数の例と各種デフレーター
- 6 生産数量と生産指数——いくつかの代表例

第Ⅱ部 国民所得統計と産業連関表

- 1 国民所得統計と国民所得分析
- 2 社会会計の考え方とマトリックス  
(2の付論：コンピュータ通信システムの発達と国民総背番号制)
- 3 新SNA
- 4 産業連関表
- 5 産業連関分析とその応用

第Ⅲ部 時系列分析と回帰分析

- 1 時系列データとその解析
- 2 時系列分析——トレンド（趨勢、傾向線）、循環変動、季節変動、不規則変動——
- 3 時系列分析の方法——移動平均法、趨勢線のあてはめ、他——
- 4 景気動向指数——ディフュージョン・インデックス——
- 5 回帰分析と回帰方程式
- 6 計量経済学の方法
- 7 構造推計と将来予測

付 論 ORの話；オペレーション・リサーチとゲームの理論

年  
間  
授  
業  
計  
画

科目名	情報処理概論	担当者名	各担当教員
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>経済学部の学生が4年間の学習、研究生活に必要な情報処理の基礎を講義およびコンピュータ実習を通して勉学、学習するためのものである。例えば、レポートや卒業論文製作に以下のような手段を使うことができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文章は、ワープロソフトを使用して作成する。</li> <li>○必要な資料は、図書館や外部データベースの文献検索で見つける。</li> <li>○必要なデータは、コンピュータ通信を利用してデータベースで検索して得る。</li> <li>○必要な統計計算や、グラフは表計算ソフトを利用して作成する。</li> <li>○報告用、発表用の資料は、これらの情報を組み合わせて作成する。</li> </ul>		
講義概要	<p>講義および実習を通して上記の目標を達成するためにワープロソフト・表計算ソフトの使用法を始め、コンピュータを中心とした情報処理全般のテーマを扱う。</p> <p>講義計画が後述してあるが、各テーマの取り扱われる順序、時間配分は各教員により異なります。またこれら以外のテーマも扱われますので担当教員に確かめて下さい。</p>		
使用教材	テキスト	獨協大学情報センター編『コンピュータ入門』	
	参考文献		
評価方法	<p>原則として試験およびレポートを中心に評価する。出席も重要なポイントである。詳しくは各教員に聞くこと。</p>		
受講者に対する要望など	<p>最初のうちは“習うより慣れろ”です。繰り返しの勉強（復習）が必要でしょう。欠席、授業中の私語、途中での単位放棄などくれぐれも無きように！</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

以下の項目は講義順序や講義時間数が担当者によって多少異なることもあるが、上記で述べたような情報処理の基礎に必須の項目として一年間の講義、実習の中で取り上げられる。

1. イントロダクション

情報化社会、情報と産業、情報と倫理、コンピュータの歴史

2. 入力装置とキーボード

QWERTY 配列、マウス、特殊キー

3. 日本語ワードプロセッサ

漢字変換、編集（複写、移動、文書修飾等）

4. MS-DOS、WINDOWS

5. 表計算

スプレッドシート、関数計算、グラフ

6. コンピュータ概説（含言語）

ハードウェア、ソフトウェア、コンピュータの仕組み

7. 情報の内部表現

2進数、文字コード等

8. インターネット

9. データベース

10. コンピュータ・システム

これら以外の項目も各教員ごとに扱う。詳しいことは各担当教員に聞くこと。

科目名	経済変動論	担当者名	松本正信
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済成長と景気循環のメカニズムの理論的枠組を、現代ケインズ派・古典派ならびに現代マネタリスト・合理的期待形成学派・新古典派などの諸説について年間に渡って講義するなかで、全体として理解して貰うのが目標である。今日の世界経済や日本の国内経済をみると、景気循環のメカニズムの本質がどのように関連しているかを示唆することも本講の大事な役割だと考えているが、これは第2の目標としたい。</p>	
講義概要	<p>詳しくは年間講義予定（後述）を御覧あれ。</p> <p>はじめに景気変動の歴史的素描とその時代々々の諸説を対称させてみて行き、景気変動の現代的意義を考えることから出発する。本論では「講義の目標」で示したような諸説を順次紹介しながら現代景気循環論を構成して行く積りである。</p> <p>また、諸説の随所にカオス動学的視点の解釈を試みたいと考えている。</p>	
使用教材	テキスト	私の「講義ノート」による。
	参考文献	講義の都度、指示する。
評価方法	後期定期試験によって評価する	
受講者に対する要望など	<p>最近の景気変動にも言及するし、また諸説の理論を聴講する上にも大事なことであるから、このところの現実の経済の動きにも日頃関心をもつことを要望します。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

以下の講義内容を年間を通じて行なう。

「経済成長と景気循環」に関する講義。ケインズならびにポスト・ケインズ学派以降今日までの有力諸説中心としながら、現代経済の現状に即した理論分析を講義する。

序論 経済変動論の現代的課題

- 1 はじめに——現代の経済成長と景気循環
- 2 経済変動の歴史的素描  
産業革命前夜とアダム・スミス、産業革命と資本主義経済の勃興、資本主義経済の発展と問題
- 3 経済変動の諸要因：その学説史的素描  
資本蓄積論、恐慌論にみるマルクス、革命論、動態的経済発展論にみるシュンペーター、長期停滞
- 4 ケインズ経済思想とニュー・ディール、The Great Depression, New-Deal policy; New-Economic  
修正資本主義と混合経済体制、市場の不完全性、公共経済の拡大、社会保障、金本位制から管理  
幣制へ、WTO体制と自由貿易、民主制政治と現代経済、ハーバー・ロードの前提崩壊
- 5 経済変動要因の理論的類別
- 6 有効需要拡大の「拡大」解釈——グローバル化——

I 均衡成長とその不安定性論

- 1 経済成長の不可避的要素と必要性  
古典的マルサスにみる循環的成長論と長期定常経済、アダム・スミスの市民社会の定常状態、シュ  
ンペーターの動態経済発展論、現代における経済成長の不可避的要素と必要性、ゼロ経済成長とその意
- 2 ハロッド・ドマーの均衡成長理論
- 3 独立投資と誘発投資
- 4 外生要因と内生要因

II 景気循環のメカニズム

- 1 定常状態の経済
- 2 新投資の循環（更新投資循環）
- 3 在庫投資の循環
- 4 ヒックスの景気循環モデル
- 5 カレッキーの景気循環論
- 6 カルドアの景気循環論
- 7 景気変動への安定化要因
- 8 景気循環論の類型と循環の局面
- 9 景気循環と経済諸変量
- 10 景気の転換点と景気動向指数

III 経済成長と景気循環

- 1 成長経済における「定型化された事実」
- 2 新古典派成長理論の登場
- 3 新古典派の経済成長理論
- 4 技術進歩と資本蓄積（技術移転と資本移動）

IV 現代景気循環論

- 1 現代ケインズ学派とマネタリスト・合理的期待形成学派
- 2 経済成長軌道は安定か不安定か
- 3 現代諸説の経済社会に対する考え方と経済制度の問題
- 4 これからの景気循環論への展望

科目名	近代経済学	担当者名	小林 進
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>受講者が経済理論を理解して現実の経済問題に応用できる水準に達することを目標とする。ただし受講者のレベルは必ずしも高いとはいえないので、場合によっては初歩的な経済理論にも随時触れる予定である。参考書については（原則として本学図書館にあるものを）必要に応じて推薦し、受講者の一層の学習努力を促すようにする。</p>		
講義概要	<p>経済学（必修）及び経済原論をすでに学習した受講生を対象にしてミクロ経済学を中心に講義し、最後にマクロ経済学の特に関心モデルへの展開についても触れる。最初の講義でアダム・スミスからケインズまでの簡単な経済史の歴史について述べ、市場経済の歴史における役割を簡潔に説明する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示する。	
評価方法	前期と後期の二回の試験によって評価する。		
受講者に対する要望など			

I. ミクロ経済学

消費者は効用関数を最大にするよう行動する。

効用関数  $U = U(X, Y)$  の定義とその性質

(辞書的順序の場合には効用関数が存在しないことに触れる)

無差別曲線と予算線の接点  $\rightarrow MRS = P_x / P_y$

予算線  $\rightarrow$  所得はすべて消費する、もし貯蓄を経済的合理性から説明するならば二期間モデルが必要である。

所得効果と代替効果

(この概念の理解が重要であることを強調する)

労働の供給曲線の導出、代替効果が支配的なき時の賃金率と供給量の関係

不労所得がある場合の労働供給曲線

失業保険と労働供給曲線

二期間モデルと貯蓄、現在割引価値の概念、利子率と貯蓄の関係

効率賃金理論

需要の価格弾力性  $e$  と支出額  $Z$  の関係

$$\frac{dZ}{dp} = x(1 - e) \quad (x \text{ は数量を示す})$$

この関係のJカーブ効果への応用

競争市場と企業の最適化行動  $P = MC$

完全競争の成立条件

ワルラス的安定条件

総余剰分析(消費者余剰+生産者余剰)と完全競争の最適性

応用としての自由貿易の問題、関税と補助金の相違

パレート最適

ボックスダイアグラムと契約曲線

生産可能性曲線

供給独占者の利潤最大条件  $MR = MC$  (限界収入=限界費用)

$$MR = P \left( 1 - \frac{1}{e} \right)$$

ラーナーの独占度  $1/e$

二つの分離した市場に直面した独占者  $MR_1 = MR_2$  より  $e_1 > e_2$  ならば

$P_1 < P_2$  (需要の価格弾力性の高い市場のほうに低い価格をつける)

その応用として映画の学生割引の経済的意味

カルテル(価格協定)

独占と余剰分析

独占の規制  $\rightarrow$  上限価格の設定

寡占と屈折需要曲線

ゲームの理論、囚人のディレンマ、ナッシュ均衡、フォーク定理

II. マクロ経済学

付加価値と国民所得概念の理解

一般消費税の本質は付加価値税である。

市場の不完全性とケインズ経済学、有効需要の原理

$$Y = C + I + G + X - Q$$

限界消費性向  $c$ 、限界租税性向  $t$ 、限界輸入性向  $m$

$$\text{そのときの乗数} = \frac{1}{1 - c(1 - t) + m}$$

IS-LM 分析と国際経済学

経済収支は為替レート  $\pi$  と国民所得  $Y$  に依存

資本収支は国際間の利子率格差に依存

国際収支の均衡  $\rightarrow$  経總収支 + 資本収支 = 0

これが不均衡のとき、たとえば赤字ならばドルの流出(貨幣量の減少)。

資本移動が完全ならば、世界的に利子率は一価となる(このときの経済政策は、金融政策が有効で財政政策は無効)。



科目名	経済社会学	担当者名	高橋 善四郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>——現代の体制思想——</p> <p>マルクスとネオ・リベラリズムの思想を代表するハイエクを対峙させて、現代の体制思想の両極性を解説し、さらに、両者によってサンドイッチされる形で、マックス・ウェーバーの資本主義観を挿入する。</p> <p>M・ウェーバー以後、いくつかの重要な資本主義あるいは近代に関する著作があるが、それ等については、将来検討することとして、当面は、この両極性に重点を置きたい。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. カール・マルクス 唯物史観と資本主義</li> <li>2. マックス・ウェーバー プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神</li> <li>3. F・A・ハイエク 自由の構成</li> </ol>	
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。
	参考文献	
評価方法	期末試験の成績に、出席状況を加味して、総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	経済学史	担当者名	鈴木 勇
-----	------	------	------

講義の目的および概要	<p>この講義では、「価値論の史的考察」を中心テーマに、労働価値論と効用価値論の二大思潮を、古代および中世の経済理論にまで遡って考察する。講義の目標は、マルクス労働価値論の批判とその再検討にある。したがって講義では、一先ず、19世紀後半の資本主義の拡大発展期までの時期を研究の対象範囲として限定し、この期間に成立した主要な経済理論を取り上げて考察する予定である。過去の知的努力がどのように受け継がれ、そのときどきの経済的現象をどう解釈し、どのようにそれと係わり合い、影響してきたかを知ることは現在を知るうえで重要な意味をもつ。特に、社会主義の崩壊という歴史的な転換期に立つ現代世界を洞察し、未来社会を展望するためには、原点に立ち返り歴史の大きな流れの中で現代を捉える必要がある。その意味では、この講義で取り扱う対象は古くても受講者の知的関心は現代の問題にも向けられねばならない。講義では、このような観点から経済学史を考えていきたいと思っている。</p>		
使用教材	テキスト	鈴木勇『資本主義の発展と経済理論』新評論、1977年 鈴木勇『経済学前史と価値論的要素』学文社、1991年	
	参考文献	その都度指示する。	
評価方法	評価は前期・後期の定期試験の成績と出席状況をもって行う。		
受講者に対する要望など			

年  
問  
授  
業  
計  
画

1. 講義の目標と概要について
2. アリストテレスの経済学
3. 聖トマス・アキナスの経済学とスコラ学者の価値論
4. 近世への転換：資本主義の興隆と宗教改革
5. ヘイルズの王室重商主義論
6. マンの貿易差額論と国富増進論
7. ペティの財政論と価値論
8. ロックの所有論と利子論
9. 16-17世紀の効用説……自然法哲学者と経験主義者
10. カンティロンの経済学と価値論
11. スチュアートの重商主義論
12. ケネーの重農主義論
13. イギリス産業革命と経済社会の変化
14. スミスの道徳哲学体系
15. スミスの経済学と価値論
16. 産業革命期の経済学(1)
17. 同 上 (2)
18. ヘーゲルとマルクスの市民社会観(1)
19. 同 上 (2)
20. マルクスの労働価値論と資本主義崩壊の論理(1)
21. 同 上 (2)
22. 同 上 (3)
23. メンガーの限界効用説
24. まとめ

科目名	経済哲学	担当者名	高橋善四郎
-----	------	------	-------

講義の目標	<p style="text-align: center;">——自由の哲学——</p> <p>経済哲学を、私は、経済学説の根底にある理念と方法論を解明していくこととしては、考えていない。たまたに見付ける欧米の economic philosophy はそのような形をとっている。</p> <p>20世紀の経済社会をどう生きるか、という問いは、この世紀に生きる者にとっては、重大な問題であった。東西の冷戦構造の根底には、理性の確実性に依拠した思想と、逆に、「理性の無謬性の仮定」を理性の倨傲として拒否する思想とが、二つの潮流のように対立している。私は、後者の思想を「自由の哲学」として捉えて、以下の三人の思想家の文献を跡付けたい、と考えている。この姿勢はカール・ポパーも同じだ、と私は思うが、21世紀へ向けて“開かれた”思想の様式を整えていくことが、文化の共存と共生への道である、と私は考える。</p>	
講義概要	<p>I J・S・ミル</p> <p>1. 『自伝』——『原理』より『静止的状态』</p> <p>2. 『自由論』</p> <p>II マックス・ウェーバーの社会科学論</p> <p>III カール・ヤスパースの実存哲学</p>	
使用教材	テキスト	講義資料を配布する。
	参考文献	
評価方法	期末試験の成績に、出席状況を加味して、総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	一般経済史	担当者名	原 剛
-----	-------	------	-----

講義の目標	近代的工業化社会の成立にいたるまでの人間社会の経済の歴史の跡を、原始時代からたどることを目的とする。		
講義概要	まず経済史の課題について述べ、次に人口変化と経済変化の歴史的関係について述べる。その後には世界の様々な文明圏における経済発展の歴史を産業別に講義する。		
使用教材	テキスト	講義ノートのコピー作成の予定	
	参考文献	<p>マックス・ウエーバ著 上原他訳『古代社会経済史』（東洋経済新報1959）</p> <p>ロストウ著 木村他訳『経済成長の初段階』（ダイヤモンド社1961）</p> <p>ケンウッド/ロッキード著 岡村他訳『国際経済の成長』（文真堂1977、改訂版1985）</p> <p>石坂・船山・宮野・諸田『新版西洋経済史』（有斐閣双書1976、新版1993）</p> <p>長岡・太田・宮本編著『世界経済史入門 欧米とアジア』（ミネルヴァ書房1992）</p> <p>楠井・馬場・諸田・山本『エレメンタル 西洋経済史』（英創社1995）など。</p>	
評価方法	前期試験および学年末試験によって評価する。今年度は試験場への資料、ノート等の持ち込みをいっさい不可とする。		
受講者に対する要望など	特になし		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 経済史の課題：経済発展の歴史的考察の方法
2. 人口の歴史：人口変化と経済変化の歴史的関係
3. 農業の起源と古代世界の農業：最初の経済革命、栽培植物と農耕の起源、古代中国の農業、古代地中海世界の農業
4. 中世の農業：東アジアの農業、イスラム圏の農業
5. 同：ヨーロッパ封建制度下の農業
6. 近・現代の農業：イギリスの農業革命とヨーロッパ大陸諸国の農業
7. 同：アジア、大洋州、アフリカの農業
8. 同：アメリカ大陸の農業
9. 工業の歴史の開始と古代の工業：新石器革命と日用品の製作、中国、オリエント、ギリシャ、ローマの工業
10. 中世の工業：中国とヨーロッパの手工業と東から西への技術の伝播
11. 近代ヨーロッパ工業：イングランドの早期産業革命
12. 同：イギリスの産業革命
13. 近代ヨーロッパ工業：産業革命の世界への波及
14. 後発工業国の前進：英国経済の相対的な衰退
15. 商業の起源と古代の商業：ヒックスのモデルと古代アジアと地中海地域の商業
16. 中世の商業：東アジア、イスラム圏の商業
17. 同：ヨーロッパの商業：初期の停滞と復活
18. 近代の商業：16世紀の商業革命：世界貿易の開始
19. 国民経済の衝突：重商主義
20. 世界経済の成立：工業化と国際分業
21. 大企業の時代：流通システムの整備と株式会社の増加
22. 近代社会の貧困：救貧法の歴史
23. 同：福祉国家の形成
24. 工業化の功罪：生活水準の向上と環境破壊

科目名	日本社会史	担当者名	新井孝重
-----	-------	------	------

講義の目標	古代中世の日本社会の基本構造をあきらかにする。		
講義概要	律令国家の枠組みを前提にしてあらわれる中世の「国家」はいかなるものか。武家政権としての幕府の変遷をながめながら、なおかつ、人間の具体的な編成の原理を「職」(しき)・身分制・「家」・党・一揆、などの考察を通して明らかにする。		
使用教材	テキスト	永原慶二『日本中世の社会と国家』青木書店	
	参考文献		
評価方法	評価の方法は後期試験の成績によっておこなう。		
受講者に対する要望など	30分以上遅刻のものは出席者としな。紳士的態度で気楽に聴いていただければよい。		

年 間 授 業 計 画	1. はじめに。 官職制と封建制
	2. 古代律令国家の構造 I 官職制的編成
	3. 古代律令国家の構造 II 非官職制的側面 土地「国有」の限界
	4. 律令国家の基盤の変化 負名田堵制 「職」の出現
	5. 郡郷制の変質と在庁官人 開発「私領」の形成 在庁官人
	6. 「丘の家」と「侍」身分 軍団組織の崩壊「丘の家」「侍」
	7. 荘園公領制と「職」制国家 荘園公領制の展開、貴族の大土地所有と官職制「職」の重層的秩序
	8. 鎌倉幕府の成立と中世国家 I 鎌倉幕府の成立 「中世国家」の第一段階
	9. 鎌倉幕府の成立と中世国家 II 守護地頭の設置 守護と国衙
	10. 「職」と主従制 中世国家と荘園公領制 鎌倉幕府法 裁判管轄区分
	11. 在地領主の「家」権力 「在地領主」概念について 在地領主の「家」権力 「家」権力と中世国家
	12. 身分制の構造 「侍」と「凡下」 「百姓」と「下人」 「非人」などの被差別身分
	13. 中世法の存在形態 中世法 法における当事者主義 諸法の複合構造
	14. 中世国家における主従制原理の拡大 田文作成 蒙古襲来、本所一円地住人の動員
	15. 室町幕府と中世国家の再編 地頭の「国人領主」化 守護の権限拡大、將軍の性格転化
	16. 封建王権の成立 足利義満、太政大臣、出家、法皇化「日本国王」
	17. 党・一揆・惣と中世国家 I 党と一揆、惣結合、衆中談合
	18. 党・一揆・惣と中世国家 II 徳政一揆から地徳政へ 「二重済」「時の公方」「惣国」の出現
	19. 戦国大名領国制の構造 戦国大名の登場 大名領国支配の特徴 貫高制の意味
	20. 戦国大名における「公儀」I 大名における「私」と「公」 戦国大名の上部権威、領国支配と法
	21. 戦国大名における「公儀」II 農政の「公儀」的支配、流通の「公儀」的支配、民衆闘争と「公儀」
	22. 近世国家への転換 兵農分離、在地領主制の解体、豊臣政権下の「公」と「私」朝鮮出兵
	23. 幕藩体制と近世国家 將軍と大名、幕藩体制と官職制、將軍と天皇
	24. むすび 日本の中世国家の特徴をめぐって



科目名	西洋経済史	担当者名	御園生 眞
-----	-------	------	-------

講義の目標	ヨーロッパを主要な対象地域として、資本主義経済の成立と発展の要因を考察する。これを基礎に、19世紀後半からのイギリスを中心とする資本主義世界体制の構造を解明する。	
講義概要	<p>前期：イギリスにおける資本主義経済の成長を中心に、資本主義の古典的モデルの特徴を分析する。</p> <p>後期：イギリス産業革命を起点とし、その前提条件、展開過程、特質と問題点を考察する。続いて、後発諸国の対抗的工業化の特徴を分析し、資本主義世界体制の構造の解明をおこなう。</p>	
使用教材	テキスト	石坂昭雄・船山榮一・宮野啓二・諸田實『新版 西洋経済史』有斐閣、1986年。
	参考文献	最初の講義で指示する。
評価方法	出席および定期試験（前期と後期の2回）の成績。ほとんど出席せずに試験を受けても単位は修得できないので注意すること。	
受講者に対する要望など	98年入学の1年生はこの科目の履修が可能ですが、講義は3年生・4年生を対象としたレベルなので、3年生になってから履修することをすすめます。事情により講義内容の予定が変更になる場合があります。履修希望者は必ず最初の講義に出席すること。	

年 間 授 業 計 画	1. ガイダンス。参考文献の紹介。
	2. I 資本主義経済の起点 1 農業・土地制度の変容
	3. I 資本主義経済の起点 2 大航海時代と商業革命
	4. II 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開
	5. II 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (1)農村工業の展開
	6. II 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物工業の展開
	7. II 資本主義の成立 1 産業資本の形成 (2)イギリス毛織物工業の展開
	8. II 資本主義の成立 2 絶対王政と市民革命
	9. II 資本主義の成立 2 絶対王制と市民革命
	10. II 資本主義の成立 3 重商主義政策
	11. II 資本主義の成立 3 重商主義政策
	12. II 資本主義の成立 3 重商主義政策
	13. III 産業革命と工業化社会 1 産業革命前夜のイギリス経済
	14. III 産業革命と工業化社会 1 産業革命前夜のイギリス経済
	15. III 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
	16. III 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
	17. III 産業革命と工業化社会 2 イギリス産業革命
	18. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(1)フランス
	19. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(1)フランス
	20. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(2)ドイツ
	21. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(2)ドイツ
	22. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(3)ロシア
	23. III 産業革命と工業化社会 3 対抗的工業化の諸相(4)アメリカ
	24. IV 世界市場の成立と構造

科目名	東洋経済史	担当者名	駒形哲哉
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「改革開放」は今や中国経済を語る当然の前提と化しているが、「改革開放」とは何であろうか。中国国内では「資本主義」が十分育たず、むしろ在外中国人によって発展をみたという事実が存在している。「改革開放」政策は、そうした「資本主義」のエッセンスを国内にとりこみ、中国国内に「資本主義」を開花させる試みであるという見方もできるのではなからうか。本講義では、上記のような観点にたち、中国の「改革開放」政策採択の意味および東アジアにおける中国の位置付けについて、歴史的側面から考えることを目的としている。</p>		
講義概要	<p>まず、アヘン戦争以来の中国近代史を経済的側面を中心に概観し、清朝、中華民国の時期にかけて、なぜ、どのようにして資本主義が十分発展しなかったのかを考える。こうすることで新中国がなぜ社会主義計画経済体制を採択したのかが理解されよう（閉鎖的計画経済を改め開放的市場経済を行おうとしているので「改革開放」と呼ばれるのである）。つづいて、中国が「改革開放」以後、外資導入に「成功」した理由を在外華僑・華人の生成・発展のプロセスを、東南アジア経済との連関をふまえながら、みていくことにしたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>毎回講義メモを配布する。参考文献は適宜紹介する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>夏休み中の課題（ブックレポート）提出を後期試験参加の資格とし、ブックレポートと後期試験などをもとに成績評価を決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義概要の説明</li> <li>2. 中華世界と国際関係</li> <li>3. 近代のはじまり：アヘン戦争、辛亥革命</li> <li>4. 国土統一から日中戦争へ</li> <li>5. 開国前夜の在来産業</li> <li>6. 欧米資本主義の進出</li> <li>7. 民族工業の誕生と発展</li> <li>8. 農村恐慌と工業化の到達度</li> <li>9. 新中国の成立と国民経済の復興</li> <li>10. 中国型工業化の模索①</li> <li>11. 中国型工業化の模索②</li> <li>12. 前期のまとめ</li> <li>13. 中国の改革開放政策と華僑・華人</li> <li>14. 華僑・華人の生成と発展①～海洋ネットワークの形成</li> <li>15. 華僑・華人の生成と発展②～大量出国の時代</li> <li>16. 華僑・華人の生成と発展③～近代華僑の大陸投資</li> <li>17. 台湾～もう一つの「中華」資本主義</li> <li>18. 世界のチャイニーズ、新華僑</li> <li>19. 華僑・華人と日本</li> <li>20. 「中国の影」と東南アジア①</li> <li>21. 「中国の影」と東南アジア②</li> <li>22. 「中国の影」と東南アジア③</li> <li>23. 後期のまとめ</li> <li>24. 予備日</li> </ol>
----------------------------	--

科目名	国際経済論	担当者名	益山光央
-----	-------	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済（第四版）』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 講義のアウトライン
2. リカード的奉易理論Ⅰ
3. リカード的貿易理論Ⅱ
4. ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5. ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6. リプチンスキー定理
7. ストルパーサミュエルソン定理
8. 関税Ⅰ
9. 関税Ⅱ
10. 国際生産要素移動Ⅰ
11. 国際生産要素移動Ⅱ
12. まとめ
13. GNP と GDP
14. 固定収支表
15. 固定相場制下の所得決定Ⅰ
16. 固定相場制下の所得決定Ⅱ
17. 変動相場制下の所得決定Ⅰ
18. 固変動相場制下の所得決定Ⅱ
19. 開放経済上の金融政策Ⅰ
20. 開放経済上の金融政策Ⅱ
21. 開放経済上の財政政策Ⅰ
22. 開放経済上の財政政策Ⅱ
23. ポリシーミックス
24. まとめ

科目名	産業構造論	担当者名	山越 徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経済の発展、成長に伴い、様々な経済構造が変化し、その変化がより一層の発展を促がす。また現在のサービス化、ソフト化、情報化、国際化といった経済の変化の方向が新しい経済構造を求めている。そこで本講義ではこれら構造変化の主たる産業構造の変化に注目しその変化の姿や要因を探るとともに、今後の新しい変化に対応した構造変化の在り方、それを捉えるための新しい指標について考察する。</p>		
講義概要	<p>近代的経済発展、産業社会の形成、生産技術構造、これらを支える様々な経済構造、相互依存関係を考察し、かつての高度経済成長並びに重化学工業化の意味を考える。また石油危機後の激しい構造変化、サービス経済化、ソフト化、情報化、国際化あるいは最近の諸問題に対する構造的分析を通して、求められる構造、変化の方向を議論する。講義を一層身近なものにするため戦後の日本経済の事例を扱いながら進めていくことにする。</p> <p>テキストは講義のための参考書として考えている。</p>		
使用教材	テキスト	宮沢健一著『産業の経済学（第2版）』東洋経済新報社	
	参考文献	主要な参考書はその都度講義の中で提示する。	
評価方法	前期のレポート、後期のテストによる評価		
受講者に対する要望など	かつての変化がどのような意味をもっていたのかという理解を進めることと今、何かが起きているのかに対する関心を持つこと		

年 間 授 業 計 画	1.	経済成長、経済発展 経済構造の変化、工業化、高度化、多様化
	2.	経済成長とは、指標、1人当り国民所得、労働生産性、産出規模 近代的経済発展、産業社会、産業革命、産業の概念、生産構造
	3.	経済成長と産業構造
	4.	経済進歩の歴史過程、三部門分類、ペティの法則、AMS分類、労働力構成と所得構成、
	5.	所得弾性、成長の弾力性、時系列とクロスセクション、製造業内部の発展、発展段階説、迂回生産、
	6.	消費財と投資財、テイクオフ、雁行形態
	7.	輸入代替、国産化、生産規模、重化学工業化、輸出財指向産業、フルセット型産業構造、国際分業、 国際相互依存関係
	8.	産業連関表とは
	9.	投入産出表、投入係数、レオンチェフ逆行列、直接および間接の生産波及、
	10.	相互依存関係、最終需要、投入係数の固定性、中間投入、中間需要、商品ベースと企業ベース、
	11.	感応度係数と影響度係数、産業特性 国内需要と輸出入、スカイライン分析
	12.	産業関表による分析
	13.	構造変化の要因分析、技術変化、資本マトリックス、雇用および産職マトリックス
	14.	ブロック化、三角形化、素原材料系統の転換、工業原材料と産出規模、ユニット・ストラクチャー 規模別I-O表、多国間I-O表
	15.	産業構造の新しい方向
	16.	サービス化、ソフト化、情報化、国際化、多様化、高度化、複合化、構造変化の指標
	17.	財とサービス、有形財と無形財、時間と空間、構造変化の流れ 国際的分業、日本とアジア
	18.	産業内部の構造変化—ケース・スタディ
	19.	3つのオートメーション、ロボットとコンピュータ 高度経済成長期の生産技術と'80年、90年代の生産技術 情報化時代の労働現場
	20.	労働市場と構造変化
	21.	労働力の需要と供給、人口構造、新規学卒労働力、基幹労働力と縁辺労働力
	22.	日本の労働市場、雇用制度、労働力の属性、産業と職業、雇用調整
	23.	
	24.	日本の産業政策 経済政策、産業政策、労働政策の流れと結びつき



科目名	産業組織論	担当者名	青木雅明
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>次のような点を重視したい。</p> <p>①産業組織論の基本的考え方を理解する。</p> <p>②産業組織論に基づく（公正）競争政策、規制緩和などの公的政策や企業行動のあり方を評価できるようになる。</p> <p>③産業組織論、（公正）競争政策、規制緩和などに関するレポートが書けるようになる。</p>	
講義概要	<p>産業組織論は「公正競争」「競争政策」「規制緩和」などの理論的基礎を体系化したミクロ経済学の一分野である。企業行動のルールに関わるところが大きい。</p> <p>そこでは、個別産業内の典型的な企業行動を分析するが、その目的は資源配分効率、技術進歩などの基準から産業および企業行動を評価し、改善方策を提言することにある。</p>	
使用教材	テキスト	小西唯雄編『産業組織論の新潮流と競争政策』晃洋書房（1994年）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植草 益『産業組織論』筑摩書房（1982年）</li> <li>・西山 稔・片山誠一編『現代産業組織論』有斐閣（1991年）</li> <li>・その他、必要に応じて提示</li> </ul>
評価方法	<p>基本的事項の理解のテストの成果（前期）と特定テーマのレポートの評点（後期）の合計値による。単なる出席は評価しない。</p>	
受講者に対する要望など	<p>遅刻、私語、居眠りは禁止。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 産業組織論の課題と方法
2. 代表的政策原理(1)
3. 代表的政策原理(2)
4. 代表的政策原理(3)
5. コンテストビリティ理論
6. 戦略的行動理論
7. アメリカの反トラスト政策
8. 日本の独禁政策の概要
9. 規制緩和(1)
10. 規制緩和(2)
11. 規制緩和(3)
12. 民営化
13. 現実の産業のプロフィール(1)
14. 現実の産業のプロフィール(2)
15. 現実の産業のプロフィール(3)
16. 独占禁止法入門(1)
17. 独占禁止法入門(2)
18. 独占禁止法入門(3)
19. 論文作成(1)
20. 論文作成(2)
21. 論文作成(3)
22. 論文作成(4)
23. 論文作成(5)
24. 論文作成(6)

科目名	流通経済論	担当者名	西村 允克
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>流通とは、財・サービスが生産者から消費者へ移転する過程で、この移転過程を分析するための論理システムの理解と現実の流通経済の理解が、本講義の目的である。流通経済論は従来流通システムとして把握され、その視点から分析がなされているが、本講義では、流通は経済システムの中心的部分を占めるから、経済学的視点から流通を把握し、経済理論との関連において流通を理解することが、本講義の最も重要な目的である。</p>		
講義概要	<p>指定したテキストには、流通経済に関連する統計データが多く含まれている。講義はこれらの統計データを基礎として進められ、テキストに不十分な点をカバーしながら進行するから、テキストを読んでいることを前提としている。</p>		
使用教材	テキスト	ゼミナール流通入門 田島義博編著 日本経済新聞社	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本流通新聞社編『流通現代史』 日本経済新聞社</li> <li>・日経流通新聞社編『流通経済の手引 98』 日本経済新聞社</li> <li>（本書には、各年版があり、それぞれの年の流通問題、流通統計が説明されている）</li> <li>・マクネア、メイ著 清水 猛訳『小売の輪は廻る』 有斐閣</li> <li>・林 周二著『流通』 日経文庫</li> <li>・鈴木安昭 関根 孝 矢作敏行編『マテリアル 流通と商業』 有斐閣</li> </ul>	
評価方法	<p>{ 前期 レポート 後期 試験</p> <p>両者を総合して判断（一方のみは不可）</p>		
受講者に対する要望など	<p>流通現象の多くは、日々受講者の生活環境のなかで生起しているものであるから、講義内容を生活体験を通じて追体験して理解を深められたい。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 流通経済分析の基礎理論(1) 主要な用語について 流通経済とは、流通主体、流通チャネル、流通費用、リベート、流通市場</li> <li>2. 流通経済分析の基礎理論(2) 価格を中心として</li> <li>3. 流通経済分析の基礎理論(3) 前回のつづき</li> <li>4. 流通経済分析の基礎理論(4) 統計データの読み方を中心として</li> <li>5. 小売業の変化(1) 流通革命論を中心として、 第1次流通革命、第2次流通革命</li> <li>6. 小売業の変化(2) チェーン・ストアを中心として</li> <li>7. 卸売業 卸売業とは、卸売業の現状</li> <li>8. 百貨店</li> <li>9. スーパー(1)</li> <li>10. スーパー(2)</li> <li>11. コンビニエンス・ストア</li> <li>12. 前期のまとめ</li> <li>13. 専門量販店</li> <li>14. ショッピング・センター(1)</li> <li>15. ショッピング・センター(2)</li> <li>16. 小売商業間競争と商店街</li> <li>17. 青果物と米の流通構造(1)</li> <li>18. 青果物と米の流通構造(2)</li> <li>19. 消費生活協同組合</li> <li>20. 流通規制の問題(1) 大店舗法を中心として</li> <li>21. 流通規制の問題(2) 再販売価格維持制度を中心として</li> <li>22. 流通規制の問題(3) 消費者保護を中心として</li> <li>23. 98年度の流通問題 96年度に発生した流通問題を取り上げ、これまでの学習成果を再確認する。</li> <li>24. まとめ</li> </ol>
----------------------------	--

科目名	交通経済論	担当者名	岡田 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現代の経済社会の中で交通の果している機能と役割について講義していく。</p> <p>現代経済は高度に発達した交換経済であり、各々の経済活動は相互依存関係を通して運営されている。交通は現代経済活動を支える基礎サービスを提供することによって国民生活の維持発展に重要な役割を演じていることに対する理解を一層深めることに力点を置く。</p>		
講義概要	<p>講義の主な内容：交通経済論のアプローチの方法について、交通需要の特性、交通サービスの供給、交通市場の構造と特性、運賃の理論、交通調整の問題、交通と環境問題、交通政策について、等々である。</p>		
使用教材	テキスト	未定、講義の最初に指示する。	
	参考文献	岡野行秀編『交通の経済学』有斐閣	
評価方法	出席率と学年末の定期試験の結果によって評価する。		
受講者に対する要望など	欠席をしないように心掛けてもらいたい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 交通経済論について、研究の方法などのイントロダクション
2. 交通の概念、交通の生産物について等々
3. 交通需要Ⅰ 交通需要の特性、交通需要の弾力性
4. 交通需要Ⅱ 交通需要の予測とその方法
5. 交通サービスの供給Ⅰ 交通サービス供給についての史的概観
6. 交通サービスの供給Ⅱ 交通基礎施設サービスの供給形態の変化
7. 鉄道輸送の概要
8. 自動車輸送の概要
9. 航空輸送の概要
10. 交通市場Ⅰ 交通市場の特性
11. 交通市場Ⅱ 交通市場の構造
12. 運賃理論Ⅰ 運送価値説と運送費用説
13. 運賃理論Ⅱ 独占運賃と差別運賃 1
14. 運賃理論Ⅲ 独占運賃と差別運賃 2
15. 運賃理論Ⅳ 限界費用運賃
16. 交通の社会的費用Ⅰ 交通の社会的費用の概念
17. 交通の社会的費用Ⅱ 交通の社会的費用の内部化
18. 国民経済と交通Ⅰ 交通の発達と経済成長
19. 国民経済と交通Ⅱ 交通の発達と地域開発
20. 国民経済と交通Ⅲ 交通の発達と生産物市場圏の変化
21. 国民経済と交通Ⅳ 交通システムの発達と最近の問題点
22. 交通政策Ⅰ 交通政策の理論
23. 交通政策Ⅱ 交通安全政策
24. おわりに

科目名	経済開発論	担当者名	千代浦 昌 道
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>経済開発の歴史、理論、戦略などを分析し、それらを発展途上国の経済開発の現状にどのように適合させれば健全で持続可能な発展ができるかを探る。また、その目的のために先進国はどのような協力ができるかを考える。</p>		
講義概要	<p>前期は、経済開発論の学問的位置づけ、発展途上国の現状と経済開発に関連する基礎知識の充実を図る。後期には、経済発展の理論的解明、国際経済関係における発展途上国問題の位置づけなどを中心に講義する。</p>		
使用教材	テキスト	特に指定しない。	
	参考文献	<p>総務庁統計局編『1998世界の統計』（大蔵省印刷局、1997）  西垣 昭、下村恭民『開発援助の経済学（新版）』（有斐閣、1997）  E. F. シューマッハー『スモールイズビューティフル』（講談社、1986）  C. キンドゥルバーガー、B. ヘリック『改訂 経済発展論』（好学社、1981）  M. トダロ『M. トダロの開発経済学』（国際協力出版会、1997）</p>	
評価方法	<p>前期、後期の定期試験によって評価する。随時に出欠をとり成績評価の参考資料とする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。</p>		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済開発論の基礎的概念（経済発展の意味、経済開発論の学問的位置づけ、経済発展は望ましいか、絶対的貧困と相対的貧困、経済発展の尺度）</li> <li>2. 発展途上国の基本問題（発展途上国の分類、経済発展の自然条件、歴史的背景、貧困と所得分配、人口問題と扶養負担、失業と低雇用、産業構造、貿易構造と対外依存）</li> <li>3. 発展の非経済的側面1（経済発展の政治的側面、経済発展の社会文化的要因、発展の社会学的把握）</li> <li>4. 発展の非経済的側面2（家族単位と経済発展、階級構造、民族・人種と経済発展、宗教と経済発展）</li> <li>5. 発展の非経済的側面3（開発と女性の役割、発展途上国の環境問題）</li> <li>6. 先進工業国経済発展の教訓1（先進工業国の工業化とその波及、イギリスの工業化、フランスの工業化）</li> <li>7. 先進工業国経済発展の教訓2（ドイツの工業化、アメリカの工業化、ロシアの工業化、日本の工業化）</li> <li>8. 人口と経済開発（人口問題への接近、人口増加と経済発展、人口問題論争、人口政策）</li> <li>9. 雇用と失業（発展途上国の雇用問題、失業と低雇用、失業とインフォーマル部門、雇用と生産性、ルイス・モデルと雇用）</li> <li>10. 教育と発展1（教育と人的資源、発展途上国の教育水準、教育と経済発展、教育機会と貧困）</li> <li>11. 教育と発展2（教育と国内移住・出生率、教育と頭脳流出・知的従属、教育と農村開発）</li> <li>12. 都市と農村（発展途上国の都市と農村、農村一都市間移住問題、人口都市化に起因する問題、都市のインフォーマル部門）</li> <li>13. 経済発展のモデル1（古典派の成長モデル、マルクスの発展段階モデル、ハロッド＝ドマーの成長モデルとロストウの発展段階説）</li> <li>14. 経済発展のモデル2（新古典派の成長モデル、チュネリーの経験的発展モデル、プレビッシュ＝シンガー・テーゼと従属理論、経済開発と構造調整）</li> <li>15. 農村と開発（農業と経済発展、先進工業国の工業化と農業、発展途上国農業の停滞、農地改革と農業の発展、農業の規模と生産性、農業発展と農村開発）</li> <li>16. 工業化と開発戦略（均整成長論とビッグプッシュ、不均整成長論と連関効果）</li> <li>17. 貿易と発展1（絶対生産費の理論と比較生産費の理論、輸入代替工業化と輸出指向工業化）</li> <li>18. 貿易と発展2（南北問題とプレビッシュ＝シンガー・テーゼ、従属理論と新国際経済秩序）</li> <li>19. 貿易と発展3（自由貿易とNIESの発展、南々貿易と地域経済統合、関税効果と実効保護、為替レートと経済発展）</li> <li>20. 多国籍企業と発展途上国（直接投資の利益、多国籍企業についての利害得失、新国際経済秩序と多国籍企業）</li> <li>21. 国際収支と債務問題（国際収支構造と経済発展、累積債務問題の原因と実態）</li> <li>22. 発展途上国債務問題への国際的対応（世銀・IMFの融資、債務＝環境スワップ）</li> <li>23. 国際援助と経済開発1（途上国援助の歴史と現状、プロジェクト援助から基本的ニーズの充足へ、参加型援助と民主化の波、構造調整融資と持続可能な発展）</li> <li>24. 国際援助と経済開発2（草の根援助とNGOの役割、援助の功罪、これからの国際援助）</li> </ol>
----------------------------	--



科目名	北アメリカ経済論(98年度) 地域経済論(1)北米(97年度以前)	担当者名	本田浩邦
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	現代アメリカ経済論を講義する。大恐慌以降現在までを対象にマクロ経済の発展過程を概観し、各段階における資本蓄積および経済政策の問題点を検討する。		
講義概要	講義の内容は、29年恐慌の分析をつうじて新古典派、ケインジアン、マルクス経済学、その他の経済理論、経済政策論の対立点を把握し、それを基礎に戦後の景気循環のプロセスを分析するという前段と、80年代の経済不均衡の諸側面を分析する後段とに分かれる。講義をつうじて、つかんでほしいと思っている点は、アメリカにおける既存の経済政策体系がいかなる現実的背景と理論的根拠をもって出現し、それらが各段階の資本蓄積とのかかわりでどのような意義と限度を持ったかということである。		
使用教材	テキスト	・平井規之他著『概説アメリカ経済』有斐閣、1994年刊	
	参考文献	・佐藤定幸『20世紀のアメリカ資本主義』新日本出版社、1993年刊 ・『アメリカ経済白書』(『週刊エコノミスト』臨時増刊号、4月上旬発売予定)	
評価方法	前期および後期の定期試験による。		
受講者に対する要望など	応用的な性格の強い科目であるが、必要に応じて基礎的なことから説明するつもりなので、意欲的に参加してほしい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 現代アメリカ経済論をなぜ学ぶか アメリカ経済研究の現状／講義の課題と構成／すすめ方と注意事項／テキストおよび参考文献について（\*出席者はテキストとシラバスを持参すること）
2. 1920年代のブームから大恐慌の発生・波及 20年代の繁栄とその国際的背景／住宅・耐久消費財／国内経済の破綻／国際金融危機／労資関係の変容と政治的危機／33年・35年銀行法と金融制度改革
3. ニューディールの展開過程 第1期（1933～35）／第2期（1935～37）／第3期（1938～39）／ローズベルトの対外政策／再建金本位制の崩壊からブロック経済へ／ロンドン世界経済会議（1933）
4. 29年恐慌とニューディールの理論——資本蓄積と経済政策 ブルッキングス研究所・ケインジアン／マネタリスト／マルクス経済学／29年恐慌の国際的位置／キンドルバーガー「覇権安定化理論」／1920年代のフラン問題
5. 戦後アメリカの経済政策とケインズ経済学 ケインズ経済学の形成と背景／『雇用・利子および貨幣の一般理論』（1936）／ケインズの世界経済認識／ケインズ経済学にたいする批判／ケインズ以降のケインズ経済学
6. 戦後世界体制の再編とアメリカ 戦後世界体制の政治的枠組み／「大西洋憲章」（1941.8）／トルーマン・ドクトリン（1947.2）／朝鮮戦争（1950.6～53.7）
7. 戦後世界経済の枠組みと戦後初期における経済成長の国内的条件 マーシャル・プラン（1947.6）／IMF・GATT体制／戦後初期の発展過程の概観／「1946年雇用法」／戦後の国債価格支持政策
8. ベトナム戦争とアメリカ社会 アイゼンハワーからケネディへ／「軍産複合体」と宇宙開発競争／ベトナム戦争・人種問題／「偉大な社会」の矛盾
9. ケネディ政権期の経済政策と経済成長 「ニュー・エコノミックス」による成長政策／基本内容／1964年減税その他一連の経済政策をめぐって／オペレーション・ツイスト／インフレーションとドル過剰、IMF体制の動揺
10. 1967～79年のアメリカ経済の発展過程 スタグフレーションと1974～75年恐慌／国際収支危機／「第二次石油危機」と二桁インフレ／金融自由化／景気循環過程の分析
11. マネタリズムとサプライサイド経済学 アメリカの経済的停滞と経済学の混迷／マネタリズムの主要な政策論／合理的期待形成学派／問題点／サプライサイド経済学／減税路線とラフファー曲線
12. 前期全体のまとめ、質疑
13. 後期全体の概説と時事問題
14. レーガノミックスと1980年代のアメリカ資本主義 「経済再建プログラム」（1982.2）／1981～82年のリセッション／1980年代のマクロ経済の概観——家計・企業・政府部門／貯蓄・投資バランスからは見えない問題
15. アメリカ財政の現状と問題点 1980年代の財政政策の展開／グラム＝ラドマン＝ホリングス法（1985）／1986年税制改革法／1990年包括財政調整法／1996年度予算案の分析／財政赤字の国際的なファイナンスと日本
16. 財政の理論的分析——財政赤字および公債をめぐる議論 財政赤字肯定論（ロバート・アイスナー、リカード＝バローの等価定理）／財政赤字の批判（たとえばクルーグマン）／財政赤字はどのような意味で問題か
17. アメリカの金融制度改革と金融政策 第1段階（1979～82）／第2段階（1982.8～1985.9）／第3段階（1985.9～）／金融政策の事後的評価／途上国債務問題／貯蓄貸付組合（S&L）の破綻／商業銀行の破綻
18. 金融危機の国際的側面 ハードランディング・シナリオ（P・クルーグマンとS・マリス）／金融不安と実態経済（H・ミンスキー「金融不安定仮説」）
19. 1980年代アメリカの産業と産業金融 産業再編をめぐる議論の特徴／産業再編の特徴と第4次M&Aブーム／企業戦略の国際的条件／リストラクチャリングと金融・資本市場
20. アメリカにおける国民生活の実態 貧困の定義／家計の貯蓄・債務の水準／経済的不平等の進行とアメリカン・ドリームの実態／人種差別・性差別／ポスト・ケインジアンによる所得格差の分析
21. クリントン政権の国内経済政策 国際競争力の定義／アメリカ企業の多国籍化と国際収支／国内経済の空洞化／クリントン政権の国際競争力強化策
22. クリントン政権の対外経済政策 日米経済関係／NAFTA／APEC／EU／発展途上国／対外不均衡と国際的資金循環の制約／ドル暴落・インフレ爆発の可能性と政策協調
23. 世界経済のなかのアメリカと日本 貿易面での相互関係／日本企業の対外進出とアメリカ／日米構造協議、MOSS協議から日米包括経済協議へ
24. 講義全体のまとめ、質疑

科目名	西ヨーロッパ経済論(98年度) 地域経済論(2)西ヨーロッパ(97年度以前)	担当者名	大島通義
-----	---	------	------

講義の目標	<p>西ヨーロッパは今、アジアとアメリカとならんで、世界経済における三極化の一つの中心をなしている。その原動力はドイツにあり、第二次世界大戦後には、ドイツとフランスの協調関係のうでヨーロッパ連合が築かれてきた。しかし、両大戦以前にまでさかのぼるならば、そこではドイツとフランスは政治的にも経済的にも対立し競合していた。列強の対立から協調へとこのように大きな転変をとげるヨーロッパ経済の歴史をふりかえり、そのうで現在の状況を考察する。</p>		
講義概要	<p>前期においては、19世紀後半期以来最近までのほぼ一世紀半のあいだに、ヨーロッパにおける諸国の経済関係がどのように発展してきたかを概観し、かつては対立・競合していた列強諸国が戦後になって経済と政治の統合へと転換していく過程をあきらかにする。とくに戦後のマーシャル援助にはじまり、最近の通貨統合までの統合の諸段階を追って、その発展の跡をたどることとする。後期には、この地域のおもな国(英・独・仏など)をとりあげて、その近年の発展を概観する。そのあと、ヨーロッパ連合が直面している経済問題、経済政策の課題などについて考察する。</p>		
使用教材	テキスト	とくに指定しない。講義の進行におうじて必要な文献を指示する。	
	参考文献	<p>大西健夫・岸上慎太郎編『EU 統合の系譜』『EU 制度と機能』『EU 政策と理念』早稲田大学出版部、1995年。</p> <p>田中友義・河野誠之・長浜貴樹『ゼミナール 欧州統合 歴史・現状・展望』有斐閣ビジネス、1994年。</p> <p>梶田孝道著『統合と分裂のヨーロッパ』岩波新書、1993年。</p> <p>中木康夫・河合秀和・山口 定『現代ヨーロッパ政治史』有斐閣、1990年。</p>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。ほかに、前・後期にそれぞれ2回程度、それまでの講義内容についての短いレポートの提出を求める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>高校教科書程度の「世界史」の知識を前提に講義する。さらに経済原論と経済史の一般的な知識を備えていることを期待する。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

おもな項目とその順序はつぎのとおりである。

1. 第一次世界大戦以前のヨーロッパ経済
  - (1) 国民国家と国民経済の形成
  - (2) 勢力均衡と市場獲得競争
2. 両大戦間期のヨーロッパ
  - (1) ヴェルサイユ体制のもとでの欧州経済
  - (2) 世界大恐慌とブロック経済への転換
  - (3) 第二次大戦による地域経済の変貌
3. 戦後体制の準備とその制度化
  - (1) 連合国による戦後構想
  - (2) 戦後復興の開始
  - (3) 統合への始動と反動
4. ヨーロッパ共同体の形成過程
  - (1) 域内市場統合の完成まで
  - (2) その後の発展
5. 福祉国家の制度とその現状
6. 協調主義の諸相（労使関係を中心に）
7. 新保守主義の経済政策
8. 市場の統合から通貨の統合へ
9. 環境問題とその政策
10. 世界の中での西ヨーロッパ経済

科目名	東ヨーロッパ経済論（98年度） 地域経済論(3)東ヨーロッパ（97年度以前）	担当者名	鈴木 勇
-----	---	------	------

講義の目標	<p>この地域の諸国は社会主義体制の崩壊と資本主義体制への移行という大転換期に直面している。社会主義の崩壊という現実、マルクス主義の見方からすれば、歴史の歯車の逆転であって起るはずのない出来事であった。にもかかわらず、ソ連・東欧の社会主義は崩壊してしまった。「なぜ崩壊したのか」、「社会主義とは一体何であったのか」。これらの問題を考察することが本講義の第一の目標である。もう一つの目標は、転換期のただ中にあるこれらの国が、どのような状況にあり、どのような問題を抱えているのか、体制転換の展望と意義を探ることにある。</p>		
講義概要	<p>つい近年まで、この地域の諸国は社会主義体制のもとにあったが、同じ社会主義といっても経済システムの特徴からすると著しく性質を異にするものであった。まず、ソ連型の国家管理社会主義と旧ユーゴスラヴィアの労働者自主管理社会主義、それに1968年改革後のハンガリーの経営者管理社会主義の三つに大別できる。本講義ではこの点に着目して、これら三つのパターンを中心に考察し、マルクスの社会主義モデルとの比較検討も加えて、上記の講義目標に接近したいと思っている。この地域の最近の経済事情に関しては、本年度はロシア経済と新ユーゴ経済を中心に考察する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・鈴木 勇『市場的社会主義とマルクス主義』（増補改訂版）学文社、1988年</p>	
	参考文献	<p>その都度指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は定期試験の成績と出席状況をもって行う。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	1. 講義の目標と概要について
	2. 社会主義経済システムの比較研究のための準備的考察
	3. マルクスの社会主義・共産主義モデル
	4. ロシア革命（1917年）
	5. 戦時共産主義と新経済政策（NEP）の時期
	6. 集権型国家管理社会主義の形成と経済構造（1）
	7. 同 上（2）
	8. ソ連の経済改革（1965年）
	9. 第2次世界大戦後の東欧諸国
	10. 旧ユーゴスラヴィア（1）対ソ決裂から独自の道へ
	11. 同 上（2）労働者自主管理社会主義の形成
	12. 同 上（3）1980年代までの変遷過程
	13. ハンガリー（1）1968年の経済改革
	14. 同 上（2）経営者管理社会主義の経済
	15. 市場的社会主義の理論（1）（B. ホルヴァート）
	16. 同 上（2）（O. シク）
	17. ベレストロイカのソ連（1）
	18. 同 上（2）
	19. ソ連邦崩壊後のロシア経済（1）
	20. 同 上（2）
	21. 同 上（3）
	22. 旧ユーゴスラヴィアの解体と現状（1）
	23. 同 上（2）
	24. 総括

科目名	東南アジア・オセアニア経済論（98年度） 地域経済論(4)アジア・オセアニア（97年度以前）	担当者名	森 健
-----	---	------	-----

講義の目標	アジア太平洋に位置する様々な国・地域（今年度はオーストラリア）の経済を学ぶことによって、要素賦存状況、発展段階、植民地経験を含む歴史、人種・民族構成、政治体制、価値観などの相違が、各国・地域の経済をどのように規定するのか、多様な経済構造の中で経済原則はどのように貫徹しているのかを理解する。		
講義概要	今年度の講義では「アジア太平洋地域にあるアングロ・サクソン系の白人国家」であったオーストラリアが、近年、経済自由化、多民族国家化を推進し、政治面も併せて急速に「アジア太平洋国家化」している現状を、多方面から検討する。そして、この「変革」が文明史的に見極めて先駆性に富んだ新しい実験であることを確認する。これに続く授業の主なテーマは、「オーストラリアがこのような変革に取り組むに至った理由」、「歴史的に見たオーストラリア経済・社会の特質」、「日本を含むアジア太平洋諸国（主に APEC 加盟国・地域）とオーストラリアとの政治的、経済的関係」等となる。		
使用教材	テキスト	1)竹田いさみ、森健共編『オーストラリア入門』、東京大学出版会、1998年5月（予定）。2)プリントの配布。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関根政美、鈴木雄雅、竹田いさみ、加藤爪優、諏訪康雄著、『概説オーストラリア史』、有斐閣、1998年。</li> <li>・小島 清・日豪調査委員文編、『豪州経済ハンドブック』、日本経済新聞社、1981年。</li> <li>・ウォーレン・リード著、『オーストラリアと日本』、中公新書、中央公論社、1992年。</li> </ul>	
評価方法	定期試験		
受講者に対する要望など	最初に記したように、我々が海外の経済社会について学ぶ目的は、海外事情通になるためではなく、それぞれ条件が異なる国においても普遍的に見られる経済原則が存在することを学ぶ点にあることに留意。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 総論(1)近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：  
多民族国家志向、増加するアジア移民、マボ判決
2. 総論(2)近年のオーストラリアの変革の持つ実験性と先駆性：  
経済自由化、規制緩和、地域外交、安全保障、共和制移行論
3. オーストラリアの地理と歴史(1)  
クック、米国独立とフィリップ、牧羊業
4. オーストラリアの地理と歴史(2)  
ゴールド・ラッシュ、移民、中国人排斥、労働者と牧羊資本
5. オーストラリアの地理と歴史(3)  
ナショナリズムと英帝国、1890年代の恐慌、仲間主義と平等主義
6. オーストラリアの地理と歴史(4)  
地理
7. オーストラリアの政治と外交(1)  
立憲君主制度、圧力団体、官僚機構
8. オーストラリアの政治と外交(2)  
労働党政治：経済自由化、新労使関係
9. オーストラリアの政治と外交(3)  
多国間外交、移民・難民政策、援助政策
10. オーストラリアの政治と外交(4)  
近世外交略史：日英同盟とオーストラリア、冷戦とベトナム戦争、ウィットラムとフレージャーによる自主路線
11. オーストラリアの社会(1)  
多文化社会への変容、アボリジニとマイノリティ、反多文化主義論の動き
12. オーストラリアの社会(2)  
オーストラリアのメディアと多文化主義、教育制度
13. オーストラリアの社会(3)  
労使関係の新展開：強制仲裁制度とアコード
14. オーストラリアの社会(4)  
女性の社会進出、社会福祉制度
15. オーストラリアの文化  
平等主義とオーストラリア英語、ヒーロー像、文学、アボリジニーの文化
16. オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(1)  
経済構造の特徴と変化
17. オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(2)  
経済政策と環境資源問題
18. オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(3)  
対外経済関係：国際収支
19. オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(4)  
対外経済関係：貿易構造
20. オーストラリアの経済：「変革」の経済的背景(5)  
対外経済関係：外国投資と対外経済政策
21. 日豪関係(1)  
貿易関係、投資関係、経済交渉
22. 日豪関係(2)  
外交関係、文化交流
23. 近年のオーストラリアの変革の持つ意義
24. (予備)



科目名	ラテンアメリカ経済論(98年度) 地域経済論(6)ラテンアメリカ(94~97年度)	担当者名	山本正三
-----	--	------	------

講義の目標	日本経済と深いつながりのあるラテンアメリカ諸国および諸地域の経済事情を、自然的基盤、歴史的発展過程、資源と産業、国内諸地域の地理的、経済的、社会的諸特性を分析し、考察することが目標で、この地域の経済の将来展望、日本との関連についても考察を進めていく。		
講義概要	前期にはラテンアメリカ経済の現状とその自然的基盤との関連、歴史的経緯、経済活動を一般的に説明し、後期にはこの地域の経済発展の諸相、経済問題、産業と企業の特質について説明する。		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・A. ギルバート『ラテンアメリカ入門』二宮書店、1996</li> <li>・小池洋一、西島章次編『ラテンアメリカの経済』新評論社、1993</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加茂雄三編『ラテンアメリカ・ハンドブック』講談社、1982</li> <li>・細野昭雄『ラテンアメリカの経済』東大出版会、1983</li> <li>・染田秀藤編『ラテンアメリカ』世界思想社、1993</li> </ul>	
評価方法	定期試験の成績と、前期と後期それぞれ1~2回のレポートおよび出席を加味して行う。		
受講者に対する要望など	<p>テキストを必ず用意すること。私語をつつしむこと。</p> <p>地図帳を持参すること。</p>		

1. ラテンアメリカ経済の一般的・地域的特質
2. 経済の一般的条件 (1) 自然条件——位置、地形
3. 経済の一般的条件 (2) 自然条件——気候の地域的差異と経済への影響
4. 経済の一般的条件 (3) 歴史と住民——住民の構成、歴史的発展過程
5. 経済の一般的条件 (4) 歴史の住民——先住民とその文化・経済、植民の展開
6. 経済の一般的条件 (5) 住民の社会的特質
7. 経済の一般的条件 (6) 人口増加、分布状態、都市の発展
8. 経済活動 (1) 農牧業——土地所有、農場規模構造、生産構造、生産物の経済的特性
9. 経済活動 (2) 農牧業——農牧業の地域分化、生産の地域的特性
10. 経済活動 (3) 鉱山業——経済における鉱山業の地位、発展過程、主要鉱山業地域
11. 経済活動 (4) 商業・貿易——輸出業の盛衰、その特質
12. 経済活動 (5) 工業——工業化の進展、経済における工業の地位の変遷、工業地域の形成過程と地域的特質
13. 経済発展の諸相 (1) ラテンアメリカ農牧業の特質——大土地所有制、輸出指向、近代化と農村人口減少、農村の貧困
14. 経済発展の諸相 (2) 一次産品輸出経済——その形成過程と要因、温帯工業国との関連
15. 経済発展の諸相 (3) 工業化戦略の展開——輸入代替工業化戦略、自由主義戦略
16. 経済発展の諸相 (4) 経済発展と所得分配——現状と歴史的、社会的構造的要因
17. 経済発展の諸相 (5) 都市のインフォーマルセクター——その実態とその社会経済的意義
18. ブラジルの経済 (1) ブラジル経済の特質、その形成過程、自然的基盤
19. ブラジルの経済 (2) 経済発展の地域的特質、地域較差と地域開発計画の進展
20. ブラジルの経済 (3) ブラジル経済における日系人
21. アンデス諸国の経済的特性——とくにペルー、コロンビア、ベネズエラ、ボリビアの経済的特性
22. 温帯ラテンアメリカの経済——アルゼンチン、ウルグアイ、チリその経済的発展
23. メキシコの経済——アメリカ合衆国との関係
24. ラテンアメリカ経済と日本との関連——歴史的過程、日系企業の進出、相互依存関係

科目名	地域産業政策論	担当者名	伊藤正昭
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>これまで、産業政策と地域政策は別々の研究分野として発展してきた。もともと、産業は地域に立地し、地域経済は産業なくして存立できないことを考えると、産業と地域の経済政策として統合されなければならない。</p> <p>こうした観点から、産業と地域のかかわりを研究しながら、その政策の理論とあり方について学ぶことをねらいとしたい。</p> <p>とくに、わが国の例を参考にしながら、産業政策の理論と現実、地域政策の実際とめざすべき方向性を明らかにすることを努めたい。</p>
講義概要	<p>わが国では産業政策 (industrial policy) という言葉がよく使われる。しかし、産業政策は、経済政策のなかでも位置づけが曖昧で、理論的な基礎も確立していない。わが国ではなじみの深い産業政策は、先進各国では最近になって注目するようになったものである。</p> <p>講義では、わが国の産業政策の実態を分析しながら、産業政策の体系的な理解に努める。これによって産業構造政策の特異性が明らかになるであろう。ついで、産業組織政策 (独占禁止政策) の意義と内容に触れ、産業構造政策との関係を明らかにする。</p> <p>さらに、地方分権化、地域の自立、地域産業をキーワードにしながら、地域経済のあり方を多面的に検討してみたい。</p>
使用教材	<p>テキスト 伊藤正昭『地域産業論』学文社、1997年</p> <p>参考文献  <ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤正昭『産業と地域の経済政策』学文社、1989年</li> <li>・小宮隆太郎・奥野正寛他編『日本の産業政策』東大出版会、1984年</li> <li>・伊藤元重・清野一治他著『産業政策の経済分析』東大出版会、1988年</li> <li>・今井賢一・小宮隆太郎編『日本の企業』東大出版会、1989年</li> <li>・三輪芳郎『日本の企業と産業組織』東大出版会、1990年</li> <li>・チャーマーズ・ジョンソン／矢野 監訳『通産省と日本の奇跡』TBSブリタニカ</li> <li>・O.E. ウィリアムソン／浅沼・岩崎訳『市場と企業組織』日本評論社、1980年</li> </ul> </p>
評価方法	前期末および学年末に筆記試験を行って、成績の評価を行う。
受講者に対する要望など	関連科目：経済政策

1. 経済政策と産業政策の関係—産業政策はセミ・マクロの経済政策—
2. 産業政策の意義と問題点(1)—産業政策の3つの領域—
3. 産業政策の意義と問題点(2)—現代の自由主義と保護主義—
4. 日本の産業政策の特徴と変貌—旧産業政策から新産業政策へ—
5. 戦後における産業政策の展開—政府主導の産業育成政策の実態と評価—
6. 諸外国の産業政策—イギリス、EU、アメリカ、ASEAN、中国—
7. 産業調整の意義と問題点—構造的不況業種の撤退と縮小—
8. 積極的調整政策の構造—衰退産業の活性化、OECDの戦略—
9. 産業構造の高度化と産業調整—日本の経験からなにが学べるか—
10. 産業政策の変質—規制緩和、行政指導の制限、PL法、官僚の役割—
11. 産業組織と政策(1)—産業組織論（ハーバード学派とシカゴ学派）
12. 産業組織と政策(2)—規制緩和によって産業組織はどう変わるか—
13. 産業政策としての中小企業政策—産業政策との連動性—
14. 中小企業政策の成立根拠—諸外国の中小企業政策の比較から学ぶ—
15. 産業構造政策からみた中小企業—中小企業基本法と近代化政策の役割—
16. 産業組織政策からみた中小企業—下請分業システムの取引コスト分析—
17. 中小企業政策の透明性と国際性—産業政策としての有効性の検討—
18. 地域政策の理念と現実—市場原理による地域間分業構造と地域格差—
19. 地域政策における課題—地域経済への政府介入はなにをもたらしたか—
20. 地域構造の調整と政策—日本の地域開発政策における問題点—
21. 地域の自立と地域主義—地方分権の必要性和条件、地域の主体性とは—
22. 地域の活性化と地域産業—地域の論理と産業の論理のずれと政策—
23. 地域産業起こしと地場産業—産業活性化と地域活性化のケース・スタディー—
24. まとめ

科目名	社会政策	担当者名	桑原靖夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>社会政策 (Social Policy) とは一体いかなる学問なのか。講義名を聞いて直ちにその内容を類推することができる人はきわめて少ないだろう。元来、社会政策という学問は明治期にドイツから輸入された政治経済学であり、資本主義の発展に伴い、展開してきた様々な労働問題を対象とする政策科学として成立・発展してきた。しかし、今日では、社会政策が対象とする領域も大きく変わり、多くのチャレンジングな問題が提起されている。講義では新しい視点から広く「労働」(働くこと)にかかわる現代の様々な政策課題を検討する。</p>
講義概要	<p>今日、世界の労働の分野では、きわめて多くの注目すべき変化が展開している。雇用機会の空洞化現象、国際労働力移動(外国人労働者)、開発途上国の低賃金、技術革新の雇用に与える衝撃、高齢化、女子労働者の増加、労働時間短縮、サービス経済化など、枚挙にいとまがない。人生において、労働(雇用)の次元はしばしば最も重要な時期を占めている。21世紀に向けて我々の社会における労働のあり方はいかなる変貌をとげるのだろうか。</p> <p>講義では、いまやきわめて広範な領域にまで拡大した労働の問題を整理し、新たな実証分析の成果を加えて解説する。並行して開設される「労働経済学」が理論的・実証的アプローチを主とするのに対して、「社会政策」ではより幅広く問題の政策的アプローチを主とすることにしたい。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>本講義では特定のテキストを使用しないが、桑原靖夫『放送大学テキスト：労使の関係』(日本放送出版協会、1995年)は、講義の一部をカバーしている。</p> <p>参考文献</p> <p>取り上げる課題が多岐にわたるので、講義初めに詳細なシラバスおよび文献リストを配布する。比較的新しく広範な領域をカバーする文献として、下記を挙げておく。</p> <p>桑原靖夫・Gバンパー、R. ランズベリー編『新版先進諸国の労使関係』(日本労働研究機構、1994年)</p> <p>桑原靖夫・連合総合生活研究所編『労働の未来を創る』(第一書林、1997年)</p>
評価方法	<p>原則として年1回ないし2回のテストによる。</p>
受講者に対する要望など	<p>講義で取り上げる課題は多くの点で、受講生諸君の今後の人生のあり方、設計に関連する重要な意味を内包している。受け身で授業に出るのではなく、積極的に問題を発見する意欲を持って出席してほしい。</p>

- 前期・後期（講義の進行は受講者の理解度を見て調整する）
1. 社会政策とはいかなる学問か  
社会政策学の歴史、産業の発展と社会政策の対象とする内容の変遷を取り上げる。
  2. 第二次大戦前の社会政策（2回）  
戦前日本の工業化と社会政策の課題について説明する。あわせて、戦後の一時期、学会の中心的テーマであった社会政策論争といわれる論争の評価を行う。
  3. 現代の社会政策の展望  
高度な段階にまで到達した工業化社会における労働の特徴、ポスト工業化時代の到来と社会政策が対象とする課題の変容について検討する。
  4. 国家の盛衰と労使関係（2回）  
第二次大戦後の極貧から「世界の先端モデル」とまで言われ、いまや頂点へ立つことになった日本経済の発展過程における労使関係の役割について評価を行う。
  5. 日本労使関係：歴史の変遷（2回）  
労働問題の中心的課題のひとつである労使の関係は、戦後の「労使対決」の時代から「労使協調」の時代へと変容した。この変化の過程を新たな視点から解剖してみたい。
  6. 変化する雇用・労働の世界（展望）  
現代日本の労働市場では、サービス化・情報化、高齢化、女性化など、雇用の仕組みの再編が進行している。これらの構造的変化と労働市場への影響を展望する。
  7. 雇用機会としての企業（2回）  
企業は労働者がそこに雇用され、賃金・俸給を得る場所以上の意味を持っている。生き甲斐発見の場、スキル蓄積の場としての企業の意味、日本人が企業に期待するものはなにかを考察する。
  8. 現代日本の経営構造と労使（2回）  
働く場としての日本の企業は、経営の構造・編成という点でいかなる特徴を持っているのか。日本的雇用慣行といわれる大企業に特有な制度、慣行の実態を新しい角度から分析する。
  9. 中小企業の労使関係  
日本の雇用機会の大部分を構成するのは、中小企業である。この領域における雇用についての通念と現実の差異、雇用労働の特徴を分析する。
  10. 採用と配置・昇進  
企業における採用、配置、昇進のあり方は、労働者の勤労意欲、報酬、効率などに重要な意味を持つ。今日求められている公正な採用、配置、昇進とはいかなる内容のものか。
  11. 変わり行く労働組合：新しい労使関係の枠組み  
伝統的労使関係は、労働組合と使用者（団体）の関係を意味してきた。しかし、今日では組織率の低下など、労使の関係は実態および概念の双方において再編を迫られている。
  12. 景気循環と賃金・雇用調整  
資本主義経済においては景気循環は避けがたい現象である。企業が実施する賃金・雇用調整の仕組みを分析し、日本の特徴を明らかにする。
  13. 技術革新と変貌する職場  
1970年代以降、マイクロエレクトロニクスなどの技術革新の展開で、日本の職場は大きく変貌した。これらの技術変化が雇用や仕事の内容に与える影響を考える。
  14. サービス化・情報化と労働のあり方  
サービス化の進展はホワイトカラーの増加、労働の質的・量的変化、労働時間の弾力化など、多くの変化を雇用の場にもたらした。今日の国民的課題ともいえる時間短縮についても考察する。
  15. 高齢化時代の経営と労働  
21世紀初頭には世界有数の高齢国となる日本では、従来の雇用慣行にも様々な修正が迫られている。高齢者に適した職場の再編・処遇、生き甲斐などについて考える。
  16. 国際化と労使関係  
日本企業の海外直接投資の拡大にともない、日系企業に働く現地従業員の数も増加した。この新しい環境における日本的経営・労使関係を検討する。
  17. 外国人労働者と日本（2回）  
1980年代から急速に増加した外国人労働者は日本社会に大きな衝撃をもたらした。その実態と政策のあり方について考察する。
  18. 新しい働き方を求めて  
21世紀に向けて、真に人間らしい仕事と生活の両立を求めて、「新しい働き方」の模索が始まっている。その現状と方向性について展望を試みたい。

科目名	労働経済論	担当者名	桑原靖夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>労働経済学 (Labour Economics, The Economics of Labour) は、多くの人々が人生においてさまざまな仕事 (労働) に従事する時間・空間的次元、いかえると「労働市場」の構造、機能、政策を分析対象とする応用経済学である。講義では現実の複雑な事象を分析するための方法を蓄積するために理論的側面に重点を置くが、できるかぎり最近の労働市場における新しい展開も併せて紹介するようにしたい。</p>				
講義概要	<p>労働経済学は今日の応用経済学の中では、次々と新たな問題が生まれ、新しい仮説も提示されているため、最も「面白い」領域といわれている。いわば臨床医学に相当するこの分野の全体像を把握するには1年間の講義では十分ではないが、初歩的段階から専門文献が読めるまでの理論および実証分析のトレーニングを行いたい。受講者が終了段階で今まで見えなかった世界への分析武器を身につけることが出来たと実感できるように、インテンシブな講義を目指している。講義では現代労働経済学の主要領域をカバーし、さらに上級段階へ登頂するための手がかりを準備したい。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td> <p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成9年版労働白書』日本労働研究機構、1997年。例年6月末に刊行。</p> </td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』(東洋経済新報社、1994年)</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』(岩波書店、1997年)</p> </td> </tr> </table>	テキスト	<p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成9年版労働白書』日本労働研究機構、1997年。例年6月末に刊行。</p>	参考文献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』(東洋経済新報社、1994年)</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』(岩波書店、1997年)</p>
テキスト	<p>本講義の全体をカバーするテキストは使用しないが、『労働白書』の内容にしばしば言及するので準備すること。労働省編『平成9年版労働白書』日本労働研究機構、1997年。例年6月末に刊行。</p>				
参考文献	<p>開講に際して詳細な参考文献リストを配布する。労働経済学が扱う主要課題をあらかじめ知りたい受講者は、下記の入門文献に目を通すことを勧める。</p> <p>小野 旭『労働経済学』(東洋経済新報社、1994年)</p> <p>樋口美雄・中馬宏之『労働経済学』(岩波書店、1997年)</p>				
評価方法	<p>原則として年1回ないし2回のテストによる。</p>				
受講者に対する要望など	<p>講義ではできうるかぎり、グラフィックな提示などを通して、平易な解説に努めるが、受講生にも参考文献を読み、問題に取り組む積極的な姿勢を期待したい。社会政策、産業構造論など関連講義の受講を勧めたい。</p>				

年 間 授 業 計 画	講義予定（講義の進行は受講生の理解度を見て調整）
	1. 労働経済学とはいかなる学問か 臨床医学・基礎医学との対比 制度学派、社会政策学との関連 応用経済学としての特徴
	2. 労働経済学の進展 イギリス、アメリカなどにおける学問的發展 マクロ・ミクロ経済理論との関係 労働統計の見方、使い方
	3. 労働市場の理論（学説史的考察） 学問的系譜 制度学派、新古典派、組織の経済学
	4. 労働市場理論の展望(1) 制度学派の貢献、分析のための工具箱の充実
	5. 労働市場理論の展望(2) 新古典派の労働市場についての見方
	6. 労働市場理論の展望(3) 組織の経済理論、組織論 理論の統合は可能か
	7. 労働供給の理論(1) 家計の経済学的意味、所得・余暇選好の理論、労働供給の理論→供給曲線の導出、供給曲線の形状と意味、所得効果と代替効果
	8. 労働供給の理論(2) 日本の経済学者の貢献、新しい発展→新家庭経済学（New Home Economics） 家計内生産（home production）の意味
	9. 労働力と労働時間・余暇 労働力をめぐる諸概念（労働力、労働力率、失業率など）、労働力の調査について、労働時間と余暇の概念
	10. 労働需要の理論(1) 派生需要としての労働需要、企業の行動様式の理論化、企業の労働需要曲線の導出参産業・社会全体の労働需要
	11. 不完全競争下の労働需要、投資と雇用
	12. 労働市場の構造と機能（連続2回） 労働市場における需要給整、調整の速度、制度的要因 分断的労働市場（Segmented Labour Markets）の理論
	13. 労働移動（連続2回） 労働移動の理論、地域・産業間移動、国際労働力移動の理論と実証 無制限的労働供給の理論（ジョブシサーチの理論）
	14. 賃金決定・賃金構造（連続2回） 賃金決定の理惑、賃金構造（賃金格差）、賃金プロファイル 最低賃金制度、労働組合と賃金決定
	15. 雇用と賃金の理論(1) 古典派理論、ケインズ理論、新古典派理論の展開 失業の概念→自発的失業、非自発的失業、摩擦的失業
	16. 雇用と賃金の理論(2) 失業とインフレーション、フィリップス曲線、自然失業率の概念、所得政策、効率賃金仮説、暗黙の契約理論
	17. 雇用調整のメカニズム 雇用調整の速度と範囲、雇用保険制度の機能
	18. 人的資本の理論 理論の基本的骨組み、熟練と訓練、一般的熟練と企業特殊的熟練 教育の経済学→教育投資と生涯賃金、応用問題：差別の経済分析 準齢化と定年制
	19. 労使関係の理論（連続2回） 労働組合の構造と機能、団体交渉、労使協議、苦情処理 対立と協調、シェア・エコノミーの概念、産業民主主義の展開
	20.
	21.
	22.
	23.
24.	



科目名	財政学	担当者名	大島通義
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>政府は年々予算を組み、巨額の税金を家計や企業から徴収し、これをさまざまな政府としての活動にあてている。「財政学」は、このような公共部門の経済活動を対象とする学問である。「政府」の「経済活動」を対象とする学問である以上、これを理解するには経済学の基礎的な知識を備えているのと同時に、政府の意思決定にかかわる政治や行政にも目を向けることが必要である。このような観点から現代財政について理解を深めることに努めたい。</p>		
講義概要	<p>前期においては、政府の経済活動全般を視野に入れながら、現代までの財政論のおもな潮流、政府部門の収支の構成をみたらうで、主として政府の支出活動に焦点を合わせた講義とする。政府による公共財の供給、高齢社会における財政の役割、分権化と財政、国際化時代の財政などの問題を取り上げる。後期には、政府の収入調達、すなわち租税（所得税、法人税、消費税など）と公債発行についての理論、その現状について講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>貝塚啓明・宮島 洋『財政学』（放送大学教材）。その他、講義の必要に応じて、参考文献目録、資料等を配布する。</p>	
	参考文献	<p>貝塚啓明『財政学』第2版（東大出版会） 林 健久・今井勝人編『日本財政要覧』（東大出版会） 新藤宗幸『日本の予算を読む』ちくま新書</p>	
評価方法	<p>前期と後期の期末試験を実施する。場合によっては、講義内容についての短いレポートの提出を求めることがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>経済学についての基礎的な理解を前提にして講義をおこなうので、これを欠いている場合には、各自でそれを補うようにつとめること。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 講義の概要、最近の財政問題、財政学の課題
2. 「政府」とは何か、二つの見方
3. 「市場経済」と「政府」、その中間組織
4. 予算の仕組みとその決定の過程
5. 国民経済計算における政府部門
6. 国と地方の財政関係
7. 「公共財」とは何か
8. 政府支出決定の論理とその実際
9. 政府支出の長期的趨勢
10. 公共投資とその管理——社会資本の整備
11. 福祉国家の成立とその発展
12. 高齢社会の財政問題
13. 租税とは何か、租税体系、税負担の国際比較
14. 個人所得課税の理論とその実際
15. 個人所得課税の理論とその実際（統）
16. 法人企業課税の理論とその実際
17. 法人企業課税の理論とその実際（統）
18. 消費課税の理論とその実際
19. 消費課税の理論とその実際（統）
20. 資産課税の理論とその実際
21. 資産課税の理論とその実際（統）
22. 租税政策の社会経済的作用
23. 公債発行の財政問題
24. 公債発行の財政問題（統）

科目名	日本財政論	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>「財政危機」、「行財政改革」、「公共部門の借金四百数十兆円」といった文字を新聞や雑誌で毎日のように見かけるが、これはわれわれの社会生活と財政あるいは公共部門の活動とが深く結びついていることのあらわれであると考えられる。財政支出がこれほど巨大になったにもかかわらず、平成の大不況から抜けられず迫り来る高齢化社会にも備えなければならないのが日本の今日の姿である。本講では中央・地方の公共部門が効率的で公平な経済活動を行うためにどのように行動してきたか、今後どのようにすべきかといった問題を考える。</p> <p>日本の財政を図や表を使いながら概観し、今日の財政の姿を明らかにする。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評価方法	年度末の成績および中間での小テストの成績によって評価する。		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 公共部門の範囲

- ① 財政とは何か ② 国民経済に占める政府の活動領域の拡大 —「安価な政府」から「高価な政府」へ—
- ③ 文献紹介

2. 財政の役割と機能

- ① 資源配分機能 ② 所得再分配機能 ③ 経済安定化機能

3. 日本経済の現状

- ① 中央・地方の財政規模とGNP ② 財政の国際比較 ③ 本年度予算の特色

4. わが国財政の歩み

- ① 明治期の財政 ② 大正から昭和初期の財政 ③ 戦後の財政——シャープ勧告
- ④ 高度成長期の財政 ⑤ オイルショックの影響と財政 ⑥ 低成長期の財政

5. 予算制度

- ① 予算制度の概要 ② 予算の機能と原則

6. 政府支出の内容と規模

- ① 政府支出の増大と内容の変化 ② 政府支出の効率化——財政改革

7. 政府収入の内容と規模

- ① 財政赤字の増大 ② 租税の意義と分類 ③ 租税原則 ④ 租税構造 ⑤ 所得税、法人税、消費税

8. 公債

- ① わが国の公債制度 ② 公債政策の推移 ③ 公債の機能 ④ 累積公債と財政再建

9. 財政投融资

- ① 財政投融资とは何か ② 財政投融资の役割 ③ 財政投融资の規模と運用

10. 地方財政

- ① 国家財政と地方財政 ② わが国地方財政の特色——国際比較 ③ 国・地方間の事務配分と税源配分
- ④ 財政調整制度 ⑤ 地方債

11. 財政の現状と今後の課題

- ① オイルショック以後の財政 ② 行財政改革 ③ 地方分権 ④ 情報公開

科目名	公共経済学	担当者名	伊藤 為一郎
-----	-------	------	--------

講義の目標	わたしたちの日々の生活は公共部門の活動と切っても切れない関係にある。水・清掃・教育・道路・警察・消防など様々な公共サービスによって便益を受けている。政府の活動と民間部門の活動とはどういう関係にあるか。政府の活動は大きすぎるのか。介入するとすればどうい方法であるべきか。政府の活動を効率化するにはどんな改革が必要か。政府は国民の福祉にどのように関係すべきであるか。このような公共部門の活動についての基礎的な理解を深めることが本講の課題である。		
講義概要	公共部門が経済活動や社会生活にどのように連動しているか、図や表を多用しながら講義を進める予定である。		
使用教材	テキスト	講義のはじめに指示する。	
	参考文献	講義のなかでその都度指示する。	
評価方法	年度末の成績および中間テストの成績によって評価する。		
受講者に対する要望など			

1. はじめに
  - ① 公共部門の範囲 ② 関連する図および表配布 ③ 文献紹介
2. 公共部門存在の理論的根拠
  - ① 市場の失敗 ② 資源配分 ③ 所得再配分 ④ 経済成長・経済安定
3. 公共財の定義と理論的特徴
  - ① 純粋公共財 ② 混合財と補助金政策 ③ メリットワレント
4. 社会資本と公共サービス
  - ① 社会資本と経済発展 ② 高度成長と社会資本充実政策 ③ 高齢化社会に向けて
5. 公共サービスの供給と財源調達
  - ① なぜ租税が必要か ② 公平な課税制度 ③ 各種課税様式 ④ 公共料金政策
6. 公債政策
  - ① 公債の増大 ② 公債管理政策
7. 地方政府
  - ① 地域公共財の供給 ② 地方財政の拡大
8. 都市問題——一極集中問題
  - ① 土地と住宅 ② 交通問題 ③ ゴミ問題
9. 環境問題と財政
  - ① 市場の失敗と環境政策 ② 課徴金か補助金か ③ PPPから環境税へ
10. 高齢化社会と財政
  - ① 高齢化の進展 ② 年金財政 ③ 高福祉・高負担
11. まとめ

科目名	金融論(A)(B)	担当者名	田村 申一
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>この講義の目的は、たとえば相次ぐ金融機関の経営破綻や日本版ビッグバンの始動など、いま私達の目の前で起っている金融の諸問題について興味をもち、自ら情報を集めて分析し、自分なりの意見をもてるような考察力を身につけて貰うことです。そのため、毎回金融に関するニュースの解説をしたあと、講義のキーワードを挙げ、最小限の理論をベースにして金融の現状をわかり易く説明し、金融の世界を解明する材料を提供していきます。この授業を通じて、金融を考えるためのエッセンスを修得して下さい。</p>	
講義概要	<p>金融を理解するためには、金融システム、金融行動、金融市場、金融政策の4本の柱を一体的にとらえ、それらの相互関係を知ることが大事です。時代の経済環境が金融システムを形成し、その中で各経済主体の最適な金融行動が決まり、その結果行われる金融取引が金融市場を動かします。市場の動向は金融政策を発動させる一方、政策は行動や市場を望ましい方向に誘導します。このような観点に立ち、講義ではこれら4本柱を順次説明し、その体系的把握ができるよう組み立てます。その際、時代のトレンド—金融の自由化・国際化—という視点から、これら4つのテーマをひとつの大きな柱で結びつけていきます。</p>	
使用教材	テキスト	未定です。
	参考文献	<p>山田良治・田村 茂・田村申一・花輪俊哉著『金融入門』有斐閣、1989.  池尾和人・岩佐代市・黒田晃生・古川顕著『金融』新版、有斐閣、1993.  柴沼 武・森 映雄・藪下史郎・書間文彦著『金融論』有斐閣、1993.  酒井良清・鹿野嘉昭著『金融システム』有斐閣、1996.  池尾和人著『現代の金融入門』筑摩書房、1996.  などが全般にわたっています。あとは、各章ごとにその都度提示します。</p>
評価方法	<p>成績評価は、前期の試験と後期の試験との平均点によって決定します。前期と後期の両方を受験しなければ、単位を認定しません。前期試験はレポートとし、9月末日までに教務に提出して下さい(締切厳守)。後期試験は、試験時間割で行います。</p>	
受講者に対する要望など	<p>欠席すると、講義内容が理解しにくくなり、話がつながらなくなって興味を失いますので、必ず授業に出席して下さい。</p>	

1. ガイダンスののち、はじめに 金融の現状と課題
2. I 金融システム 1. マネー (1) マネーの機能 (2) マネーサプライ
3. (3)電子マネー
4. 2. 金融構造 (1) 部門別資金過不足 (2) 金融方式
5. (3) 金融構造の変化
6. 3. 金融制度 (1) 商業銀行主義と総合銀行主義 (2) 戦後の金融制度
7. (3) 金融制度改革 (4) 日本版ビッグバン
8. II 金融行動 1. 資産選択 (1) 個人・企業の貨幣需要
9. (2) 投資家のポートフォリオセレクション
10. 2. 企業金融 (1) 企業の資金調達
11. (2) 金融方法と資本コスト (3) 企業金融の変容
12. 3. 銀行行動 (1)銀行の機能
13. (2) 信用創造のメカニズム
14. (3) 銀行の行動原理
15. III 金融市場 1. 金融市場 (1) 金融取引と金利裁定
16. (2) 短期金融市場 (3) 資本市場
17. (4) デリバティブ市場 2. 金利 (1) 規制金利と自由金利
18. (2) 金利体系
19. IV 金融政策 1. 金融政策の目標と手段 (1) 政策目標
20. (2) 運営目標 (3) 日銀の政策手段
21. 2. 金融政策の有効性 (1) 金融政策の波及メカニズム (2) 波及経路の変化
22. 3. 金融システムの安定化政策 (1) 市場規律と公的規制 (2) セーフティネット
23. 4. 金融政策と金融行政 (1) 日銀の独立性 (2) 金融行政の改革
24. おわりに 金融の将来展望



科目名	国際金融論	担当者名	山本美樹子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>金融とはお金を融通しあうことである。これは国内であっても、国際間であっても同じことである。ただ、国際間では通貨単位が異なるため、国内金融とは異なる問題が生じてくる。本講義では国際金融にスペシフィックな事柄に焦点を当てて説明し、これから社会にでていく諸君が、日々の新聞やニュース等をにぎわしている国際金融に関連した記事を読みこなしていくことができるようにしたいと考えている。</p>	
講義概要	<p>これから国際金融論を学ぶ上で最低限覚えてほしいことがらについて、たとえば替為レートとは何なのか、どのようにして決まるのか、政府の介入とは何か、という基礎的な問題を説明した中で、来るべき平成10年4月1日に施行される予定の新外国為替法が日本経済にどのような影響を与えていくのかを説明する。</p> <p>後期には開放マクロ経済学をした上で、国際的な資移動のメカニズムについて説明していく。来年度導入される新外国為替法により、国際間の資移動はより活発になるとと思われる。ビックバンが国際金融に与える影響についても講義していく予定である。</p>	
使用教材	テキスト	特に定めない
	参考文献	<p>渡辺福太郎編『メレメンタル国際経済学』英創社  伊藤元重『ゼミナール国際経済入門』日経新聞社  須田美矢子『ゼミナール国際金融入門』日経新聞社  高木信二『入門国際金融論』日本評論社</p>
評価方法	<p>後期の試験  レポートを課す場合がある</p>	
受講者に対する要望など	<p>出席をきちんとすること</p>	

1. 講義を始めるに当たって
2. 第1部 国際収支
  - 第1章 国際収支とは何か
    - 第1節 国際収支表
    - 第2節 経常収支とは
3. 第3節 経常収支の金融的メカニズム
  - 第4節 経常収支の変動メカニズム
4. 第2部 外国為替取引と為替レート
  - 第1章 外国為替取引と為替レート
    - 第1節 外国為替市場と為替レート
  5. 第2節 為替リスクヘッジング（新外国為替法による企業の外貨決済、ネットィングにもふれる。）
  6. 第2節つづき 金利裁定取引
  7. 第3節 為替投機
  8. 第3節のつづき 為替投機
    - 第4節 政府の外貨市場への介入(1)
  9. 第4章節つづき 政府の外貨市場への介入(2)
10. 第5節 新外国為替法が我々の生活に与える影響について  
個人消費、企業の決済、外国為替取扱銀行のあるべき姿について
11. 第3章 為替レートの決定と変動の理論
  - 第1節 購買力平過説
  12. 第2節 フローアプローチ vs アセットアプローチ
13. 第4章 固定相場制
  - 第1節 金本位制と IMF のブレトンウッズ制
  14. 第2節 固定相場制のメカニズム
  - 第3節 固定相場制崩壊の原因
15. 第4部 開放マクロ経済学と開放マクロ経済政策
  - 第5章 開放マクロ経済政策
    - 第1節 外国貿易乗数の理論
    16. 第2節 固定相場制下での開放マクロ経済政策(1)
    17. 第2節のつづき(2) ティンバーゲンの理論と国際収支均衡曲線
    - 第3節 変動相場下での開放マクロ経済政策(1)
    18. 第3節のつづき(2) 機関車論
      - 第4節 どの制度にどの政策があうのか
19. 第5部 国際資本移動の拡大（新外国為替法の下での）
  - 第6章 国際金融取引拡大の背景
    20. 第1節 国際金融取引とはなにか
    - 第2節 国際資本移動とはなにか
    21. 第3節 国際投資と為替レート
      - 第4節 外国為替のスワップ取引の具体的形態
      22. 第5節 オプション取引
      - 第6節 新外国為替法の下での国際資本移動
23. 第7章 アジアの金融センターとしての東京外国為替市場の現状  
（ビッグバンに向けて）
24. 第8章 まとめ

科目名	社会科学概論	担当者名	宮澤 清
-----	--------	------	------

講義の目標		
講義概要	<p>誕生期経済学の思想的基盤となったのは、「自然法理論」と「自然秩序」の思想である。ここでは、存在と当為が、現実と価値が直接にかつ論証も経ないで同一視された。19世紀末葉の「限界革命」とよばれる経済学は、経済現象を専ら個人の主観的な行為にまで遡って分析する。そこでは、現実と価値、事実と当為が峻別されるという論理が働いている。ケインズの『一般理論』は現実に直面している経済現象を病理現象であるとみなし、その病気についての診断と治療を提示した点にその特徴がある。人間の経済学は、経済学に人間性を賦与し、人間の優位を確立し、人間らしく生きるための批判的精神と何ごとも理性と経験にもとづいた論議によって解決することを基本信条とする批判的経験主義を保持するということである。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著『社会科学方法論』白桃書房
	参考文献	
評価方法		
受講者に対する要望など		

1. 序論：社会科学としての経済学成立の基盤となったのは、近代自然法論と近代自然科学理論であるが、それにもまして重要なのは、それまでの自然法哲学である。それは歴史のなかで永劫回帰するものだからである。
2. ビュシスとノモス：自然法の観念はギリシャ哲学に溯るが、ビュシスとノモスとの最初の理論上の対置は、ギリシャ自然学に見出される。その対置はソフィストに用いられ、プロタゴラスによって実践的に唱えられた。
3. 形相理論：プラトンにおいては、ビュシスは「イデア」と同じ意味で用いられ、事物そのものの本質を意味した。その本質基準にもとづいて真と偽との、実在と現象との、エピステーメとドクサとの対立が明示された。
4. 目的原理：アリストテレスにおいても、形相は事物の本質であるが、個物に対して超越的ではなく内在的である点でプラトンと異なる。その形相は、質料と結びついて事物に内在し、潜在態から顕在態へと展開し遂には神にいた。
5. ロゴス：自然法を最初に理論化したのはストア学派である。創始者ゼノンは、万有を貫く掟は「ロゴス(理性、理法)またはビュシス(自然)に従って生きよ」ということであると唱え、感覚に対して理性を重視した。
6. ストアの理性：キケロやセネカは、法の基礎はドクサ(臆見)ではなくビュシス(自然)であり、理性によって認識されるという。ここに、理性によって平和を保持するというストアの自我を重んずる精神がみられる。
7. 純粹形相：トマス其自然法論は、アリストテレスの目的論的自然観をその哲学的支柱として、宇宙の目的論的秩序の頂点に自ら動くこともなく、一切の世界生起の元となる純粹形相としての不動の神が存在すると説く。
8. 形相→質料：近代になると、ガリレオやデカルトによって自然の概念は一変し、形相が質料にとってかえられ、新たな自然認識の方法が確立された。なかでも、数理的手法を認識のモデルとしたのはニュートンであった。
9. 自然権：ホッブズの哲学は機械論的社会観である。そこでは各人が己の欲するままにその力を用いる自由が自然権と規定され、それをコントロールするために理性によって人為的に作り出された戒律が自然法とされた。
10. 自然的自由：ロックは、この世に地上の人びとを裁く絶対的な権威をもつ者がたとえいなくとも、理性によって、人びとの生活が互いに自由であり、平等であり、人びとの生命や財産も尊重される権利を自然権とする。
11. コンベンション：ヒュームは、ホッブズにならって「人間の本性は利己心である」とし、この利己心を抑える便宜的な取決めをコンベンションとよび、これによって成立する社会の基本的ルールが自然法であるとした。
12. 自然的秩序：誕生期における経済学の思想的基盤は自然法哲学である。この概念にもとづいてケネーはこの概念を経済学に援用した。それは重農学派の哲学的基礎としての自然法であり、普通の法則概念としての自然的秩序である。
13. 自然的自由：アダム・スミスが経済学の基礎に据えたのは、自然的秩序と自然的自由の概念であり、利益の自然調和の理論である。この理論で看過しえないのは、ニュートン力学とライプニッツの神の予定調和である。
14. 自然価格：スミスが重視したのは、価値の最善の尺度としての労働と規範としての自然価格である。労働はピューリタンの禁欲主義的なエートスの反映であり、自然価格はその属性が自然法思想の一つの顕在態である。
15. 限界革命：19世紀後半における経済学近代化の動きは「限界革命」とよばれる。その理論は、古典派になかった限界分析や一般均衡の分析という二つの新しい理論を生み出したという思想上の革命であったからである。
16. 目的と手段：ワルラスの一般均衡理論とパレートの無差別曲線の理論は、ともにマックス・ウェーバーの没価値性の理論と同じように目的と手段との関係の論理によって規定される合理的行動の論理によって貫かれている。
17. 関数概念：19世紀後半以降の経済学は、マッハの「要素一元論」とカッラーの「実体概念と機能概念」において端的に示される。彼らが試みたのは、実体(因果)から機能(関数)への移行の重視ということである。
18. 名目論：新古典派経済学は方法論的個体主義である。そこでは「経済人」の仮定が本質的なものから名目論的なものにとってかえられたからである。ジュヴェンズ、メンガー、ワルラスの理論がそれを巧みに論証している。
19. ケインズ革命：ケインズの『雇用・利子および貨幣の一般理論』がケインズ革命とよばれるのは、スミスの「見えざる手」の論理にもとづいて展開されてきた従来の経済学を排して不況を克服する理論であったからである。
20. 自然と人間：カール・ポランニーが提起したのは、人間の経済学を主題としての、「経済的」という言葉の形式的な意味から実質的な意味への再認識ということであった。その意味とは、自然と人間との共存のことである。
21. 人間の経済学：現実のさまざまな「危機」を克服し、経済学および社会科学に人間性を賦与するには、経済学および社会科学が人間を出発点とする方法論、つまり方法論的人間主義にもとづくものでなければならない。
22. 認識の客観性：この講義で最も重要なのは、社会科学における認識の客観性についての問題である。そこでのポイントは、科学は認識の作用であり、その任務は、支配ではなく説明であり、世界を記述することである。
23. 方法：社会科学でいう「方法」とは、社会ないし歴史における技法ではなく、科学的知識が知識として受け入れられるための論理的根拠を問うという意味であるから、いかなる科学も、その方法は、原理上同じである。
24. 同質性：社会科学と自然科学を質的な違いとしてではなく程度の違いとして連続的にとらえることによって、自然科学と同じ範疇の客観性(論理による批判と経験による批判)が社会科学においても可能となるのである。

科目名	精神衛生論（98年度） 地域精神衛生論（97年度以前）	担当者名	佐々木 雄 司
-----	--------------------------------	------	---------

講義の目標	<p>「地域精神衛生」イコール精神医学ではない。後者の中核が「医療の場」における治療なのに反し、前者は、あらゆる「生活の場」（地域社会、職場、学校）における実践といえよう。</p> <p>私は、精神科医で、メンタルヘルスとくにコミュニティメンタルヘルスのパイオニアの1人として日本の各地で活動を重ねてきている。その日頃の実践の中で、精神衛生の基礎知識をもつ社会人の仲間が1人でもいてくれたら……と思うことの連続である。産業精神衛生は、すでに現代の企業の重大問題の1つ。本授業を、そのよき社会人モデルを育てる基礎訓練の場としたい。</p>		
講義概要	<p>「暮らしの中の精神衛生学概論」と集約できるかもしれない。身近に起こっているありふれた出来事あるいは特異な出来事などをとりあげる。</p> <p>授業は精神科医としての40年間の私自身の実践や研究やフィードワークの体験を縦軸とし、学生サンの討論などを横軸として進める。ビデオや新聞記事などを最初に使用し、それをもとにした「グループ討論」をできるだけ頻回にとり入れたい。</p> <p>我国が、高度のストレス社会に突入した現在、本授業が、人間・家庭・地域社会・学校・企業・社会福祉・行政・信仰・日本文化などを考える緒の1つともなれば幸である。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐々木 雄司『宗教から精神衛生へ』金剛出版、1986</li> <li>・厚生省精神保健課『我が国の精神保健』厚健出版（最新版）</li> </ul>	
評価方法	<p>2回の期末テストだけでなく、ミニテスト、出欠や発言などの参加姿勢を、平常点として重視する。期末テストのみ参加は認めない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>「精神衛生学」は人間関係の学であり、約束を重んずることと、参加することが基本要件。従って、先にも述べた講義形態のこともあり、遅刻は厳禁。なお、ゼミ生（精神衛生論）は、本授業も受講されたい。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. オリエンテーション
2. グループ討論「最近の新聞記事など」をとりあげる
3. いのちと医療 (1) 新聞記事、グループ討議
4. " (2) まとめ
5. そこで起こっている現象の捉え方、考え方 (1) Video、グループ討論
6. " (2) まとめ
7. 信仰と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
8. " (2) スライド、Video、まとめ
9. 精神医学の知識 (1)具体例、グループ討論
10. " (2) スライド、Video、まとめ
11. 新しい精神医学、コミュニティ・メンタルヘルス (1) 具体例、グループ討論
12. " (2) スライド、Video、まとめ
13. 地域社会の精神衛生
14. 家庭の精神衛生
15. 学校の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
16. " (2) まとめ
17. 職場の精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
18. " (2) まとめ
19. 加齢と精神衛生 (1) 具体例、グループ討論
20. " (2) まとめ
21. 日本の医療ことに精神科医の現状
22. 医師、医療機関の選び方
23. 総括 (1) 新聞記事、グループ討論
24. " (2) Video、まとめ

科目名	経営学(済)	担当者名	河野重榮
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>経済学科の学生が経営学に関する全般的な理解を得られるようにするために、この講義は設けられている。経営学では企業と経営を分けて考えているが、それは現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、解が与えられないからである。この「経営とは何か」を研究対象とするのが経営学である。</p>		
講義概要	<p>①はじめに経営学の対象と方法について述べ、②ついで明治維新以降の我が国における経営問題認識の過程を展望する。併せて、欧米とくにアメリカにおけるマネジメントの発展とそのわが国への導入に關説する。③さらに経営の職能論的理解にもとづき、経営の職能構造と経営者機関について述べ、経営活動が行われる制度的環境について考える。④最後に経営問題の今日的課題をとり上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・河野重榮著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>・山城 章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社 ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</p>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものである。講義に出席し、キチンと講義ノートをとること。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 経営学の対象と方法	①「経営」とは何か
	2.	②経営経済学とマネジメント論
	3.	③経営の実際・実践・原理
	4. 経営問題認識の進展	①近代産業人の養成と経営経済学の導入
	5.	②初期マネジメントの導入
	6. マネジメント論の発展	①テイラー・システム
	7.	②テイラー・システムの問題点
	8.	③フォード・システムとオートメーション
	9.	④スタッフ論とファヨールリスム
	10.	⑤フォレットの機能的統一体論
	11.	⑥人間関係の科学
	12. 国際化と日本的経営	
	13. 経営職能構造	①経営職能構造の形成
	14.	②有機的機能の分化と経営職能
	15. 経営者機関	①株式民主主義と取締役会
	16.	②専門経営者の出現
	17.	③取締役会から常任執行委員会へ
	18.	④利害者集団論とコーポレート・ガバナンス
	19.	⑤CEOの職務と役割
	20. マネジメント・リーダーシップ	①マネジメント要素論
	21.	②マネジメントのフィードバック・モデル批判
	22.	③近代組織論と戦略的事業単位
	23.	④組織の活性化と人間資源管理
	24. 経営問題の今日的課題	



科目名	保険論	担当者名	岡村国和
-----	-----	------	------

講義の目標と概要	<p>前期の講義目標は、保険の原論の理解である。純化された保険の公式は <math>P = \omega Z</math> で表される。しかし、現実の保険現象は団体の運営費・社費などの個別企業の生産費が必要となるので、この公式の他に各種の原則や補助公式が必要となる。したがって、前期においては危険論及び保険原論を中心に理解を深めることを目標とする。危険論・保険原論では経済学、とくにミクロ経済学の素養が要請され、また危険論では統計学の知識が若干必要となるので、これまでに学んだ経済学・統計学などの専門科目の復習に心がけて頂きたい。</p> <p>後期講義の目標は、前期に理解した保険原論に基づいて、その応用を試みることである。そこでまず応用経済学の一分野としての観点から保険経済論を講義する。さらに、現実の保険現象に照らして保険企業の行動原理を解明するために、保険経営論及び保険政策にも立ち入りたい。原論が理解されていれば、複雑多様な保険現象や保険企業の行動原理、保険市場の特殊性なども容易に理解されよう。また、金融規制緩和の現状に鑑み、保険業に対する規制の特殊性および将来の変化を理解した上で、保険会社の倒産と消費者保護について講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	庭田範秋編『保険学』成文堂、1989年	
	参考文献	講義中にその都度指示・紹介する。	
評価方法	講義中に出席調査はしないので学年末試験と前期のレポートのみで評価する。		
受講者に対する要望など	特段用意する必要はないが、基礎科目、特に経済学・経営学・統計学・マーケティング・法学などの基礎的な科目を既修しておくのが好ましい。		

1. 「初回の注意、講義の範囲、講義の進め方、保険学の学問的位置づけについて」
2. 「保険現象の分析方法について」
3. 「リスクの基礎理論」
4. 「リスクの認知、分類、定量化、測定、および処理について」
5. 「リスクと保険：保険可能リスクとダウンサイド・リスク、付保決定基準について」
6. 「保険の構造(1)：応用経済学による保険現象のモデル化について」
7. 「保険の構造(2)：保険成立の諸要件についての検討および保険の諸原理・原則の検討について」
8. 「保険の構造(3)：『被保険利益』、『保険価額』、『保険金額』、『全部保険』、『一部保険』、『超過保険』、『共同保険』について」
9. 「保険の構造(4)：『危険負担の一般原則』について」
10. 「保険の構造(5)：『損害填補の一般原則』について」
11. 「保険各論(1)：保険の分類（事故の対象、事故発生の場所、保険経営の主体、経営動機、加入者の性格、加入動機、保険料の性格、給付基準、給付手段、被保険者の選択、引き受け内容、危険分担の種類、責任の所在、政策性の有無、法制上の基準、保険期間、危険種類など）について」
12. 「保険各論(2)：『生命保険』の仕組みや機能、経済効果およびその構造、価格決定について」
13. 「保険各論(3)：『損害保険』（損害保険企業の行動原理に多大な影響を及ぼしかつ伝統的な損害保険の本質論の変容をももたらしたと考えられる「積立型保険」の特徴及び問題点について）
14. 「保険各論(4)：『高齢化社会』における諸問題について」
15. 「保険経営(1)：保険経営の特殊性、価値循環の転倒性、保険企業の企業形態、保険商品の特殊性、保険の収益構造、保険経営の3利源（危険差益・利差・費差）などについて」
16. 「保険経営(2)：保険マーケティング（保険募集に重点を置く）、保険料率の算定・決定とアンダーライティング、保険企業の資産運用とキャッシュ・フロー・アンダーライティングについて」
17. 「保険経営(3)：金融自由化と保険業について」
18. 「保険市場論(1)：『産業組織論』から見た保険業について」
19. 「保険市場論(2)：『コンテストビリティ理論』及び『競争戦略論』、保険市場における市場集中度、商品の差別化、商品に対する情報の問題、規模の経済性、範囲の経済性について」
20. 「保険市場論(3)：保険業における価格競争及び非価格競争について（『屈折需要曲線』、『自律的料率政策領域』および『料率の事後補正としての契約者配当』）
21. 「保険の限界とその拡張(1)：保険技術的限界および保険経営上の限界（モラル・ハザードやアドバース・セレクションを含む）について」
22. 「保険の限界とその拡張(2)：保険経済的限界、法的限界について」
23. 「保険政策論(1)：一般の経済政策と保険固有の保険政策の共通点・相違点（保険の成長・安定・公正政策）について」
24. 「保険業の規制(1)：保険業に対する規制と規制緩和について」  
 「保険業の規制(2)：保険業における競争と規制の二律的均衡の理論的枠組み（CAPM理論、オプション・プライシング理論）と、金融業の競争をめぐる消費者保護、とくに①銀行の預金者保護における預金保険制度（FDIC）、②年金の保護における年金の支払保証制度（主として米国のPBGC）、③保険契約者の保護における保険業の支払保証基金（ギャランティ・ファンド：GF）の比較について」

科目名	会計学	担当者名	宮澤 清
-----	-----	------	------

講義の目標		
講義概要	<p>会計情報の利用者にとって自らの経済的意思決定に役立つ情報とは、どのようなものであるかについては、常に経験的実在の認識の観点に立って考察しなければならないが、その場合、財務情報の利用者が切実に希求するのは、その意思決定に役立つ情報なのである。それをみたすには、経験的実在としてのどのような経済資源、債務および出資者持分ならびにそれらの変動の認識・測定をいかに決定すべきであるかという目的に対する手段を合理的に選択するという事、つまり合理的行動の基礎が必要となってくる。結局、そこに要請されるのは幾つかの情報の属性である。この合理的行動の基礎としての情報の属性を確認することによってのみ会計情報の有用性が高められ、保持されるのである。</p>	
使用教材	テキスト	・拙著『財務会計論』。なお、『財務会計基礎理論』でも可。いずれも白桃書房
	参考文献	
評価方法	期末テストによる。	
受講者に対する要望など		

1. 会計：会計はその時代を支配する理念によって規定されるが、その会計の世界において、基本的に異なった二つの考え方がある。その一つは経験的・事実的な考え方であり、もう一つは当為的・規範的な考え方である。
2. 測定：会計測定とは、経済主体が会計理論にもとづいた一定のルールに従い、自己の営む経済活動という対象に数をあてがうことによって、外部の情報利用者に役立つ財務情報に加工を施して仕上げる作業のことである。
3. 伝達：伝達とは、言語を用いてある事柄を表現し、これを第三者に伝える行為である。言語が社会的行為の手段であるといわれるのは、人間がひとたび社会関係のなかにはいるとそれが必要となってくるからである。
4. 会計主体：会計主体の公準は、会計行為の究極的な帰属点、つまり、価値判断の究極の担い手として会計の対象としての客体を規定するものであるが、その主体によって規定されるところの客体が会計単位といわれる。
5. 継続企業：会計において、一つの期間を人為的に区切って資本計算を行なうには、その前提として企業活動が継続して営まれていなければならない。継続企業の公準は、このような趣旨のもとに定立されたものである。
6. 貨幣価値安定：企業の経済活動を記録し計算するには、すべて貨幣額が用いられるが、物価の騰落や貨幣価値の変動があっても、それが軽微であれば、一応、安定しているものと仮定して会計処理がなされるのである。
7. 真実性：企業会計の一般原則のうち、企業の財政状態および経営成績について真実な報告をするという会計の最高規範が真実性の原則と呼ばれる。この原則は他のすべての一般原則を規定するところの根本原則である。
8. 剰余金原則：資本取引と損益取引とを峻別するという原則が、資本と利益の区別に関する原則と呼ばれる。特に資本剰余金と利益剰余金の区別は重要である。それらが立脚する法の理念による利益が相反するからである。
9. 明瞭性：財務諸表のうえで利害関係者に必要な会計事実をはっきりと表示することによって、企業の状況についての判断を誤らせないようにするという表示における形式の側面を重視するのが明瞭性の原則と呼ばれる。
10. 継続性：継続性とは、選択した測定方法を首尾一貫して適用することをいう。首尾一貫という言葉は、もともと「相互に矛盾がないこと」を意味する。この趣旨を生かしたのが一般原則第五の継続性の原則である。
11. 保守主義：保守主義の原則は、「いかなる利益も見積もりによるものは計上しないが、損失はできうるかぎり計上する」というイギリスにおける企業会計の実践において用いられてきた格言によって端的に示される。
12. 単一性：「単一」という言葉のなかに形式と内容の関係がある。この関係において重要なことは、「概念(形式)のない直観(内容)は盲目であり、直観(内容)のない概念(形式)は空虚である」ということである。
13. 財務報告：財務報告は、報告すること自体が目的ではなく、経済的意思決定を行なうのに有用な情報を提供することが目的なのである。その目的は、情報の受け手と目される人びとのニーズから生まれるものである。
14. 情報の利用者：財務情報を利用する者のなかで、最も重要で注目される利用者は投資者と債権者である。しかしながら、彼らには、自己の欲する財務情報を企業に要求するいかなる権限も与えられてはいないのである。
15. 情報の質：目的適合性と信頼性という属性を備えているか否かによって「より優れている情報」と「より劣っている情報」とに分かれる。この二つを生かすことが、情報の利用者に対する真の保証となるのである。
16. 比較可能性：目的適合性と信頼性は、単独で語るができるが、比較的可能性は単独では語るができない性質のものである。なぜなら、比較可能性は、常に複数のあいだにおいてのみ成り立つものだからである。
17. コストとベネフィット：情報によってもたらされるベネフィットが、それを入手するのに要したコストを上回っていれば、その情報は有用であり、提供するに値する。要するに、この二つは常に比較される言葉である。
18. 資産：時間の相の下にたえず変動するところのすべての資産および経済資源に共通に認められる特徴は、それらを利用する企業に用役または効益をもたらす用役潜在力あるいは経済的効益をもっているという点にある。
19. 負債：負債の本質は、義務を発生させることによって現金が受け取られるか否かにあるというよりは、むしろ将来において経済的効益を犠牲にするところの法的債務、衡平法上の債務または推定上の債務のなかにある。
20. 持分：資産も負債も、発生の可能性が高い将来の経済的効益またはその犠牲として定義されるが、持分は両者の差額として示され、必然的に蓋然性の強い性格のものとなり、単独で存立しえない宿命をもつのである。
21. 包括利益：包括利益は、出資者による投資および出資者への分配から生ずるものを除いた源泉にかかわる取引や、その他の事象または環境要因によって生み出される一会計期間における企業の持分の変動のことである。
22. 認識基準：認識基準は資産、負債または持分に与える影響の観点から、ある項目を財務諸表に計上すべきかどうか、もし計上するとすれば、いかなる金額で、いつ正式に計上するのかということを示す判定基準である。
23. 真理：われわれは真理というものについて、完全に到達することができるものとは考えていない。その意味で、われわれは真理への探求者となりうることも、真理の保有者となることは永遠にできないのである。
24. 認識：企業の経済活動という経験的・個性的な実在に関する認識は、単なる事実の集合によって得られるのではなく、研究者の抱く認識関心(関心方向)つまり研究者の目的観を前提とすることによってのみ可能となる。

科目名	応用統計学	担当者名	本田 勝
-----	-------	------	------

講義の目標	この講義では「統計学」で学んだ1変量統計学の知識をベースにして、多変量統計解析の考え方を習得する。		
講義概要	多変量統計解析とは、お互いに何らかの関係を持つ多変量データを要約し、その背後にある総合特性を探り、判断あるいは評価の道具に利用することである。この解析にはコンピュータの利用が不可欠であり、本講義でもExcelやSASなどのプログラムパッケージを使用する。		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献	田中 豊、脇本和昌著『多変量統計解析法』（現代数学社）	
評価方法	各テーマ毎に課すレポートと毎回の出席調査による総合評価を行う。		
受講者に対する要望など	「統計学」および「情報処理概論」を既習であることが好ましい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 多変量解析とは何かについての概観を行う。
2. 統計学の基本事項についての復習をする。(平均、分散、共分散、相関係数、散布図)
3. 統計学の基本事項についての復習をする。(確率の分布、正規分布、標準化)
4. 行列および行列式についての復習をする。(行列、行列式、連立方程式の解法)
5. 行列および行列式についての復習をする。(固有値、固有ベクトル)
6. 単回帰分析について述べる。(説明変数、従属変数、最小2乗法)
7. 単回帰係数の評価方法について述べる。(残差、標準回帰係数、重相関係数)
8. 実例データを各自用意し、分析プログラムを用いて演習を行う。(分散分析表の見方、決定係数)
9. 重回帰分析への拡張を行う。(係数の推定と検定)
10. 実例データを用いて重回帰分析の演習をおこなう。(データの収集)
11. 重回帰分析演習(結果の解釈)
12. 回帰分析における変数選択の方法について述べる。
13. 2変量データの成分分析の考え方とその数式化を行う。(幾何学的解釈、係数の重み、主成分)
14. P変量データの主成分分析の考え方とその数式化を行う。  
(ラグランジュ未定係数法、固有値、固有ベクトル)
15. 実例データを用いて主成分分析にかける。主成分の解釈のし方について述べる。(寄与率、累積寄与率)
16. 各自データを収集し、主成分分析の演習を行う。(データの収集と入力)
17. 分析結果の解釈および検定。
18. 2変量判別分析の考え方とその数式化を行う。  
(線形判別関数、マハラノビスの汎距離、誤判別率)
19. 実例データを用いて2変量判別分析の演習を行う。
20. P変量判別分析の数式化を行う。
21. 実例データを用いてP変量判別分析の演習を行い、分析結果の解釈をする。
22. 各自データを収集し、判別分析の演習を行う。(データの収集と入力)
23. 分析結果の解釈および検討。
24. クラスター分析とはどのような方法かについて、分析の考えかたを述べる。  
(クラスター、デンドログラム、類似度の尺度)

科目名	プログラミング論	担当者名	高柳敏子
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史を、ハードウェアおよびソフトウェアの両面からは簡単に概観する。続いて、CASL シミュレータを利用して、アセンブラの学習用に想定されているコンピュータ COMET とそのアセンブラ言語 CASL のプログラミングおよび実習を通して、ノイマン型コンピュータの構造と動作の仕組み、またコンピュータ内部での情報の表現、そして基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めに CASL のより応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコン言語の 1 つとしてコンパイラ言語の C++ を取り上げ、CASL プログラムと対応させながら C++ によるプログラミングを、Turbo C++ for Windows を使用して実習しながら勉学する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献</p> <p>田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社、1993。  『CASL Programming』ITEC（情報処理技術者教育センター）、1994。  Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』アスキー出版局、1997。  ストラウストラップ著、斎藤・三次・追川・宇佐美共訳『プログラミング言語 C++』第 2 版、アジソンウェスレイ・トッパン、情報科学シリーズ-40、1993。  『岩波情報科学辞典』岩波書店、1990。</p>
評価方法	<p>前・後期各 1 度のテストと、前・後期各 2～3 回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論（経済学部）、情報処理（法学部）を既修あるいは同程度の知識経験があること。</p>

1. コンピュータの歴史(1):ハードウェア。  
ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。
2. コンピュータの歴史(2):ソフトウェア。  
コンピュータ言語、オペレーティングシステム。
3. ノイマン型コンピュータの構成:  
中央処理装置、演算装置、記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置。
4. COMET の処理装置(1):  
語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)。
5. COMET の処理装置(2):レジス。  
汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)。
6. 情報の表現(1):数値の内部表現。  
整数と2の補数表記、16進表現。
7. CASL プログラミング(1):  
CASL の命令、疑似命令、マクロ命令、機械語命令、命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈。
8. CASL プログラミング(2):  
ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保。
9. CASL シミュレータとその実行:  
プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行、プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し。
10. CASL プログラミング(3):乗除算処理(1)  
シフト演算命令。
11. CASL プログラミング(4):乗除算処理(2)  
比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ。
12. CASL プログラミング(5):繰り返し処理。  
指標レジスタの使用。
13. CASL プログラミング(6):情報の表現(2)  
文字の内部表現、PSCII コード。
14. CASL プログラミング(7):入出力命令。  
コード変換と論理演算。
15. CASL プログラミング(8):サブプログラム(1)  
汎用レジスタによるデータの受け渡し。
16. CASL プログラミング(9):サブプログラム(2)  
スタックを利用したデータの受け渡し。
17. アセンブラとコンパイラ:プログラムの翻訳と実行。  
例題と Turbo C++ for Windows の操作。
18. C++プログラミング(1):C++言語とは。  
C++言語の基本事項。
19. C++プログラミング(2):出力処理。  
四則演算と演算子、シフト演算。
20. C++プログラミング(3):判断・分岐演算。  
関係演算子、論理演算子。
21. C++プログラミング(4):くり返し演算。  
配列。
22. C++プログラミング(5):入力処理。  
文字と文字列の扱い。
23. C++プログラミング(6):関数(1)  
メインプログラムとサブプログラム、サブプログラムにデータの値を渡す。
24. C++プログラミング(7):関数(2)  
サブプログラムにデータのアドレスを渡す。



科目名	プログラミング論	担当者名	立田ルミ
-----	----------	------	------

講義の目標	<p>現在、ワープロや表計算ソフトや学習用ソフトウェアの様に、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを講義し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。そのために、実際にプログラミングを行う。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目標とする。</p>		
講義概要	<p>現在コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、ビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすれば良いかを、イベントドリブン型の言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説し、実習を行う。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても、解説およびデモンストレーションを行う。この講義は実習を伴うので、人数に制限があることに留意されたい。また、情報処理概論を既習または Windows に関する基礎知識のあることを前提として講義を行う。</p>		
使用教材	テキスト	立田ルミ "教育システム情報と Visal Basic" 朝倉書店	
	参考文献	天竺美知雄編 "情報処理の基礎" 朝倉書店	
評価方法	<p>前期、後期の試験：50%  レポート：40%  出席：10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論を既習または同程度の知識のある学生に限る。人数が多い場合は、抽選を行なう。</p>		

1. 授業のガイダンスとコンピュータの概説  
ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの構成
2. ソフトウェアの歴史と概略  
ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム、Windows95 の概略
3. 教育におけるコンピュータの役割、プログラム開発手順  
システム開発の手順と機械化、プログラム開発の手順
4. Visual Basic の概略  
イベント、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
5. 簡単なプログラム作成 (1)  
アプリケーション開発手順、Visual Basic の開発環境、文字の入出力
6. 簡単なプログラム作成 (2)  
四則演算、変数のまとめ
7. 選択のあるプログラム作成 (1)  
アプリケーションの設計、コントロールの扱い方
8. 選択のあるプログラム作成 (2)  
選択ステートメントのまとめ
9. 選択のあるプログラム作成 (3)  
オプションボタンの利用、チェックボタンの利用
10. 選択のあるプログラム作成 (4)  
リストボックスの利用、ドラッグアンドドロップの利用
11. 繰り返しのあるプログラム作成 (1)  
If と Go To を用いた繰り返し、For Next を用いた繰り返し
12. 繰り返しのあるプログラム作成 (2)  
ラストデータの処理、条件を満たすまで繰り返す、ネスティング
13. 図形の処理 (1)  
直線を描く、曲線を描く
14. 図形の処理 (2)  
円を描く、色を塗る
15. 図形の処理 (3)  
Windows の画像処理ソフトを使う、タイマーを使って絵を動かす
16. 図形の処理 (4)  
ドラッグアンドドロップを使う
17. 音声の処理  
音声を録音する、音声を再生する
18. 配列とコントロール配列  
一次元配列、コントロール配列、二次元配列
19. プルダウンメニュー  
コンボボックスを使う、プルダウンメニューの作成、プルダウンメニューの利用
20. ファイルの利用 (1)  
コントロールの利用、シーケンスファイルの利用
21. ファイルの利用 (2)  
ランダムファイルの利用
22. 教育用ソフトの制作 (1)  
システム設計、詳細設計
23. 教育用ソフトの制作 (2)  
作成とデバッグ
24. 教育用ソフトの制作 (3)  
作成とデバッグ

科目名	データベース論 (98年度) 情報処理論 (済) (97年度以前) 情報処理論(1) (営) (97年度以前)	担当者名	高柳敏子
-----	---	------	------

講義の目標	<p>初めに、ファイルシステムの欠点を改善するために経験的に開発・改良されてきたデータベースの歴史を概観する。続いて、E. F. Coddによって提案され、現在汎用機からパソコンまで多くの専用ソフトが作られ使われている、関係データベースの基礎から構築および検索の実際までを、パソコンを使って示しつつ学習する。</p> <p>関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等については実際にデータベースを取り扱いながら理解していく。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにデータベースの歴史を概観する。続いて、表計算ソフト (MS-Excel) のデータベース機能を使って、最も単純な関係データベースの概要を理解する。図書館の図書検索、CD-ROM および可能な商用データベース等できるだけ多くの検索の実際も含めていく。</p> <p>後期は、初めに関係データベースの特徴である関係代数による数学的な理論付け、二次元の関係表で示される単純なデータ構造、定義および操作のための専用言語 (SQL) 等について解説する。続いて関係データベース専用ソフト (MS-Access) を使って実際にデータベースを構築し操作しながら、上記関係データベースの特徴を学習していく。</p>
使用教材	<p>テキスト 随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献 穂積・堀内・溝口・鈴木・芝野共著『データベース標準用語事典』オーム社、1991。 C. Date 著、芝野・岸本訳『標準 SQL』情報科学シリーズ9、アジソン ウェスレイ・トッパン、1995。 J. Martin 著、国友・久保訳『データベース』日本コンピュータ協会、1983。</p>
評価方法	前・後期各1度のテストと、前・後期各2～3回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。
受講者に対する要望など	情報処理概論 (経済学部)、情報処理 (法学部)、コンピュータ概論 (外国語学部)、または言語情報処理 I (英語学科) を既修あるいは同程度の知識経験があること。

1. データベースとは(1)  
ファイルシステムからデータベースへ
2. データベースとは(2)  
データベースの三層スキーマ構造
3. データベースとは(3)  
データモデル(1)階層データベースとその特徴
4. データベースとは(4)  
データモデル(2)ネットワークデータベースとその特徴
5. データベースとは(5)  
データベース管理システムと代表的な商用データベース
6. データベースの利用(1)  
図書館の図書検索と個人用図書データベースの作成
7. データベースの利用(2)  
商用データベースの利用
8. MS-Excel によるデータベースの実際(1)  
レコード、項目、キー、フィールド
9. MS-Excel によるデータベースの実際(2)  
レコードの並べ替えと分類
10. MS-Excel によるデータベースの実際(3)  
レコードの検索
11. MS-Excel によるデータベースの実際(4)  
データベース関数の利用
12. MS-Excel によるデータベースの実際(5)  
クロス集計
13. 関係データベース(1)  
関係代数、関係演算、関係表
14. 関係データベース(2)  
主キーと候補キー
15. 関係データベース(3)  
データベース設計と関係表の正規化
16. 関係データベース(4)  
データベース言語 SQL
17. 関係データベース(5)  
SQL のデータベース定義の記述
18. 関係データベース(6)  
SQL のデータベース操作の記述
19. MS-Access による関係データベースの実際(1)  
MS-Excel の表の正規化と MS-Access へのインポート
20. MS-Access による関係データベースの実際(2)  
テーブルデザインの確認と主キーの設定
21. MS-Access による関係データベースの実際(3)  
関係表間の関連と関係付け
22. MS-Access による関係データベースの実際(4)  
クエリーと QBE
23. MS-Access による関係データベースの実際(5)  
MS-Access の SQL
24. MS-Access による関係データベースの実際(6)  
選択クエリー、クロス集計クエリーの応用

科目名	マルチメディア論(98年度) 情報処理論(済)(97年度以前) 情報処理論(3)(営)(97年度以前)	担当者名	立田ルミ
-----	---	------	------

講義の目標	<p>現在どのようなマルチメディアのためのソフトウェアが利用され、マルチメディア対応のプログラムを作成するためにはどのような手順が必要かを理解することを目的とする。また、ネットワークを用いてアメリカの大学のコンピュータサイエンス学科にアクセスし、どのような授業や研究が行われているかを調べる。また、コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかをWebのページを読むことにより、研究することを目的として講義・演習を行うつもりである。</p>	
講義概要	<p>マルチメディアシステムがどのようなものかを最初に教科書を読みながら講義する。また、画像作成のためのソフトウェアについて、講義と実習を行う。次にビデオとアニメーション作成のためのソフトウェアについて講義し、デモンストレーションを行う。また、オーディオ作成のためのソフトウェアについて、講義とデモンストレーションを行う。</p>	
使用教材	テキスト	John A. Mc Cormik, "Create Your Own Multimedia System", McGraw-Hill
	参考文献	
評価方法	<p>前期1回、後期1回の試験を行い、それを各50%の評価とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生に限る。出席をしない学生は単位を与えない。</p>	

1. マルチメディアの基礎  
マルチメディアとは何か、用語の説明  
どのコンピュータの部分でマルチメディアが重要か
2. オペレーションシステム環境  
Microsoft Windows、Machintosh、OS/2、Windows NT、Unix
3. テキスト編集ソフトウェア  
ワードプロセッサ、変換ソフト、データベース
4. テキスト編集ソフトウェア演習  
大学に設置されているコンピュータで使えるテキスト編集ソフトウェアを用いて演習問題を解く。
5. 静止画像作成ソフト  
ドロー系ソフト、ペイント系ソフト  
プレゼンテーション画像ソフト、スライドショー画像ソフト
6. 静止画像作成演習  
大学にあるソフトウェアを用いて、静止画像を作成する。
7. ビデオとアニメーションソフトウェア  
ビデオ編集
8. プロダクション管理ツール  
ストーリーボードソフトウェア、プロジェクト管理ソフトウェア
9. オーディオプロダクションソフトウェア  
オーディオファイルタイプ、マルチメディアサウンド、オーディオファイル作成
10. オーサリングソフトウェア  
プレゼンテーション向きソフトウェア、カードベースオーサリング  
アイコンベースオーサリング、タイムベースオーサリング、オーサリングプログラム
11. オーサリングソフトウェア演習  
大学にあるオーサリングソフトウェアを使って簡単なコースを作成する。
12. ネットワーク演習  
ネットワークにあるマルチメディアのコースを探す。  
マルチメディアのコースがどのように出来ているかを調べる。
13. 基本的なコンピュータのプラットフォーム  
コンピュータの速度、コンピュータの記憶容量、ビデオ利用の問題点
14. 機種によるプラットフォーム  
Machintosh、Windows、Unix
15. モニター  
品質、マルチスキャン、コントロール、ビデオカード
16. キーボードとポインター  
キーボード、ポインター
17. ビデオ入力と操作  
ビデオ標準、ビデオボード、デジタルカメラ
18. オーディオハードウェア  
オーディオ入力ボード、MIDI ハードウェア
19. スキャナー  
スキャナーのタイプ、解像度、カラーとグレイスケール
20. メインストレージ  
グラフィックス、ビデオ、オーディオ、ハードディスクの特長
21. 2次記憶装置  
磁気、光学、記憶装置の比較
22. システム統合  
マルチメディアワークエリア、ソフトウェア導入、システムテスト
23. 電子出版  
ディスクット、CD-ROM、ビデオカセットレコーダー、レーザーディスク
24. マルチメディアシステム演習  
CD-ROM の使用と内容発表

科目名	コンピュータシミュレーション論 (98年度以降) 情報処理論 (済) (97年度以前) 情報処理論(2) (営) (97年度以前)	担当者名	富田幸弘
-----	---	------	------

講義の目標	<p>情報処理の応用コースとして開設されており、経営科学を学ぶための基本的な考え方と分析方法を学ぶと共に、コンピュータを利用したシミュレーションの技法についても学ぶ。また、コンピュータのより高度な利用法についても体験学習することを目標としている。</p>	
講義概要	<p>出来るだけ具体的な例を示しながら進め、情報処理のためのコンピュータの利用についても講義する。</p> <p>(1)経営科学の必要性 (6)待ち行列 (2)シミュレーション (7)コンピュータ・シミュレーション (3)時系列分析と需要予測 (8)価格と生産戦略 (4)在庫管理 (9)マネジメント・ゲーム (5)日程計画 (10)ビジネス・ゲーム</p>	
使用教材	テキスト	プリント等を配布する。
	参考文献	講義に先立って紹介する。
評価方法	前期・後期の数回のレポートおよび出席状況等により評価する。	
受講者に対する要望など	<p>第1回講義に必ず出席すること。</p> <p>プログラミング論を既修しているか、または平行履修することが望ましい。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 今年度の講義内容と評価について
2. 経営科学の利用例
3. コンピュータ・シミュレーションとは
4. 統計データの整理〈度数分布表、平均値、標準偏差〉
5. 統計的推定と検定〈区間推定、仮説検定〉
6. 乱数の発生法〈合同法、最大周期〉
7. 乱数の検定〈適合度検定、無相関検定〉
8. 乱数を用いたシミュレーション
9. 時系列分析と需要予測〈移動平均法、回帰直線〉
10. 需要予測シミュレーション
11. 在庫管理〈種類と費用、発注と最適在庫〉
12. 在庫管理シミュレーション
13. 日程計画〈PERT、クリティカル・パス〉
14. 日程計画シミュレーション
15. 待ち行列〈待ち行列の基本構造、問題分析〉
16. 待ち行列シミュレーション
17. 価格戦略ゲーム
18. 生産戦略ゲーム
19. 販売戦略ゲーム
20. 資金繰りゲーム
21. ビジネス・ゲーム(1)〈作成手順、市場構造〉
22. ビジネス・ゲーム(2)〈モデルの作成〉
23. ビジネス・ゲーム(3)〈競争力の決定構造〉
24. ビジネス・ゲーム(4)〈市場調査、経営分析〉



科目名	民法	担当者名	武川幸嗣
-----	----	------	------

講義の目標	<p>民法とは、主として種々の取引、相続、あるいは事故等に基づいて生じる市民間の財産関係を規律する法律であり、我々の社会生活における経済活動に関する法律の中で最もベーシックなものである。本講義では、こうした民法の全体像についての基本的理解を促すことを目的とする。なお、講義に際しては、条文を順番に逐条解説していくという手法は採らず、社会生活上の出来事に民法が具体的にどう関わっているかを平易に説きたい。</p>		
講義概要	<p>民法の体系ないし編成にあまり固執せず、売買を中心とする取引の流れの中で民法がどのように関わってくるか、他人に損害を負わせた場合、どのようにして責任が生じるか、担保とは何か、その他取引上のトラブルに関する諸解決などについて順次扱っていく。</p>		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>米倉 明『プレップ民法』（第三版）弘文堂 池田真朗『民法への招待』税務経理協会</p>	
評価方法	<p>定期試験により評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>履修条件は特に設けないが、民法に関心の深い者の履修を望む。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. ガイダンス—民法とは何か、一年間通して何を学ぶか—
2. 契約の成立および成立過程における諸問題
3. 契約自由の原則とその修正
4. 契約の履行過程（売買を中心に） 1. 特定、同時履行の抗弁権
5. 契約の履行過程 2. 所有権移転と不動産の登記
6. 債権譲渡、契約当事者の交代
7. 契約不履行に対する法的処理 1 不履行の態様と履行の強制
8. 契約不履行に対する法的処理 2 損害賠償
9. 契約不履行に対する法的処理 3 代金減額と解除
10. 危険負担と契約不履行の関係
11. 不法行為責任 1 一般不法行為責任
12. 不法行為責任 2 特別不法行為責任
13. 担保とは—総論—
14. 物的担保概説
15. 人的担保概説
16. 責任財産の保全
17. 取引の有効性に関する問題 1 無能力者制度
18. 取引の有効性に関する問題 2 法律行為の有効要件
19. 取引の有効性に関する問題 3 意思表示
20. 取引の有効性に関する問題 4 消費者の保護
21. 取引の有効性に関する問題 5 代理
22. 第三者保護について
23. 時効制度概説
24. 年間のまとめ

科目名	商 法	担当者名	坂 本 延 夫
-----	-----	------	---------

講義の目標	最近の重要な判例・立法・理論を通じての株式会社法の平易な理解。		
講義概要	本年度の講義内容は、商法のうち株式会社法を中心に行う。講義方法は、受講生が会社法の理論と実務の双方について理解しうるよう努める。商法のうち特に会社法を講義内容として選んだのは、法学部以外の学生さんが、将来、会社企業に就職した場合、そこで生じる可能性の高い法律問題の解決について、目安となるような知識を習得してもらいたいからである。		
使用教材	テキスト	・山村忠平・坂本延夫・中村 建編著『要説会社法』〔三訂新版〕、嵯峨野書院	
	参考文献	追って指示する。	
評価方法	原則として二度の筆記試験をもって評価する。		
受講者に対する要望など	意欲的な受講を期待する。		

年 間 授 業 計 画	1. 株式会社の経済的意義〔Ⅰ〕
	2. 株式会社の経済的意義〔Ⅱ〕
	3. 会社の法概念
	4. 会社の権利能力
	5. 会社の種類
	6. 株式会社の意義〔Ⅰ〕 1. 株式 2. 有限責任 3. 資本
	7. 株式会社の意義〔Ⅱ〕 1. 株式会社の弊害 2. 社会的責任
	8. 株式会社の設立〔Ⅰ〕
	9. 株式会社の設立〔Ⅱ〕
	10. 株式〔Ⅰ〕
	11. 株式〔Ⅱ〕
	12. 補講
	13. 株式会社の機関〔Ⅰ〕——所有と経営の分離
	14. 株式会社の機関〔Ⅱ〕——機関の分化と権限の分配
	15. 株式会社の機関〔Ⅲ〕——株主総会
	16. 株式会社の機関〔Ⅳ〕——取締役会・代表取締役
	17. 株式会社の機関〔Ⅴ〕——監査役
	18. 株主の代表訴訟
	19. 株式会社の資金調達〔Ⅰ〕——新株発行〔Ⅰ〕
	20. 株式会社の資金調達〔Ⅱ〕——新株発行〔Ⅱ〕
	21. 株式会社の資金調達〔Ⅲ〕——社債
	22. 補講〔Ⅰ〕
	23. 補講〔Ⅱ〕
	24. 補講〔Ⅲ〕

科目名	政治学総論	担当者名	杉田孝夫
-----	-------	------	------

講義の目標	現代社会の政治構造を理解するための諸概念と視点を学ぶ。		
講義概要	前期は、政治社会の構造を理解するために必要な諸概念について概説する。後期は、いくつかの具体的な局面から現代日本の政治構造の特質と問題を論ずる。		
使用教材	テキスト	高島通敏『政治学への道案内』三一書房	
	参考文献	高島通敏『生活者の政治学』三一書房	
評価方法	出席率70%以上を評価の対象とする。 前期末および後期末に試験をおこなう。		
受講者に対する要望など	講義予定となっている項目について、テキストの該当箇所をあらかじめ読み、問題意識をもって受講してほしい。質問は、大いに歓迎する。また評価の資料とする。		

年 間 授 業 計 画	1.	1. 政治学は何の役に立つ?……政治学と政治
	2.	2. 国家とナショナリズム (1) 近代国家の特質
	3.	(2) 日本人であること
	4.	3. 権力と支配 (1) 政治権力 (2) 権力の構造化
	5.	(3) 権威と支配 (4) 支配の状況化
	6.	4. リーダーシップ
	7.	5. シンボルとイデオロギー
	8.	6. 政治意識と政治的人間 (1) 政治意識
	9.	(2) 政治的人間
	10.	7. 民主主義 (1) 意味と力学
	11.	(2) 歴史と類型
	12.	8. 議会主義 (1) 議会とは何か
	13.	(2) 近代議会主義と国民代表制
	14.	9. 大衆社会と政治 (1) 運動としての政治
	15.	(2) 現代政治のダイナミックス
	16.	(3) 現代民主主義と全体主義
		(4) マスメディアと政治
	17.	10. 日本の政治 (1) 日本の政治風土
		(2) 近代日本の政治
	18.	(3) 戦後日本の政治構造
		(4) 戦後日本の政治過程
	19.	(5) 生活と政治
		—政治的なものと非政治的なもの—
	20.	(6) 女性と政治
21.	(7) 家庭と政治	
22.	(8) 福祉と政治	
23.	(9) 経済の論理と政治の論理	
24.	(10) 安全保障と政治	

科目名	ドイツ語Ⅱ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>独Ⅱ（文法）／主に作文練習を通して、一年次に習得した文法を確認し、より確かなものにして行く。</p> <p>独Ⅱ（講読）／ドイツ語の読解力を身につける。</p> <p>独Ⅱ（L）／LL 機器を用いて、主に聞き取り能力を養成する。</p> <p>独Ⅱ（総合）／ドイツ語の運用能力（読む・書く・聞く・話す力）を総合的に養成する。</p> <p>独Ⅱ（講読S）／独Ⅱ（総合）と同じ教材を使い、独Ⅱ（総合）の授業を補足し、理解を深める。</p>	
講義概要	<p>独Ⅱ（文法）／日本人教員担当。作文練習を通して、ドイツ文法に関する知識をより確かなものにして行く。</p> <p>独Ⅱ（講読）／日本人教員担当。様々なドイツ語の文章に触れ、読解力を身につける。</p> <p>独Ⅱ（L）／日本人教員のもとで、ビデオ、カセット等を用いて主に聞き取りの訓練をする。</p> <p>独Ⅱ（総合）／週2時間同じネイティブ教員のもとで、ドイツ語運用能力をバランスよく身につける。少人数クラスで、授業はすべてドイツ語で行われる。</p> <p>独Ⅱ（講読S）／日本人教員が担当。独Ⅱ（総合）の授業で残った疑問点の解明、文法事項の説明が中心となる。</p>	
使用教材	テキスト	<p>独Ⅱ（文法）、独Ⅱ（講読）／担当教員により異なるので、教科書販売所の掲示をよく見ること。</p> <p>独Ⅱ（L）／毎時間コピーで配布する。</p> <p>独Ⅱ（総合）／Stufen international 1、2</p> <p>独Ⅱ（講読S）／Stufen international 1、2</p>
	参考文献	各教員から必要に応じて指示がある。
評価方法	<p>独Ⅱ（文法）、独Ⅱ（講読）／担当教員により若干異なるが、定期試験、授業中の小テスト、宿題の提出状況、出席状況などを総合的に判断して評価する。</p> <p>独Ⅱ（L）／前・後期定期試験の結果と出席状況により評価。</p> <p>独Ⅱ（総合）／各課が終了するごとに行われる筆記試験（年7回の予定）と、年度末に行われる口頭試験、平常点（普段の授業への貢献度等）により評価。</p> <p>独Ⅱ（講読S）／各課が終了するごとに筆記試験（年7回の予定）を行う。評価は独Ⅱ（総合）と同一評価。</p>	
受講者に対する要望など	<p>上述した6コマの中から2コマを選んで履修することになるが、履修登録前に必ず所属学部の教務主任、およびドイツ語学科教務委員に相談すること。</p>	

科目名	フランス語Ⅱ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の知識を深め運用能力をつけます。	
講義概要	第一回目に担当者から説明があるので、必ず出席して下さい。	
使用教材	テキスト	各担当者による。
	参考文献	参考書については、担当者に随時相談して下さい。
評価方法	評価方法については、各担当者から説明があります。	
受講者に対する要望など		



科目名	ドイツ語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	II A（読解練習＝ノンフィクション） II B（読解練習＝フィクション）			/ドイツ語Ⅰで修得したドイツ語の基礎知識を応用し、辞書さえ使用すれば、大方のドイツ文の内容を正確に読み取れるだけの読解力を養成します。
	II C（口頭練習）			/基本単語を使用して、何とか自分の意思をドイツ語で相手に伝えられる能力を養成することを目標とします。
講義概要	II A（読解練習＝ノンフィクション） ドイツの政治・経済・社会・地誌などに関する文章やエッセイ等、いわゆるノンフィクションをテキストとして使用します。	II B（読解練習＝フィクション） 小説・童話・説話・小話などのフィクションを教材とします。	/最初に文法の基本事項の復習と未修事項の学習を行い、その後テキストの読解に入ります。 はじめは文法的な解説を充分に行い、ドイツ文の構造を理解させることに力点を置きます。それから徐々にテキスト内容の全体的な把握に授業の重点を移し、読解の速度を上げていきます。	
使用教材	テキスト	各担当者の使用テキストは、教科書販売所の掲示を見て下さい。		
	参考文献	・独和辞典（中型のもの）、ドイツ語Ⅰで使用したテキスト。		
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。			
受講者に対する要望など	練習が主体の授業ですから、必ず出席して積極的に発言して下さい。			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 第1週は、テキストの内容の紹介と今後の授業の進め方、速度などについて話します。また1年次に使用したテキスト（各自持参）及び既修・未修文法項目の確認と、基本的な文法事項の復習を行います。
2. 第2週～7、8週は、文法の復習、未修事項の学習を行います。
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
8. 第8、9週以降は、ドイツ語ⅡA、Bではテキストの読解練習に、ドイツ語ⅡCでは口頭練習に入ります。
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	フランス語Ⅱ（二外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	一年次に学んだフランス語の基礎知識を復習しながら、フランス語の多様な表現を学びます。		
講義概要	フランス語Ⅱ（二外）は、二人の担当者がそれぞれ週1コマずつ開講しますので、自由を選んで履習するようにして下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	参考書については、担当者に直接相談して下さい。	
評価方法	評価方法については、各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	授業の進め方などについて説明がありますので、第一回目には必ず出席して下さい。		

科目名	スペイン語Ⅱ（総合）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	スペイン語Ⅰ（総合）の既修者を対象にした授業である。1年次にひきつづいて、テキストの第6課以降を学ぶ。二つの過去形（点過去と線過去）および、現在分詞、過去分詞、接続法の活用とその使い方がポイントである。		
講義概要	テキストにそって、第6課以降を学ぶ。		
使用教材	テキスト	<i>¡Hola, amigos!</i> （芸林書房）	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅱ（会話）との同時履修を望む。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト第6課から9課まで</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13. テキスト第10課から第12課まで</li> <li>14.</li> <li>15.</li> <li>16.</li> <li>17.</li> <li>18.</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> </ol>		

科目名	スペイン語Ⅱ（会話）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	スペイン語Ⅰ（会話）の二年目の授業である。スペイン語Ⅱ（総合）の進度にあわせて、より高度な会話文（過去形と分詞、接続法が中心となる）を練習し、日常生活に必要な最小限の表現法を身につける。
-------	---

講義概要	スペイン語Ⅱ（総合）と同じテキストを使い、第6課以降の文法事項の進度にあわせて、練習をおこなう。
------	--

使用教材	テキスト	<i>i Hola, amigos!</i> （芸林書房）
	参考文献	

評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。
------	-----------------------------------

受講者に対する要望など	スペイン語Ⅱ（総合）との同時履修を望む。
-------------	----------------------

年間授業計画	1. テキスト第6課から第9課まで（前期）
	2.
	3.
	4.
	5.
	6.
	7.
	8.
	9.
	10.
	11.
	12.
	13. テキスト第10課から第12課まで（後期）
	14.
	15.
	16.
	17.
	18.
	19.
	20.
	21.
	22.
	23.
	24.

科目名	中国語Ⅱ（総合）	担当者名	秦 敏
-----	----------	------	-----

講義の目標	<p>日常の中国語会話を正確に聞きとれるようにし、多様な状況、場面に応じて適切な会話表現が可能になるように指導する。また辞書を使って平易な文章を作成し、基本的な単語が会話で使えることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義は理解し得る範囲内で中国語を行う。また中国の文化、習慣、ものの考え方などを紹介したいと考えています。</p>		
使用教材	テキスト	相原 茂・戸沼市子・張 雲明『北京カタログ』朝日出版社	
	参考文献		
評価方法	<p>授業中の学習態度、前後期とも筆記試験と出席回数によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>予習と復習をすることを望みます。</p>		

科目名	中国語Ⅱ（講読）	担当者名	張 継 濱
-----	----------	------	-------

講義の目標	中国語の読解力を向上させることがこの授業の目標です。		
講義概要	授業では中国語を通して、日中両国文化の比較について勉強します。読解力や聴解力等中国語の理解力の養成を主とするが、必要に応じて文法も学習するし、表現力の練習もおこないます。		
使用教材	テキスト	第一回の授業で指示します。	
	参考文献	小学館『中日辞典』	
評価方法	試験、平常点、出席等を考慮し総合的に判断します。		
受講者に対する要望など	予習・復習を行うこと。		
年間授業計画	第一回の授業で説明します。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	青木 雅明
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>経済学の見方、考え方を英語で読んで理解する Skill training です。過去の経験からみると、英語能力養成90%、経済学10%の教育時間配分となっています。「英語の時間」と理解するほうがよいでしょう。</p>		
講義概要	<p>下記テキストの第1章（自動車産業と経済学）、第36章（成長と生産性）または第39章（代替的経済体制）を全員で読み進めます。章毎に予めコピーを渡します。必ず英和辞典を引いて予習してから出席して下さい。基本的な経済学用語を記憶し、既に学習した部分は意味を考えながら3回以上読むように習慣づけて下さい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Joseph E. Stiglitz, <i>ECONOMICS</i>, 2nd ed. W. W. Norton &amp; Company, Inc., 1997.</p>	
	参考文献	<p>中型英和辞典（なるべく新しい版のもの）</p>	
評価方法	<p>授業における意欲と到着度、期末テストの得点、出席率を総合評価します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>遅刻、私語は禁止、予習は必須。欠席は最小限、復習は最大限。毎回英和辞典持参のこと。</p>		



科目名	外国書研究 I	担当者名	井出 健二郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	<p>テレビ・新聞の経済記事では最近、原語（カタカナ）で綴られている用語が多くなりました。また、これまでの講義（経済学 Economics、経営学 Management、会計学 Accounting）の中には、皆さんに是非知ってもらいたい専門の用語や特有の言葉があります。これらは、どのような意味をもち、英語ではどのように呼ばれる（呼ぶ）のでしょうか？</p> <p>本講義では、皆さんが受験の時に英単語を覚えたように、“ビジネスの英単語”をマスターしてもらいます。そして、文章がスラッと読めるように習得していきます。</p>		
講義概要	<p>経済学 Economics、経営学 Management あるいは会計学 Accounting に関する入門用の外書をもとにして、読み進めていきます。進行としては以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) テクニカルタームについて皆さんにあらかじめ調べてもらいます。</li> <li>(2) テクニカルタームについて解説していきます。</li> <li>(3) それをもとにして、英文を皆さんに解釈してもらいます。</li> <li>(4) その解釈されたものについて、必要とあれば補足・修正の説明を行なっていきます。</li> </ol>		
使用教材	テキスト	Economics、Management あるいは Accounting の入門書を取りあげます。テキストを特に指定せずに、プリントを配布していきます。	
	参考文献	特に、経営経済の英書をあつかいますので、手もとに英和の経済・経営・会計用語辞典などがあると、予習や講義の理解のときに役立つものと思われれます。 (そのいくつかについては、開講時に紹介していきます。)	
評価方法	<p>定期試験（前期テスト・後期テスト）、出席、レポートを総合評価していくつもりです。評価の配分としては、試験40%、出席50%、レポート10%を予定しています。（また、外書の輪読という形式のため、通常点をプラスしていきます。）</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけ皆さんの積極的な姿勢を期待しています。コミュニケーションをはかり、楽しくそして満足の得られるものにしていきましょう。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 今後の講義にあたってのガイダンス
  2. The Importance of Management
  3. Management Defined
  4. Management Decision Making
  5. The Basic Functions of Management
  6. Planning
  7. Organizing
  8. Directing
  9. Controlling
  10. Management Responsibilities
  11. Sources of Knowledge about Management
  12. 前期のまとめ
- 備考 テキストの変更の時は、上記が大幅に変わることになります。
13. Accounting Vocabulary 1
  14. Accounting Vocabulary 2
  15. What Is Accounting?
  16. Users of Accounting Information
  17. The Development of Accounting Thought
  18. Types of Business Organizations
  19. Accounting Concepts and Principles
  20. The Accounting Equation
  21. Accounting for Business Transactions
  22. Evaluating Business Transactions
  23. Financial Statements
  24. 後期のまとめ
- 備考 テキスト変更の場合、予定には変動があります。

科目名	外国書研究 I	担当者名	伊藤 為一郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	公共部門の経済に関する論文を読み、テクニカルタームを学びながら内容の理解を深める。		
講義概要	内容を理解するため必要に応じて講義する。論文を輪読しながら議論する。		
使用教材	テキスト	プリント教材	
	参考文献		
評価方法	期末試験の結果に平常点を加味して評価する。		
受講者に対する要望など	予習をしておくこと。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	伊藤正昭
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>1年間という短い期間で成果をあげるのはなかなか難しいが、使用予定のテキストによって、外国の経済文献に接することに慣れ、「経済学をとおして英語を学ぶ姿勢」を身につけることを目標としたい。また、経済学をすでに学んでいても、英語で書かれた経済学の本を読むには相当の時間と慣れが必要であるから、その機会の出発点としたい。</p>	
講義概要	<p>使用テキストは未定であるが、たとえば、下記のような本を使用して、入門レベルの「経済学」あるいは「経済政策」を学びたい。</p> <p>G. F. Stanlake ; <i>Introductory Economics</i>, Longman, 1993.</p> <p>Mauice Mullard ; <i>Understanding Economic Policy</i>, Routledge, 1992.</p> <p>また、機会をみて、<i>Financial Times</i> (新聞)、<i>Economist</i> (雑誌) などから、大きな問題になっている経済記事を取りあげて読んでみたい。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長谷川啓之編『英和・和英 経済用語辞典』富士書房</li> <li>・長谷川啓之編『英和経済用語辞典』富士書房</li> </ul>
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。出席もポイントに加えることもあります。</p>	
受講者に対する要望など	<p>毎回、英和辞書を持参してください。</p>	

1. ガイダンス (講義の進め方についての説明)
2. The Politics of Economic Policy Making(1) *Introduction, Autonomy and Constraints in Economic Policy*
3. The Politics of Economic Policy Making(2) *Rationalist Model*
4. The Politics of Economic Policy Making(3) *The Institutional Model*
5. The Politics of Economic Policy Making(4) *Political Economic Model*
6. Liberal Individualism and Market Economics(1) *Introduction*
7. Liberal Individualism and Market Economics(2) *The Concept of the Individual*
8. Liberal Individualism and Market Economics(3) *The Theory of Demand The Theory of Markets*
9. Liberal Individualism and Market Economics(4) *The More Integrated Markets*
10. Liberal Individualism and Market Economics(5) *The Concept of Market Failure*
11. Liberal Individualism and Market Economics(6) *The Problem of Spillover Effects*
12. 前期のまとめ
13. Market Economics(1) *Introduction ; Market Principles*
14. Market Economics(2) *Labour Market Economics ; The Dual Labour Market*
15. Market Economics(3) *Market Economics ; Macro Approach*
16. Market Economics(4) *Supply Side Economics*
17. The Political Implications of Market Liberalism(1) *Problems of the Political Market*
18. The Political Implications of Market Liberalism(2) *The Classical Model of the Minimal State*
19. The Political Implications of Market Liberalism(3) *The Political Agenda for a Market Liberal State*
20. The Political Implications of Market Liberalism(4) *Markets and the Problem of Order*
21. The Economics of Keynes and Keynesianism(1) *Introduction ; The Meaning of Keynesianism*
22. The Economics of Keynes and Keynesianism(2) *The Challenge of Keynes*
23. The Economics of Keynes and Keynesianism(3) *Keyensianisms ; The Challenge to Market Principles*
24. まとめ

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	氏原茂樹
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>①会計情報に関する英文の記事や論文の読解力をつける。</p> <p>②英語の会計用語と構文に親しむ。</p> <p>③欧米と我国の会計情報の比較研究の展開。</p>	
講義概要	<p>①毎回テーマにそって、一定の範囲を輪読する。</p> <p>②主要な概念、問題点については、その都度解説する。</p> <p>③受講者は、その時に割り当てられた順番で訳す。</p>	
使用教材	テキスト	“Accounting The Easy Way”、その他の配布資料による。
	参考文献	<p>“International Accounting Standard”</p> <p>『経済用語辞典』</p> <p>『会計用語辞典』</p>
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価する。</p> <p>①定期試験</p> <p>②学習意欲と学習成果</p> <p>③出席状況</p>	
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない</p> <p>②予習・復習をする。</p>	

1. What Is Accounting?	The Art of Recording.
2. Accounting Information	The Financial Status
3. What Are Assets?	Money Value, etc.
4. The Value of Items	Monetary Principle
5. Accounting Equation	Assets = Liability + Capital
6. What Are Profit?	Revenue - Expenses = Profit
7. Recording Revenue	A Result of the Sale
8. Recording Expenses	Cost of Doing Business
9. Capital	Permanent Capital, Temporary Capital
10. Financial Statements	Income Statement, Balance Sheet, etc.
11. Income Statement	Listing of the Revenue and Expenses
12. Statement of Capital	The Proprietor's Ownership
Balance Sheet	Financial Position of a Business
13. Classifying Assets	Current Assets, Intangible Assets, etc.
14. Classifying Liabilities	Current or Liabilities
15. Business Transactions	Related to Business Activities
16. Kinds of Information	Date, Explanation and Amount
17. The Ledger Binder	A Recording of Account
18. Standard Form of the Account	The "T" Account, etc.
19. Ledger Accounts	Showing of Balance
20. Recording Asset Changes	Calculating of Asset Accounts
21. Recording Changes	In Liability Accounts, etc.
22. Recording Transactions	In Temporary Capital Accounts, etc.
23. Double-Entry Accounting	Rules and Concepts
24. Standard Form for the Ledger Account	Debit and Credit
Recording Business Transactions	Journal and Ledger Account

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	内 倉 滋
-----	--------	------	-------

講義の目標	<p>本講義では、会計学の「発展史上最も重要な文献である」(土岐政蔵)とされている、オイゲン・シュマーレンバッハ (Eugen Schmalenbach, 1873/8/20-1955/2/20) の「動的貸借対照表 (論)」という文献を取り上げ、その英語版 (Schmalenbach, Eugen (Translated by G. W. Murphy and Kenneth S. Most) ; <i>Dynamic Accounting</i>, London: Gee &amp; Company (Publishers) Limited, 1959.) の講読・研究を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本講義が取り上げる上記文献は、「近代会計学の基調であるいわゆる動的会計思考を最初に体系化した古典的文献のひとつであり、いまや世界的規模における学界の共有財産である」(戸田博之)と評されているものである。それゆえ本講義では、単に“テキストの解読”に終わることなく、その内容紹介をも(講義形式で)試みる予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>上記文献(英語版)の個人での入手は困難であるため、すべてこちらで用意します。</p>	
	参考文献	<p>上記文献の解説書は数限りなくあるのですが、その1つとして次のものを推薦します(解説書というよりも、その核心的な考え方を現代の制度会計の問題の中で明らかにした本です) ; 新田忠誓、『財務諸表論究—動的貸借対照表論の応用—』、中央経済社、1995年3月。なお、次の邦訳もありますが、すでに絶版となっております ; エ・シュマーレンバッハ著、土岐政蔵訳、『十二版・動的貸借対照表論』、森山書店、1959年11月。</p>	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また(受講生の理解度を知る目的からも)何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講義科目の主役は、担当者である私ではなく、受講生である皆さん方です。そのことへの認識だけは、お願いしておきます。</p>		



1. The Historical Development of Annual Accounts
2. The Main Types of Balance Sheets
3. The Objects of Dynamic Accounting
4. Principles and Construction of the Dynamic Balance Sheet : Principles
5. Principles and Construction of the Dynamic Balance Sheet : The construction of results accounts
6. The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of revenue
7. The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of expenditure  
(a)–(c) (2)
8. The Nature and Treatment of Revenue and Expenditure : The nature and treatment of expenditure  
(c) (3)–(e)
9. Valuations Independent of Price Variations : The Rule of Caution
10. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (a)
11. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (b)–(c)
12. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (d)
13. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for tangible fixed assets (e)–(f)
14. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for intangible assets
15. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for Stocks
16. Valuations Independent of Price Variations : Accounting for debtors and creditors
17. Valuations Independent of Price Variations : Reserves, provisions and adjustment Accounts (a)
18. Valuations Independent of Price Variations : Reserves, provisions and adjustment Accounts (b)–(c)
19. Valuations Independent of Price Variations : Special types of expense
20. The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on the valuation of fixed assets
21. The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on the valuation of stocks
22. The Influence of Price Changes on Valuations : The effect of price changes on other balance sheet valuations
23. Separating Operating Factors from External Factors in the Profit and Loss Account
24. Balance Sheets for Special Purposes

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	遠藤敏喜
-----	--------	------	------

講義の目標	英語で書かれた文献を読むことに慣れることが目標ですが、数学の知識と数学的思考力も身につけたい。	
講義概要	経済学あるいはコンピューターサイエンスのための数学のテキストを、受講生の輪読形式で読み進めていきます。随時、私が補足や訂正を加えたり、関連する内外の最新的话题を紹介します。	
使用教材	テキスト	未定（テキストのコピーを配布します）
	参考文献	講義中に適宜指示します。
評価方法	講義に対する取り組み方と理解度で成績を評価します。状況によっては、試験の実施やレポートを課すこともあります。	
受講者に対する要望など	無断欠席は厳禁です。	

科目名	外国書研究 I	担当者名	遠藤 信
-----	---------	------	------

講義の目標	現代の著名な科学者による一般読者向けの本と講演（数式は一切ない）を講読して、数学と自然科学の歴史をたどり、現代の宇宙像、生命とは何かという問題、人類の未来について、必要な解説を加えながら考えることが、この講義の目標である。	
講義概要	<p>(1) 宇宙には始まりがあるのか。宇宙はどこから来て、どこへ行こうとしているのか。宇宙像の変遷をたどり、現代の宇宙像がどのようなものかを学ぶ。</p> <p>(2) 生命について考える。何故、この惑星（地球）に生命が現れたのか。生命の起源と生命が未来に向かってどのように発展するのかについて考察する。</p>	
使用教材	テキスト	<i>A BRIEF HISTORY OF TIME LECTURES BY S. W. HAWKING</i>
	参考文献	
評価方法	平常点と出席状況とテストの成績を総合して、成績を評価する。	
受講者に対する要望など	<p>予習を必ずしてくる事。</p> <p>欠席をしないこと。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 前期は Our Picture of the Universe
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
- 9.
- 10.
- 11.
- 12.
13. 後期は Life in the Universe
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	外国書研究 I	担当者名	岡下 敏
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>社会に出て英文にとまどいを感じることなく、正しく内容を把握する力を身につけることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>新聞および雑誌から適当な記事を取り上げ、それを各人が順番に訳してゆく方法で進める。教材は予めコピーを配布する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>教室で相談の上きめる。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>教室での訳と期末試験とを総合して評価する。出席の様子も加味する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>予習、復習を十分に行うこと。欠席しないこと。</p>	

科目名	外国書研究 I	担当者名	岡田 博
-----	---------	------	------

講義の目標	Wilfred Owen 『Transportation and World Development』の第7章をテキストとして、訳を主として読んでいき、読解力をつけるとともに、交通と世界経済との関連について理解を深めることを目標におく。		
講義概要	交通の世界システムへの展望をテーマとしたオーエンの上記テキストを読んでいく。毎週指示された範囲のところを予め訳してきて、それを提出させ、授業を進めていく。		
使用教材	テキスト	・ Wilfred Owen; <i>Transportation and World Development</i> , The Johns Hopkins Univ. Press, Baltimore.	
	参考文献		
評価方法	授業中の発表と、定期試験の成績で評価する。		
受講者に対する要望など	授業には欠席しないこと、欠席の多い人には単位を与えない。		
年間授業計画	オーエンの『Transportation and World Development』の第7章を読んでいく。		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	岡村 国和(A)
-----	--------	------	----------

講義の目標	<p>本講義の目的は、将来履修する専門科目を外国語文献を用いて研究しようと志す学生諸君のためにその方法を準備することにある。さしあたり経済指標の読み方や金融記事の読み方を習得するため、実際に経済新聞や雑誌などを輪読したあとそれについて討論を行うというステップを繰り返し行うことを予定している。また新聞・雑誌などからあるデータが与えられたとき、その解説・分析を自力で考へるには最低限の専門用語の知識が前提とされるので、この習得も本講義の目標の一部である。</p>		
講義概要	<p>本講義では主として英国経済の現状と将来を考える。まずは用語や分析方法などの道具の準備を行い、ついで実践的な段階に進むために英国の経済新聞「Financial Times」を輪読しつつ、一般的な経済指標の読み方や分析用具の検討を行う。英国経済はEC統合・単一通貨問題・その他統一に際しての軋轢など多くの点で注目し得る材料の宝庫である。経済だけでなく法律・政治・文化にまでまたがる錯綜した問題を抱えているので、多面的な視点から問題を捉えることもできるしまたそうしなければならない。したがって、経済的側面はその一部であるが最も重要な側面であることも否定のしようがない事実である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Financial Timesを中心に金融・経済記事の読み方に関する文献を使用する。何冊か用意した文献の中から受講者と相談の上、最終的にテキストを決定する。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>輪読の際の個々人の報告を中心とし、随時随時試験を行ない、これに基づいて最終評価を行う。場合によっては夏と冬にレポートを課すこともありうる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日経新聞などの経済誌の読み込みなどに労を厭わない学生を歓迎する。</p>		

科目名	外国書研究 I	担当者名	岡村 国和(B)
-----	---------	------	----------

講義の目標	<p>本講義の目的は、将来履修する専門科目を外国語文献を用いて研究しようと志す学生諸君のためにその方法を準備することにある。さしあたり経済指標の読み方や金融記事の読み方を習得するため、実際に経済新聞や雑誌などを輪読したあとそれについて討論を行うというステップを繰り返し行うことを予定している。また新聞・雑誌などからあるデータが与えられたとき、その解説・分析を自力で行うには最低限の専門用語の知識が前提とされるので、この習得も本講義の目標の一部である。</p>		
講義概要	<p>まず金融経済の一般的用語を理解し、英国金融業の概括と英国経済の構造的特徴を概観する。次いで英国の産業構造、産業政策についてその基礎を検討する。英国経済の真の姿を理解するには多面的な考察が必要であるが、本講義では主として金融的側面から見た英国経済を対象とするので全体を網羅しているわけではないことを銘記して欲しい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>さしあたり M. J. Artis, The UK Economy, 14th ed. を中心として金融・経済に関する文献を使用する。上記テキストは暫定的なものであるので、受講者と相談の上変更することも可能である。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>輪読の際の個々人の報告を中心とし、随時臨時試験を行ない、これに基づいて最終評価を行う。場合によっては夏と冬にレポートを課することもありうる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日経新聞などの経済誌の読み込みなどに労を厭わない学生を歓迎する。</p>		



科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	奥山正司
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>21世紀を目前にして、本格的な高齢社会をむかえようとしている日本社会において、高齢化や高齢者に関してさまざまな視点から論ぜられるようになってきている。こうした中で、特に寝たきり老人や痴呆老人など要介護老人を対象とした課題が多い。それは、介護にかかわる福祉や医療を今後どのようにしていくかというきわめて重要な課題である。一方、健康で活動的な高齢者が老年期をいかに生活していくかも重要な課題であり、本年度はそれらの課題について、考える力を身につけさせる。</p>	
講義概要	<p>アメリカ側と日本側の研究者が協力して作成した「日本の高齢化や高齢者についての小冊子」を輪読し、さらには、それぞれの課題について、講義と討論を併用し、多少なりとも専門用語や課題について深めていくことにする。</p> <p>講義の内容は、日本において退職した高齢者ではなく、人生の最後まで現役である高齢者及びそれをめざしている高齢者を対象とし、かつ生産的な高齢者として活動していくためには、どのような方策が考えられるかについて、深めていく。</p>	
使用教材	テキスト	<p>"Productive Aging and the Role of Older People in Japan: New Approaches for the United States by Scott A. Bass (1994) The Japan Society and the International Leadership Center on Longevity(United States) at the Mount Sinai School of Medicine, an affiliate of The City University of New York.</p>
	参考文献	
評価方法	<p>予習、復習、発表、出席を重視する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>必ず予習をしてくること。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 教科書の概要についての説明
2. 日本の高齢者についての概説
3. 生産的高齢者及び高齢化とは
4. 将来への問題についての心構え
5. ヘルスケア
6. 文化と社会
7. 長寿（生きること）とその哲学
8. 高齢化社会
9. 高齢化社会の経済的な意味
10. 雇用・労働・年金
11. なぜ日本の高齢者は働くのか
12. 雇用政策
13. 伝統的な産業及び経済にみられる高齢者の貢献度
14. 高齢者の生きがいと役割
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	香取 徹
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>21世紀は、国際的という言葉の意味がなくなります。それくらい人々が世界中を回り、行き来するようになるからです。そのときの共通語は少なくとも日本語ではないでしょう。1つの共通語としての英語に触れる機会を多くもつこと大変大切なことです。この講義では、経済関連の内容にこだわらず、英語を読むことから、書くことへ、つまり英語を使うことを心がけています。</p>		
講義概要	<p>コンピューターを使用します。インターネットとe-mailを利用して、世界中の学生と英語で交信し、話し合うことやCNNのニュースを聞きながら読んで、コメントするなどいろいろやってみようと思います。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献		
評価方法	<p>e-mailによって送信の様子はわかりますので、これが出席カードのようなものです。また、インターネットを利用する場合には、毎回課題を出します。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	理論経済学を中心に、できるだけ大量の英文の読破を目指したい。経済学の重要性は近年非常に高まってきており、その学習においては翻訳書に頼るだけでは不十分で、原書で読むことの必要性が増している。受講者は、途中で脱落することなく毎週必ず出席し、経済学の用語に早くなれて研鑽（ケンサン）を積んでほしい。昔の賢人いわく「努力しない者が成功することは、ラクダが針の穴を通るよりも難しい」	
講義概要	米国の標準的な英語の経済学テキストの購読	
使用教材	テキスト	Olivier Blanchard, "Macroeconomics" 1997
	参考文献	
評価方法	平常の出欠と予習を重視し、さらに前期と後期の二回の試験を加味して評価する。	
受講者に対する要望など		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	齋藤 正章(A)
-----	--------	------	----------

講義の目標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるのとはほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居るかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感をますます強めさせるであろう。しかし、それらはあくまでも「他人の翻訳」であって自分のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われていることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解力の養成を目標としている。</p>	
講義概要	<p>使用するテキストは、標準的な経済学の教科書である。オールカラーで、イラストや3Dのグラフを駆使して読者の理解を助けるような工夫が随所になさされていて、初学者を読む気にさせる体裁となっている。</p> <p>次に授業の進め方であるが、英文や専門用語に慣れるために最初の数回はややスローペースとなる。しかし、読解力向上のためには量を読むことが必要なので、後半はハイペースで進めたい。1年間で教科書全体を（少なくとも8割位までは）カバーすることを目標とする。そのためにも予習は必須である。</p>	
使用教材	テキスト	SCHILLER, B. R; <i>ESSENTIALS OF ECONOMICS</i> 2nd. ed., McGrawHill, 1996.
	参考文献	
評価方法	前後期の試験結果に出席率を加味して評価する。	
受講者に対する要望など	辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。	

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	齋藤 正章(B)
-----	--------	------	----------

講義の目標	<p>外国語で書かれた良書は日本語で読めることが少なくない。最近では海外で出版されるのとほぼ同時に翻訳されるので、読解のための語学力はさして必要ではないと感じる向きも居るかもしれない。また、インターネットの急速な進展による翻訳支援ツールの普及はその感をますます強めさせるであろう。しかし、それらはあくまでも「他人の翻訳」であって自分のものではない。原著にある微妙なニュアンスは、数少ない例外を除いて翻訳では失われていることが多い。本講義では、原著で書かれている内容を真に自分のものとするための読解力の養成を目標としている。</p>	
講義概要	<p>テキストには経営全般（マーケティングや会計を含む）に関する、英語圏の大学で使用されている標準的なものを採用する。経営（マネジメント）に興味のある者やこれから勉強したい者にとってのよき基本書・入門書となろう。</p> <p>次に授業の進め方であるが、前半は、専門用語や基本概念の確認のためややスローペースで、後半は量をこなすためハイペースで進める予定である。</p>	
使用教材	テキスト	開講時に指示する。
	参考文献	
評価方法	前後期の試験に出席率を加味する。	
受講者に対する要望など	辞書を引く手間を惜しまないこと。授業には辞書を持参すること。	

科目名	外国書研究 I	担当者名	高橋 善四郎
-----	---------	------	--------

講義の目標	Patricia H. Werhane Adam Smith and His Legacy for Modern Capitalism, Oxford Univ. Press, 1991. 第4章 Individualism, the Social Order, and Institutions in Swith's Political Economy を講読する。	
講義概要	最新のアダム・スミス研究。スミスの「道德情操論」「法学講義」そして、「国富論」の三つの文献から、一貫したアダム・スミスの経済哲学を描こうとする、非常に興味深い文献である。	
使用教材	テキスト	テキストをコピーしたものを配布する。
	参考文献	
評価方法	期末試験の成績、出席状況、ノートの提出、授業における評価を総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	年間講義予定については、第1週の授業で指示する。	

科目名	外国書研究 I	担当者名	高松和幸
-----	---------	------	------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説や練習問題を解くことで習得を目指す。		
講義概要	組織を構成する諸種の体系を学習できるように配慮するとともに、前編を読まなくとも理解できるように解説を加えることにする。		
使用教材	テキスト	James G. March & Herbert A. Simon, <i>Organizations</i> , John Wiley & Sons. (本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、他にも必要に応じて他文献のコピーも配布する。)	
	参考文献		
評価方法	前期・後期の試験、並びにレポート・授業出席状況による総合評価。		
受講者に対する要望など	予習・復習をすること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. The literature of organization theory</li> <li>2. same as above</li> <li>3. same as above</li> <li>4. Some types of propositions</li> <li>5. same as above</li> <li>6. Taylor's Scientific management</li> <li>7. same as above</li> <li>8. Operational and empirical problems of classical administrative science</li> <li>9. same as above</li> <li>10. Theory of bureaucracy</li> <li>11. same as above</li> <li>12. Conclusion</li> <li>13. Motivation to produce</li> <li>14. The evoked set of alternative</li> <li>15. same as above</li> <li>16. Individual goals</li> <li>17. same as above</li> <li>18. The theory of organizational equilibrium</li> <li>19. same as above</li> <li>20. Employee participation: The participation criterion</li> <li>21. same as above</li> <li>22. Employee participation: The general model</li> <li>23. same as above</li> <li>24. conclusion</li> </ol>		



科目名	外国書研究 I	担当者名	立 田 ル ミ
-----	---------	------	---------

講義の目標	<p>アメリカでポピュラーな最新の本を利用し、インターネットの専門用語を解説することを目的とする。また、現在どのようなネットワークのソフトウェアが開発されているかを概説し、その利用法について実際にコンピュータを使って解説する。そして、ネットワークを用いて英語圏の大学のコンピュータサイエンス学科をアクセスし、どのような授業や研究が行われているかを調べる。さらに、コンピュータネットワークがどのように教育に利用されているかを調べ、Webのページを読むことにより、それらを研究することを目的として講義・演習を行う。</p>	
講義概要	<p>インターネットがどのようなものかを、最初に外書を読みながら講義する。また、インターネットを利用するためにはどのようなものが必要かを概説し、必要なソフトウェアについて講義とデモンストレーションを行う。次にインターネットを実際に利用するためのソフトウェアをダウンロードして、それらを実際に使って演習を行う。また、検索用エンジンを用いて、コンピュータサイエンス学科を検索し、どのような教育が行われているかを調査する。また、教育用ソフトウェアとしてどのようなものが開発されているかも調査する。さらに、音声、動画があるページを検索し、それらがどのような命令やソフトを用いているかを調べてもらう予定である。</p>	
使用教材	テキスト	Galen Grimes: <i>Guide to the Internet with Windows95</i> . QUE
	参考文献	Web上のページ
評価方法	<p>毎回電子メールでレポートを提出してもらい、それを50%の評価とする。 前期1回、後期1回の試験を行い、それを各25%の評価とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>プログラミング論および情報処理論を履修したか、現在履修の学生に限る。コンピュータの操作については特に説明しないので、コンピュータの基礎的知識のある学生に限る。出席をしない学生は単位を与えない。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. インターネットの概要  
インターネットとは
2. サービスプロバイダーについて  
サービスプロバイダーの現状
3. Windows95にTCP/ICクライアントをインストールする  
プログラムのインストール
4. PPP接続について  
PPP接続の方法
5. ダイアルアップ接続のための設定  
ダイアルアップ接続に必要なソフトウェア
6. インターネットセットアップ  
インターネット接続に必要なこと
7. Windows95 FTPのダウンロードと利用  
FTPを用いてソフトウェアをダウンロードする
8. Microsoft Exchangeの設定と電子メール  
電子メール、Microsoft Exchangeの利用
9. World Wide Webについて  
WWWとは
10. Microsoft Internet Explorerのダウンロードと利用  
Microsoft Internet Explorerを利用する
11. ブックマークの利用  
ブックマークの整理
12. 検索エンジンの利用  
いくつかの検索エンジンを使う
13. グラフィックファイルの利用  
グラフィックファイルの種類
14. 音声ファイルの利用  
音声ファイルの種類
15. Microsoft Internet Explorerのファイルの追加  
ファイルの追加方法
16. Netscapeのヘルパーの設定と利用  
ヘルパーの設定方法
17. Newsgroupの利用  
ニュースグループの設定と利用
18. Newsreaderの設定  
ニュースリーダーとは
19. グラフィックファイルの変換  
ファイルの変換とソフトウェア
20. チャットソフトの利用  
チャットソフトの設定と利用
21. Gopher  
Gopherとは
22. マルチユーザに対するテレネット  
テレネットとは
23. マイクロソフトネットワーク  
マイクロソフトネットワークとは
24. スクリプトを書く  
スクリプトの利用

科目名	外国書研究 I	担当者名	中村泰将
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>1. 英文の意味内容を的確に理解することが第一の目標である。</p> <p>2. 専門用語をできるだけ身につけることが第二の目標である。</p> <p>3. 辞書は、必ず引き、アクセントおよび発音記号にも気を配ることが第三の目標である。</p>		
講義概要	<p>講義内容：私の専門は会計学であるが、必ずしも会計領域に限定しない。</p> <p>本講義では、アメリカのビック・ビジネスの代表的な企業を選び、その経営戦略および成功への道りを英文で購読することによって、アメリカの企業・文化経済について広く学ぶことを目的とする。</p> <p>ファーストフード、自動車、ドリンク、航空機を代表するアメリカのトップ企業の歴史を、フルカラー写真、イラストを見ながら読み進められるテキストを用いる。</p> <p>授業の進め方：授業では、全員があらかじめ予習してきて、だれがあてられても良いように準備してくることが要求されます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>BUSINESS IN ACTION (アメリカのビック・ビジネスのすべて)</p> <p>William Gould 他 SEIBIDO</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業の発表内容、出席、前・後期のテストの総合点によって判定いたします。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書は、必ず毎回持参すること。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. The adventure of business
- 2.
- 3.
- 4.
5. Mcdonald's (マクドナルド社) (pp. 9-30)
- 5.
- 6.
- 7.
- 8.
9. FORD (フォード社) (pp. 31-57)
- 10.
- 11.
- 12.
13. COCA-COLA (コカコーラ社) (pp. 59-79)
- 14.
- 15.
- 16.
17. BOEING (ボーイング社) (pp. 81-101)
- 18.
- 19.
- 20.
21. その他、IBM、AT & T、Xerox 等を選びます。
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	外国書研究 I	担当者名	波形 昭一
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は、日本経済の近現代史について、外国の大学ではどのような教育がおこなわれているのかを英文講読を通じて学ぶことにある。テキストとして、W. J. Macpherson; <i>The Economic Development of Japan c. 1868-1941</i>, Macmillan Education Ltd, 1987 (本文70ページ) を使用する。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Introduction</li> <li>2. Growth and Structural Change</li> <li>3. The Tokugawa Background</li> <li>4. The Role of the State</li> <li>5. Factors in Demand</li> <li>6. Land and Agriculture</li> <li>7. Labour supply and the Labour Market</li> <li>8. Capital, Technology and Enterprise</li> <li>9. Conclusion</li> </ol>	
使用教材	テキスト	上記文献をプリントして配布する。
	参考文献	
評価方法	<p>前期・後期ともに試験をおこない、出席状況、積極性等を加味したうえで総合評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>日本経済と歴史に関心のある学生の参加を希望する。</p>	

科目名	外国書研究 I	担当者名	原 享
-----	---------	------	-----

講義の目標	<p>外国書研究は、外国語文献で経済の理論や現状分析を学ぶ。この外書では読解力にも力を入れるが、経済学を学ぶ方に重点をおきたい。本年は、アメリカ経済の現状に関する文献を抜粋して、理論や現状分析の方法を吸収する。</p>		
講義概要	<p>94年以降、アメリカ経済は、拡大している。その経済過程を重要な経済ファクターについて、現状の把握につとめる。ただ文章を読むだけではなく、表や図表による分析も学ぶ。また、学術用語や基礎理論もできるだけ解説していくようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>テーマに沿った英文論文をコピーし、配布する。</p>	
	参考文献	<p>その都度指示する。</p>	
評価方法	<p>評価は、下訳（講義中に修正する。評価はそれを重視する）とその清書のレポートによる。そのほか前期・後期の試験、授業中の発表などにもよる。</p>		
受講者に対する要望など	<p>必ず下読みをしてくること。</p>		

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	本田 浩邦(A)
-----	--------	------	----------

講義の目標	<p>80年代以降のアメリカ経済をテーマにしたモノグラフを素材にして、経済問題の争点を研究するとともに、英語文献の基本的な読解力、テクニカル・タームを修得する。</p> <p>経済学がむずかしいと感じている人にも理解しやすいように、また英語が苦手な人でも興味を持続できるように、具体例をおりまぜて、討論形式ですすめていきたい。</p>		
講義概要	<p>アメリカのマクロ経済についての論争を3つピックアップし、それぞれ意見の対立する代表的な論文を読む。テーマは――</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) レーガノミックスは成功だったか？</li> <li>2) 財政赤字はなぜ問題か？</li> <li>3) 貯蓄投資バランスはなぜ悪くなったか？</li> </ol> <p>の3つである。</p> <p>輪読、解説のあと、全体でディスカッションする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Thomas R. Swartz and Frank J. Bonello (ed.); <i>Taking sides: Clashing Views on Controversial Economic Issues (Sixth Edition)</i>, The Dushkin Publishing Group Inc. (1993) 必要な箇所をコピーして配布する。</p>	
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『新英和大辞典 (第5版)』 研究社</li> <li>・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房</li> <li>・ 『最新英語情報辞典』 小学館</li> </ul>	
評価方法	<p>平常点、出席および試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけ大きな辞書で予習すること。『デイリー・コンサイス』のようなポケットサイズの辞書の持ち込みは認めない。</p>		

ISSUES AND SECTIONS

Introduction

(Issue 1) Did Reaganomics Fail ?

[1] Samuel Bowles, David M. Gordon, and Thomas E. Weisskopf, "Right-Wing Economics Backfired," *Challenge* (January/February 1991)

[2] Paul Craig Roberts, "What Everyone 'Knows' About Reaganomics," *Commentary* (February 1991)

[3] Discussion

(Issue 2) Do Federal Budget Deficits Matter ?

[4] Alan Greenspan, "Deficits Do Matter," *Challenge* (January/February 1989)

[5] Robert Eisner, "Our Real Deficits," *Journal of the American Planning Association* (Spring 1991)

[6] Discussion

(Issue 3) Does the United States Save Enough ?

[7] Fred Block, "Bad Data Drive Out Good: The Decline of Personal Savings Reexamined," *Journal of Post Keynesian Economics* (Fall 1990)

[8] William D. Nordhaus, "What's Wrong with a Declining National Saving Rate ?," *Challenge* (January/February 1990)

[9] Discussion

(a few weeks for each section)

年  
間  
授  
業  
計  
画



科目名	外国書研究 I	担当者名	本田 浩邦(B)
-----	---------	------	----------

講義の目標	<p>80年代以降のアメリカ経済をテーマにしたモノグラフを素材にして、経済問題の争点を研究するとともに、英語文献の基本的な読解力、テクニカル・タームを修得する。</p> <p>経済学がむずかしいと感じている人にも理解しやすいように、また英語が苦手な人でも興味を持続できるように、具体例をおりまぜて、討論形式ですすめていきたい。</p>		
講義概要	<p>アメリカのマクロ経済についての論争を3つピックアップし、それぞれ意見の対立する代表的な論文を読む。テーマは――</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) レーガノミックスは成功だったか？</li> <li>2) 財政赤字はなぜ問題か？</li> <li>3) 貯蓄投資バランスはなぜ悪くなったか？</li> </ol> <p>の3つである。</p> <p>輪読、解説のあと、全体でディスカッションする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Thomas R. Swartz and Frank J. Bonello (ed.); <i>Taking sides: Clashing Views on Controversial Economic Issues (Sixth Edition)</i>, The Dushkin Publishing Group Inc. (1993) 必要な箇所をコピーして配布する。</p>	
	参考文献	<p>推薦辞書</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 『新英和大辞典 (第5版)』 研究社</li> <li>・ 長谷川啓之『経済用語辞典』 富士書房</li> <li>・ 『最新英語情報辞典』 小学館</li> </ul>	
評価方法	<p>平常点、出席および試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>できるだけ大きな辞書で予習すること。『デイリー・コンサイス』のようなポケットサイズの辞書の持ち込みは認めない。</p>		

## ISSUES AND SECTIONS

### Introduction

(Issue 1) Did Reaganomics Fail ?

[1] Samuel Bowles, David M. Gordon, and Thomas E. Weisskopf, "Right-Wing Economics Backfired," *Challenge* (January/February 1991)

[2] Paul Craig Roberts, "What Everyone 'Knows' About Reaganomics," *Commentary* (February 1991)

[3] Discussion

(Issue 2) Do Federal Budget Deficits Matter ?

[4] Alan Greenspan, "Deficits Do Matter," *Challenge* (January/February 1989)

[5] Robert Eisner, "Our Real Deficits," *Journal of the American Planning Association* (Spring 1991)

[6] Discussion

(Issue 3) Does the United States Save Enough ?

[7] Fred Block, "Bad Data Drive Out Good: The Decline of Personal Savings Reexamined," *Journal of Post Keynesian Economics* (Fall 1990)

[8] William D. Nordhaus, "What's Wrong with a Declining National Saving Rate ?," *Challenge* (January/February 1990)

[9] Discussion

(a few weeks for each section)

年  
間  
授  
業  
計  
画

科目名	外国書研究 I	担当者名	松本正信
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>日本が経済先進国と言われるようになって久しい。外国書研究（講読）の目標はもとより外国語の専門書等を読んで理解出来る能力を養成することであるが、逆に日本の経済諸事情など日本に関する事柄の外国語で著わされた書籍や資料を読んで、これを外国人に解説して理解して貰えるような能力の養成ということ、今日では要請されてもしくはないであろう。その意味で格好の教材を見つけた。文章も平易・平明で分かり安く、直ぐ慣れるであろう。意欲ある諸君の選択を望む。</p>		
講義概要	<p>テキストを覗れば一目瞭然であるが、近時ほぼ20年；1970—1990年の日本経済の事情や特質を、アダム・スミスやケインズの古典を引用し、理論的ツールも駆使しながら極めて分かり安く解説していく。また明治時代からの近代化と経済成長についての歴史的概観も示され、最後には最近時の言う所のバブル発生とその余波や将来に対する課題や挑戦にも言及されていて教材としても格好、なかなか面白い内容だ。また、これからの国際人としての豊富な用語の習得にも役立つ教材だ。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・ Tachi, Ryuichiro, translated by Richard Walker; <u>THE CONTEMPORARY JAPANESE ECONOMY An Overview</u>, University of Tokyo Press, 1993.</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>後期定期試験を中心にして評価していきたいと考えてはいるが。</p>		
受講者に対する要望など	<p>文章は平明で分かり易いから、ともかくテキストを早目に求めて読んでみてほしい。途中所によっては簡単な解説のみで訳は省略し、年間を通じて読み切りたいので、受講者も左様心得度し。</p>		

序論、後書を合わせて10章を、年間を通じて各章2～3回の講読のペースで進めて行く積りである。

The Contemporary Japanese Economy, An Overview by Ryuichi Tachi

Introduction

1. The Growth and Development of Japan's Economy
2. Monetary Policy
3. Public Finance
4. The Social Security System
5. International Balances of Payments
6. Prices
7. Structural Changes in the Economy
8. Problems and Challenges for the Future

Afterword: The "Bubble" and Its Aftermath

年  
間  
授  
業  
計  
画

科目名	外国書研究 I	担当者名	百瀬 房徳
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>ヨーロッパ経済共同体が1993年より形成され、現在では欧州連合（EU）になっています。この形成の為に種々の制度が統一されてきました。そのうちの付加価値税を通じて統一過程を眺めてみようと思う。</p>	
講義概要	<p>付加価値税は導入以来ほぼ100年になろうとしている。ヨーロッパ経済共同体の財源となって以来、非常に大きな役割を果たすようになって来た。付加価値税の歴史、付加価値税の基礎概念、計算方法、付加価値税を全加盟国に導入するための障壁の除去等について文献を通じて理解する。</p>	
使用教材	テキスト	・ Ernst & Young ; <i>VAT in Europe</i>
	参考文献	無し
評価方法	<p>前期および後期に試験を行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>無し</p>	

下記の項目にしたがって一年間の授業を進める：

The European Economic Community

The Aims of the European Community

The White Paper

The Community's Institutions

The Financial Means of the Community

The Value Added Tax

Harmonisation of VAT Regulation within the European Community

The Proposals for Further Harmonisation

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山越 徳
-----	--------	------	------

講義の目標	英文の文献を通して経済および経済学の知識、理解を深めるとともに専門用語に触れ、これを身近なものにする。とくに最近の状況をより理解するため、国際化、経済統合、国際労働力移動関連の文献を扱っていくことにする。		
講義概要	数多くの事柄に触れること、読み終えることの条件を充たすために、4～5篇のペーパーを共に読んで、議論し、理解していくことを目指す。		
使用教材	テキスト	ペーパーのコピーしたものを配布する。	
	参考文献	関連の参考文献は授業中に提示する。	
評価方法	前期テストに代わるレポート（夏休み中に与えられたペーパーについてのもの）と、後期テストの結果による。		
受講者に対する要望など	ペーパーのテーマに関連した文献（日本語本や訳本でもかまわない）を幾つか読んでおくこと		
年間授業計画	ペーパーの枚数にもよるが、できれば1つのペーパーを4～5週で読み終える予定で進めたい。		

科目名	外国書研究 I	担当者名	山田 浩一
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講義においては、英語の文献を通じて会計学に関する基礎的理解を得ることを目的としている。したがって、語学力を高めることのみではなく、会計学の諸概念を英文の平易なテキストを通じて把握してもらうこととしたい。</p>	
講義概要	<p>予めプリントを配布し、報告箇所を分担してもらった上で、担当者のレポートに沿って内容を検討していく。</p> <p>テキストの概要については年間授業計画欄に目次を記載してあるので参考にされたい。</p>	
使用教材	テキスト	<p>Harrison &amp; Horngren: <i>Financial Accounting-third edition</i>, Prentice Hall International Inc. を利用するが、受講生諸君の要望により変更もあり得る。</p>
	参考文献	<p>簿記、会計学に関する一般の参考書を併読することが理解を早めることとなろう。</p>
評価方法	<p>講義への出席と報告、意見発表等を重視したい。前・後期の定期試験の実施も予定している。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講生は必ず予習をして講義に臨むことが求められる。また関連授業として、簿記原理、会計学原理、財務会計論等の履修が望まれる。</p>	



1. Chapter 1 : Summarizing Business Activity and using the Financial Statements
2. Chapter 2 : Processing Accounting Information
3. Chapter 3 : Accrual Accounting and the Financial Statements
4. Chapter 4 : Internal Control and Managing Cash
5. Chapter 5 : Accounting for Short-Term Investments and Receivables
6. Chapter 6 : Accounting for Merchandise Inventory, Cost of Goods Sold, and the Gross Margin
7. Chapter 7 : Accounting for Plant Assets, Intangible Assets, and Related Expenses
8. Chapter 8 : Accounting for Current and Long-Term Liabilities
9. Chapter 9 : Measuring and Reporting Stockholders Equity
10. Chapter 10 : Accounting for Long-Term Investments and International Operations
11. Chapter 11 : Using the Income Statement and the Financial Statement Notes : Additional Corporate Reporting Issues
12. Chapter 12 : Preparing and Using the Statement of Cash Flows
13. Chapter 13 : Financial Statement Analysis for Decision Making
14. Appendix A : The Annual Report of Land's End, Inc.
15. Appendix B : Time Value of Money : Future Value and Present Value
16. Appendix C : Summary of Generally Accepted Accounting Principles (GAAP)
17. Appendix D : Accounting for Partnerships
18. Appendix E : Modern Accounting Information Systems
19. Appendix F : Special Accounting Journals
20. Appendix G : Check Figures

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山野邊 義方
-----	--------	------	--------

講義の目標	<p>外国書（英語）を講読し、経済社会における交通（旅客・貨物輸送）の機能・役割および企業における交通機能の管理について考察する。</p>	
講義概要	<p>前期は、経済社会の発展と交通との関連、交通サービスの需要と供給、企業経営と交通機能の管理に重点を置く。</p> <p>後期は、各交通手段の歴史的発展と特徴に重点を置く。</p>	
使用教材	テキスト	<p>D.V.Harper “Transportation in America” 等から教材を選び、そのプリントを使用する。</p>
	参考文献	
評価方法	<p>レポートおよび口頭発表による研究成果、出席状況等により総合的に評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義には常時出席する。英語の読解力を高めるとともに、交通についての問題意識をもつことが必要である。</p>	

1. 経済社会と交通
2. 交通システム
3. 生産と交通
4. 購買・販売と交通
5. 国防と交通
6. 経済成長と交通
7. 交通の費用
8. 交通サービスの利用者
9. 交通サービスを利用するに当たっての意思決定
10. 貨物輸送（物流）
11. 旅客輸送
12. 交通サービスの供給者
13. 政府と交通（交通政策）
14. 鉄道輸送
15. 鉄道輸送会社
16. 鉄道貨物輸送サービスの特徴
17. 道路輸送
18. トラック輸送会社
19. トラック輸送サービスの特徴
20. 水上輸送
21. 水上輸送サービスの特徴
22. 航空輸送
23. 航空輸送会社
24. 航空輸送の市場

科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	山本 栄
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>原書を通して「本の読み方」を勉強します。「本の読み方」というと何をいまさらと思う人も多いと思います。しかしそこには重大な落とし穴がある。日本語だと斜め読みをして読んだ気になるが、実のところ中味がわかっていないという場合がよくある。そこで原書を通して著者が何をいわんとするのかを考えながら読む習慣をつくようにしたい。そのため一字一句たりとおろそかにできない。それが本の中身を理解することであり、これが「本の読み方」なのである。原書を通して勉強法の仕方を覚えると言ってもよいであろう。</p>		
講義概要	<p>テキストはアメリカやイギリスの大学で使う標準的なものです。Human Computer Systemにおける基礎的なことが書かれています。コンピュータ・ソフトの開発者に必要な基礎的な知識が書かれています。</p> <p>本書は約580ページと大部ですが、アメリカでは一年間で読みます。本講義では毎回2～3ページを全員が読んできて内容の紹介をおこなう。単に英語を辞書の訳語に置き換えるのではない。著者が言わんとするところを述べてもらう。特に分担はせず当日当てていきます。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Alan Dix, Jane Finlay, Gregory Abowd, Russel Beale 共著、<i>"Human-computer Interaction"</i> Prentice Hall 出版 1993年 (テキストは授業中にコピーを配布します)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席点と2回の期末テストで評価します。出席点の配分はかなり高いと思ってください。出席点とは当てられた所ができると0点、できないと-1点、良くできると+1点、他の人ができないところがよくできると+1点とし、年間トータルでマイナスにならないければ出席点は合格となります。よくできるとは内容について自分で調べ解説することです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一回の分量はそれほど多くないので、まず声をだして5～10回読み、それから辞書をひくと良いとおもいます。最低何が書かれているかを説明できるように予習して下さい。単語の訳を調べるだけではだめです。</p>		

Chapt. 1. The Human (p7-p48)

Chapt. 2. The Computer (p49-p90)

科目名	外国書研究 I	担当者名	山本美樹子
-----	---------	------	-------

講義の目標	英字新聞を辞書をあまり使わなくて済む程度で読みこなせるように、毎回の授業でトレーニングする。	
講義概要	英字新聞には新聞独特の言い回しがあるが、そのような点にも注意を払いつつ、授業を進めていく。扱う記事は、最新のもの、日常生活のなかで頻出する題材、その中で特に経済的なものを取り扱っているものを選んでいく。特に現在の日本の経済状態がどうあるのかについて毎月1回政府が発表している、各種経済指標についての説明に関する記事は必ず取り上げたいと思っている。	
使用教材	テキスト	特になし。授業で使う記事は毎回プリントして配る。
	参考文献	特になし。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の学末試験</li> <li>・出席回数（欠席回数が3回を越える場合には単位は出さない）</li> </ul>	
受講者に対する要望など	演習なので講義には学生が積極的に参加していくことが前提となるので、できる限り出席してほしい。また出席だけでなく、予習を含めて講義に積極的に「参加」してほしい。	

1. 外国購読1をどのように進めるのかについての説明
2. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
3. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
4. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
5. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
6. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
7. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
8. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
9. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
10. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
11. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
12. 前期の期末試験
13. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
14. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
15. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
16. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
17. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
18. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
19. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
20. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
21. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
22. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
23. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
24. 後期の期末試験

科目名	外国書研究 I	担当者名	湯田 雅夫
-----	---------	------	-------

講義の目標	環境マネジメントの内容の把握と理解につとめる。		
講義概要	環境マネジメント規格のイギリス版、BS 7750をテキストとして採り上げ、各自予習していることを前提に、輪読形式を進める。		
使用教材	テキスト	・ M. J. Gilbert : <i>Achieving Environmental Management Standards BS 7750</i> , 1993	
	参考文献	・ R. グレイ/D. オーエン/K. マンダース著 山上達人監訳 水野一郎、向山敦夫 國部克彦、富増和彦訳『企業の社会報告—会計のアカウンタビリティ—』白桃書房 ・ 小川 冽、鎌田信夫編『現代英和会計用語辞典』同文館	
評価方法	成績評価は、授業への貢献度、担当箇所の訳（ワープロ〔A4版〕で作成し、提出のこと）、および後期試験によって行う。		
受講者に対する要望など	私語厳禁。受講者は、十分に予習をして出席すること。		



科目名	外国書研究Ⅰ	担当者名	米山昌幸
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>国際経済の理論や現実を扱った英語文献を読み、専門用語や経済理論を学びながら、現代国際経済の抱える問題について理解を深める。</p>		
講義概要	<p>貿易に関連するテーマを中心として、国際経済学の分野についての理論的なものと時事的なものとの織り交ぜて、単行本、雑誌、新聞などさまざまな文献を読み、できるだけ理論と現実を関連付けながら、学習していきたい。</p> <p>基本的には輪読の形式をとるが、日本語での関連文献を利用した補足学習、討論なども取り入れていく。こちらから報告者を指名することはせず、一人ひとりの意欲や必要性に応じて自発的に報告を担当してもらう。報告者は必ずレジュメを用意すること。</p>		
使用教材	テキスト	<p>Krugman, Paul, <i>Pop Internationalism</i>, MIT Press, 1996.</p> <p>テキストとして上記の文献を予定しているが、その他の文献については適宜、コピーして配布する。</p>	
	参考文献	<p>英和辞典として、次のようなものが有用である。</p> <p>『リーダーズ英和辞典』研究社。</p> <p>長谷川啓之（編）『最新英和経済ビジネス用語辞典』春秋社。</p>	
評価方法	<p>前・後期の定期試験の成績と報告回数によって成績評価を行う。なお、講義回数の3分の1以上、欠席した学生には受験資格を与えない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>国際経済学について勉強したい学生に、他の国際経済関連の講義科目と併せて、履修していただきたい。最初は内容が難しく思われるかもしれないが、関連分野の情報量が増えてくるにつれ、しだいにその内容が理解できてくるはずである。※履修者は、必ず第1週目の授業に出席すること。</p>		

科目名	外国書研究 I	担当者名	Warren Brent Roby
-----	---------	------	-------------------

講義の目標	<p>This course will consist of supervise I readings of two textbooks. In addition, the instructor will select or titles from the business press such as the Wall Street Journal, Business Week, the Japan Times, etc.</p>	
講義概要	<p>Students will read on their own. Class sessions will be devoted to discussions of content. In addition, the instructor will highlight important terminology. There will be mini-lectures on cultural topics which emerge from the readings.</p>	
使用教材	テキスト	<p>Business in Action (BA) Seibido Publishing 1998 Economics in our life (EL) Seibido Publishing 1996</p>
	参考文献	<p>Materials available in the Dokkyo University Library such as the Wall Street Journal, Business Week, the Japan Times.</p>
評価方法	<p>Bi-Weekly quizzes count for 40% of grade, In-class participation (graded daily) is also 40%, 20% of the grade comes from written homework.</p>	
受講者に対する要望など	<p>Students must attend regularly and participate actively, Students should own a good English dictionary.</p>	

1. Introduction of course. Get acquainted.  
Discussion of syllabus, Brief English proficiency examination.
2. BA pages 5-15  
Mini-lecture on American eating attitudes
3. BA pages 16-25  
McDonalds menu exercise
4. BA pages 26-30  
First quiz
5. BA 33-43  
Discussion of the factory system and robotization
6. BA 44-57  
Discussion of innovation and think tanks.
7. EL 1-12  
Discussion of the history of economics
8. Class discussion on US, European, Japanese Auto Industries  
Second quiz
9. BA 60-69  
Discussion of Japanese Beverage industry
10. BA 70-80  
Discussion of brand names and brand loyalty
11. EL 13-24  
Discussion of consumerism
12. Discussion of advertising  
Third quiz
13. BA 82-91  
Discussion of business creation and government help interference
14. BA 92-101  
Discussion of business travel
15. Reading of Boeing promotional literature (supplied by instructor)
16. Review of all yellow sidebars in BA  
Fourth quiz
17. EL 25-36  
Discussion of banking
18. EL 37-45  
Discussion of public policy (government)
19. EL 46-57  
Discussion of economic philosophies
20. EL 58-70  
Fifth quiz
21. EL 71-77  
Reading from business press (to be determined)
22. More reading from business press
23. More leading from business press
24. Concluding lecture  
Sixth quiz

科目名	外国書研究Ⅰ（外国人学生用）	担当者名	駒形哲哉
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>外国人留学生が日本で学ぶ際に、何よりも基本となるのは日本語で読み、話す力であることはいまでもありません（もちろん書く力も不可欠です）。そこで本講義では、輪読（参加者が1冊の本を一緒に読み、その内容をめぐって意見を交すこと）をつうじて、日本語文献を読み、日本語で討論する力を養いたいと考えています。</p>	
講義概要	<p>まず、外国人留学生のために企画された経済学の入門書（下記テキスト）の各章を、受講者が分担して報告し、その内容について日本語で討論します。下記テキストの次に読む文献は、受講者の関心状況を考慮して決めたいと思います。</p>	
使用教材	テキスト	<p>岡田泰男、野澤素子、村田 年共編『はじめての経済学 日本語と英語で学ぶ経済用語1,000』慶応義塾出版文、1995年</p>
	参考文献	<p>その他必要な文献はコピーを配布します。</p>
評価方法	<p>受講者の発表と討論への参加状況によって成績評価を決定します。無断欠席は厳禁です。</p>	
受講者に対する要望など		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 概要説明
2. 経済学の基本問題
3. 人口と資源
4. 市場経済の仕組み
5. 経済循環
6. 国民所得
7. 所得の決定
8. 貯蓄と投資
9. 市場と厚生
10. 財政・金融
11. 労働市場
12. 経済成長と景気変動
13. 産業構造
14. 国際経済
15. 世界経済における日本経済
16. 日本経済の問題
17. 以下未定
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	外国書研究 I (独語)	担当者名	御園生 眞
-----	--------------	------	-------

講義の目標	ドイツ語で書かれたテキストを読みながら、経済学の基礎を学びます。		
講義概要	テキストを分担して訳してもらいながら、説明を加えて講義を進めます。		
使用教材	テキスト	Otto Seitzer 著 <i>Ein Blick in die Wirtschaft</i> 三修社	
	参考文献	独和辞典	
評価方法	出席と前期、後期の試験の成績で評価します。出席を重視します。		
受講者に対する要望など	原則としてドイツ語を第一外国語または第二外国語として履修した人を対象とします。希望者は必ず第1回の授業に出席してください。		

科目名	外国書研究Ⅰ（仏語）	担当者名	千代浦 昌 道
-----	------------	------	---------

講義の目標	フランスの経済関連書籍ならびに定期刊行物等の講読を通じて、フランス経済の現状を把握し、分析し、その成果を国内・国際経済等の理解に役立てること。		
講義概要	前・後期とも、フランスの le Monde, le Monde diplomatique, le Figaro 等の新聞、l'Expre, le Point, le Nouvel Observateur 等の雑誌、あるいはInternetのニュース等の経済関係記事を中心に講読する。		
使用教材	テキスト	指定はない。	
	参考文献	松本 正『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971） 松本 正『時事経済フランス語』（第三書房、1973） 小林 茂『新聞のフランス語』（白水社、1984）	
評価方法	前・後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。毎回出欠をとり成績評価の参考資料とする。		
受講者に対する要望など	新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
2. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
3. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
4. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
5. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
6. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
7. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
8. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
9. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
10. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
11. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
12. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
13. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
14. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
15. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
16. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
17. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
18. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
19. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
20. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
21. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
22. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
23. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
24. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読



科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	岡村 国和
-----	--------	------	-------

講義の目標	本講義における外国書研究の目標は、諸外国（主として英米）の経済分野あるいは経営分野の専門書の講読をし、その内容を理解した上で討論することにある。さしあたりテキストの輪読を行うが、翻訳することが主要目標ではなく内容の検討が主要目標であることを十分に認識して欲しい。区切れごとにディスカッションやディベートすることを予定しているので受講希望者は、テキストのより一層の理解を深めるために講義中に紹介する関連文献による予習を厭わないで欲しい。
-------	---

講義概要	テキストは未定であるが、本年度はアメリカおよびイギリスの経済動向を研究する予定である。さしあたりアメリカにおける双子の赤字問題（財政赤字と貿易赤字）を理解し、その主要原因を探ることから始める。さらに財政赤字の主要原因である社会保障給付問題を取り扱い、福祉全般にわたる理解を深める。高齢化社会の到来と共にますます肥大化する財政規模は、将来の税負担となって家計を圧迫することになり、やがては経済成長をも阻害する要因となる。こうした現象はアメリカ・イギリスだけではなくわが国にも妥当することなので、わが国との比較も行いたい。
------	---

使用教材	テキスト	テキストは未定。ただしプリントして配布する。
	参考文献	講義中に適宜紹介する。

評価方法	主として出席状況およびレポート・発言内容等によって評価する。
------	--------------------------------

受講者に対する要望など	ディベートする時に自己の意見を展開することが苦痛でない者の参加を期待する。
-------------	---------------------------------------

年間授業計画	授業時に指示。

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	小林 進
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>外書Ⅱは選択科目なので、英語の力を一層向上させたいかた、または現在の英語の実力を維持したい人の受講が望ましい。英語の能力は努力を怠ると簡単に下がってしまうので、受講者は日頃の予習を十分に行うことが大切である。講義内容については、外書Ⅰとほぼ同様な傾向のものをテキストとして採用するつもりである。</p>	
講義概要	<p>講読を中心とする</p>	
使用教材	テキスト	Olivier Blanchard, "Macroeconomics" 1997
	参考文献	
評価方法	<p>平常の出欠と予習を重視し、前期と後期の試験については受講者と相談して必要があれば実施する（前年度は実施せず）。</p>	
受講者に対する要望など		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	高松和幸
-----	--------	------	------

講義の目標	現代経営学に影響を与えた名著を読む。 英語文献を正確に読むには、英語力と専門知識の両方が必要である。前者は、すでに持っている知識を生かして精読することによって英語力をつけることを目標とする。後者は、解説などを加えることで習得を目指す。
-------	--

講義概要	前期はSimonのModels of Manの中にでてくる有名な概念「Bounded Rationality」を取り上げる。それは、「Rationality and Administrative Decision Making」や「A Behavioral Model of Rational Choice」などである。 後期はJames G. A March & Herbert A. SimonのOrganizationsの中にでてくる有名な概念「Cognitive limits on rationality」を取り上げる。
------	--

使用教材	テキスト	・本書は入手困難なため、コピーを配布する。なお、必要に応じて他文献のコピーも配布する予定である。
	参考文献	

評価方法	後期末レポートの結果などにより、成績評価する。
------	-------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「Rationality and Administrative Decision Making」と「A Behavioral Model of Rational Choice」の概要説明</li> <li>2.～11. 毎回1～2頁程度の進捗予定</li> <li>12. まとめ</li> <li>13. 「Cognitive limits on rationality」の概要説明</li> <li>14. The concept of Rationarity</li> <li>15. same as above</li> <li>16. Performance programs in organizations</li> <li>17. same as above</li> <li>18. Perception and identifications</li> <li>19. same as above</li> <li>20. The division of work</li> <li>21. same as above</li> <li>22. Communication</li> <li>23. same as above</li> <li>24. まとめ</li> </ol>
--------	---

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	森 健
-----	--------	------	-----

講義の目標	主に、近年のアジア太平洋地域における貿易、投資、経済発展について論じた文献を読むことにより、(1)現実の経済問題を分析するとき一般的に用いられる理論仮説について理解を深めること、(2)経済論文における議論の進め方(論文の書き方)について学ぶこと、(3)アジア太平洋地域の経済と日本経済について知識を得ること、(4)英文で書かれた経済専門用語・概念についての知識を得ると共に、その語句の定訳を知ること。		
講義概要	学術雑誌、単行本、国際機関刊行物、セミナー・ペーパー、ビジネス誌などの文献の中で、上記の課題について、できるだけ最近の情報を材料にして分析を行っているものを教材として、輪読する。時には、そこで取り上げた問題の理論適背景を理解するため、英文理論書の関連部分の講読も行なう。		
使用教材	テキスト	プリントを配布する	
	参考文献	未定	
評価方法	年2回の定期試験および普段点。		
受講者に対する要望など	授業の主眼は、英語を機械的に邦訳することにあるのではなく、文献に記された経済論理を批判的に検討することにあることに留意して受講すること。新聞、経済雑誌を読んでおく理解が進む。		

科目名	外国書研究Ⅱ	担当者名	山本美樹子
-----	--------	------	-------

講義の目標	私が行っている外書講読Ⅰを英字新聞を読むことの基礎編とすると、この講義はその応用編と考えてもらいたい。扱う記事は社説等、内容的にも、英語の言い回し的にも高度なものを扱っていく。	
講義概要	英字新聞には新聞独特の言い回しがあるが、そのような点にも注意を払いつつ、授業を進めていく。扱う記事は、最新のもので、最近の経済状況を意見として述べている社説等を取り上げていく。特に私の専門である国際経済、国際金融的なものを中心としていきたいと思っている。	
使用教材	テキスト	特になし。授業で使う記事は毎回プリントして配る。
	参考文献	特になし。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前期、後期の学期末試験</li> <li>・出席回数（欠席回数が3回を越える場合には単位は出さない）</li> </ul>	
受講者に対する要望など	演習なので講義には学生が積極的に参加していくことが前提となるので、できる限り出席してほしい。また出席だけでなく、予習を含めて講義に積極的に「参加」してほしい。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 外書購読2をどのように進めるのかについての説明
2. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
3. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
4. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
5. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
6. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
7. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
8. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
9. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
10. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
11. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
12. 前期の期末試験
13. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
14. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
15. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
16. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
17. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
18. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
19. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
20. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
21. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
22. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
23. 前の週に配られたプリントを読んでいく。
24. 後期の期末試験

科目名	外国書研究Ⅱ（外国人学生用）	担当者名	駒形哲哉
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>世界経済における成長のセンターとしての地位を固めたかにみえたアジア経済は、いま大胆な構造調整を迫られています。本講義では、「成長」や「危機」といったさまざまな観点から注目をあつめ続けるアジア経済にかんする日本語文献を読み、この地域にたいする関心を高め、かつ日本語で討論する力を養うことを目標としています。</p>		
講義概要	<p>アジア経済の入門書をテキストに用い、アジア各国の状況を概観するなかから、経済発展の共通性、特殊性を学びます。担当者がテキストの内容について質問し、履修者がこれに答える形で進めていくことを考えていますが、詳細は初回に履修希望者と相談するつもりです。</p>		
使用教材	テキスト	渡辺利夫編『アジア経済読本』東洋経済新報社、1998年（改訂版）	
	参考文献		
評価方法	出席状況と受講者の授業への貢献度によって成績評価を決定します。		
受講者に対する要望など			

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 概要説明
2. アジア経済発展の概観①
3. アジア経済発展の概観②
4. NIES：韓国①
5. NIES：韓国②
6. NIES：台湾①
7. NIES：台湾②
8. NIES：香港①
9. NIES：香港②
10. NIES：シンガポール①
11. NIES：シンガポール②
12. アジア社会主義国：中国①
13. アジア社会主義国：中国②
14. ASEAN：タイ①
15. ASEAN：タイ②
16. ASEAN：マレーシア①
17. ASEAN：マレーシア②
18. ASEAN：インドネシア①
19. ASEAN：インドネシア②
20. ASEAN：フィリピン①
21. ASEAN：フィリピン②
22. ASEAN：ベトナム、ミャンマー
23. まとめ：東アジアの経済発展
24. 予備日



科目名	外国書研究Ⅱ（独語）	担当者名	御園生 眞
-----	------------	------	-------

講義の目標	ドイツ経済史や現代のドイツ経済に関するドイツ語テキストを読みながら、近現代ドイツ経済の理解を深めたいと思います。		
講義概要	テキストを分担して訳してもらい、それに解説を加えながら講義を進めます。		
使用教材	テキスト	未定。履修希望者と相談して決める予定です。	
	参考文献	独和辞典	
評価方法	未定。		
受講者に対する要望など	原則として、ドイツ語の外書Ⅰを履修した人を対象とします。履修希望者は、必ず第1回の授業に出席すること。		

科目名	外国書研究Ⅱ（仏語）	担当者名	千代浦 昌 道
-----	------------	------	---------

講義の目標	フランスの経済関連書籍ならびに定期刊行物等の講読を通じて、フランス経済の現状を把握し、分析し、その成果を国内・国際経済等の理解に役立てること。	
講義概要	前・後期ともフランスの le Monde, le Monde diplomatique, le Figaro 等の新聞、l'Express, le Point, le Nouvel Observateur 等の雑誌、あるいは Internet のニュース等の経済関係記事を中心に講読する。	
使用教材	テキスト	指定しない。
	参考文献	松本 正『実務に役立つ経済フランス語』（第三書房、1971） 松本 正『時事経済フランス語』（第三書房、1973） 小林 茂『新聞のフランス語』（白水社、1984）
評価方法	前・後期のレポート（仏文和訳）によって評価する。毎回出欠をとり成績評価の参考資料とする。	
受講者に対する要望など	新聞の政治・経済記事を読む習慣をつけること。	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
2. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
3. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
4. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
5. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
6. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
7. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
8. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
9. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
10. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
11. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
12. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
13. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
14. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
15. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
16. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
17. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
18. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
19. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
20. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
21. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
22. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
23. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読
24. フランスの新聞・雑誌の経済記事の講読

科目名	貿易英語	担当者名	山崎 静光
-----	------	------	-------

講義の目標	英語商業通信文の形式（レイアウト）と内容（構成）の最低限を身につけ、貿易に使われる特殊な用語と技術をある程度憶えること。その過程で英語一般を使う能力も向上すること。	
講義概要	テキストに従って貿易取引の時間的順序を追って商業通信文の書きかたの説明をした後、課題を与えて手紙を書かせ提出させ、次回の講義の際その講評を行なう。手紙のみならず信用状、契約書裏面約款等の読解を課し、用語に親しませる。	
使用教材	テキスト	・物産研修センター編『ザ ビジネスレター』有斐閣刊
	参考文献	・山崎静光『輸出入手続ガイドブック』中央経済社刊
評価方法	学年試験の成績による。 中間試験は行方が学年試験を受けなかった者には単位を与えない。	
受講者に対する要望など	高校程度の英語は心得ておくこと（これは決して簡単ではない：この水準にある者は毎年寥々たるものである）。	

年 間 授 業 計 画	1. ビジネスレターの構成要素	テスト
	2.           —〃—	
	3.           —〃—	テスト
	4. ビジネスレターの本文	
	5.           —〃—	テスト
	6. カバーリングレター	
	7.           —〃—	テスト
	8. 新商売の開拓	
	9.           —〃—	テスト
	10. 引合とその返事	
	11.          —〃—	テスト
	12.          —〃—	
	13. オファーと見積り	
	14.          —〃—	テスト
	15. カウンターオファー	
	16.          —〃—	テスト
	17. 受諾と拒絶	
	18.          —〃—	テスト
	19. 受諾後の手続	
	20.          —〃—	テスト
	21. 苦情とクレーム	
	22.          —〃—	テスト
	23. 苦情・クレームに対する返事	
	24.          —〃—	テスト

科目名	総合講座(1)	担当者名	経済学部
-----	---------	------	------

講義の目標	<p>「二十一世紀へ立ち向かう世界と日本」の総合タイトルの下で、主に学外からのさまざまな分野の研究者、専門家、実務家等を招いて、それぞれの分野の最新の知識と情報にもとづく講義をしてもらう。学生は学内に居ながらにして、激しく流動するビジネス世界の現状、日頃あまり詳しく知られていない研究分野の概観、あるいは学際的な先端の動向などをかなり詳しく知ることができる。これらの知識は、単なる学問的な知識に止まらず、学生諸君がやがて迎える卒業後の社会活動における貴重なノウハウをも得させてくれるであろう。</p>	
講義概要	<p>毎週、講義内容が異なるため概要を詳しく述べることはできない。ただ、上記総合タイトルの性質上、従来よりも経済のみならず社会・政治・文化などあらゆるテーマが採り上げられてきた。それぞれの分野の研究者、専門家、実務家が長年にわたり蓄えてきた専門知識と最新情報のエッセンスを毎週聴くことができることは、得難いチャンスと言えよう。</p>	
使用教材	テキスト	特になし。
	参考文献	それぞれの講師が講義内容のレジュメを準備して配布したり、参考文献を指示することがある。
評価方法	<p>前・後期にそれぞれ筆記試験を行う。なお、講義の性質上、追試験・卒業再試験は行わないので注意すること。</p>	
受講者に対する要望など	<p>学外講師をお招きするので、必ず時間厳守で出席すること。また講義中の私語は絶対に慎むよう切に要望する。</p>	

科目名	特殊講義B	担当者名	Warren Brent Roby
-----	-------	------	-------------------

講義の目標	This course will introduce students to English language business correspondence letters, memos, faxes, and e-mail.		
講義概要	Students will be taught to read and write business correspondence in English. The students will produce a portfolio of exemplars based on models provided by the instructor and under the instructor's guidance. Most writer work will be submitted by the students, corrected by the instructor, and then revised by the student.		
使用教材	テキスト	An Introduction to Business English (IBE) Seibido Publishing 1993	
	参考文献	The instructor will provide a file of English Business writings. These will supplement the models contained in the required textbook.	
評価方法	40% of the grade will be based on reading exercises, 40% will be based on writing exercises, 20% will be based on vocabulary quizzes.		
受講者に対する要望など	Students must attend regularly and participate actively, Students should own a good English dictionary and grammar.		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. Introduction to course. Brief English proficiency examination.
2. IBE 1-6  
Mini-lecture on composition strategies
3. IBE 7-15
4. IBE 16-26  
First vocabulary quiz
5. IBE 27-39  
Mini-lecture on Us notions of politeness in writing
6. IBE 40-51  
Mini-lecture on dos and don'ts of wordprocessing
7. IBE 52-65
8. IBE 66-73  
Second vocabulary quiz
9. IBE 74-80  
Mini-lecture on e-mail conventions etiquette
10. IBE 81-96
11. IBE 97-110  
Portfolio due
12. IBE 111-123  
Third vocabulary quiz
- 13.
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.



科目名	経済学(営)(98年度) 経済学(営)(再履修)	担当者名	岡田 博
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済に対する関心が深まり、その動きを洞察する力が涵養されるように意を用いたい。		
講義概要	講義の主内容は、経済学とはどのような学問か、経済体制論および資本主義経済の構造と特色について、国民所得の大きさはどのように決定されるか、貨幣と金融、財政と財政政策、消費者行動について、生産の理論、市場における価格の決定、等々。		
使用教材	テキスト	未定、最初の講義のときに指示する。	
	参考文献	川口他：『経済学入門』有斐閣。	
評価方法	学年末の定期試験の成績で主に評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席もときどきとり、これも評価の参考とする。		
受講者に対する要望など	授業には欠席しないこと。		

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済学とはどのような学問か：経済問題の根源、経済学についての諸定義、ミクロ経済学、マクロ経済学について</li> <li>2. 経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題</li> <li>3. 経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較</li> <li>4. 資本主義市場経済の特徴について</li> <li>5. 混合経済体制における政府の役割：経済政策</li> <li>6. 経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観</li> <li>7. 国民所得の概念：NGP、GDP、NNP</li> <li>8. 国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論</li> <li>9. 国民所得の変動：景気循環、インフレーション、デフレーション</li> <li>10. 貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態、貨幣の機能</li> <li>11. 貨幣と金融Ⅱ：信用創造</li> <li>12. 貨幣と金融Ⅲ：金融政策</li> <li>13. 財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度</li> <li>14. 財政Ⅱ：租税制度</li> <li>15. 財政Ⅲ：財政政策Ⅰ 財政政策の目標</li> <li>16. 財政Ⅳ：財政政策Ⅱ 経済の安定成長と財政政策</li> <li>17. 消費の理論Ⅰ 消費者の合理的選択</li> <li>18. 消費の理論Ⅱ 序数的効果理論と消費均衡</li> <li>19. 生産の理論Ⅰ 供給と費用</li> <li>20. 生産の理論Ⅱ 利潤極大の条件</li> <li>21. 市場のメカニズムⅠ 市場価格の決定</li> <li>22. 市場のメカニズムⅡ 市場の構造</li> <li>23. 経済政策について</li> <li>24. おわりに</li> </ol>		
--------	--	--	--

科目名	経済学（済・営）（98年度） 経済学（営）（再履修）	担当者名	山越 徳
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>経済学を初めて学ぶ人にとって、経済学を身近に感じ、理解を進めるための基礎づくりを目指す。経済理論がどのような考え方に立っているのかを用語や概念とともに理解していく。さらに、それらの理論が現実の経済とどのように結びついているのか、どの程度まで説明しているのかを、理論モデル、統計データ、実証分析結果を関連させながら見ていくことにする。</p>		
講義概要	<p>テキストの内容そのままに沿った講義はしない。テキストに取り上げられているテーマを扱って、理論や現実の姿を資料等により考察していく。それにより日本経済の大きさや構造、その動向さらには問題への理解を高めていく。テキストは理解するためのものとして位置づける。</p>		
使用教材	テキスト	「経済学（第3版）」西川俊作著 東洋経済新報社	
	参考文献	<p>「現代経済学」レスター・C・サロー、ジェームス・K・ガルブレイス、ロバート・L・ハイルブローナー著、TBSブリタニカなど 個別の参考書は講義の中で紹介する</p>	
評価方法	<p>前期は与えた課題に対するレポート、後期については後期テストを行い、その結果により評価</p>		
受講者に対する要望など	<p>様々な文献に数多く触れることと、常日頃から経済動向に関心を持ち、ニュースや報告への理解力を高めること</p>		

1. } 経済学とは、経済学の考え方
2. } 前提、対象、経済合理性、ミクロとマクロ、経済主体、経験法則、理論と実証
3. } 市場均衡、価格決定  
} 需要と供給、競争、均衡
4. } 消費者均衡、需要理論、消費理論
5. } 需要曲線、効用理論、限界概念、無差別曲線、経済要素、需要関数、弾力性
6. } 価格と所得、商品と費目、指数と集計、指標、消費仮説
7. }
8. } 国民所得、日本経済の規模と変動
9. } 国民経済勘定体系、GNP、三面等価の原則、国民所得の決定、乗数理論、有効需要
10. } 消費性向、投資、政府と財政、貿易、産業連関表
11. } 日本経済の成長
12. } 産業の活動、産業構造、成長の要因、産業の相互依存関係
13. } 経済成長理論、国際化の依存関係、国際分業
14. } 供給者均衡、生産理論
15. } 供給曲線、コスト曲線、利潤極大、限界生産力命題、生産関数
16. } 生産要素、資本と労働、分配、代替性、規模の経済性、技術変化
17. }
18. } 労働市場
19. } 労働市場理論、賃金理論、労働供給、労働需要、失業と充足率、
20. } 日本の労働市場、基幹労働力と縁辺労働力、産業と職業、人口構造、年齢と性別、学歴、地域、終身雇
21. } 用と年功制、定年制、雇用調整
22. } 大企業と中小企業、学卒労働力
23. } 一般均衡モデル
24. } 一般均衡と部分均衡、マクロ計量モデル

科目名	経済学（営）（98年度） 経済学（営）（再履修）	担当者名	米山昌幸
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>経済学は、経済社会のメカニズムを分析手法により解明し、貧困、不平等、公害といったさまざまな現実社会の問題を解決して、よりよい社会を実現することを目指す学問である。つまり、私たちが経済学を勉強するのは、たんにその経済理論を修得することが目的ではなく、その経済理論を用いて現実経済に対する理解を深め、さらには問題解決の手がかりを見出すためである。したがって、この講義の目的は、第一に、現実的な問題を取り上げて、はじめて経済学を勉強する学生に、経済学が現実経済を理解する上で、どのように有用であるかを知ってもらい、経済学に興味をもってもらうこと、そして第二に、分析用具としての基礎的な経済理論をできるだけ体系的に理解してもらうことである。</p>		
講義概要	<p>前期は、資源配分のメカニズムを明らかにする「ミクロ経済学」の分野について講義し、家計と企業の行動を分析し、完全競争市場における価格決定のメカニズムを明らかにする。後期は、GNP、物価水準、利子率などの経済全体を促えるマクロ変数の相互関係を明らかにする「マクロ経済学」の分野について講義し、財市場・貨幣市場・労働市場の分析を行い、経済全体のマクロ均衡がどのように達成されるのかを明らかにし、経済政策の効果も考察する。</p> <p>年間授業計画は、講義目的と履修学生の目的に応じて、変更することを予定している。できればレポートや、報告・討論を通じて、学生らが問題を考える機会も設けたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定</p> <p>下記のようなものを予定している。</p>	
	参考文献	<p>奥野正寛『ミクロ経済学入門』日経文庫、1990年。</p> <p>中谷 巖『入門マクロ経済学（第3版）』日本評論社、1993年。</p> <p>林 敏彦『ハート&amp;マインド経済学入門』有斐閣アルマ、1996年。</p> <p>辻 正次・八田英二『What's 経済学』有斐閣アルマ、1996年。</p> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>	
評価方法	<p>成績評価は、基本的に前・後期の定期試験によって行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>新聞などを通して現実社会の問題に関心を持ち、それらについて経済学を用いて考えることができるようになることを目指して下さい。経済学は難しく、その学習は決して容易ではありませんが、だからこそ、講義を利用して、理解する糸口をつかんでください。</p>		

年	1	<p>イントロダクション</p> <p>経済学とは?、経済理論・モデル分析の必要性、ミクロ経済学とマクロ経済学、講義の内容と進め方、学習の仕方、レポートについて、テキスト・参考文献の紹介、成績評価の方法、前期講義の範囲</p>
	2 6	<p>家計の行動と需要曲線</p> <p>効用と無差別曲線、無差別曲線の性質、限界代替率逓減の法則、予算制約線、最適消費点の決定、所得の変化と需要の変化(所得消費曲線)、所得弾力性、正常財と劣等財、価格の変化と需要の変化(価格消費曲線)、個別需要曲線の導出、市場需要曲線と消費者余剰、価格弾力性、スルツキー分解(代替効果と所得効果)、ギッフェン財、代替財と補完財、与件の変化と需要曲線のシフト</p>
	7 10	<p>企業の行動と短期供給曲線</p> <p>利潤とは?、生産関数(技術の制約)と利潤最大化、短期と長期、短期総生産物曲線、限界生産性逓減の法則、短期費用曲線、(短期)限界費用・平均費用・平均可変費用、利潤最大化と(短期)個別供給曲線、短期市場供給曲線と生産者余剰、与件の変化と供給曲線のシフト</p>
	11 12	<p>完全競争市場と効率性一部分均衡分析</p> <p>完全競争市場とは、市場の部分均衡、市場メカニズム、均衡の存在と安定性、生産者余剰と消費者余剰、経済厚生、与件と市場均衡の変化、市場の失敗(不完全競争、外部効果、公共財)、分配と公正</p>
	13	<p>(後期) イントロダクション</p> <p>マクロ経済学とは、古典派 vs ケインズ、セイの法則、価格調整と数量調整、有効需要の原理</p>
	14 17	<p>GNP と物価指数</p> <p>GNP(国民総生産)とは?、三面等価の原則、ISバランスと財政収支・経常収支、貯蓄と投資の恒等関係、パーシェ指数とラスパイレス指数</p>
	18 20	<p>財市場の分析</p> <p>需給不均衡とその調整、消費関数と貯蓄関数、45°線分析による国民所得決定、乗数、均衡予算乗数の定理、財市場と貨幣市場の統合(投資の限界効率表)</p>
	21 22	<p>貨幣市場の分析</p> <p>貨幣市場と資産市場、貨幣の機能、貨幣に対する需要(取引需要と資産需要)、債券価格と利子率の関係、資産需要と市場利子率(流動性選好表)、貨幣需要関係と貨幣市場の均衡、名目利子率と実質利子率</p>
	23 24	<p>IS-LM 分析と総需要曲線</p> <p>IS 曲線の導出、財市場における不均衡の調整、LM 曲線の導出、貨幣市場における不均衡の調整、財市場と貨幣市場の同時均衡、財政金融政策の効果、労働市場との関係、不均衡からの調整過程、IS-LM 分析のまとめ、総需要関数の導出</p>
	計	
画		

科目名	経営学総論	担当者名	河野重榮
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりが、この科目の狙いである。経営学の研究対象である「経営とは何か」を理解し、経営学の考え方——原理の実際への適用——について学ぶ。現代において、政治、経済、社会、文化一般、環境……などを考えるにさいして、「経営」問題の理解なしに、問題解決に達しない。経営学の最近の研究成果を熟知することによって、「経営とは何か」が、一層明らかになるであろう。</p>		
講義概要	<p>①はじめに、経営の研究対象である「経営」の把握の仕方、経営学の方法について、②また、経営の所有形態（企業形態、企業グループ、非営利事業体など）と制度的環境（支配集団、利害関係集団など）について述べる。③ついで、トップ・マネジメントのあり方について論じ、④それとの関連で日本的経営の特質と経営の国際化に言及する。</p> <p>管理問題に関しては①マネジメントの生成と発展を、人・組織・システムにおいて考え、②マネジメント・プロセスをめぐって、環境適応、組織の活性化、人材の育成に關説し、③最後に、経営戦略と経営問題の今日的課題を取り上げる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</p>	
	参考文献	<p>・山城 章編著『増補改訂 経営学小辞典』中央経済社          ・河野重榮他編著『現代マネジメント』同文館</p>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期2回の定期試験の結果による。出題形式は前期後期それぞれの最終授業で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>大学の講義は一年間を通じて課題の全体像を説明しようとするものである。講義に出席し、キチンと講義ノートをとること。</p>		

1. 経営学を学ぶ姿勢・方法について
2. 組織・制度・職能
3. ドイツ経営学とアメリカ経営学
4. 企業形態と株式会社
5. 企業グループと非営利事業体
6. 経営者支配、利害者集団、コーポレート・ガバナンス
7. トップ・マネジメント論
8. 企業家精神、社会的責任、経営理念
9. 最高経営責任者の役割
10. 日本の経営へのマネジメントの導入
11. 日本的意思決定システム
12. 国際化と経営文化
13. マネジメントの生成と発展
14. マニュアルと流れ作業
15. マネジメント・サイクルと人間問題
16. 管理原則論と組織の編成原理
17. 人間関係論と職場士気
18. マネジメント・プロセス
19. 管理過程論への挑戦
20. 管理システムと環境適応
21. 組織の活性化と動機づけ
22. 人材の育成と活用（人間資源管理）
23. 経営戦略と競争優位
24. 経営問題の今日的課題

科目名	経営学総論	担当者名	増田茂樹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の基本的・基礎的知識が身につくよう努力するが、それよりも、それらの知識を通じて「考える」ことに重点を置き、経営学の考え方・原理・理論を身につけるよう心がけ、3年次以降における経営学の各専門科目を研究してゆくための基礎づくりを、この科目のねらいとする。</p>	
講義概要	<p>①経営学の生いたちをたどり、経営学の性格・経営学独自の研究方法は何かを考察し、他の学問、とくに経済学との違いについて考える。 ②経営学の研究対象である企業の主体（経営者は誰かの問題）と目的（「営利性」にとどまるのかどうかの問題）を変遷・発展的にとらえる。その上で新しい企業、21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割り・資質について考える。 ③企業におけるマネジメント（経営と管理）の概略を理解する。 ④企業の各部門の管理すなわち購買管理・生産管理・販売管理・労務管理・財務管理について、それぞれの意味と内容を概観する。</p>	
使用教材	テキスト	・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版
	参考文献	講義のつど紹介する。
評価方法	<p>成績評価は前期後期の定期試験の結果による。出題形式などは前期後期それぞれの最終講義で説明する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義への出席を奨励する。そのために何らかの方法で、毎回、出席をとる予定である。</p>	



1. はじめに——経営学の学び方—— ①この講義のねらいと、②体系について説明し、③経営学を学ぶ姿勢・方法について話す。
2. ①経営学の研究対象と研究方法 ドイツ経営学とアメリカ経営学を、研究対象と研究方法の面から概観し、真の経営学の研究対象と研究方法を提言する。
3. ②企業の定義と企業形態 ①企業の定義 経済学における定義と経営学における定義を紹介し、定義の面から企業概念の明確化をはかる。
4. ②企業形態 (1)企業の法律形態・経済形態・経営形態 企業を諸形態に分類することにより企業の種類を知り、種類の面から企業概念の明確化をはかる。
5. (2)株式会社の本質 株式会社形態を他の諸形態とくに合名会社形態と比較することにより、その相違点を明確化して、株式会社の本質を明らかにする。
6. ③企業体制発展の理論と経営自主体生成の必然性 ①資本と経営の分離の意味
7. ②資本と経営の分離の必然性 どうして両者は分離するのか。分離することの必然性について述べる。
8. ③経営自主体の主体。経営自主体でないもの、すなわち人的企業・資本的企業と比較しながら検討する。
9. ④経営自主体の目的 資本と経営の分離の結果生成してくるのは経営自主体である。上記③④を通じて経営自主体の原理的特質・本質を明確化する。
10. ④新しい企業の経営理念・経営哲学と経営者の役割り・資質 ①社会的責任から社会貢献（フィランソピー）へ 両者の本質的な違いを究明する。
11. ②新しい時代における経営者の役割りと資質。新しい企業、とくに21世紀における企業の経営理念・経営哲学を展望し、新しい経営者の役割り・資質について論ずる。
12. (前期講義のまとめと定期試験について)
13. (後期の講義をはじめに当って) ①前期試験結果の講評と前期講義の復習 ②後期講義の構想
14. ⑤マネジメントの生成と発展 能率増進運動、テイラー・システム、フォード・システム、人間関係論、現代マネジメント論をたどり、マネジメントの生成と発展を理解する。
15. ⑥マネジメントの階層的機能とプロセス的機能 ①マネジメントと作業 企業の機能はマネジメントと作業に分けられる。両者を比較することにより、マネジメントの本質を明らかにする。
16. ②マネジメントの階層的機能 (1)マネジメントは経営と管理の2階層的機能に分けられる。おのおのの機能の内容を明らかにし、両者の本質的相違点を明らかにする。
17. ③マネジメントの階層的機能 (2)経営環境、経営戦略、ゼネラル・マネジメント機能について詳しく検討し、トップ・マネジメント機能の重要性を理解する。
18. ④マネジメントのプロセス的機能 (1)マネジメントは計画・組織・統制の3プロセス的機能に分けられることを理解する。
19. ⑤マネジメントのプロセス的機能 (2)上記の3プロセス的機能の内容を明らかにし、3者の密接な関連を(プロセス的関連のみならず、それらの階層的関連をも)理解する。
20. ⑦マネジメントの機関 ①マネジメントの諸機関 株式会社を前提にして、マネジメントの諸機関を挙げ、それらの諸機関の関連を概観する。
21. ②トップ・マネジメントの諸機関と企業監査 監査役による監査や会計監査人による監査の現状と在り方にふれ、コーポレート・ガバナンス問題に言及する。
22. ⑧部門管理 ①労務管理と財務管理 それぞれの意味と現代的課題を提示する。
23. ②生産管理と販売管理(マーケティング・マネジメント) それぞれの意味と現代的課題を提示する。
24. (後期講義のまとめと定期試験について)

科目名	マーケティング論	担当者名	大久保 貞 義
-----	----------	------	---------

講義の目標	<p>マーケティング活動は自由主義経済の下における企業活動の基本を示すものである。マーケティングの基本原理は“人間のニーズと欲求を充足させる事をめざす人間活動”である。人間の各種の欲求は交換過程を通じて充足される。しかし、この人間の欲求は複雑多岐にわたるものであり、また、社会の環境によっても欲求そのものが変化する。したがって欲求充足をめざす人間活動は、基本的には心理学・社会心理学・社会学・文化人類学・数学のアプローチで分析されるばかりでなく、これらを総合化した隣接科学（インターディシプリナー・サイエンス Interdisciplinary Science）的な分析の理解が必要になる。</p> <p>マーケティングは極めて現実的・実地的な学問である。</p>	
講義概要	<p>社会は刻々と変化している。交換機能を果たす市場は変化し、人間の欲求も刻々と変動する。これに対応して企業活動もダイナミックに変革をとげている。</p> <p>これらの変化を読み取り、企業活動の基本的戦略の方向を決定する上でマーケティング・サイエンスは役立つであろう。</p> <p>またマーケティングという学問領域も時代と共に発展しており、その学問水準も、またその思想体系も多様性を示すようになって来た。</p> <p>1940年以降は社会科学との関連性が重視され、1960年までこの傾向が強かったが、しだいに行動科学的概念が導入され始めた1970年代以降は“社会変化のためのきわめて効果的管理方法”としてビジネス分野以外にも新しい研究方法としてマーケティング概念が取り入れられた。</p> <p>こうした考え方は、人間を動かす政策科学への応用、さらに現実社会の企業活動のみならず、国家政策への分野にも取り入れられ始めた。</p> <p>マーケティングサイエンスの応用分野は、当初のマーケティング学者の予測を越えて、多様な分野で極めて現実的な科学として実際社会で使われ、応用されている。</p>	
使用教材	テキスト	授業で指示します
	参考文献	
評価方法	<p>レポートと定期試験で評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>	
受講者に対する要望など	<p>①毎日、必ず新聞の経済面を読み、経済動向を追う事を特に希望したい。一つの経済問題を追うと面白味は倍になります。</p>	

1	1……………マーケティングとは何か（第1週） ●人間のニーズとは。人間の欲求とは ●欲求充足の市場の形成と交換の機能 ●人間は何故買うか（欲求=充足=お金） ●市場の形成過程
2   3	2……………マーケティング管理の変遷（第2・3週） ●企業は生産中心主義からマーケティング志向へ ●企業の利益中心から消費者の満足へ ●利益中心主義から社会貢献主義へ ●マーケティングの活用分野の拡大（ビジネス活動の分野から公共活動の分野へ） ●非営利組織（大学病院・軍隊・警察・政府の各部門）も大きな関心を持ち始めた。
4   5	3……………社会の発展と人間欲求の変化（第4・5週） ●農業社会・工業社会・脱工業化社会 ●人間欲求の変化と価値観の変動 ●過去—現在—未来（未来予測の方法論） ●消費者動向の変化と企業の戦略形式
6   7	4……………消費者ニーズの調査法（第6・7週） ●消費者の欲求をさぐりあてる ●デモグラフィック・アプローチ ●ライフスタイル・アプローチ
8   9	5……………市場調査の技法（第9週） ●データの収集法 ●サンプリングとその実際的方法 ●グループインタビュー法と潜在意識調査 ●質問紙の作成法と技法 ●市場調査の分析と企業戦略
10	6……………消費者行動の分析（第10週） ●文化的・社会的・及心理的な特性 ●社会階層と消費行動 ●欲求の階層化と心理的ヒエラルキー ●新製品の採用プロセス（認知から採用までの五段階）
11	7……………マーケティング・セグメンテーション（第11週） ●デモグラフィック要因 ●人口動態の変化 ●有望市場の発展とニューマーケット（シルバーマーケット、働く主婦層）
12	8……………製品企画とライフサイクル（第12週） ●アイデアとコンセプト開発 ●開発から衰退までのライフサイクル
13	9……………マーケティングコミュニケーション（第13週） ●企業の広告戦略 ●広告の技術と戦略 ●広告とセールスプロモーション
14   15	10……………マーケティング戦略と計画の作成（第14・15週） ●セールス・フォース ●セールス・プロモーション ●セールスマンの訓練と育成 ●製品の販売管理
16	11……………サービス・マーケティング（第16週） ●組織のマーケティング ●人材のマーケティング ●計画作成=組織=コントロール機能
17   18	12……………非営利企業のマーケティング（第17・18週） ●大学のマーケティング ●軍隊・地方公共団体・市町村のマーケティング ●ハブリシティの役割
19   20	13……………マーケティングと企業家（第19・20週） ●企業のリーダーシップとマーケティング ●リーダーのタイプと時代の変化 ●企業のマネジメントとマーケティングの応用
21   22	14……………マーケティングと国家体制（第21・22週） ●資本主義社会と人間の欲望 ●社会構造と国家政策 ●人間の欲求と国家の政策
23   24	15……………マーケティングの新しい応用（第23・24週） ●人を動かすマーケティング ●民主主義の理念とマーケティング ●人間とは何か（マーケティングの視点から） ●人生の将来展望（あなたの幸福とは何か？） ●まとめ

科目名	企業論	担当者名	西川純子
-----	-----	------	------

講義の目標	本年度は学説的な検討を行いながら、「企業とは何か」について考察を深めてみたい。	
講義概要	取りあげる学説はヴェブレン、シュンペーター、ケインズ、チャンドラー、ローなどである。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ Th. ヴェブレン『営利企業の理論』(1904)、『職人技本能と産業技術の発展』(1914)</li> <li>・ J. シュンペーター『経済発展の理論』(1908)、『経済分析の歴史』(1954)</li> <li>・ A. チャンドラー『経営者の時代』(1977)、『スケールとスコープ』(1990)</li> <li>・ J. M. ケインズ『自由放任主義の終焉』(1926)</li> <li>・ M. ロー『アメリカの企業統治』(1994)</li> </ul>
評価方法	筆記試験	
受講者に対する要望など		

1. 進化論と企業
2. 職人的本能
3. 功利主義
4. 営利主義
5. 国家の役割
6. 技術革新           その1
7.                        その2
8.                        その3
9. 株式所有            その1
10.                      その2
11. 不在所有の制度    その1
12.                      その2
13.                      その3
14. 技術革新           その1
15.                      その2
16. 金融機関           その1
17.                      その2
18. 経営者の役割      その1
19.                      その2
20. 企業統治           その1
21.                      その2
22. 多国籍企業        その1
23.                      その2
24. 企業と国家

科目名	貿易論	担当者名	米山昌幸
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この講義では、国際貿易や貿易政策の基礎理論を修得し、現実の国際経済を理解するための理論的根拠を得た上で、国際貿易のメカニズムや関連する諸問題を実態的・理論的に考察する。できるだけ現実問題も取り上げていきたいが、たんに時事解説としてではなく、それを理論と関連させて理解したい。</p>		
講義概要	<p>貿易論は、財・サービスの国際取引や資本、労働、経営資源の国際移動を分析対象とする学問分野である。この講義では、国際貿易、外国為替取引など貿易に関連する広いテーマについて講義する。前期は、貿易取引と決済の仕組みを簡単に説明した後、伝統的な国際貿易の基礎理論、不完全競争の貿易理論などを講義する。実務的な問題は、ごく簡単に触れるにとどめる。後期は、貿易政策を中心に、貿易摩擦・経常収支黒字の問題、発展途上国の経済開発と貿易政策などについて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定（次のものを予定している） 池本 清（編）、『テキストブック国際経済（新版）』、有斐閣ブックス、1997年。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤元重、『ゼミナール国際経済入門（新版）』、日本経済新聞社、1996年。</li> <li>・小田正雄・鈴木克彦・井川一宏・阿部頭三、『ベーシック国際経済学』、有斐閣ブックス、1989年。</li> <li>・天野明弘、『貿易論』、筑摩書房、1986年。</li> </ul> <p>なお、授業中に参考文献一覧を配布する。</p>	
評価方法	<p>成績評価は、基本的に前・後期の定期試験によって行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席せずに、試験だけとりあえず受けても意味がありません。重要なことは、一年間講義を聞き、それによって得た知識や、喚起された知的興味をもとに、自ら勉強することによってどれだけのものが付加価値として加わったか、ということです。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. イントロダクション
2. 貿易取引と決済の仕組み
3. 貿易取引と決済の仕組み
4. リカードの比較生産費説
5. リカードの比較生産費説
6. リカードの比較生産費説
7. リカードの比較生産費説
8. ヘクシャー・オリーン理論
9. ヘクシャー・オリーン理論
10. ヘクシャー・オリーン理論
11. 不完全競争の貿易理論
12. 不完全競争の貿易理論
13. 貿易政策の基礎理論
14. 貿易政策の基礎理論
15. 貿易政策の基礎理論
16. 貿易政策の基礎理論
17. 幼稚産業保護論
18. 地域経済統合
19. 貿易摩擦と経常収支黒字問題
20. 経済開発と貿易政策
21. 貿易と地球環境問題
22. 貿易と地球環境問題
23. 海外直接投資
24. 海外直接投資

科目名	簿記原理	担当者名	井出 健二郎
-----	------	------	--------

講義の目標	<p>この企業は良い・悪い、入りたい・そうでない…と評価するものさしには何があるでしょうか？ それは色々考えられますが、どれだけもうかっているか、いくら借金があるかというおカネのものさしがあるでしょう。そのものさしを作るもの…それが簿記です。</p> <p>また、皆さんが就職される際、評価されるものは何でしょうか？おそらく、第一は個人のキャラクターが左右されますが、資格の有無もポイントです。日商検定・税理士・公認会計士などは簿記をもとにした資格です。簿記のしくみを知ってもらい、皆さんのプラスとなるようにすることが本講義の目的です。</p>		
講義概要	<p>前期では、簿記がどうして役立つか、どのような目的があるかを説明します。続いて、簿記の大きな流れをひとつお話しをしていきます。その場合、用語の説明、手順の紹介を行うと同時に、皆さんにも実際に作業してもらいます。</p> <p>後期では、前期での簿記の大きな流れをもとにしつつ、細かいポイントについて説明し、作業してもらいます。その結果として総合的な簿記の全体を講義します。さらに、検定試験（11月、2月）向けの対策をも考慮して問題などをできる限り解いていくことにします。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①上田俊昭 小川文雄 渋谷信夫 湯田雅夫『演習商業簿記入門』中央経済社 ②東京商科学院編『日商3級簿記精選問題集』かんき出版</p>	
	参考文献	<p>a、染谷恭次郎著『簿記の手ほどき』日経文庫 b、会田一雄・中村泰将・百瀬房徳『現代簿記精説』中央経済社 c、小川 洸共著『簿記の基礎』創成社 ★電卓（10ケタ以上のもの）を必ず用意して下さい。</p>	
評価方法	<p>通常の出席状況をもとに試験（前期テスト・後期テスト）をふまえたうえで総合評価していきます。なお、資格を取得された方についてボーナス評価を行うつもりです。</p>		
受講者に対する要望など	<p>初心者の方が多いことを前提としています。ですから、できる限りわかりやすく、皆さんをひきつけられる講義を心がけますので、皆さん自身も“この講義をうけて得るものがあった”と充実感の残るようにしましょう。</p>		



〈前期講義内容〉

1. 簿記の諸目的と種類について
2. 簿記の基本等式と基本概念について
3. 簿記上の取引とその記録について
4. 簿記上の取引の勘定記入について
5. 簿記のプロセス1：仕訳について
6. 簿記のプロセス2：(元帳) 転記について
7. 帳簿記入と伝票について
8. 簿記のプロセス3：試算表について
9. 簿記のプロセス4：精算表について
10. 簿記のプロセス5：決算手続について
11. 簿記のプロセス6：財務諸表の作成について
12. 簿記のプロセスの復習と前期のまとめ

備考 随時、検定試験の対策をとっていきます。

〈後期講義内容〉

13. 前期講義内容の復習
14. 現金・預金、商品売買取引に関する簿記
15. 売掛金・買掛金、その他の債権・債務に関する簿記
16. 手形取引に関する簿記
17. 貸倒損失・貸倒引当金に関する簿記
18. 有価証券、固定資産に関する簿記
19. 費用・収益に関する簿記
20. 資本と税金に関する簿記
21. 決算手続についての簿記1
22. 決算手続についての簿記2
23. 財務諸表の作成について
24. 簿記の役割の再確認、会計学とのかかわり

備考 進度によって若干の変更があります。

科目名	簿記原理	担当者名	氏原茂樹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、簿記の初学者向けに基礎知識から専門知識まで理解可能なように易しく説明します。簿記の知識を修得するためには、まず、基礎概念の構築が必要であり、それを土台にして専門知識の高度化をはかることになります。</p> <p>簿記は、技術的処理を中心とする科目ですが、その技術的処理は会計理論にもとづいているので、両面から理解が深められるように詳細な説明を行ないます。</p>		
講義概要	<p>・前期 企業の経済活動を仕訳にもとづいて、仕訳帳・元帳に記帳でき、試算表、6桁精算表、損益計算書、貸借対照表の作成方法が理解できるように簿記の基本原則を学びます。</p> <p>・後期 前期に学んだ簿記の基本原則にもとづき、特殊な取引に関する簿記処理を学習します。</p>		
使用教材	テキスト	氏原茂樹著『簿記の基礎詳解』税務経理協会	
	参考文献	新井清光監修『日商簿記検定・ワーク・ブック（3級商業簿記）』税務経理協会	
評価方法	<p>下記の事項を参考にして総合的に評価します。</p> <p>①定期試験</p> <p>②学習意欲と学習成果</p> <p>③出席状況</p>		
受講者に対する要望など	<p>①遅刻をしない</p> <p>②予習・復習をする。</p>		

1. 資産・負債・資本	基礎概念と簿記処理
2. 収益・費用	基礎概念と簿記処理
3. 取引・仕訳	取引要素と仕訳の方法
4. 仕訳・転記・伝票	転記の方法と伝票の記入
5. 仕訳帳・総勘定元帳	仕訳帳と総勘定元帳への記入
6. 試算表	試算表の機能と作成方法
7. 精算表	精算表の機能と作成方法
8. 決算手続	決算の予備手続と本手続
9. 現金・預金	現金等の内容と処理
10. 小口現金	小口現金の内容と処理
11. 商品勘定と3分法(1)	分記法、総記法、3分法による仕訳と転記の総合問題
12. 商品勘定と3分法(2)	分記法、総記法、3分法の決算処理
13. 仕入帳・売上帳	仕入帳・売上帳の機能と記帳方法
14. 商品有高帳	商品有高帳の機能と記帳方法
15. 売掛金と買掛金	売掛金元帳と買掛金元帳
16. 手形取引	約束手形と為替手形の処理
17. 貸倒償却と貸倒引当金	貸倒償却と貸倒引当金の内容と処理
18. 有価証券	有価証券の内容と処理
19. 固定資産と減価償却	固定資産と減価償却の内容と処理
20. その他の債権・債務	その他の債権・債務の内容と処理
21. 個人企業の資本金	個人企業の資本金の内容と処理
22. 決算整理	決算整理の内容と処理
23. 収益・費用の見越・繰延	収益・費用の見越・繰延の内容と処理
24. 8桁精算表	8桁精算表の機能と作成方法 損益計算書と貸借対照表 損益計算書と貸借対照表の機能と作成方法

科目名	簿記原理	担当者名	内 倉 滋
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」とされる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも「文法」に相当するものがあるわけであるが、その基本的な原理を習得することが本講義の目標である。そうした、言葉の構造を純粹に形式的に解明していく分野を、自然言語の世界では「構文論」と呼ぶのであるが、言うならば「会計言語」における構文論が本講義である、ということとなる。</p>		
講義概要	<p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえ「構文論」として講義すべき中身もまた、講義担当者によって大きく変わるものではない。本講義では、そうした共通的な中身のうちの、とりわけ最大公約数の部分だけを、丹念に議論していきたいと考えている。まず前期で、決算整理を含まない、「分記法」を前提とした(=要するに基本的で最も簡単な、ということである)「簿記一巡の手続き」までの内容を取り扱う。そして後期に、その内容に「商品3分法」や各種の「決算整理」といったディテールを付け加えていき、その中身を、より実際の会計実践に近い形のものに深化させていくこととしたい。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	特に必要とはいたしません。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>		

1. 貸借対照表……簿記の目的、資本、貸借対照表の内容
2. 損益計算書……簿記の第2目的の達成方法、損益計算書等式（損益計算書）
3. 「取引」の記録……期首貸借対照表と「取引」の記録からの貸借対照表と損益計算書との作成、「取引」記録のルール
4. 仕訳……仕訳とは、設例による説明
5. 勘定口座……その必要性、勘定口座の形式、勘定口座への記入ルール
6. 仕訳帳と元帳……仕訳帳（形式、「摘要」欄、「元丁」欄）、元帳（形式、「仕丁」欄、「摘要」欄、「相手勘定科目」）、3伝票制
7. 試算表……決算（決算予備手続き、決算本手続、財務諸表の作成）、合計試算表、残高試算表、合計残高試算表
8. 精算表……仮設例の提示（次回と共通）、精算表の原理
9. 「勘定の振替え」という技法について……定義、具体例による説明
10. 決算本手続（帳簿決算）その1：純損益の振替……帳簿決算の第1の目的（＝資本金勘定を正しい値に修正）、資本金勘定を正しい値に修正するための第1の方法、その第2の方法
11. 決算本手続（帳簿決算）その2：帳簿の締切りと繰越試算表……繰越試算表（その必要性等）、勘定口座の締切り（参考：大陸式決算法）、仕訳帳の締切り、財務諸表の作成
12. 前期の総復習……同形式の問題により、前期末試験の予行演習
13. 現金・預金の記帳……現金（簿記上の現金概念、現金過不足の処理）、当座預金（特徴、当座借越、当座預金出納帳）、小口現金（小口現金勘定、小口現金出納帳）
14. 商品売買の記帳（3分法その1）……設例の提示、“修正された”分記法、3分法（2つの仮定を導入、期末に在庫が有る時の問題、売上時の処理）
15. 3分法（その2）……3分法の復習、値引・返品処理、諸経費の処理（買主負担の場合〔仕入諸掛〕、売主負担の場合〔発送費〕）
16. 3分法（その3：仕入帳・売上帳）……帳簿の種類（主要簿、補助簿〔補助元帳、補助記入帳〕）、仕入帳・売上帳（補助元帳でない理由、記帳上の留意点）
17. 商品有高帳……その必要性、その位置付け（3分法では存在しない「商品」勘定の「補助元帳」）、移動平均法、先入先出法
18. 掛け売買と固定資産の記帳……掛け売買の記帳（売掛金〔買掛金〕元帳、貸倒れ）、固定資産の記帳（固定資産の意味、種類、固定資産台帳）
19. 決算整理その1（3分法関係）……決算整理とは、3分法関係の「決算整理仕訳」と「決算振替仕訳」の例
20. 決算整理その2（貸倒れの見越し・減価償却）……貸倒れの見越し（意義、原理、償却債権の取立て）、減価償却（意義、毎期の減価償却費〔定額法〕、仕訳方法、売却時の処理）
21. 8桁精算表と損益計算書・貸借対照表……8桁精算表（6桁精算表の限界、8桁精算表の原理）、損益計算書（仕入勘定等の表示、区分式）、貸借対照表（評価勘定の表示等）
22. 手形の記帳……手形の種類、簿記上の勘定、為替手形振出しの説明、手形の裏書譲渡（意義等、割引）、受取手形記入帳・支払手形記入帳
23. 決算整理その3（収益・費用の繰延べ・見越し）……設例の提示、収益・費用の繰延べ、収益・費用の見越し
24. その他の期中取引および決算整理事項等……その他の債権・債務の処理（商品券等）、個人企業の資本の記帳、有価証券の期末評価、消耗品の処理

科目名	簿記原理	担当者名	岡下 敏
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業は、自社の情報を外部に公表することが求められている。そのため、日頃から公表する情報を作成するのに必要な資料を集めているが、そのために用いられる記録の仕方が簿記である。講義は、簿記の最も基本的な部分を体系的に解説することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>簿記では、記述する順番と記録する形がきまっている。その順番と形を、はじめから順に講義するが、本講義で明らかにすることは、将来どのようなレベル又は部門の簿記を学習するにしても、全く変わることはない。練習問題を多く用いることになるであろう。</p>		
使用教材	テキスト	岡下 敏著『簿記の要点』（同文館出版KK、平成8年）	
	参考文献	沼田嘉穂著『簿記教科書』（同文館出版KK、平成8年）	
評価方法	<p>前期・後期ともに定期試験を行うが、後期の成績を特に重視する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席しないこと。私語をつつしむこと。</p>		

1. 企業が情報を公表することの社会的意味
2. 公表する情報（計算書）の種類と記載内容——損益計算書及び貸借対照表
3. 簿記の記録法としての特徴——①加算のみを用い、減算は用いない②すべて二つの要素に分けて同額ずつ記録する
4. 簿記でいう「取引」の意味——資産、負債、資本、収益、費用が増減する事象
5. 「取引」発生順の記録（仕訳）とその記録上の約束
6. 項目別（勘定科目別）の記録への転換とその約束
7. 簿記での検算の仕方（合計試算表を中心に）
8. 公表する計算書に記載する勘定科目及びその金額の検算方法（残高試算表）
9. 下書き（精算表）の作り方——6桁精算表
10. 日頃の記録の結末のつけ方（仕訳帳、総勘定元帳の各場合）
11. 勘定科目の学習(1)——現金、当座預金、小口現金
12. 勘定科目の学習(2)——仕入、売上、買掛金、売掛金
13. 勘定科目の学習(3)——受取手形と支払手形
14. 勘定科目の学習(4)——有価証券、備品、建物等
15. 勘定科目の学習(5)——その他の債権と債務
16. 決算整理(1)——その意味と処理手順（8桁精算表）
17. 決算整理(2)——仕入勘定の整理
18. 決算整理(3)——収益及び費用勘定の整理
19. 決算整理(4)——備品、建物勘定等の整理（減価償却）
20. 決算整理(5)——債権勘定の整理（貸倒れについて）
21. 決算整理(6)——有価証券勘定の整理
22. 練習問題を用いてのまとめ(1)
23. 練習問題を用いてのまとめ(2)
24. 練習問題を用いてのまとめ(3)

科目名	簿記原理	担当者名	香取 徹
-----	------	------	------

講義の目標	<p>経済学部の学生にとって簿記は必ず身につけておかなければならない基本的な科目です。将来、どのような職業についても簿記の知識は実社会で不可欠です。また、財務会計論・管理会計論・原価計算論・経営分析論・会計監査論・税務会計論といった会計学に関連する科目を学んでいく上ではとても重要な基礎となります。そこで、この講義では、日本商工会議所簿記検定3級程度を完全に網羅して、2級の範囲に進みたいと考えています。</p>		
講義概要	<p>前期の講義では、簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。簿記の意義と目的、複式簿記の原則、取引・勘定・仕訳とは、試算表と精算表、決算の手続き。</p> <p>後期は勘定科目、補助簿、決算整理事項による決算の手続きを理解することを目標とする。現金・預金、商品、買掛金・売掛金、受取手形・支払手形、有価証券、固定資産と減価償却、資本金、費用収益の見越・繰延。</p>		
使用教材	テキスト	『要点整理日商簿記検定試験練習問題集3級』一橋出版	
	参考文献		
評価方法	定期試験による評価		
受講者に対する要望など	<p>簿記は、一定のルールにしたがった帳簿の記帳方法から始まりますので、その修得にはどうしても記帳練習が欠かせません。授業でも記帳練習を行います。授業でやったことを次の授業までに練習してきてください。</p>		



年  
間  
授  
業  
計  
画

授業スケジュール

- 4月 ①～④
- 5月 ⑤・⑥
- 6月 ⑦
- 9・10月 ①～③
- 11月 ④～⑤
- 12月 ⑥～⑧

前期講義内容要約

前期は簿記一巡の手続きを理解することを目標とする。

- ① 簿記の意義と目的：簿記の現代的意義と目的
- ② 複式簿記の原理：複式簿記とはなにか。簿記の基礎概念と基本要素。
- ③ 取引：簿記上の取引。取引の8要素。
- ④ 勘定：勘定とは何か。勘定の種類と勘定口座。
- ⑤ 仕訳と転記：仕訳帳と元帳。
- ⑥ 試算表と精算表：合計試算表と残高試算表。精算表。
- ⑦ 決算：決算の手続。元帳の締切。決算仕訳。

後期講義内容要約

後期は勘定科目と補助簿、決算整理事項による決算手続を理解することを目標とする。

- ① 現金・預金
- ② 商品勘定
- ③ 売掛金・買掛金
- ④ 受取手形・支払手形、その他の債券債務
- ⑤ 有価証券
- ⑥ 固定資産と減価償却
- ⑦ 資本金
- ⑧ 費用・収益の見越・繰延

科目名	簿記原理	担当者名	中村泰将
-----	------	------	------

講義の目標	<p>コンピュータの発達により、計算技術的に迅速かつ正確な計算が可能になったが、経済活動を記録・計算する原理は簿記システムを学ばなければ理解できない。企業の利益の計算、課税所得の計算を始め、すべての経済活動の成果は、簿記によって計算される。この計算構造の原理を学ぶことが本講座の目的である。</p>
講義概要	<p>前期：企業の目的と企業のシステムを学び、そこで行われる経済活動を理解し、簿記がなぜ、そこに登場しなければならないかを考える。経済の活動の結果は、富のフローとストックで表すことが出来るから、その報告書が作成できるようにしたい。</p> <div style="text-align: center;"> <pre> graph LR     A["(1) 経済活動"] --&gt; B["(2) 簿記上の取引"]     B --&gt; C["(3) 分類・記録・計算"]     C --&gt; D["(4) 試算表"]     D --&gt; E["(5) 損益計算書"]     D --&gt; F["(6) 貸借対照表"] </pre> </div> <p>上の一連の行為を簿記の処理として学ぶ。(ワンサイクルの学習と呼ぶ。)</p> <p>後期：前期で学んだ一連の処理を前提として、前期よりも複雑な取引を対象としてその簿記処理を学ぶ。従って、(2)と(3)の基本的原理は同じだが、(4)から(5)と(6)を作成する過程が複雑になる。どのように複雑になるかは、授業で説明する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会田・中村・百瀬共著『現代簿記精説』中央経済社 問題のプリントも併せて使用する。</li> </ul> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簿記検定を受験する希望者は、つぎの問題集をすすめる。</li> <li>・『検定簿記ワークブック』3級、2級の商業簿記、中央経済社</li> </ul>
評価方法	<p>前期テスト、後期テストによって成績評価を判定する。</p>
受講者に対する要望など	<p>出欠は自由であるが、授業に出席することが簿記を習得するための要である。</p>

1. 簿記とは何かを理解する
  2. (1) 複式簿記の基本等式 (2) 複式簿記の基礎概念 (3) 複式簿記の5つの基本要素
  3. (1) 簿記上の取引の意味と種類 (2) 取引の8要素 (3) 資産・負債・資本の増減変化表の作成
  4. (1) 「勘定」とは何か (2) 勘定でどのように計算するか
  5. (1) 「仕訳」とは何か (2) 仕訳の仕方 (3) 「仕訳」から「勘定」へ転記する
  6. 第5回までの一連のプロセス 取引 → 仕訳帳 → 元帳 → ?
  7. 試算表の作成 (1) 試算表とは何か (2) どのような目的で試算表を作成するか
  8. 精算表の作成 (1) 精算表とは何か (2) 精算表から損益計算書と貸借対照表を作成する
  9. 決算の仕方を理解する (1) 決算とは何か
  10. (2) 決算の手続—予備手続と本手続 (3) 元帳の締切
  11. 決算の仕方を理解する (1) 費用・収益勘定を締め切る (2) 利益を資本金勘定に振り替える
  12. (3) 資産、負債、資本の勘定を締め切る
- 備考 前期を以て簿記のワンサイクルが終了し、後期より個別の項目についてより詳しい簿記の処理（仕訳）と補助簿の作成を勉強する。
13. 現金と預金の処理
  14. 商品の購入・管理・販売の処理 (1) 商品の売買利益の算定の仕方 (2) 商品の3分割
  15. (3) 商品有高帳の作成
  16. (4) 仕入帳と売上帳の作成
  17. 有価証券の購入・保有・売却の処理
  18. 固定資産の購入・利用・修繕・処分処理
  19. 債権・債務の処理(1)
  20. その他の債権・債務(2)
  21. 資本金の処理
  22. 決算の修正手続(1) (1) 収益と費用の繰延 (2) 前払費用と前受収益
  23. 決算の修正手続(2) (1) 収益と費用の見越 (2) 未収収益と未払費用
  24. 決算の修正手続(3) (1) 8桁精算表の作成 (2) 損益計算書と貸借対照表の作成

科目名	簿記原理	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「複式簿記」の基本的仕組み、簿記一巡の手続について理解すること。また企業における基本的な取引について記帳し、決算手続を遂行し、損益計算書、貸借対照表作成ができることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義は、学生諸君が複式簿記を理解し、簡単な精算表の作成、決算本手続を遂行できるようにすることを目的とする。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・複式簿記とは</li> <li>・簿記の仕組み</li> <li>・試算表と精算表</li> <li>・決算(I)</li> </ul> <p>後期講義は、学生諸君が次の事項を容易に遂行できるようにすることを目的とする。個々の取引に対する記帳、8桁精算表の作成、決算本手続の遂行、損益計算書と貸借対照表の作成である。講義の個々のテーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現金・預金取引の記帳</li> <li>・商品売買取引の記帳</li> <li>・手形取引の記帳</li> <li>・その他の取引の記帳</li> <li>・決算(II)決算整理</li> <li>・損益計算書と貸借対照表の作成</li> </ul>		
使用教材	テキスト	中村 忠『新訂・現代簿記』白桃書房	
	参考文献		
評価方法	年2回以上の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

1. 1. 複式簿記とは(1) a) 簿記の目的と種類
2. (2) b) 簿記の要素
3. 2. 簿記の仕組み(1) a) 取引と勘定、b) 勘定記入法
4. " (2) "
5. " (3) c) 仕訳と転記、d) 仕訳帳と総勘定元帳
6. " (4) "
7. 3. 試算表と精算表 (1) a) 試算表の作成、b) 精算表の作成
8. " (2) "
9. 4. 決算 (I) (1) a) 決算の意味と手続
10. " (2) b) 大陸式法、c) 英米式決算法
11. " (3) "
12. " (4) d) 損益計算書と貸借対照表の作成  
e) 開始記入
13. 5. 現金・預金取引の記帳
14. 5. 商品売買取引の記帳(1) a) 分記法、3分法
15. 6. " (2) b) 仕入帳と売上帳、c) 商品有高帳
16. 6. " (3) "  
d) 掛取引の記帳
17. 7. 手形取引の記帳 (1) a) 約束手形と為替手形、b) 受取手形勘定と支払手形勘定  
c) 手形の裏書と割引
18. " (2) d) 受取手形記入帳と支払手形記入帳  
e) 不渡手形、f) 手形貸付金と手形借入金
19. 8. その他の取引の記帳 a) その他の債権、債務取引、b) 有価証券取引  
c) 固定資産取引、d) 営業費等の取引
20. 9. 決算(II)決算整理 (1) a) 決算整理の意味  
b) 棚卸減耗損および商品評価損
21. " (2) c) 有価証券評価額  
d) 固定資産の減価償却
22. " (3) e) 費用・収益の繰延べと見越し  
f) 8桁積算表の作成
23. " (4) "
24. 損益計算書と貸借対照表の作成

科目名	簿記原理	担当者名	百瀬 房徳
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>本講では、特に複式構造を内包した商業簿記を取り上げる。複式構造は仕訳に基づき勘定システムを通じて事業の資産、負債および資本の増・減を測定する。この勘定システムと事業体の組織との関係で、各勘定の意義および機能と具体的な処理について理解を深めることにする。</p>		
講義概要	<p>複式簿記とは、貸方および借方の複式構造をもち、取引を仕訳帳、元帳および補助簿へ記入する簿記をいう。まず、複式簿記の基本的な勘定システムを前期に修得し、つぎに、基本的な勘定について仕訳帳の記入、元帳における勘定への転記および補助簿への記入について取引を記録する過程を具体的に修得する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・中村・曾田・百瀬著『現代簿記精説』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>無し</p>	
評価方法	<p>前期および後期において講義した範囲について試験する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義のあった日に必ず復習すること。</p>		

1. 1年間における講義内容の説明。
2. 複式簿記の体系の説明およびこの簿記における取引とは何か。
3. 仕訳の基本原則および取引勘定への転記。
4. 補助簿への記入、および試算表の作成原理。
5. 精算表の作成原理損益勘定および残高勘定への転記。
6. 取り引きパターン別仕訳例の説明。
7. パターン別に仕訳された例の勘定への転記。
8. 例題による取引の仕訳、勘定への転記、および試算表の作成。
9. 例題による精算表の作成、および帳簿締切による損益勘定および残高勘定への完成。
10. 練習問題——取引の仕訳記入および仕訳帳から元帳への転記。
11. 練習問題——試算表の作成および精算表の作成。
12. 練習問題——元帳締切による損益勘定および残高勘定の完成。
13. 現金勘定と現金出納帳。
14. 当座預金と当座預金出納帳、および小口現金と小口現金出納帳。
15. 商品勘定の記入方法…単純な商品勘定、混合商品勘定および商品勘定の分割。
16. 仕訳勘定と売上勘定…返品と値引きおよび商品の仕入価額。
17. 仕入勘定と仕訳勘定および売上勘定と売上帳。
18. 繰越商品勘定と商品有高帳、および棚卸減耗費および商品評価損。
19. 売掛金勘定と得意先元帳、および買掛金勘定と仕入先元帳。
20. 受取手形勘定と受取手形記入帳、および支払手形勘定と支払手形記入帳。
21. その他の債券・債務の諸勘定、および有価証券勘定。
22. 固定資産の諸勘定…特に減価償却に関する処理。
23. 決算前の諸勘定の整理について。
24. 決算…勘定の締切、損益勘定および残高勘定の完成、および8桁精算表の作成。

科目名	簿記原理	担当者名	湯田雅夫
-----	------	------	------

講義の目標	<p>簿記は、企業の管理運営を合理的に推進するにあたって、また企業の財政状態や経営成績を外部の利害関係者に正しく報告するうえで、欠くことのできない計算技術である。</p> <p>本講は、受講生全員が日本商工会議所検定3級の実力を修得するよう、初級簿記の原理と技法を懇切丁寧に解説する。</p>		
講義概要	<p>複式簿記の基礎的な原理と技法を完全に修得させることを主眼として、講義と記帳・計算練習を並行して行なう。簿記は、技術がかなりのウェートを占めている学問であるので、単に書物を読んで学習するだけでは修得できない。各自、授業の進捗度に応じて教科書の「練習問題A」および「練習問題B」に取り組み、記帳練習を重ねる必要がある。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・上田・小川・渋谷・湯田『演習 商業簿記入門』中央経済社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定3級 初級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・渋谷武夫『日商簿記検定2級 中級簿記演習』税務研究会出版局</li> <li>・小川 洵・渋谷武夫『現代工業簿記』税務経理協会、1984</li> </ul>	
評価方法	<p>当該講義科目は、前期・後期の2回実施する試験によって行う。なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>私語を一切しないこと。</p>		



1. イントロダクション；講義概要ならびに授業の進め方
2. 簿記の歴史
3. 第1章 簿記の意義と目的；第2章 資産・資本と貸借対照表
4. 第2章 東京商会の事例解説；第3章 収益・費用と損益計算書
5. 第4章 取引；第5章 勘定
6. 第6章 仕訳と転記
7. 第7章 帳簿
8. 第8章 簿記一巡の手続き
9. 第9章 現金預金
10. 第10章 商品売買
11. 第10章 商品売買
12. 第11章 有価証券；第12章 売掛金と買掛金
13. 第13章 その他の債権・債務
14. 第14章 手形
15. 第15章 貸倒れと貸倒引当金
16. 第16章 固定資産；第17章 資本金と引出金
17. 第18章 収益・費用の繰延と見越
18. 第19章 決算予備手続
19. 第19章 問題
20. 第20章 決算本手続
21. 第20章 決算本手続
22. 第20章 問題
23. 総合問題
24. 本講義の結びとして、「簿記学習の継続」の必要性を指摘する。

科目名	会計学原理	担当者名	内 倉 滋
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>企業会計もまた1つの言語であるとしばしば評されるが、言語を対象とした科学の分野には、その文法を純粹形式的に明らかにしていく「構文論」と、言葉の持つ意味の解明を試みる「意味論」と、社会的制度の中での言葉の用いられ方を研究する「語用論」とがある。本講義は、簿記原理という構文論の知識を前提に、それに内容的な意味付けを試みていくところの、会計学における「意味論」に相当するものであり、その後展開される会計学における「語用論」（＝経営分析論等の応用・専門学科目）への1つの橋渡しとなるものである。</p>		
講義概要	<p>本講義は会計という言語の意味論だと上で述べたが、そのことの意味は、たとえば「簿記原理」が「資産」を「所有する財貨および債権の総称」と説明するだけであるのに対し、そのどちらでもない「資産」が存在することを指摘した上で、“では資産の本質は何か？”といった問題を考察していく講義だ、ということである。ただし本講義では、その解決のための拠り所を、「企業会計原則」およびその解釈論に限定することとしたい。したがって本講義は、表面的には「企業会計原則」の解釈論を展開していくという形をとることとなるが、そのこと自体が目的なのではないことを忘れないでいてほしい。</p>		
使用教材	テキスト	未定。	
	参考文献	図書館に複数冊あるものを中心に、後日紹介します。	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また（受講生の理解度を知る目的からも）何回か小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウェイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。なおその際には、相対評価を基本とし絶対評価を加味することとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎回、「私は以上のように考えますが、皆さん方はどうですか」と問いかけて終わることにしています。それに応えてくれることが、本当に価値のあることだと思っております。</p>		

1. 本講義の目的……目的＝「制度会計」とそれを支える理論の研究、3つの制度会計、「企業会計原則」（以下「原則」と略す）、それを支える理論
2. 会計学の歴史……欧米（複式簿記の起源、会計学の成立、ドイツの動態論、アメリカ会計学）、我が国（明治6年の出発点、戦前、戦後）
3. 戦後の制度会計の変遷と「原則」……「原則」の設定（設定目的、性質、期待された機能）、3つの制度会計による「原則」の採り入れ（証券取引法、商法、法人税法）
4. 「原則」の全体像と「一般原則」の体系……「原則」の特徴（会計担当者に対する行為の指針の存在、具体的な処理ルールの財務諸表別規定）、「一般原則」の体系
5. 「一般原則」の第1原則……企業会計の目的観（静態論、動態論）、第1原則の目的観（“経営成績”に力点）、「真実」性を要求（2つの真実性、達成可能性）
6. 「一般原則」の第2原則……「正規の簿記の原則」に従えとの要請（第2原則自体≠「正規の簿記の原則」）、「正規の簿記の原則」とは（通説、少数説）
7. 「一般原則」の第3原則……「正規の簿記の原則」の「少数説」に立った位置付け、第3原則の要請内容（前段、後段〔「特に」の意味〕）
8. 「一般原則」の第4原則……3つの要請内容、「必要な会計事実」（重要な会計方針の開示、重要な後発事象の開示）、「重要性の原則」と第2・4原則
9. 「一般原則」の第5原則……要請内容（会計方針の継続性、「正当な理由」による変更の容認）、本原則の意義（相対的真実性との関係、代替ルールの無い場合）
10. 「一般原則」の第6原則……意味（静態論時代の意義、意思決定のルールとしての現在の解釈）、「原則」の文理解釈、過度の保守主義
11. 「一般原則」の第7原則……2つの要請内容、「原則」は「実質的単一性」を要請してるとの解釈、そのうちの「相対的単一性」を要請してるとの解釈
12. 収益・費用の“計上額”についての基本ルール……計上額の基本＝収支額、損益計算書原則1A前段との関係、無償で固定資産を取得した時の処理（公正評価説、圧縮記帳）
13. 収益・費用の“認識（計上のタイミング）”の基本ルール……費用＝「発生」時点（発生主義の原則）、収益＝「実現」時点（実現主義の原則）、「実現」の要件
14. 実現主義の原則の位置付け……収益認識の基本ルールとの立場、代替的ルールとの立場、「原則」も代替的ルールと考えてるとの解釈の可能性、国際会計基準の立場
15. 実現主義の原則の適用……「原則」〔注6〕の規定（特殊な販売契約への適用）、〔注7〕の規定（長期の請負工事への適用・非適用）
16. 実現主義の原則の適用に関する演習……試用販売、委託販売、割賦販売等
17. 実現主義の原則の適用に関する小テスト
18. 固定資産の費用の認識……費用認識の基本＝「発生」、減価償却手続きの解釈、税法が残存価額を取得価額の10%と規定していることの意義
19. 棚卸資産の費用の認識……基本、「小売棚卸法」という特殊な方法についての各論
20. 収益・費用対応の原則……必要性、費用を「対応」させる2手続き（「引当金」による見越し、発生費用の繰延べ）、引当金（「原則」の態度、租税法の態度）
21. 発生費用の繰延べ……その手続きの意義、繰延資産（種類、その後の費用化）、開発費・試験研究費についての各論（我が国の商法と国際会計基準との違い等）
22. 動的な貸借対照表観……基本、支出と費用間のずれによる貸借対照表項目、収入と収益間のずれによる項目、収入と支出間の「ずれ」、貸借対照表シェーマ
23. 財務諸表の形式面のルール……損益計算書について（総額主義、源泉別分類と対応表示）、貸借対照表について（貸借対照表の「区分」と各科目の「分類」等）
24. 連結財務諸表……その作成目的、作成手続き、我が国の基準と国際会計基準等との違い

科目名	会計学原理	担当者名	中村泰将
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計行動が社会・経済に対してどのような影響を及ぼし、企業社会に対して何を変化させることが出来るかを学びます。</p> <pre> graph LR     A[簿記原理] --&gt; B[上級簿記]     A --&gt; C[会计学原理]     B --&gt; D[財務会計論]     C --&gt; D     D -.-&gt; E[会計関連ゼミ]           </pre>	
講義概要	<p>本テキストは、現行の会計の枠組みを説明・解説するのみでなく、現代企業の戦略行動に至るまで、現実の企業決算のデータをまじえてカレントな会計問題を論議していることが特徴である。従って、講義においては、現代の企業行動を会計数値でもって直視し、現実の法的、経済的、経営的環境のもとで企業がどのような会計行動をとっているかをテーマとして講義したいと思っている。</p> <p>そのため、「日本経済新聞」等の会計、財務、経営に関する資料を参考にしながら、現実の会計の諸問題を説明・分析していきたい。</p>	
使用教材	テキスト	伊藤邦雄著 ゼミナール『現代会計入門』日本経済新聞社
	参考文献	本テキストと同じ、経済・経営に関する「ゼミナール・シリーズ」を併せて読むと効果的である。
評価方法	<p>前期：客観テスト</p> <p>後期：論理的説明を求めるテスト</p> <p>前期・後期のテストを総合して判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>本講座の受講者は、1年生で「簿記原理」を修得したか、またはそれ相当の簿記の内容を理解した学生の受講が望ましい。また、他学科でも会計学に興味をもった学生は歓迎する。</p>	

1. 第1部 企業会計のパラダイム
2. 1. 現代の企業会計
3. 2. 企業会計の本質とフレームワーク
4. 3. 会計制度の理論と体系
5. 4. 企業のディスクロージャー
- 6.
7. 第2部 資源フローの会計
8. 1. 損益計算書のパラダイム
9. 2. 経営パフォーマンスの測定と表示
- 10.
- 11.
- 12.
13. 第3部 資源ストックの会計
14. 1. 貸借対照表のパラダイム
15. 2. 資産の会計
16. 3. 持分の会計
- 17.
- 18.
19. 第4部 現代企業の戦略行動の会計
20. 1. 企業連結の会計
21. 2. グローバリゼーションの会計
22. 3. M&A と合併の会計
23. 4. デリバティブとオフバランス取引
- 24.

科目名	経営管理論	担当者名	増田茂樹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営学の研究領域をどのように構成するかは学者により様々であるが、私は経営学研究方法論、企業体制論、経営管理論の3大研究領域から成り立つものとする。中でも経営管理論こそ経営学の中心内容であるとする。経営管理（これをマネジメントという）はどのような職能であり、どのような能力を必要とするかを的確に把握することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>前期において、能率増進運動、テイラー・システム、フォード・システム、人間関係論、現代理論をくわしく検討し、マネジメントの生成と発展を理解し、マネジメントの本質を明らかにする。</p> <p>後期において、マネジメントを階層的機能として、他方、プロセス的機能として把握する。マネジメントは階層的には経営と管理の2階層に分けられる。両者の内容を明らかにし、両者の本質的相違点と両者の密接な関連を明らかにする。また、マネジメントはプロセス的には計画・組織・統制の3プロセスに分けられる。これら3者の内容を明らかにし、3者の密接な関連を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義のつど紹介する。</li> </ul>	
評価方法	<p>成績評価は前期後期の定期試験の結果による。出題形式などは前期後期それぞれの最終講義で説明する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義への出席を奨励する。そのために何らかの方法で、毎回、出席をとる予定である。</p>		

1. はじめに——経営管理論の学び方——  
①この講義のねらいと②体系について説明し③経営管理論を学ぶ姿勢と方法について話す。
2. ①マネジメントの生成と発展  
①能率増進運動
3.        "
4. ②テイラー・システム
5.        "
6. ③フォード・システム
7.        "
8. ④人間関係論
9.        "
10. ⑤現代理論
11.        "
12. (前期講義のまとめと定期試験について)
13. (後期講義をはじめめるに当って) ①前期試験結果の講評と前期講義の復習 ②後期講義の構想
14. ②マネジメントの階層 (経営と管理)  
①マネジメントと作業
15. ②経営と管理
16. ③経営環境と企業の社会的責任
17.        "
18. ④経営戦略と経営リーダーシップ
19.        "
20. ③マネジメントのプロセス (計画・組織・統制)  
①計画・組織・統制 (コントロール)
21. ②経営計画の策定
22. ③経営組織の設計と指導
23. ④経営コントロール
24. (後期講義のまとめと定期試験について)

科目名	経営労務論	担当者名	宮城浩祐
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営労務論は、人的資源の管理の諸問題を取り扱う領域である。その目的は、企業には効率、従業員には満足をもたらすものであるということはいうまでもない。労務政策には普遍的妥当性をもった政策はない。種々の環境要因に規制されて、個有の政策がうまれるのであるが、ここでは環境要因のうち、文化に着目して、文化と労務政策との関係を考察する。そして、むしろ文化にフィットした労務政策こそすぐれた政策であることを明らかにする。そこで当然のことながら、比較経営的な観点から、各国との比較において、日本の企業の労務政策を明らかにすることになる。</p>		
講義概要	<p>各週別に明らかにする（次頁の各週別の講義概要を見られたい）。</p>		
使用教材	テキスト	<p>その都度、10枚程度の教材を配布する。期末にはかなりの枚数になるので、適宜整理しておかないと、どれが何回目の資料であるか、わからなくなってしまうことがあるので注意して下さい。また英文資料を配布することもあります。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済企画庁編『経済白書』（平成4年版）</li> <li>・同庁編『経済白書』（平成6年版）</li> <li>・R. Dore 著『日本型資本主義なくしてなんの日本か』光文社 1993年</li> <li>・G. Hofstede 著『経営文化の国際比較』産能大出版部 1988年</li> </ul>	
評価方法	<p>総合評価による。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義順位・内容等に若干の変更もあるかも知れませんが御了承下さい。</p>		



1. “your company” と “our company” 「会社は誰のものか」と問われた場合、日本人は「株主のもの」と答えず、「従業員のもの」と答えることが多く、ここに日本人の企業観が示される。ここで stakeholder について考える。
2. 配当政策の国際比較 日米の配当政策のちがいを明らかにする。これは直接的には企業と株主との関係の日米のちがいを考察するものであるが、この考察によって株主主権型企業と従業員主権型企業の差異を示す。
3. 企業の政治的側面 企業は stakeholder の連合体である。これらの構成員は、意思決定への影響力、情報報の共有度において同一ではなく、階層関係にある。中核集団と衛星集団に二分して、これらを考察する。
4. 生産性と成果配分 「生産性」の概念を明らかにするとともに、生産性の向上の成果が stakeholder にどのように配分されるかを考察する。どのように配分されるかは、市場要因、stakeholder の影響、文化で決まる。
5. 労働時間の短縮と弾力性 時短のメカニズムを明らかにするとともに、もう一つの潮流である労働時間の弾力化について考える。後者は、自己決定化の世界的潮流を反映する。
6. 雇用調整の国際比較 雇用調整政策は、文化によって差異がある。ここでは雇用関係を primary model と relational perspective にわけて考察する。日本企業は後者、米国企業は前者に属する。
7. 労働市場の内部化と従業員の志向 労働市場の流動化がつねに叫ばれながら、日本企業は労働市場の内部化を人事・労務の基本戦略としてきた。従業員の志向も上昇志向である。この政策の merit/demerit を考察する。
8. 賃金政策と交換理論 文化人類学や社会学の諸領域で開発された交換理論を使って賃金政策を分析する。
9. 賃金政策と分配公正理論 分配公正理論では、どのような資源配分が公正と構成員のあいだで認識されるかは、文化によって決まることがわかっている。ここでは、この観点から賃金政策を分析する。
10. 付加給付政策と paternalism 付加給無政策は、その企業のおかれた経済的、社会的、文化的要因によって決まる。ここではパターナリズムとの関係も考察の対象としたい。
11. 定年制の諸問題 定年制の機能、定年延長の阻害要因を検討するとともに、定年制運用は今後一層フレキシブルにならざるを得ないだろうということを示す。これには、労働時間の弾力化と共通の論理がはたらく。
12. 盛田論文をどう読むか ソニー会長盛田昭夫「日本型経営が危ない」(文芸春秋、1992年2月号)は、労務政策に影響を及ぼす重要な提案を起している。これをどう読むべきかを検討する。
13. 職務概念と組織設計 A. Brown の組織論は、組織設計において、個人の責任の明確化を貫徹すべきであることを強調する点で、アングロサクソン系組織論の典型である。これに対して日本企業のそれは弾力的である。
14. equifinality について 「講義の目標」を参照のこと。equifinality とは、同一の目標を達成するには、種々の手段があることを示す英語。
15. 計算的関与と道徳的関与 A. Etzioni の示した組織への関与の型。この二分法と個人主義/集団主義との関係を考える。
16. 合理的経済人と科学的管理法 A. Smith はいうに及ばず、伝統的な経済経営理論は、この人間モデルを前提にしている。労務政策でも同じである。この人間観の上に、管理戦略がたてられた。両者の関係を明らかにする。
17. 社会人モデルと Hawthorne 実験の意味 ホーソン実験の成果が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。と同時に、そこで生れた人事・労務政策をみる。
18. 自己実現人モデルと Maslow の欲求階層理論 彼の仮説が、新しい人間観の形成に、どのように寄与したかをみる。また彼の仮説は、米国以外の国で、つぎつぎと検証されたが、それらの結果を紹介する。
19. McClelland の達成動機論と経済成長 M. Weber は、宗教と経済成長との関連を考山したことでよく知られる。McClelland の理論は、この系譜に属し、経済成長には達成動機が寄与していることを証明しようとした。
20. 「Made-in America」の動機づけ理論は普遍的妥当性をもつか Maslow の理論といい、McClelland の理論といい、それらはみんな「米国製」の理論である。はたして、それらは他の文化に移転できるか。
21. Herzberg の二要因理論と職務充実 職務設計の人間工学的技術において、職務充実が有名である。Herzberg の理論は、この技術の構築にどのように寄与したかを考える。
22. 「仕事の人間化」——もう一つの道 ボルボのカルマール工場では、仕事の人間化のために、ベルトコンベアを廃止して「半自律的作業集団」を導入した。これは職務充実とは別の道である。その文化的背景をさぐる。
23. 海外要員政策の諸問題 R. Tung による日米欧の多国籍企業の海外派遣要員政策の比較結果を紹介し、これを文化の観点から考察する。
24. 比較経営論と労務政策 G. Hofstede の比較経営論の観点から労務政策を総括的に考察し、終講とする。

科目名	財務管理論	担当者名	細田 哲
-----	-------	------	------

講義の目標	我が国において「間接金融」主導型の金融システムは崩壊しつつあり、各国資本市場は、それぞれ高度化、多様化、国際化を遂げつつある。したがって、経営者（財務担当者）は、資本市場により関心を払って財務的意思決定を行なわねばならない状況となっている。そこで、「資本市場」志向の財務的意思決定のあり方について説明し、同時に、日本企業が採用してきた財務政策の特色と問題点について検討する。		
講義概要	各週別の講義予定を見られたい。		
使用教材	テキスト	・井手正介、高橋文郎著『ビジネス・ゼミナール 企業財務入門』日本経済新聞社	
	参考文献	・岡部政昭著『企業財務論』新世社 ・岩村 充著『入門 企業金融論』日本経済新聞社 ・高橋 誠、新井富雄『ビジネス・ゼミナール ディリバティブ入門』日本経済新聞社 ・J. A. トレーシー『MBAの財務』日本経済新聞社	
評価方法	年2回の試験の結果による。		
受講者に対する要望など			

年 間 授 業 計 画	1. 1	企業の目的と財務政策	a) 市場型経済における消費・貯蓄・投資の決定	b) 企業による市場を通じる価値創造
	2.		c) 資本市場の役割	d) 企業の財務的意思決定のフレームワーク
	3. 2	資産の価値をどう評価するか	a) 現在価値の評価	
	4.		b) 債券の評価	
	5. 3	株式の価値はどう決まる	a) 配当割引モデルの考え方	b) 一定成長割引モデルと株価収益率
	6.		c) 配当割引モデルの応用	d) 日本の株価水準と期待収益率
	7. 4	リスクをどう測るか	a) 投資リスクの尺度	
	8.		b) ポートフォリオのリスク	
	9.		c) ベータ値と資本資産評価モデル	
	10. 5	資本コストとは何か	a) 資本コストとは	b) 投資のキャッシュ・フロー
	11.		c) 資本コストの推計方法	
	12.		d) 日本企業の資本コストの計算例	e) 資本コストと資金コスト
	13. 6	望ましい資本構成とは	a) 完全資本市場における資本構成と企業価値	
	14.		b) 法人税や倒産可能性が企業価値に与える影響	
	15.		c) 企業価値の最大化と株価の最大化	d) 資本構成決定の現実的な考慮点
			e) 日米企業の資本構成の動向	
	16. 7	配当政策の考え方	a) 配当政策の理論	
			b) 配当政策をめぐる問題点	
	17.		c) 株式配当と株式分割	
			d) 日米企業の配当政策	
	18. 8	自社株取得	a) 自社株取得の本質	
			b) 自社株取得の利用動機	
	19.		c) 自社株取得と株価評価	
			d) 自社株取得をめぐるわが国の現状	
20. 9	リスク管理とデリバティブの利用	a) デリバティブとは何か		
21.		b) デリバティブを利用した金利リスク管理		
		c) 企業財務とリスク管理		
22. 10	企業の合併・買収			
23. 11	日本の伝統的な金融システムの特徴と問題点			
24. 12	日本企業の財務政策の課題			

科目名	国際経営論	担当者名	小林哲也
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義では、国境を越える資本の活動を、歴史的かつグローバルな視点から捉えることを主テーマとする。現代の世界経済のグローバル化の主体は、多国籍企業である。多国籍企業による生産・販売活動は、第三世界をも含めた各国経済に、大きな構造変化をもたらしつつある。講義では、そうした多国籍企業の活動・世界経済の構造変化を捉えるための、理論的枠組みを議論する。</p>		
講義概要	<p>資本主義世界経済の歴史、多国籍企業の形成史、現代資本主義の構造変化といった歴史的概観のあと、多国籍企業に関する諸問題を分析する。</p> <p>後半では、日本企業の海外進出（と撤退）をとりあげ、主として対アジアおよび対北米の企業進出の事例分析や現地企業との比較分析などを行なう。</p>		
使用教材	テキスト	特になし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ J. H. DUNNING, THE GLOBALIZATION OF BUSINESS, ROUTLEDGE</li> <li>・ ILO, INDUSTRY ON THE MOVE, ILO</li> <li>・ M. CASSON, MULTINATIONALS AND WORLD TRADE, ALLEN &amp; UNWIN</li> <li>・ 『海外進出企業総覧』各年版、東洋経済</li> <li>・ 宮崎義一『現代企業論入門』有斐閣</li> <li>・ 森田桐郎編『世界経済論』ミネルヴァ書房</li> <li>・ 青木昌彦編『システムとしての日本企業』NTT出版</li> </ul>	
評価方法	定期試験による。		
受講者に対する要望など	<p>関連科目：経済原論、経営学総論、企業論、国際経済論、貿易論、国際金融論、地域経済各論などを受講していることが望ましい。</p>		

序：国境を越える資本

世界経済の構造

国民経済——世界経済

分析単位としての「世界経済」

世界経済の複合的構造

歴史的形成

植民地体制の崩壊

世界経済の現段階

新国際分業

巨大企業の登場と多国籍企業の時代

多国籍企業とは何か

多数のビジョン・定義・アプローチ

I. 現代企業の理論

企業の発展段階

株式会社の発展

経営者支配論の再検討——現代資本主義における所有と決定

バーリ＝ミーゼの議論

新しい経営者支配論

II. 多国籍企業の理論

輸出から直接投資へ

国内企業から世界企業へ

産業組織論的アプローチ

経営資源と優位性——ハイマー理論をめぐる諸論争

内部化「理論」

直接投資の裁定条件

多国籍企業の政治経済学

多国籍企業体制としての現代

多国籍企業と不均等発展

多国籍企業と国際分業の再編

III. 日本企業の海外進出

日本企業の経営環境

法人資本主義論、日本的経営論、日本企業の経済学

対外直接投資の動向

—ポストバブル期のジャパン・マネー—

日本

70年代/80年代/90年代

アジアへの進出と撤退

NIES, ASEAN, 中国

アメリカの日系企業

経済摩擦と直接投資

日本企業国際化の影響

輸出

技術移転、生産移転、経営移転

国際寡占競争の構造

プロダクト・サイクルと雁行形態

ハイテク産業における競争

IV. ケース・スタディ

科目名	経営史（98年度） 一般経営史（97年度以前）	担当者名	原 剛
-----	----------------------------	------	-----

講義の目標	経営史を経済的業務の営みの歴史ととらえ、古代より現在にいたる西洋の諸時代における特徴的産業の営業のありかたとその歴史的背景をさぐる。	
講義概要	古代ギリシャ・ローマ社会の産業；中世ヨーロッパの所領経営；中世ヨーロッパ都市の手工業職人の営業と、商人による前貸し問屋制度；近代ヨーロッパにおける資本主義的大規模経営の出現、株式会社と銀行業の発展；小売業者とりわけ大型小売店の発展等の歴史を既観した後に、19世紀以降の先進資本主義諸国、イギリス、アメリカ、ドイツ、フランス、日本の経営史の比較をみる。	
使用教材	テキスト	なし。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・米川伸一『経営史学—生誕・現状・展望』東洋経済新報社 1574</li> <li>・鈴木・安倍・米倉『経営史』有斐閣 1987</li> <li>・湯沢 威編『イギリス経済史 盛衰のプロセス』有斐閣 1996</li> <li>・武内達子『産業革命期の製鉄会社』東京法令 1997</li> <li>・大河内暁男『産業革命期経営史研究』岩波書店 1978</li> <li>・チャンドラー著、安倍悦雄他訳『スケール アンド スコープ経営力発展の国際比較』有斐閣 1993</li> </ul>
評価方法	前期試験および学年末試験で評価する。	
受講者に対する要望など	なし	



科目名	日本経営史	担当者名	齊藤 博
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>「日本および日本人」のあり方を探究する大きな筋道の一つとして、「日本的経営理念」の歴史的な形成と展開をあとづけ、現代経済の態様に対する反省の材料とし、かつは21世紀に向い日本および日本人の生き方の参考としたい。したがって国民精神史、民衆的マインド、経済思想、文学作品に現われた経済精神、社会倫理と個人道徳などが研究対象となってくる。経済と道徳合一の東洋的精神世界の中へ入っていききたい。現代日本におけるエリート経営者、高級官僚、超一流企業の退廃と犯罪が群生して、日本産業、金融、財政の正義、誠実、公明な経営理念が崩壊している時代状況にあって、日本と日本人のトータルな自己点検を試みたい。</p>		
講義概要	<p>講義のキーワードは以下の通りである。</p> <p>1. 企業家精神 2. 近代化の背景（政治的安定、中産階級の広範な存在、国民の高度な教育水準、宗教・信仰の近代化） 3. 近代化の環境（大量・大衆市場、経済活動の自由、利潤追求の自由、近代的な経済金融財政政策） 4. 「人」、「個人」の問題 5. 土屋喬雄 6. 日本的経営理念 7. 通俗道徳 8. 日本精神</p> <p>西鶴文学に現われた近世商人の商業道徳や経営理念を探究するなど、具体的な日本人のマインドの原点から出発しつつ、近世封建時代の経済思想専門家（いわゆる経世家）や近代日本の農本主義者や日本的経営理念家（二宮尊徳、渋沢栄一、金原明善、山崎延吉、藤原銀次郎など）の言動を通じて、日本的経営の特徴とスタイルを歴史描写していききたい。軍人勅諭や教育勅語の内在的研究を展開しながら、日本人の原点に迫りたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齊藤 博『民衆史の構造』新評論</li> <li>・齊藤 博『民衆精神の原像』新評論</li> </ul>	
	参考文献	<p>経営理念史あるいは経済精神史の学風の濃厚な講義であるから、とにかく講義ノートを作り、テキストの当該指定箇所をよく読んでもらいたい。</p>	
評価方法	<p>前期および後期に、それぞれ筆記試験を行なう。</p> <p>講義ノートを正確かつ丁寧にとってもらえば、講義の全体像が細部とともに理解できる。その点を評価の基準にしている。</p>		
受講者に対する要望など	<p>講義内容と課題は「反現代」風で「難解」であるから、あらかじめ、それを了承して置くことを希望したい。数冊のテキストや参考文献は、必ず直接手にして熟読することを要請する。とにかく、できる限り出席をすること。</p>		



年 間 授 業 計 画	1. ① 経営史学とはなにかⅠ …現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象
	2. ① 経営史学とはなにかⅡ …現代日本における経営理念の退廃と崩壊現象
	3. ① 経営史学とはなにかⅢ …20世紀国際情況と指導者像（リーダーシップ論）
	4. ① 経営史学とはなにかⅣ …経済史学と経営史学の連関性と分離展開
	5. ② 日本に於ける経営史学の成立と展開Ⅰ 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	6. ② 日本に於ける経営史学の成立と展開Ⅱ 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	7. ② 日本に於ける経営史学の成立と展開Ⅲ 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	8. ② 日本に於ける経営史学の成立と展開Ⅳ 土屋喬雄、高橋亀吉、野村兼太郎、本庄栄次郎、大塚久雄
	9. ③ 日本的経営理念の形成と確立Ⅰ …封建経済の展開と「民富」の形成・確立
	10. ③ 日本的経営理念の形成と確立Ⅱ …封建経済の展開と「民富」の形成・確立
	11. ③ 日本的経営理念の形成と確立Ⅲ …武陽隠士『世事見聞録』を読む
	12. ③ 日本的経営理念の形成と確立Ⅳ …「家訓」の世界
	13. ③ 日本的経営理念の形成と確立Ⅴ …「家訓」の世界
	14. ④ 近代化と企業家精神Ⅰ 近代化の背景と環境（日本農本主義—山崎延吉の世界）
	15. ④ 近代化と企業家精神Ⅱ 近代化の背景と環境 ”
	16. ④ 近代化と企業家精神Ⅲ 近代化の背景と環境 ”
	17. ④ 近代化と企業家精神Ⅳ 近代化の背景と環境 ”
	18. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅰ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	19. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅱ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	20. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅲ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	21. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅳ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	22. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅴ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	23. ⑥ いわゆる「通俗道徳」の世界と日本人Ⅵ 軍人勅諭、教育勅諭の世界を規準線として
	24. ⑦ 日本精神と日本的経営理念 日本人のたましいを探る

科目名	行動科学論	担当者名	大久保 貞 義
-----	-------	------	---------

講義の目標	<p>行動科学論という学問は、比較的新しい学問である。その学問的方法論は、心理学、社会学、文化人類学などの学問的成果を応用し、社会の問題を分析し、研究する学問である。</p> <p>一般には、既成の科学 (Established Science) である自然科学や社会科学の成果を応用する学問であるから、これらの学問の基礎を知った上で、行動科学を学ぶ事が望ましいのであるが、行動科学の一端を学部時代に学ぶのも意義があるかもしれない。</p>	
講義概要	<p>まず始めに、心理学、社会学、文化人類学の基礎用語を学び、各学問のコンセプトを理解する。その上で、学問間の特性を理解して、どのように総合化するかを学ぶ。したがって各学問を暗記するのではなく、あくまでも各学問の成果を素材として、実際の社会問題をどう分析し、解決するかという事を考える事が大切である。そこには、人間だけが持つ創造性 (Creativity) をいかに発揮するかという事が重要になる。</p> <p>従来の既成概念にとらわれる事なく、新しい考え方、新しい行動様式 of 概念を形成する事が大切である。このレベルまで達すると、大学院の水準にまで達する事になるが、若い時から、新しい概念、新しい考え方に接触する事は、長期的にみて役に立つであろう。</p>	
使用教材	テキスト	授業の時に指示する
	参考文献	
評価方法	<p>レポートと定期試験の成績で評価します。</p> <p>再試験は行わないので、注意して下さい。</p>	
受講者に対する要望など	<p>従来の惰性的思考様式からいかにぬけだすか、頭のトレーニングを積む事を要望する。</p>	

1. ○学問の発展段階＝先頭を切る数学の重要性。発展の順序はどうなっているか
2. ○学問の法則性とは何か＝理論の美しさ、力強さはどうして生まれるか。それは数式で表現される
3. ○ニュートンの力学のポイント＝見方を変えれば……何を表現しようとしているのか
4. ○＝科学の目標は何か＝すべての物質の素粒子から生きている人間まで——そして宇宙まですべての万物の動を統一する理論・規則性はあるか。
5. ○社会学の基礎用語、文化人類学の用語、心理学、社会心理学の用語
6. ○集団規範の実験＝実験可能な法則と不可能な法則
7. ○人間＝この不思議なもの
8. ○人間社会の発展＝農耕社会、工業化社会、脱工業化社会、社会を進歩させるものは……神さま？仏さま？
9. ○伝統的社会と近代的社会の対比
10. ○それぞれの社会の時間の概念＝人間と時間の関係の仕方 時間の価値は、社会によって相違して来る。
11. ○社会の変化に伴う価値観の変動→人間行動の規則性
12. ○経済の発展と人間行動のパターン分析 ①経済中心の産業主義：
13. ②巨大組織への参加：組織の中の人間、技術中心のイデオロギー
14. ③脱工業化社会の生きる選択権の拡大：組織の中の金銭、財力、尊敬心、忠誠心、とそれに対立する人間の中の誠実さ、人間味、自己実現への願望。
15. ○コミュニケーションの理論 マス・コミュニケーションとパーソナルコミュニケーションの特性
16. ○コミュニケーションの二段の流れ その構造と機能。メッセージの特性と内容と伝播の速度
17. ○オピニオンリーダーの役割とその特性
18. ○創造性とは何か＝ 二つの既知の要素の組み合わせ。その本質は“反送”である
19. ○創造性開発の技法＝ブレインストーミングのやり方とチェックポイント その他の開発法
20. ○思考とパーソナリティ＝創造的人間と非創造的人間
21. ○時間と人間行動、生産性・効率・労働システムと人間の時間
22. ○未来予測の技術 物理的現象の予測と社会的現象の予測の相違
23. ○予測の面白さは、未確定要素にあり。 高令化社会、脱工業化社会、情報化社会におきる現象分析
24. 予測の正確さは、未来を形成する力にあり。 予測したら、その方向に人間の意志の力で状況を変化させる。行動科学は、戦略の学問でもある。

科目名	広告論	担当者名	梶山 皓
-----	-----	------	------

講義の目標	現代社会における広告の機能や役割を明らかにします。また企業の広告活動を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。</li> <li>2. 社会風俗や価値観、倫理・法律の面から、現代の広告現象を考えます。</li> <li>3. マスコミ、メディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。</li> <li>4. マーケティング活動やコミュニケーション過程の原理を明らかにします。</li> <li>5. TV・CMを通じて、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。</li> </ol>		
使用教材	テキスト	梶山 皓著『広告入門』日経文庫。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>*八巻 俊雄・梶山 皓『広告読本』東洋経済新報社。</li> <li>*岸井 保『直撃する広告』電通</li> <li>*『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。</li> <li>*W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1995</li> <li>*S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press, 1994.</li> </ul>	
評価方法	*試験は通常前・後期に行いますが、後期だけの年もあります。問題は5題で、講義内容と教科書から出題します。試験時の「持ち込み」はありません。合格率は例年70%前後です。		
受講者に対する要望など	できるだけ3学年で履修して下さい。		

1. 広告をなぜ学ぶか (Introduction) 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事をポジティブにとらえる習慣が身に付く。
2. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉の語源は、古フランス語やラテン語で「振り向かける」「注意を引く」という意味である。
3. 広告の定義 (Ad. Definition) : 広告という言葉は、しばしばPR、広報、宣伝、プロモーションなどと混同して間違った使われ方をしている。
4. 広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告を代表するのは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6. 広告の種類 (Ad. Classification) : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使われるものがある。
7. 広告主 (Advertisers) : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の約半分を一国で占める。日本は世界第2位で約6兆円である。
8. 広告主 (Advertisers) : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画し実施する専門家集団である。日米では広告ビジネスの進め方が異なる。
10. 広告会社 (Ad. Agency) : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源の多くは、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11. 広告メディア (Ad. Media) : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12. 広告メディア (Ad. Media) : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATV、インターネットなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
13. マーケティングの基本理念 (Marketing Principles) : マーケティングは消費者志向の概念である。最近では環境問題などの新しい価値観の影響を受けている。
14. 戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業経営の全体計画である。
15. マーケティング・ミクス (Marketing Mix) : 企業は、製品開発、価格の設定、流通チャネルの選択、プロモーションの相乗効果によって企業間競争を進める。
16. プロモーション・ミクス (Promotion Mix) : 製品の販売は、広告、セールスマン、SP (セールスプロモーション)、PRなどの力を合体化させて行う。
17. 広告コミュニケーション (Communication) : 広告はマスコミを手段とした社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
18. 広告コミュニケーション (Communication) : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
19. DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという考え方があり、広告理論に大きな影響を与えている。
20. 広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品の属性を調べてから買うのか、それとも買った後に調べるのか、衝動買いはなぜ起きるのかなどを考える。
21. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
22. 広告計画 (Ad. Planning) : 広告計画の中では、広告表現の方針を決めることと、広告を運ぶメディアを選ぶことがとくに重要である。
23. 広告規制 (Ad. Regulation) : 広告は、倫理や公序良俗の面と法律の両面から規制を受けている。規制の内容は時代によって、国によって異なっている。
24. 広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるのかを考える。

科目名	交通論	担当者名	山野邊 義方
-----	-----	------	--------

講義の目標	<p>交通は、人や物の空間的・地点間移動であり、経済社会にとって、不可欠のサービスである。第2次大戦後、日本経済の成長とともに、交通部門の整備・近代化を図ることが重要な課題になった。交通政策は、交通事業者間の競争と、利用者の自由な選択を反映する市場構造を整備するために、規制の見直しや、競争促進施策を推進する方向に向かっている。</p> <p>このような時代の進展のなかで、個別企業、国民経済、国際経済等の観点から、交通の体系、実態および将来方向について、考察する。</p>	
講義概要	<p>前期は、交通の概念と機能、日本経済の発展と交通との関連、交通サービスの需要と供給、交通機能の管理等に重点を置く。</p> <p>後期は、各交通手段の特性と実態、国際交通の展開、交通事業の経営、交通の将来方向等に重点を置く。</p> <p>前期、後期を通じ、交通を旅客輸送と貨物輸送に大別し、貨物輸送については、物流機能・物流システムを構成する主要機能として考察する。</p>	
使用教材	テキスト	山野邊義方著『物流管理の基礎』白桃書房
	参考文献	
評価方法	前期・後期の定期試験、出席状況等により、総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	講義に常時出席することはもとより、新聞を読み、交通・物流の動向、交通・物流活動に影響を与えている諸要因の認識など、問題意識をもつことが必要である。	

1. 交通の概念・基本的機能
2. 日本経済と交通、産業構造と交通、都市化と交通、交通構造
3. 貨物の専用輸送と雑貨輸送
4. 交通サービスの需要と供給
5. 需要開発型事業、労働力の活用
6. 交通の基礎施設・拠点施設
7. 交通拠点施設—中小企業の集団化と共同事業
8. 交通政策、交通近代化の要請、物流の近代化
9. 運輸行政と法規制
10. 規制緩和と交通
11. 企業経営と交通
12. 交通サービスの管理、物流管理
13. 物流機能と貨物輸送
14. 物流システムと貨物輸送
15. 貨物輸送と物流の合理化
16. 各交通手段の特性、鉄道、自動車
17. 船舶、航空
18. 国際海運、国際航空
19. 交通手段の複合化、複合輸送
20. 配送
21. 共同配送
22. 交通と情報
23. 交通事業と経営の多角化、総合物流事業
24. 交通の将来展望

科目名	証券市場論	担当者名	原 亨
-----	-------	------	-----

講義の目標	<p>現代は、貨幣経済社会だといわれる。これは、現実に実物資産を上回って金融資産が累積されていて、「カネ」の方から「モノ」の世界をみるような社会をいうのである。従って、この講義は、金融や証券といった視角から、現代の資本主義社会の枠組み、仕組みを解剖していこうというところにねらいがある。先達が組み立てたいろいろな理論を手がかりに、現実の諸問題を解き明かし、その中から仮説をも組み立てていければよいと思っている。</p>		
講義概要	<p>有価証券という金融資産が、今、この世にあふれている。それは、いったいどのようなもので、どんな働きをしているのだろうか。どうしてそんなに沢山この世に生まれてきたのだろうか。お金とよく似ているが、どう違うのだろうか。また、どのように関係しているのだろうか。金融市場も、証券市場も、お金を融通しあう市場という意味では同じである。だが、後者はそれを証券を売買してお金を融通するが故に、証券の売買市場として現れる。前者にはなくて、後者には相場が立つ。これが、金融市場と証券市場とを大きく区別するところである。証券市場論の中心は、証券の売買技術や証券価格の形成、変動にある。特に、先物取引、デリバティブは、最近の価格形成や変動に大きな影響を与えている。このような視点から、本年の講義を進める。</p>		
使用教材	テキスト	<p>毎時間、講義要旨をコピーして配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・川合一郎他編 『証券市場論』 有斐閣双書 1981年</li> <li>・杉江雅彦他著 『新・証券論』 晃洋書房 1994年</li> <li>・津村英文編 『証券市場論入門』 有斐閣双書 1991年</li> <li>・矢島保男他著 『金融と経済』 成文堂 1993年</li> </ul>	
評価方法	<p>講義への出席度。学年末試験によって決定する。</p> <p>答案。問題に対して、正しく解答されているか。その論旨に整合性があり、論旨が一貫しているか、を採点の基準にする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>毎日、「日本経済新聞」を読むこと。特に金融、証券の記事は熟読すること。講義には「日本経済新聞」を持参すること。</p>		



1. シラバス授業。証券市場論は、どういう学問か、そして、この1年間どういうことが、どういう順序で講義されるか、が話される。
2. 貨幣・証券経済社会。現代資本主義経済は、貨幣や証券におおわれた社会である。金融資産が実物資産を上回っている。どうして、そうなったのか。それは、人間生活とどうかかわっているのか。
3. 証券の商品化。消費財、耐久消費財は、人間の生活資料である。証券も同じく商品であるが、その役立ち方は大分違う。証券は、形状も、素材もない。それがどうして商品になって、人間社会に大量に存在するのか。
4. 有価証券制度。証券は、いわば知的財産である。これは、約束事であるから、きずがつきやすいし、こわれやすい。しっかりした商品にするために、社会的技術や社会的制度が必要になる。それなりに強い規制を受ける。
5. 証券の多様化。証券は、債権・債務、権利・義務を表象している。これをベースに、それぞれの経済主体が、いろいろな証券を発行する。どんな種類の証券があるか（大きくわけて貨幣証券と資本証券）。
6. 債券の大作。今、最も注目されている大作が、国債である。ただたんに量が多いというだけではない。なぜ最近こんなに多くの国債が発行されたのであろうか。それを経済の仕組みの変化から考えてみよう。
7. 株式会社の出現。株式会社制度は、どのようにして生まれたか。「信用制度を基礎とする株式会社」を論じよう。その中で企業形態の発展過程も、資本の集中機構という観点から論じられる。
8. 現代の株式会社。近代的な株式会社の仕組みが説明される。「所有と経営の分離」が、「有限責任制」にもとづく出資とその回収を、出資証券たる株券の売りに置き換えた。株式流通市場は、その社会的システムである。
9. 市場論。市場は、もともと商品の市場であった。貨幣が生まれて様子が変わった。貨幣の市場が生まれ、その信用から各種の証券市場が生まれた。それだけではない。それら各市場は、相互に連なっている。
10. 証券発行市場と流通市場。特に証券市場が、どのような仕組みになっているのか、を説明する。手形は裏書によって流通し、債券には譲渡性が付けられる。株券も譲渡性が付けられ、出資・回収が容易にされる。
11. 証券会社の経営。証券の売買の仲介機能を果たすのが、証券仲買人（証券会社）である。そのほかにどんな機能を果たしているのか。
12. 証券会社経営の諸問題。現代の証券会社は、いろいろな業務を兼営する総合証券会社が独占化し、これがどのように市場に影響を与えるのか。その後、証券会社経営はどう変わっていくのか。
13. 証券取引所。証券の売買は、証券会社が取り次いで、すべて証券取引所に持ち込まれる。取引所は、具体的市場として存在する。その形成過程と取引所の機能、価格形成のやり方など、取引所の市場機能について論じる。
14. 売買仕法。取引所に上場された証券は、どのように取引されるのか。その取引形態と決済システムを解説する。普通取引と板寄せ、ザラバ売買は、その核になる技術である。証券の保管・集中振替決済制度についても説明する。
15. 価格の形成。資本主義経済における市場で、価格は一般にどのように形成されるのか。価格とは何なのか。貨幣は、そこでどのような役割をするのか。価格と貨幣の経済的関連は？
16. 証券の価格。証券の価格形成は、価格一般の形成とは違う。特殊な価格、擬制資本価格を形成する。貨幣資本運動を擬制して形成される純粋な擬制資本とは、どんな資本で、どのようにして価格が形成されるのか（債券価格の形成）。
17. 株式の価格。擬制資本価格の形成一般から、さらに株式の価格は違った形成をする。元来、株式は擬制資本や価格を形成しない。配当は利子ではないからである。それが、どうして債券価格と同じように価格を形成するのか。
18. 投機信用と信用取引。普通取引に外部から信用が供与されると、信用取引が生まれる。信用取引の仕組みと、それが投機取引化するプロセスを説明する。
19. 投機一般。投機は、価格が変動するところには、どこにでも寄着する。商品投機、為替投機、株式投機など。まず、投機とはどんなものなんだろう。それを賭博と比較して、投機の経済学を講義する。
20. 株式投機。今日、投機といえば、株式投機だと誰もがいう。投機の中でも、なぜ株式投機が典型的な投機になったのであろうか。
21. 先物投機の時代。70年代にはいって先進資本主義諸国では、先物投機が盛行している。今や、それは、現物取引を上回っている。先物投機の時代の到来である。どうしてそうなったのか、経済的背景をさぐる。
22. 相場の見方。相場は、普通、株価指標をみて語る。「日本経済新聞」相場欄の主要な株価指標を解説する。単純平均株価、日経ダウ平均株価、TOPIXを解説し、その他の指標やその読み方を解説する。
23. 証券投資決定論。昔は「利回り採算」だったが、それは不可能になった。ケイ線やドル平均法、科学的投資法、チャートリーディングから、今やポートフォリオの時代に入った。ポートフォリオ理論とは、どんなものか。
24. 金融・証券のグローバル化。金融・証券の国際化は、金融・証券の自由化によることが大きい。しかも、先物取引が盛行して、数値が商品化された。世界商品の誕生である。これは、どこの国でも取引される。

科目名	企業形態論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	経済の構成単位である企業について、その歴史や法律上の分類としての合名会社、合資会社、有限会社、株式会社や個人企業について機能や事業規模や責任について明確にしたい。		
講義概要	現代資本主義企業形態について述べる。特に有限会社と株式会社を取扱う。また公企業についても講義する。		
使用教材	テキスト	車戸編『企業形態論』八千代出版	
	参考文献		
評価方法	学年末の試験成績による。		
受講者に対する要望など	企業の問題について新聞その他で知識を多くすること		

1. 中山企業の比重が多いので、有限会社について、有効な経営の手引書が少なく経営改善や事業の向上に熱心な経営者の意識について。
2. 有限会社の特質や特性について
3. 有限会社と株式会社の相違点。社員総会と執行機関について。
4. 有限会社の株は第三者には流れない。社長—代表取締役の心得について
5. 有限会社の資本金について。
6. 現代の企業形態の展開の意義について
7. 株式会社について 成立、機構、発展変貌、残されている問題。
8. 現代企業における所有と支配。危険負担と支配権。所有の分散と経営者支配。
9. 企業集中の要因。 企業集中の形態—連合形態、合併形態、企業集団形態。
10. 競争と規制。 独占対策について。
11. 企業集団問題の所在。代表的な企業集団。  
    コンサルンの生成発表。六大企業集団の特質
12. 企業の集中・分割形態と企業集団
13. 公企業とは何か、その実態
14. 公企業の機能と役割
15. 自由経済体制と公企業の役割
16. わが国の公企業の生成と発展
17. 公企業の諸問題
18. 公企業と民営化の背景
19. 日本企業の成熟社会の対応—国際化、多角化、業際化等。
20. 海外現地進出の形態
21. 資本市場の拡大と多様化。

以上

科目名	協同組合論	担当者名	栗村英二
-----	-------	------	------

講義の目標	資本主義経済活動の批判として生まれた協同組合は、全世界的な市民権を得た事業体として生き続けていることを認識してほしい。		
講義概要	協同組合には150年の歴史で創り出した協同組合の原則の理解と協同組合の原則を拡めつゝある現実を知ることにつとめる。		
使用教材	テキスト	『新協同組合とは』(財)協同組合経営研究所	
	参考文献		
評価方法	学年末のテストによる。		
受講者に対する要望など			

1. 協同組合のあゆみ
  - ①協同組合の誕生
2. ②世界に広がった協同組合
  - ③日本の協同組合のあゆみ
3. 協同組合の特徴としくみ
  - ①協同組合とは何か
4. ②協同組合の原則を学ぶ
  - i 加入、脱退は一人ひとりの自由
5. ii 平等な議決権と主体的な参加 (=民主的運営)
  - iii 公平に出資し剰余金はみんなのために活用する (組合員による財産の形成と管理)
6. iv 他に依存したり従属してはならない (組合の自治・自立)
7. v 学びあう場としての協同組合 (教育、研修と広報活動の促進)
  - vi 協同組合どうして手を結びあおう (協同組合間協同)
8. vii 環境を守り、暮らしやすい地域をつくる (地域社会への配慮)
9. ③七つの原則はバラバラなものではない
10. ④協同の二十一世紀へ
  - ・現代社会はどこへ
11. ・いま、なぜ協同組合に着目するか
12. ・新しい時代を協同の力で

以上

科目名	財務会計論	担当者名	中村泰將
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>本講義は、企業、特に株式会社の会計を対象とする「企業会計」を中心に勉強します。我が国の会計制度の仕組みを理解するとともに、財務諸表の作成基準としての会計基準とそれぞれの法が要求する会計法規（商法・証券取引法・税法）の関係を理解することを目的とします。さらに、我が国の会計基準と「国際会計基準」との相違点についても触れたいと思います。</p>		
講義概要	<p>企業の会計をどのように勉強したらよいか。これには、いくつかの段階的な勉強が必要である。第1段階は、「企業会計原則」を中心に会計学の通説を勉強する（典型的な財務会計の著書はその例である。）。第2段階は、我が国の企業会計制度の中で法的な枠組みに組み込まれた会計（これを「制度会計」と呼ぶ。）を勉強する。本講義は第1と第2を併せて講義する。</p> <p>できるかぎり現実の会計問題にふれるように、「日本経済新聞」等の会計・財務に関する記事を参照しながら、企業会計の諸問題を分析・説明していきたい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本年度は特にテキストは使用しない。毎回、講義のレジュメ、問題（次の週に解答を配付する）、カレントな会計、財務の資料（例：雑誌、新聞等のトピックス）を配付して、それに従って講義をする。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 染谷恭次郎『現代財務会計』中央経済社（網羅性があり、良くまとまっている）</li> <li>・ 新井清光『財務会計論』中央経済社（若干難解だが、良くまとまっている）</li> </ul> <p>上記の著書は税理士、公認会計士、簿記一級の試験のためのテキストとして適している。</p>	
評価方法	<p>前期試験と後期試験の総合によって評価する。</p> <p>①前期は、出来るだけ会計の専門用語を理解し、現行の会計の仕組みを理解する。</p> <p>②後期は、各論、特論の講義に入るので、会計学の理論的な説明を求める問題を出題する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>①会計学に関する専門書は、書店に山とある。要はその内容を理解することにある。授業をサボるとその内容の行間が理解できないので注意されたい。</p> <p>②簿記の基礎を習得していることが望ましい。</p> <p>他学科の学生で、会計学に興味を持っているものは歓迎する。</p>		

1. 会計（学）とは、どのような学問領域かを理解する。
2. 企業会計の理論的構造を理解する。
3. 企業会計はどのような計算構造によって、計算されるかを理解する。
4. 我が国における企業会計制度の仕組みを理解する。
5. 財務会計の基準あるいはルールである「企業会計原則」の構造を理解する。
6. 「企業会計原則」における一般原則の意味を理解する。
7.                   イ. 真实性の原則とその他6つの一般原則との関係。
8. 資産会計(1)   イ. 資産の意義・概念   ロ. 資産の分類   ハ. 資産の評価基準
9. 資産会計(2)   イ. 流動資産の意義・分類・評価
10. 資産会計(3)  イ. 当座資産の概念・分類・評価   ロ. 有価証券の概念・分類・評価
11. 資産会計(4)  イ. 固定資産の概念・分類・評価
12. 資産会計(5)  イ. 繰延資産の概念・種類・償却
13. 負債会計(1)  イ. 負債の概念・分類
14. 負債会計(2)  イ. 引当金の意義   ロ. 引当金の設定の目的   ハ. 引当金の設定の要件
15. 資本会計(1)  イ. 資本会計の意義と範囲   ロ. 資本の源泉別分類と処分可能別分類
16. 資本会計(2)  イ. 払込資本の概念と範囲   ロ. 増資・減資の形態と会計処理
17. 資本会計(3)  イ. 評価替資本の会計   ロ. 受贈資本の会計
18. 資本会計(4)  イ. 稼得資本の概念と範囲   ロ. 商法第288条の利益準備金
19. 損益会計(1)  イ. 損益会計の意義と範囲   ロ. 損益計算の区分計算
20. 損益会計(2)  イ. 損益計算の諸原則（①費用収益対応の原則 ②費用配分の原則 ③発生主義の原則）
21. 損益会計(3)  イ. 収益の認識基準
22. 財務諸表(1)  イ. 財務諸表の意義と役割   ロ. 中間財務諸表の意義と作成
23. 連結財務諸表(1)  イ. 連結財務諸表の意義   ロ. 連結貸借対照表の作成基準
24. 連結財務諸表(2)  イ. 連結損益計算書の作成基準   ロ. 連結剰余金計算書の作成基準

科目名	社会会計論	担当者名	湯田雅夫
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>'70年代の2度の石油危機を契機として、工業社会の成長にともなうコストが先進工業国の市民の間で意識されるようになり、新たな社会に適合した会計情報が求められるようになった。伝統的な企業会計から得られる会計情報だけで企業の真の実像を把握することは、もはや不可能になったのである。</p> <p>このような時代の変化を踏まえて、本講義では、真の企業像を把握するために、緊急に取り組むべき最先端のテーマの一つである環境マネジメント、環境監査および環境会計の内容と最近の動向を解説する。</p>	
講義概要	<p>社会関連会計は、'80年代後半に至り、とくに環境保護の観点からエコビランツ（環境監査、環境管理；Ökobilanz=Environmental Audit）の領域で新たな展開をみせている。EUではEMAS、EU域外の国々ではISO14000シリーズという二つの環境マネジメント・環境監査に関する国際規格が施行した。EUの動向を踏えつつ、ドイツ、スイスおよびわが国の最新の事例を概観しながら環境マネジメント、環境監査および環境会計について考察したい。</p>	
使用教材	テキスト	湯田雅夫『環境会計論の実証的研究』（仮題）
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京商工会議所環境委員会編『環境管理と監査』ダイヤモンド社、1995</li> <li>・安田火災『ISO 環境管理システム規格の要求事項と自己チェックシート』TERRA No.15</li> <li>・湯田雅夫『ヨーロッパにおける社会関連会計の動向—ドイツ語圏諸国を中心として—』『国際会計研究学会'93年報』平成6年2月、83頁～98頁。</li> <li>・湯田雅夫『社会関連情報の諸形態』日本社会関連会計学会『社会関連会計研究』第7号、1995年9月、9頁～17頁。</li> </ul>
評価方法	<p>当該講義科目の成績評価は、後期試験期間中に実施する論述式の試験による。</p> <p>なお、出席状況を素点に加点するために、年間数回の出席をとる。出席記録のまったくない者の成績評価は、試験の成績だけで評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>履修条件は、とくに定めない。将来、証券アナリスト、公認会計士、税理士、中小企業診断士などの専門職を志望する者ならびに企業経営を志す者は、履修することが望ましい。</p>	



1. オリエンテーション
2. 第1章 国際規格化と会計情報(1)
3. 第1章 国際規格化と会計情報(2)
4. 第1章 国際規格化と会計情報(3)
5. 第2章 環境情報の変遷(1)
6. 第2章 環境情報の変遷(2)
7. 第2章 環境情報の変遷(3)
8. 第3章 エコビランツ(1)
9. 第3章 エコビランツ(2)
10. 第3章 エコビランツ(3)
11. 第4章 エココントローリング(1)
12. 第4章 エココントローリング(2)
13. 第4章 エココントローリング(3)
14. 第5章 環境監査(1)
15. 第5章 環境監査(2)
16. 第5章 環境監査(3)
17. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(1)
18. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(2)
19. 第6章 環境報告書、環境声明書、ランキングと評価法(3)
20. 第7章 環境マネジメント会計(1)
21. 第7章 環境マネジメント会計(2)
22. 第8章 環境会計(1)
23. 第8章 環境会計(2)
24. 終章 財務情報、社会情報、環境情報の統合に向けて

科目名	管理会計論	担当者名	香取 徹
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>企業の経営者や管理者およびこれを助ける人々が、合理的な計画管理活動を展開するためには、企業会計についての基礎知識をもって、目的にあった会計情報をうまく使いこなせる素養を身につけることが近年ますます重要になっています。この講義では、マネジメントの諸分野で生じる意思決定問題を採算性の観点から分析するための基礎的な考え方と、その分析に役立てるための会計情報の使い方を講義します。</p>		
講義概要	<p>コスト低減や利益拡大のための改善活動や管理活動をすすめるために会計情報の計数的な分析を講義します。</p> <p>前半は、意思決定に役立つコストの考え方、利益の測り方などを整理し、改善管理に役立つ分析の仕方や生産及び販売計画への応用について、教科書を中心にして講義し、練習問題やケーススタディのプリントを配布して全員で解いていきます。</p> <p>後半は、設備投資計画とキャッシュフロー利益の考え方、戦略計画における収益性の尺度の問題や会計情報のあり方などをとりあげます。実際にコンピューターを使ってシミュレーションモデルを作成して、キャッシュフロー情報と財務諸表情報とを分析します。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・伏見・柴田・福川著『経営工学シリーズ7 経営管理会計』（改定版）日本規格協会</p>	
	参考文献	<p>・千住鎮雄・伏見多美雄『経済性工学の基礎』 日本能率協会</p> <p>・桜井通晴著『管理会計』同文館</p>	
評価方法	<p>基本的には定期試験の成績で評価しますが、レポートの提出や出席状況も考慮します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>2年修了時までには授業で簿記原理を修得しているか、日商3級程度の実力のある者が望ましい。コンピューターについての知識は、初めから教えるので特別必要とはしません。</p>		

第1回：管理会計の基礎

第2回～第4回：採算計画のためのコスト・利益分析

- ①経済性計算と財務会計方式
- ②経済性の比較の原則とコスト概念
- ③全部原価計算と直接原価計算
- ④状況に応じたコスト・利益のとらえ方
- ⑤埋没費用の考え方と会計情報

第5回～第7回：生産・販売計画と会計情報

- ①有利な製品の判断尺度
- ②生産ラインの選択と可変的費用・収益
- ③設備能力の変更を含む生産・販売計画、価格政策とコスト情報

第8回～第9回：オペレーションの改善計画と会計情報

- ①時間コスト
- ②停止時間削減の経済的効果
- ③不良率低減の経済的効果
- ④生産スピード改善の経済的効果
- ⑤材料費や売価の改善

第10回～第12回

- ①事業部制会計
- ②原価企画と戦略的コストマネジメント
- ③ABC・ABM

第13回～第16回：投資分析とキャッシュフロー利益

- ①資金の時間的価値
- ②時間換算の公式とその応用
- ③投資収益率と回収期間
- ④複数の投資案の優劣の判定

第17回～：コンピューターを使っでの長期計画の収益性と会計情報

- ①減価償却費と支払利息
- ②税引後キャッシュフロー利益と財務会計上の利益
- ③経営の戦略計画と収益性の尺度

科目名	経営分析論	担当者名	百瀬房徳
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>経営分析は財務諸表分析として発展してきた。このためには統一した財務諸表の作成方法の発展を促進させてきた。これによって作成された財務諸表分析の始まりは金融機関が貸付金の返済能力を判定したところにある。その後証券市場では収益性の分析を発展させた。現在では特定の実体（たとえば企業）の評価または診断、当該実体の属する産業の動向、国民経済の動向を分析するまでに発展してきている。本講ではこの全体像の理解を深めることにある。</p>	
講義概要	<p>前期においては歴史的発展過程をふまえたかたちで、経済環境と技法の二面より考察し、後期においては代表的な企業の財務諸表を資料とし、体系的に分析しながら、分析値が何を意味するかを考察する。この分析はテーマごとにレポートを完成させて、提出してもらうことにする。</p>	
使用教材	テキスト	・松尾・前林著編『入門経営分析』
	参考文献	無し
評価方法	<p>テーマごとにレポートを完成させて提出してもらう。このレポートを中心に評価する。後期にはレポートが理解されているかテストする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>レポートを完成させるには簿記の知識が必要である。</p>	

1. 1年間の講義内容の説明
2. 米国における経済環境における手形市場の形成過程
3. 手形市場、特に卸売商人の銀行での手形の割引における銀行からみた信用分析の形成過程
4. 信用分析の側面からみた財務諸表、特に貸借対照表を中心に
5. 信用分析における2対1の原則から体系的な分析への過程
6. 信用分析のケース・スタディ ケース①—ウォール、ケース②—ブリス、ケース③—シュルター
7. 信用分析のケース・スタディ ケース④—ギルマン、ケース⑤—ウォール、ケース⑥—シュマルツ
8. 収益性の分析およびその他の分析への発展
9. 経営分析の意義とその限界
10. 経営分析の主体と目的
11. 経営分析の種類
12. 経営分析の体系
13. 安全性の分析(1)…比率分析 ①新日鉄の有価証券総覧を用いて分析をし、レポート提出
14. 安全性の分析(2)…資金運用表の作成 ②レポート提出
15. 安全性の分析(3)…資金移動表の作成 ③レポート提出
16. 収益性の分析(1)…各種資本利益率
17. 収益性の分析(2)…売上高利益率と資本回転率 ④収益性の分析”と(をまとめてレポート提出
18. 収益性の分析(3)…利益増・減原因分析 ⑤レポート提出
19. 生産性の分析(1)…付加価値の意義
20. 生産性の分析(2)…付加価値の計算と数値の意味
21. 生産性の分析(3)…付加価値の計算 ⑥レポート提出
22. 損益分岐点分析(1)…損益分岐点の意義
23. 損益分岐点分析(2)…損益分岐点の計算と数値の意味
24. 損益分岐点分析(3)…損益分岐点の計算 ⑦レポート提出

科目名	原価計算論	担当者名	齋藤正章
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>原価計算は、大きく分けて、財務諸表作成のため（財務会計目的）と経営管理のため（管理会計目的）という2つの目的があります。財務会計目的のための原価計算を「原価計算制度」といいますが、これは財務諸表作成のために必要な原価数値を計算する手続き全般を指します。他方、管理会計目的の原価計算は、企業の生産システム、製造技術、コンピュータネットワークなどの進歩や市場環境の変化に伴い、従来のシステムからの変革を迫られています。本講義では、この2つの視点から企業における原価計算の役割について理解を深めることを目標とします。</p>	
講義概要	<p>前期と後期の半ばまでは、財務会計目的のための原価計算の手続き（伝統的な原価計算）について講義を行います。理解を深めるために、必要に応じて練習問題を解きます。後半は、新しい原価計算の流れについて解説を行う予定です。</p>	
使用教材	テキスト	<p>開講時に指示します。</p>
	参考文献	<p>・岡本 清『原価計算』（5訂版）、国元書房、1994年</p>
評価方法	<p>原則として前後期の試験結果を重視します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受講者は簿記の基礎知識があることが望ましいです。 授業には電卓を持参のこと。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 原価計算総説
2. 原価とは何か
3. 原価計算の基礎手続
4. 原価の費目別計算
5. 原価の部門別計算(1)
6. 原価の部門別計算(2)
7. 総合原価計算(1)
8. 総合原価計算(2)
9. 総合原価計算(3)
10. 個別原価計算(1)
11. 個別原価計算(2)
12. 個別原価計算(3)
13. 標準原価計算(1)
14. 標準原価計算(2)
15. 標準原価計算(3)
16. 直接原価計算(1)
17. 直接原価計算(2)
18. 直接原価計算(3)
19. 特殊原価調査
20. 差額原価収益分析
21. 原価計算における問題点
22. 原価計算の新展開(1)
23. 原価計算の新展開(2)
24. 原価計算と管理会計

科目名	会計監査論	担当者名	長吉眞一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>会計監査について、その構造と制度についての理解をめざす。具体的な監査手続については、後期において4コマを割り当て、注意すべき点や盲点となりがちな事項について説明し、これらの理解をうながす。</p> <p>講義は、会計監査論の理論的な理解と、具体的な監査手続の二本建てとなるが、相互の関連性について、常に注意を喚起していきたい。</p>	
講義概要	<p>会計監査に関する基本的な知識と具体的な監査手続について学ぶ。講義はテキストを中心に実施するが、監査は実務と密着し理論と実務が相俟って発展してきた新しい科学であるため、実務を抜きにしては考えられない。このため、講義のあい間に関連する実務上のトピックス等についても必要に応じて説明するつもりである。</p> <p>講義は平明に行うが、周辺科目を履習済みであることが望ましい。</p>	
使用教材	テキスト	長吉眞一『財務諸表監査の論理』中央経済社
	参考文献	
評価方法	<p>前期はレポート提出による。</p> <p>後期は試験を実施する。</p> <p>成績評価はそれらを総合的に勘案して行う。</p>	
受講者に対する要望など	<p>簿記原理、会計学原理、財務会計論などを履習していることが望ましい。とくに、簿記原理は履習していないと、用語についても理解できないおそれがある。</p>	



1. 一年間の講義概要の説明 会計監査論とその周辺の会計科目との関連性の説明
2. 財務諸表監査の意義（監査の意義をふくむ。） 財務諸表監査と経営者による不正との関連
3. 監査基準
4. 監査人（その意義、独立性、監査法人）
5. 監査人（組織的な監査、正当な注意、責任、守秘義務）
6. 監査証拠と合理的な基礎
7. 監査要点
8. 内部統制（その構造、財務諸表監査との関連）
9. 内部統制（その調査、評価）
10. 監査計画（その意義、組織的な監査との関連）
11. 監査計画（基本計画、年度計画、実施計画）
12. 予備及び前期の総括
13. 監査手続（通常実施すべき監査手続、分析的手続、一般監査手続）
14. 監査手続（個別監査手続）
15. 資産科目の監査手続（現金預金）
16. 資産科目の監査手続（売掛金）
17. 負債科目の監査手続（支払手形、買掛金）
18. 損益科目の監査手続
19. 監査調書
20. 監査報告書（その意義、審査機関への付議）
21. 監査報告書（その種類、構造、特記事項）
22. 監査報告書（個別意見と総合意見）
23. 中間財務諸表の監査 連結財務諸表の監査
24. 一年間のまとめとして、財務諸表監査のあり方や将来の展望等について考察する。

科目名	税務会計論	担当者名	山田浩一
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>現実の企業の会計実践においては、法人税を中心とする企業課税の概要に関する理解が重要であるとともに、税務と企業会計の相互関係の理解が重要となる。また、国際的動向に対する理解も必要となろう。すなわち、講義の目的は次のとおりとなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、法人税法の趣旨と計算構造の理解</li> <li>2、会計的思考と税務的思考の相違の把握</li> <li>3、法人税法等の会計に与えるインパクトの検討</li> <li>4、諸外国の税務・会計制度との比較検討</li> </ol>				
講義概要	<p>本講義では、会計及び税務が対象とする個々の経済事象がいかなるものかについての理解の形成につとめた上で、現行制度上、企業利益や課税所得の計算において、それら経済事象がどのように取扱われていくのかを把握していくこととする。さらに、必要に応じて現行制度についての批判的検討を加えることとなる。</p> <p>すなわち、確定決算主義、損金経理要件といった税務理念が、企業会計実践に少なからぬ影響を与え、真実公正な会計の実現を阻害している面があるということ、また、国家単位の税務規制と国際的共通性の強い会計基準との調整が重要な課題となりつつあるといった点である。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>『税務会計要論』中田信正著（同文館）</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『会計法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税取扱通達集』（中央経済社他）</li> <li>・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会）</li> <li>・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社）</li> <li>・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店）</li> </ul> <p>その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。</p> </td> </tr> </table>	テキスト	『税務会計要論』中田信正著（同文館）	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『会計法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税取扱通達集』（中央経済社他）</li> <li>・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会）</li> <li>・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社）</li> <li>・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店）</li> </ul> <p>その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。</p>
テキスト	『税務会計要論』中田信正著（同文館）				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『会計法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税法規集』（中央経済社他）</li> <li>・『法人税取扱通達集』（中央経済社他）</li> <li>・『総説税務会計』鈴木明男・鈴木豊共著（税務経理協会）</li> <li>・『税務会計論』井上久彌著（中央経済社）</li> <li>・『法人税法精説』武田隆二著（森山書店）</li> </ul> <p>その他に法人税・税務会計関係書籍多数が参考となろう。</p>				
評価方法	<p>前期および後期2回の定期試験における成績を基礎として評価する予定である。また、授業時間内の積極的な発言（問題提起、質問、意見等）については評価において考慮したいと考えている。</p>				
受講者に対する要望など	<p>本講義の履修にあたっては会計学原理、財務会計論、財政学等の関連科目の履修が有用であるが、特に簿記については基礎知識として把握しておいてもらいたい。</p>				

1. 税務会計論の対象と方法  
年間講義概要の説明を行い、税務会計論の対象及び税務会計論研究のアプローチ方法を取り扱う。
2. 租税制度  
租税の意義、租税制度の沿革、租税の根拠、租税の目的、租税の分類、法規制の体系、租税原則といった項目について概括的にふれる。
3. 制度会計の構造  
制度会計の意義、制度会計におけるいわゆるトライアングル体制、そして税務会計の位置づけをみる。
4. 法人税法上の課税所得の計算  
企業利益と課税所得の関係、その構成要素である収益と益金、費用と損金との関係を把握する。
5. 公正会計処理基準  
法人税法第22条4項にいう公正会計処理基準の意義を考え、会計理論のGAAP等との関連を考えていく。
6. 税務会計判断の特性  
税務判断の特徴的な考え方を、実質主義原理、確定決算主義、債務確定主義、同族会社規定等を通じてみていく。
7. 売上収益と金銭債権  
販売収益計上の一般原則、特殊販売の収益計上、債権の計上とその評価といった項目を扱う。
8. 有価証券と受取配当  
有価証券の意義、分類、認識と測定、評価にふれた後、受取配当の益金不算入についてふれたい。
9. 売上原価と棚卸資産  
売上原価と棚卸資産評価の関係、棚卸資産の取得から期末評価までの一連の考え方をみていく。
10. 有形固定資産・減価償却・リース  
有形固定資産の意義、取得原価の決定、資本的支出と修繕費の関係、減価償却の意義と方法、固定資産の除売却、リース取引等を扱う。
11. 圧縮記帳  
圧縮記帳の考え方、処理の態様、圧縮記帳処理の会計上の問題点等を扱う。
12. 無形固定資産・借地権  
無形固定資産の意義、種類、借地権の考え方と税務上の取扱いといった項目を扱う。
13. 繰延資産  
繰延資産の意義、商法上の繰延資産とその他の繰延資産の内容・償却方法等に対する税務上の扱いを概観する。
14. 引当金・準備金  
会計上の引当金、商法上の引当金、税法上の引当金を概観する。準備金と引当金の相違点等を解明する。
15. 給与・報酬・源泉徴収  
役員と従業員とにおける人件費用の取扱の相違、及び源泉所得税等の控除項目の取扱をみる。
16. 交際費・寄付金  
交際費課税の趣旨、交際費損金不算入の計算、寄付金の制限の趣旨、寄付金の損金不算入の計算等にふれる。
17. 租税公課  
企業をめぐる租税公課の種類を概観するとともに、会計上の取扱と、税法上の取扱の相違点をみていく。
18. 自己資本  
資本等取引における税務上の取扱を中心とし、欠損金の繰越控除制度を概観する。
19. 合併・分割・解散  
企業活動のうち、特殊な取引内容であるといえる、合併・分割・解散等の意義、会計上税務上の考え方を扱う。
20. 国際課税  
企業の国際活動に伴って派生する、外国税額控除、タックスヘイブン、移転価格税制といった問題を取り扱う。
21. 申告・納税制度の概要・連結納税制度  
税務会計上の実務的な流れについての各種申告制度の概要、及び研究対象としての連結納税制度についてみる。
22. 消費税と経理方法  
消費税の性格、非課税取引と課税取引、税額計算、経理方式とその評価といった項目を扱う。
23. 非営利法人の税務  
公益法人、学校法人等の非営利法人における、法人税その他租税の取扱を概観する。
24. 税効果会計  
税効果会計の意義、個別財務諸表及び連結財務諸表における税効果、国際会計基準、アメリカの会計実務における税効果会計等を概観する。

科目名	上級簿記	担当者名	内倉 滋
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業会計は、しばしば「事業の言語」とされると言われる。言葉にはすべて文法があるように、企業会計という1つの言語にも、「文法」に相当するもの（＝複式簿記）がある。その基本的な原理の習得者（＝「簿記原理」修得者等）を対象に、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術の習得を目指した講義を、本講義では行っていく。</p>		
講義概要	<p>会計という言語は、今日では1つの世界共通語である。それゆえその「文法」に相当するもの（＝複式簿記）も、基本的な部分に関してはだいたいにおいて共通的なものである。しかしながら、それを越えた部分、すなわち本講義が対象とすべき部分の中身は、力点の置き方によりかなり変わってきうるものと言える。本講義では、その“どこに力点を置くか”の判断に際し、日本商工会議所簿記検定試験の2級商業簿記の出題範囲を、明確に意識していきたいと考えている。</p>		
使用教材	テキスト	<p>①現代会計教育研究会編『簿記練習帳 2級商業簿記』第2版、多賀出版 ②井上達雄他編『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社</p>	
	参考文献	<p>特に必要とはいたしません。</p>	
評価方法	<p>原則的に毎回出欠を取り、また受講生の理解度を知る目的からも、しばしば小テストを実施し、そうした平常点を全体の半分程度のウエイトと考え、それに前・後期末試験の結果を加えて評価したい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>検定試験類に、どしどしチャレンジしてみてください。合格した場合は、平常点に加味いたします。それよりも何よりも、自分の一生の道を見つけ出すことができるかもしれません。</p>		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 現金・預金……銀行勘定調整表に力点を
2. 有価証券……端数利息の処理に力点を；なお期末評価の問題にも言及
3. 貸倒引当金……その設定対象債権と設定方法（租税法の取扱いにも言及）
4. 手形……裏書（割引）に伴う偶発債務の処理に力点を
5. 商品の払出し価格の決定……総平均法と後入先出法を中心に
6. 商品の期末評価……各種の評価基準、商品評価損、棚卸減耗費
7. 未着品・委託・受託販売……荷為替の取組みにも言及
8. 割賦販売……原則的基準、例外的基準
9. 試用販売・予約販売……本テーマに関しては、日商1級会計学の過去問も演習
10. 有形固定資産……買換え、改良と修繕、建設仮勘定、火災未決算、といった問題を中心に
11. 無形固定資産・投資等・租税……1年決算法人の法人税の中間申告・納付とその決算時・確定申告時の処理にも言及
12. 前期の総復習
13. 株式会社会計その1：資本……授權資本〔株式数〕、株式発行による流入資金額の会計処理、新株発行の手続き、合併の処理、といった問題を中心に
14. 株式会社会計その2：利益処分……個人企業との違い、設例による説明
15. 株式会社会計その3：損失処理……考え方の基本、設例による説明
16. 株式会社会計その4：繰延資産・社債……社債関係の2つの繰延資産の処理にも言及
17. 本支店会計その1：基本原理……支店間取引についての支店分散計算制度と本店集中計算制度の違い、等に力点を
18. 本支店会計その2：本支店財務諸表の合併……できれば、棚卸減耗に含まれる未実現利益の処理にも言及
19. 特殊仕訳帳……その機能と記帳の仕方
20. 伝票……3伝票制度と5伝票制度、仕訳日計表作成までの手続き
21. 精算表……株式会社の場合の精算表の特徴点等
22. 損益計算書……損益計算書の形式についての「企業会計原則」の規定と、それに関する演習
23. 貸借対照表……貸借対照表の形式についての「企業会計原則」の規定と、それに関する演習
24. 後期の総復習

科目名	上級簿記	担当者名	細田 哲
-----	------	------	------

講義の目標	<p>「簿記原理」履修者あるいは「日商簿記検定」3級以上の合格者が、複式簿記に関するさらに高度の知識・技術を習得することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行勘定調整表の作成</li> <li>○手形取引の記帳</li> <li>○特殊商品売買取引に関する記帳</li> <li>○株式会社会計</li> </ul> <p>後期講義の内容 主たる講義テーマを列挙すると、次の通りである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本支店会計</li> <li>○帳簿組織</li> <li>○連結会計</li> <li>○リース会計</li> <li>○外貨建取引の会計処理および外貨換算会計</li> </ul>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井上達雄、染谷恭次郎著『検定簿記講義 2級商業簿記』中央経済社</li> </ul>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新井清光、加古宜士（編著）『リース取引会計基準詳解』中央経済社</li> <li>・森田哲弥、白鳥庄之助（編著）『外貨建取引等会計処理基準詳解』（中央経済社）</li> <li>・山浦久司著『体系演習上級簿記』白桃書房</li> <li>・大原簿記学校会計士科（編著）『新編連結バイブル』東洋書店</li> </ul>	
評価方法	<p>年2回以上の試験の結果による。</p>		
受講者に対する要望など			

1. 1、銀行勘定調整表の作成
2. 2、手形取引の記帳(1) a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳
3. 手形取引の記帳(2) a) 手形裏書譲渡・割引に関する偶発債務についての記帳  
b) 荷為替手形
4. 3、特殊商品売買取引(1) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売
5. 特殊商品売買取引(2) a) 未着品売買、b) 委託販売、c) 受託販売
6. 特殊商品売買取引(3) d) 割賦販売
7. 特殊商品売買取引(4) d) 割賦販売
8. 4、株式会社会計(1) a) 株式会社の資本金、b) 法定準備金
9. 株式会社会計(2) c) 利益処分と損失処理
10. 株式会社会計(3) d) 社債の発行、利払、償還
11. 株式会社会計(4) e) 繰延資産、f) 引当金、g) 法人税等
12. 株式会社会計(5) e) 繰延資産、f) 引当金、g) 法人税等
13. 5、本支店会計(1) a) 本店集中会計制度と支店独立会計制度  
b) 支店分散計算制度と本店集中計算制度
14. 本支店会計(2) c) 未達事項の整理  
d) 内部利益の控除と合併財務諸表
15. 本支店会計(3) c) 未達事項の整理  
d) 内部利益の控除と合併財務諸表
16. 6、帳簿組織(1) a) 普通仕訳帳と特殊仕訳帳
17. 帳簿組織(2) b) 伝票式会計
18. 7、連結会計(1) a) 連結財務諸表の目的、連結の範囲、連結決算日等
19. 連結会計(2) b) 連結貸借対照表の作成
20. 連結会計(3) c) 連結損益計算書の作成
21. 8、リース会計(1) a) ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引  
b) ファイナンス・リース取引の会計処理
22. リース会計(2) a) ファイナンス・リース取引とオペレーティング・リース取引  
b) ファイナンス・リース取引の会計処理  
c) セール・アンド・リースバック取引の会計処理
23. 9、外貨建取引の会計処理および外貨換算会計(1)
24. 外貨建取引の会計処理および外貨換算会計(2)

科目名	管理工学	担当者名	山本 栄
-----	------	------	------

講義の目標	<p>企業を始め組織は人および物により構成されている。この組織をうまく運営するために人と物の管理が必要になってくる。本講義ではこの管理についての基礎知識および管理技術(手法)の習得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>管理手法全般にわたり講義する。さらに組織内における人間に視点を当てて、ヒューマン・インターフェースに関する基礎も講義する。ここで言うヒューマン・インターフェースとは人間と道具、人間と機械、人間と組織との相性をさす。すなわち使いやすさとか動きやすさを考えていくことである。</p> <p>近年コンピュータが普及してきたがこのインパクトが組織に与えた影響は大きい。従って管理もコンピュータ抜きには考えられない。特に最近の技術革新の中で管理をどう行っていけば良いかについても触れる予定である。</p>		
使用教材	テキスト	特に無し、参考文献を読んでおいて下さい。	
	参考文献	<p>◎野呂影勇：『図説エルゴノミクス』、日本規格協会</p> <p>◎秋庭雅夫他著『経営工学概論』、朝倉書店</p> <p>レポートの書き方</p> <p>○木下是雄著『理科系の作文技術』、中公新書</p>	
評価方法	<p>年2回の期末テストを実施します。あと何回かのレポートの提出を求めます。出きの良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。</p>		
受講者に対する要望など	<p>積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにして下さい。お客さんだったり、欠席したり、私語をしたりすることは積極的な参加ではありません。</p> <p>それからレポートとは自分のメモデは無い。他の人(この場合は先生)に読んでもらうということを良く考えてください。授業ではときどきこの点を注意していても『私は聞いていません』と平然としている先輩もいました。よく考えて下さい。</p>		



1. 管理工学とは  
管理工学と関連する学問領域、管理技術とは
2. システムズ・アプローチ 1  
システムとは、モデル、ブラックボックス、フィードバックシステム
3. システムズ・アプローチ 2  
フィードバック・システム、マン・マシン・システム
4. 生産管理論 1  
生産管理とは、品質管理、原価管理
5. 生産管理論 2  
行程管理、日程管理、在庫管理
6. インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) - 1  
動作研究、時間研究
7. インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) - 2  
作業の計測と分析法、身体計測と作業姿勢
8. インダストリアル・エンジニアリング (I.E.) - 3  
行動分析
9. ヒューマン・インタフェースとは 1  
ヒューマン・マシン・システム、機能分担
10. ヒューマン・インタフェースとは 2  
人間工学適用の原則
11. ユーザビリティ  
エルゴデザインと使いやすさ
12. ユーザビリティ  
認知科学的アプローチ、メタファー、メンタル・モデル
13. 生理的反応 1  
視覚系
14. 生理的反応 2  
聴覚、循環器、神経系
15. 心理的反応 1  
アンケートの取り方、一対比較法
16. 心理的反応 2  
一対比較法、SD 法
17. ソフトウェア・エルゴノミクス  
マニュアル、テクニカル・コミュニケーション  
VDT 画面設計
18. OA-VDT 作業
19. FA-ロボット
20. 最近の管理技術の動向
21. 作業環境管理
22. 分散協調 (cscw)
23. 安全管理 1  
FTA 分析
24. 安全管理 2  
FTA 分析

科目名	経営数学	担当者名	前田 功雄
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>経済・経営に広範囲に応用されている線形代数の基本的事項をコンピュータを利用しながら解説する。目標としては線形計画問題のコンピュータ・アルゴリズムの理解と応用までとする。</p>	
講義概要	<p>本講義では線形代数の基礎的事項を解説するが、授業を進めるに当たって基本概念の視覚化を計るためコンピュータを利用する。BASICによる簡単なプログラムを組むことが要求されるが、必要な事項は講義中に補う。先ず、前期では、<math>n</math>次元ユークリッド空間の基本概念の導入とそれらの視覚的理解の為にコンピュータ・グラフィックスを利用する。最後の数週間で、経営科学で広く応用をもつ線形計画法の理論と Dantzig によるシンプレックス法の紹介とプログラム実習を行う。</p> <p>キー・ワード：ベクトル空間、内積、写像、線形変換、行列、行列式、基行列、基本操作、連立方程式、逆行列、ピボティング、シンプレックス法</p>	
使用教材	テキスト	必要に応じてプリント配布。
	参考文献	授業中に推薦する。
評価方法	授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。	
受講者に対する要望など	コンピュータ概論又は情報処理概論既修が望ましい。	

1. 数学における空間の概念 数学では空間はどのように扱われているか。空間の構成要素は何か？  
キー・ワード：空間、点
2.  $n$ 次元ベクトル空間  $n$ 次元ベクトル空間の定義を述べる。  
キー・ワード：点、ベクトル、実数、座標、零ベクトル、ベクトル空間
3. ベクトルの幾何学的意味 2次元空間を例にとりてベクトルの矢線表示による視覚化を導入する。  
キー・ワード：始点、終点、位置ベクトル、和ベクトル、実数倍ベクトル
4. ベクトルのノルム ベクトルの長さ（ノルム）の概念を導入し重要な公式について解説。  
キー・ワード：ノルム、コーシーの不等式、 $n$ 次元ユークリッド空間
5. ベクトルの内積 2つのベクトルの内積を定義することによって交角を求める。  
キー・ワード：内積、交角、直交、射影、一般化されたピタゴラスの定理
6. 演習 ベクトル計算、ベクトルの交角の計算、コンピュータのスクリーン上に矢線ベクトルを表示するプログラム。
7. 線形変換 任意のベクトルを原点の回りに $\alpha$ だけ回転したベクトルの座標を求める。  
キー・ワード：写像、変換、線形変換、行列
8. 行列と線形変換 行列によって引き起こされる様々な線形変換についての解説。  
キー・ワード：恒等変換、伸縮変換、射影変換、変換の積
9. 演習 上の各変換に対応する行列を使って平面上の与えられた図形を変換するプログラムを作れ。
10. 行列計算 行列の和、差、実数倍および積を定義する。  
キー・ワード：行列の和、差、実数倍、積、逆行列、行列式
11.  $n$ 元連立一次方程式の行列・ベクトル表示と解表示 行列・ベクトルを使っての連立方程式とその解の表示法。  
キー・ワード： $n$ 元連立一次方程式、行列・ベクトル表示
12. 前期レポート解説 レポート課題と提出方法（コンピュータ通信）について説明する
13. 連立方程式の解法（ガウスの消去法） ガウスの消去法のアルゴリズムの数値例による解説。  
キー・ワード：ガウスの消去法、アルゴリズム、基本行列、基本操作
14. ガウスの消去法の一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム  
キー・ワード：フロー・チャート、プログラム、乱数
15. ガウス・ザイデルの反復法 ガウス・ザイデルの反復法の数値例による解説。  
キー・ワード：ガウス・ザイデルの反復法
16. ガウス・ザイデルの一般解法のフロー・チャートにより表現とプログラム  
キー・ワード：ストップングルール
17. 演習 ガウス・ザイデルの一般解法のプログラミング
18. 逆行列の数値解法 数値例により解法の説明。  
キー・ワード：基本操作のサブルーチン化
19. 逆行列の一般的解法 一般的解法のフロー・チャートにより表現。  
キー・ワード：正則性
20. 表計算ソフトを使っての行列計算について紹介。  
キー・ワード：表計算、Excel
21. 線形計画問題について  
キー・ワード：モデル化、線形計画問題、基底解、実行可能解、最適解
22. 数値的解法の一つである罰金法について数値例で解説。  
キー・ワード：シンプレックス法、モストネガティブ、ピポティング
23. 罰金法のフロー・チャート フロー・チャートに従って各自の好きな言語によるプログラミング実習
24. 後期レポート作成 後期レポート課題と作成法について。

科目名	オペレーションズ・リサーチ	担当者名	本田 勝
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>オペレーションズ・リサーチ (OR) の技法とは、組織 (システム) を運営していく際に遭遇する様々な意思決定の問題を、科学的方法によってアプローチし、その解を求め、運用していく技術である。システムと名の付くものは我々の周りには多岐にわたって存在するから、ORの応用される分野も幅広い。この講義では、これらの手法を習得し、経済や偶営の問題へどのように適用していくかを実例を通して理解することを目的とする。</p>	
講義概要	<p>オペレーションズ・リサーチの基本的な手法について述べていく。線形計画法や輸送問題などの数理計画法の部類に属するものについて述べたあと、ゲーム理論や在庫管理の問題など確率モデルに関するものを続けて述べていく。</p>	
使用教材	テキスト	未定
	参考文献	
評価方法	<p>各テーマごとに課すレポート、毎回の出席調査および定期試験による総合評価を行なう。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータを用いた演習を行なうので、「情報処理概論」は既習のこと。また確率モデルに関しては「統計学」の知識が必要になる。</p>	

1. OR とは何かについての概観を行う。
2. 線形計画法 (LP) の定式化と幾可学的解法について述べる。  
(決定変数、目的変数、制約条件式、目的関数)
3. シンプレックス法 (単体法) の考え方について述べる。(スラック変数、基底解、実行可能解)
4. 単体表による変換のアルゴリズムについて述べる。  
(ピボット、人工変数、2段階シンプレックス法)
5. パソコンによる演習を行う。
6. LP の双対性、双対問題について述べる。(双対定理)
7. パソコンによる演習を行う。双対問題の経済学的解釈について述べる。
8. LP の感度分析について述べ、パソコンによる演習を行なう。
9. 輸送問題と LP との関連について述べる。
10. 輸送問題の解法について述べる。(ポテンシャル法、解の退化、 $\epsilon$ -摂動法)
11. 輸送問題のパソコンによる演習を行う。
12. LP および輸送問題について総合的演習を行う。
13. 動的計画法 (DP) の考え方について述べる。(多段階決定法、最適性の原理)
14. DP のいろいろの応用例を述べる。(資源配分問題、最短経路問題、Knapsack 問題)
15. DP のパソコンによる演習を行う。
16. PERT について述べる。(ネットワーク、クリティカル・パス)
17. PERT と CPM の違いについて述べ、パソコンによる演習を行う。  
PERT の統計的評価について述べる。(3点推定)
18. ゲーム理論について述べる。(純粋戦略、混合戦略、2人ゼロ和ゲーム)
19. ゲーム理論のグラフ解法について述べ、演習を行う。
20. ゲーム理論と LP との問題について述べる。
21. 在庫管理の考え方について述べる。(発注点、発注量、調達期間、安全在庫)
22. 在庫管理の考え方について述べる。(定期発注法、定量発注法)
23. 在庫管理のパソコン・モデルによる演習を行う。
24. 一年間の総まとめをおこなう。

科目名	システムズ・エンジニアリング	担当者名	天笠 美知夫
-----	----------------	------	--------

講義の目標	<p>経営・経済システムや社会システムなどの大規模・複雑で、かつ曖昧性をもつシステムの本質を把握し、設計・開発するにあたり、主要な学問であるシステムズ・エンジニアリングの役割とその具体的な方法論について理解と意識を深めることを目的とする。</p>		
講義概要	<p>本講義は4部から構成される。第1部ではシステムズ・エンジニアリングの基礎として、システム・エンジニアリングの基本概念と工学的方法論の概要について述べる。第2部では問題の発見と種々のシステムの構造化法について述べる。第3部では評価と意思決定について述べる。第4部ではシステムズ・エンジニアリングのいろいろな手法とその信頼性について述べる。</p> <p>尚、後期には数時間をかけて、理論に従い事例演習を行い、その報告書を作成させるとともに発表会を行う。本講義を受講するために前提となる必修科目はない。</p>		
使用教材	テキスト	<p>授業時間にプリントを配布する。</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天笠美知夫『システム構成論』森山書店 1986</li> <li>・寺野寿郎『システム工学入門』共立出版 1985</li> <li>・Wayne C Turner, et. al.; <i>Introduction to Industrial and Systems Engineering</i>, Prentice-Hall 1978</li> </ul>	
評価方法	<p>成績評価は、事例演習、レポートおよび出席を考慮して総合的に決定する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に出席し、積極的に質疑応答して欲しい。</p>		

1. 第1部 システム工学の基礎 第1章 システム工学の基本概念：システム工学の発達とその背景、システムの定義と特徴、システム思考
2. システム環境、サブシステム、システムの巨視的特性 自然システムと人工システム
3. 第2章 システム工学方法論の概要：システム開発の手順と組織（その1）（問題の設定、目標の設定、システム合成、システム解析、システムの評価と選定）
4. システム開発の手順と組織（その2）、システム工学方法論
5. 第2部 問題の発見とシステムの構造化
6. 第3章 構造モデルとグラフ理論
7. ISM法、FSM法とKJ法（その1）
8. ISM法、FSM法とKJ法（その2）
9. 構造モデルの分割
10. 第4章 統計的手法による構造化（その1）
11. 統計的手法による構造化（その2）
12. 事例演習1：具体的な問題についてシステム構造化の演習を行う。
13. 第3部 評価と意思決定  
：第5章 評価の基礎、価値と評価、効用理論（その1）
14. 価値と評価、効用理論（その2）
15. 第6章 統計的手法による数量化、数量化理論（その1）
16. 統計的手法による数量化、数量化理論（その2）
17. 第4部 いろいろなシステムの手法と信頼性：  
第7章 スケジューリング、PERT、CPM（その1）
18. PERT、CPM（その2）
19. 予測 デルファイ法とファジィデルファイ法
20. 第8章 システムの信頼性
21. 事例演習2：4～5人からなるグループごとに、身近な問題をテーマとして設定し、これまでに学習した理論にしたがいながらシステム構造化を行い、問題解決を図る。
22. 事例演習
23. 事例演習
24. 報告書の作成とグループ発表、質疑応答

科目名	情報システム論	担当者名	前田 功雄
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>	
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をどうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、コンピュータ・ネットワーク、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>	
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。
	参考文献	授業中に述べる。
評価方法	<p>評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。</p>	
受講者に対する要望など	<p>コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。</p>	



1. パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？  
キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2. パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかのBBS局に接続して実演。  
キー・ワード：BBS局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3. コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。  
キー・ワード：ホスト・端末、LAN、コンピュータ間通信、Internet
4. Internetの仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表であるInternetの仕組みと実演。  
キー・ワード：ノード、ユーザID、パスワード、電子メールの送受信
5. Internetの実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6. Internetによるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。  
キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7. パソコン上のファイルのInternet上での転送 FDのファイルをInternet経由で転送する方法を解説。  
キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8. 前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9. 情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。  
キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10. 情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。  
キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11. 情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。  
キー・ワード：ダウンロード、エディター
12. 前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
13. 自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。  
キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
14. 情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。  
キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
15. 情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。  
キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
16. 情報量の測りかた（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。  
キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
17. 情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。  
キー・ワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
18. エントロピーの社会科学解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。  
キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
19. 情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。  
キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
20. 情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。  
キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
21. Hamming符号とHuffman符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。  
キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
22. 10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。  
キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
23. 獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。  
キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
24. 後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。

科目名	標本調査論	担当者名	松井 敬
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>新聞、TVなどのメディア、官庁、企業など様々な機関から私たちの生活や社会にかかわる数多くの調査結果とその分析が公表されている。そして多くの場合、それらはあたかも私たちの総意であるかのように扱われている。実際にある個人が調査の対象となることは極めて少ないにもかかわらずである。この点に違和感を持つ人は多いのではないだろうか。本講義では抽出の方法という観点から標本調査における問題点を整理してゆきたい。</p>		
講義概要	<p>本講義は目標のところ述べてきたことを念頭において出発する。調査の歴史の中には数多くの失敗があり、そんな中から調査の理論が確立されてきている。そこで、まず標本調査とはどんなことを考えたい。次に、現在行われている様々な抽出法について、その由来、推定の方法、誤差の評価、抽出法相互間の比較などを取り扱ってゆく。応用例やコンピュータによるシミュレーションの結果をできるだけ取り入れ、理解の助けとしたい。</p> <p>なお、模擬母集団からの手作業による抽出作業を通して、色々な抽出法の意味と違いが分かるようにしてゆきたい。数値計算の作業を厭わないことが必要である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・松井 敬 『標本調査論』 内田老鶴圃</p>	
	参考文献	<p>抽出法について詳しく知りたいのであれば、Cochran "<i>Sampling Techniques</i>", Wiley &amp; Sons または Scheaffer, Mendenhall, Ott "<i>Elementary Survey Sampling</i>", PWS-Kent Pub. Co. が分かりやすい。調査の際の様々な技法を含めては、浅井晃『調査の技術』、日科技連；林、多賀『調査とサンプリング』、同文書院；辻、有馬、『アンケート調査の方法』、朝倉書店など。</p>	
評価方法	<p>前・後期二回のレポート、抽出法毎に行なう演習への貢献度、講義への出席によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>統計的な基本概念もあわせ補充するが、統計学を既習ないし並行履修が望ましい。上で述べたように演習などのこともあり、出席は厳しく評価したい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1. 標本調査とは—1：(1)標本調査とはどんなことか—幾つかの具体例を通し、調査の意味や方法、問題点などについて考えてみる。(2)本講義をどう進めるか—方針と受講生への要請。
	2. 標本調査とは—2：(1)標本調査とはどういうことか、良いサンプルとは何か、良いサンプルを得るための試み。(2)有意抽出法—典型法、割当法など調査法とその歴史。無作為抽出法。
	3. 標本（サンプル）、母集団：(1)良いサンプルの条件、それを得るための方法。母集団と標本（サンプル）。(2)母集団特性値—平均、総計、比率。母集団の分散、標本との関係。
	4. 単純無作為抽出法—1：(1)復元抽出法、非復元抽出法—意味と方法。(2)乱数—性質と使い方。(3)単純無作為標本のつくり方。
	5. 単純無作為抽出法—2：(1)単純無作為抽出法の例、推定量。(2)標本分布の概念—標本平均、標本中央値などの分布。(3)推定量の特性。
	6. 標準誤差—1：(1)推定量の分散、標準誤差。(2)母平均と母集団総計の推定量としての標本平均と標本総計。(3)標本平均と標本総計の分散とその意味、その推定量。(4)有限母集団補正。
	7. 標準誤差—2：(1)標準誤差の意味。(2)推定量の精度（誤差）、推定量の相互比較（効率）。(3)母集団比率の推定。
	8. 標本の大きさ：単純無作為抽出法で標本の大きさを決めるにはどうするか。
	9. 層化無作為抽出法—1：どんな抽出法か、層化抽出法における要点（どんな点が問題となるか）。構造模型。
	10. 層化無作為抽出法—2：(1)サンプルの配分、推定量とその分散。(2)比例配分と最適配分。(3)単純無作為抽出法との比較。
	11. 層化無作為抽出法—3：層の作り方、層の数。
	12. 層化無作為抽出法—4：(1)調査項目が複数個の場合の取り扱い。(2)サンプルの大きさの決定。
	13. 系統抽出法—1：意味と方法。推定量、その分散。
	14. 系統抽出法—2：系統抽出法が有効な場合。抽出法の例。
	15. 1 段集落（クラスター）抽出法—1：(1)なぜ集落抽出法を考えるか—その方法と理由。(2)抽出単位を選出する確率が等しくない場合の標本抽出とその効果。
	16. 1 段集落（クラスター）抽出法—2：(1)1 段目を等確率抽出した場合。(2)幾つかの推定量—それぞれの特徴と比較。(3)抽出法の例。
	17. 1 段集落（クラスター）抽出法—3：(1)例を通して問題点の整理。(2)1 段目を確率比例抽出などで抽出した場合。(3)比率の場合。
	18. 2 段集落（クラスター）抽出法—1：クラスターの大きさが等しい場合。2 段集落抽出法の考え方、推定量その他この抽出法にかかわる問題点の整理。
	19. 2 段集落（クラスター）抽出法—2：構造模型。クラスターの大きさが異なる場合。サンプルの大きさ $n = 1$ の場合についての考察。推定量と抽出法との関係を調べる。
	20. 2 段集落（クラスター）抽出法—3：一般の場合の説明。1 段目の抽出が等確率の場合。抽出法の例。
	21. 2 段集落（クラスター）抽出法—4：一般の場合の説明。第 2 段目の抽出が確率比例抽出などによる場合。抽出法の例。
	22. 抽出法再考：講義で扱った様々な抽出法相互の関係、意味、比較など。
	23. 標本調査における問題：標本調査の実際に関わる諸問題。実際の場で起こりうる問題を整理し、例を通して解説。
	24. 標本調査：まとめ。課題。

科目名	情報検索論	担当者名	福田 求
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>必要な情報を効果的に選択、入手する行為としての「情報検索」について理解を深める。特に、コンピュータ技術に基づく情報検索システムの知識を、解説および実習を通して体得する。</p>	
講義概要	<p>本講義ではまず、情報検索に関する基本的概念について解説し、情報検索を取り巻くシステムの仕組みを概観する。そしてその知識を踏まえた上で、実際の情報検索技術に慣れ、習熟するために、CD-ROMによる情報検索の実習を行う。次に、情報検索のサービスについて解説した上で、NACSIS-IR や DIALOG といったオンラインの情報検索サービスの実際の利用を通して、情報検索の理解を深めてもらう。そして最後に、新たな情報検索の場としてインターネットをとりあげ、これについても実習を行う。実習では可能なかぎり、受講者が今後の調査／研究活動で利用できるような情報源（CD-ROM、オンライン）を紹介する。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない。
	参考文献	適宜紹介する。
評価方法	<p>前期および後期の定期試験。これに平常点（実習への参加態度等）を加味する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>実習の形式（個人で行うかグループ単位で行うか等）は、学内で利用できる機材と受講者数とのバランスを見て決定する。よって受講者数を確認したいので第1回の授業には必ず出席すること。</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. オリエンテーション：年間予定、授業方法等の注意事項について説明。
2. 総論：情報検索の定義、種類、歴史についての解説。
3. データベース(1)：データベースの定義、意義、構成要素について解説。
4. データベース(2)：データベースの種類、歴史について解説。
5. 情報検索技術(1)：索引言語等について解説。
6. 情報検索技術(2)：検索式等について解説。
7. CD-ROM 検索(1)：実習
8. CD-ROM 検索(2)：実習
9. CD-ROM 検索(3)：実習
10. CD-ROM 検索(4)：実習
11. CD-ROM 検索(5)：実習
12. 前期講義のまとめ
13. 情報検索サービス(1)：情報検索サービスの定義、意義、歴史、種類について解説。
14. 情報検索サービス(2)：情報検索サービスの利用について解説。
15. オンライン検索(1)：実習
16. オンライン検索(2)：実習
17. オンライン検索(3)：実習
18. オンライン検索(4)：実習
19. 情報検索の新たな展開：インターネット等の新しい情報検索の領域を紹介。
20. インターネットによる情報検索(1)：実習
21. インターネットによる情報検索(2)：実習
22. インターネットによる情報検索(3)：実習
23. インターネットによる情報検索(4)：実習
24. まとめ

科目名	高齢化社会論 (98年度) 老年社会学 (97年度以前)	担当者名	奥山正司
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>現代社会が、情報化、国際化、高齢化の社会であるといわれてから久しい。本講義では、その高齢化や加齢という現象を通して、経済・社会にどのような変化が生じているのかを明らかにしていくことをねらいとする。</p> <p>なお、高齢化社会を研究するソーシャル・ジェロントロジィ（社会老年学）は、老年学（gerontology）の一領域であるとともに、社会学（sociology）の一領域として位置づけられる。また、ジェロントロジィとは「高齢化や加齢現象に関する科学的研究」を意味し、社会学とは「社会現象を人間生活の共同という視角から研究する社会科学」である。</p>	
講義概要	<p>年間を通して、人口高齢化がもたらす社会的インパクトや老年期における高齢者の社会生活の変化及び老人福祉、老後保障の動向などについて学ぶ。</p> <p>前半では、人口高齢化、家族、居住形態、ライフ・サイクル、就業など高齢者の客観的な生活の様相について、後半では、老人福祉、老後保障などの側面から講義し、高齢（化）社会の全体像を明らかにする。</p>	
使用教材	テキスト	教科書は使用しない。また、参考書等は授業中にその都度指示する。
	参考文献	
評価方法	レポート提出、出席、試験等の総合的な評価によって行う。	
受講者に対する要望など		

1.～2. 高齢化社会に関する社会科学と周辺科学

社会学及び社会福祉学など社会科学的視点から高齢者をとらえていくジェロントロジィ (Gerontology、老年学) とはどのような学問か。それは、医学的観点とはどのように異なるのか。また、ジェロントロジィが社会学の代表的理論といわれる離脱理論、活動理論とは高齢者と社会のありかたをどうみているのか。

3.～4. 人口高齢化と高齢化社会

エイジング(加齢)とはどのような現象か。わが国の人口高齢化の進展は、諸外国の高齢化と比較するとどのような特徴がみられるのか。人口高齢化の要因とは何か。人口高齢化の地域的偏在とそこに生起する問題とは何か。

5.～6. 高齢者と家族、老親子の居住形態

戦後、イエ制度の廃止により、これまで社会的に承認されてきた子が老親を扶養するという規範が弱体化し、老親と既婚子との生活の結合が徐々に分離してきている。その具体的様相はどのような状況なのか。

7.～8. ライフ・サイクル、家族周期と老年期

人間一人ひとりの一生は生物学的な加齢によって規定されるとともに、年齢に結びついた役割と出来事によってつくられる。出生から死亡に至るライフ・サイクルの過程は、戦前と戦後でどのように変化し、それが高齢者の生きかたにどのように影響しているのだろうか。

9.～10. 高齢者と生計

高齢者の生計をとりまく経済状況はどのような状況か。高齢者世帯の所得水準、高齢者世帯の所得構造、高齢者世帯の消費水準、高齢者世帯の消費構造、高齢者の資産・負債などについて。

11.～12. 高齢者と就業・雇用・定年退職

人口の高齢化に伴い、労働力人口も急速に高齢化し、わが国の経済社会の動向にも大きな影響を及ぼしている。高齢者の就業意向とその現実、高年齢雇用対策やシルバー人材センターの状況などについて。

13.～14. 高齢者と住宅環境

住宅は高齢者にとって安全で健康な生活を支える道具として機能しなければならない。住宅水準の状況、特に首都圏の状況と高齢者の住宅対策、居住環境、福祉のまちづくりなどについて。

15.～16. 高齢者と生涯学習、社会参加

高齢期を快活に生きるためには、趣味や生きがいをもち、仲間づくりや地域社会における役割分担ができるという状況が必要である。これらの能力や資質は、若中年期からの学習や社会参加によって身につくものであるが、その実状と対応策について。

17.～18. 高齢者と保健・医療

死亡率、有病者率、受療率、国民医療費の動向はどのような状況なのか。また、健やかに老いるために、従来、老人福祉対策等の一環として行われてきた老人保健医療対策と成人保健対策を一元化した老人保健法とはどのような対策なのか。

19.～20. 高齢者と在宅福祉

本格的な高齢化社会を向かえ、みじかな市区町村による福祉サービスの時代が到来しつつある。平成2年にスタートし在宅福祉10箇年計画をかかげたゴールドプランとはどのような計画か。また、ホームヘルパー、ショートステイサービス、デイサービスの現在の水準と将来の達成度などについて。

21.～22. 高齢者と施設福祉

在宅福祉とならんで施設福祉は、高齢者保健福祉推進10箇年戦略により、飛躍的に発展している。特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、軽費老人ホーム、有料老人ホーム、ケア付き集合住宅などの整備状況とその推移などについて。

23.～24. 高齢者及び高齢化対策と社会保障、財政支出

老後生活を送るうえで、経済的基盤の中心となるのは年金である。年金は大別すると公的年金、企業年金、個人年金に分けられる。そのうち、老後保障の柱となるのは公的年金である。その歴史と現状、将来にむけての問題点とは何か。

25. 諸外国の高齢者対策

福祉先進国といわれるスウェーデン、デンマーク、イギリス、その対極にあるアメリカの高齢者対策の状況について。

科目名	宗 教 学	担当者名	鈴 木 康 治
-----	-------	------	---------

講義の目標	宗教とは何かから始めて、宗教に関わる諸知識を整理し、東西の宗教の比較に関わる。		
講義概要	年間授業計画を参考のこと。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	一応、岸本英夫『宗教学』（大明堂）を参照。但し、その考え方に全面的に賛同する訳ではない。	
評価方法	テスト。但し、あらかじめ問題提示もありうる。		
受講者に対する要望など			
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 概要の説明</li> <li>2. 宗教とは何か I.</li> <li>3. 同上 II.</li> <li>4. 宗教学の諸問題 I.</li> <li>5. 同上 II.</li> <li>6. 日本の宗教事情 I.</li> <li>7. 同上 II.</li> <li>8. 年中行事 I.</li> <li>9. 同上 II.</li> <li>10. 儀礼の問題 I.</li> <li>11. 同上 II.</li> <li>12. 同上 III.</li> <li>13. 前期概要のまとめ</li> <li>14. 祭りの事例 I.</li> <li>15. 同上 II.</li> <li>16. 同上 III.</li> <li>17. 祭りと現代 I.</li> <li>18. 同上 II.</li> <li>19. 宗教集団の問題 I.</li> <li>20. 同上 II.</li> <li>21. タブーと戒律 I.</li> <li>22. 修行 I.</li> <li>23. 同上 II.</li> <li>24. 宗教の規定</li> </ol>		



科目名	高齢者エルゴノミクス	担当者名	山本 栄
-----	------------	------	------

講義の目標	エルゴノミクス（人間工学）の考え方を理解し、その上で実社会において高齢者を始め、弱者に対し、“やさしい”モノ（ハード、ソフト）を提供する考え方を身に着ける。		
講義概要	高齢化社会における社会的環境整備とはどうあるべきなのであろうか。たとえば駅の券売機の前でお年寄りが自分の切符の値段をうろろうしながら調べていたり、お金を投入するのにまどついていたりする光景によく出くわします。銀行でも自動機（ATM）でまどついていることを見かけたことは多いであろう。高年齢者が日常の生活、社会生活において安心して暮らせるためには社会的にどんな用意をすればよいのか、社会資本の充実といってもよいであろう、この点を考えていくための基礎と応用・実践的問題を取り上げ講義する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	<p>◎服部真理子：『高齢者にやさしい商品開発』、日本経済新聞社</p> <p>◎『講座 高齢社会の技術 全7巻』、日本評論社 レポートの書き方</p> <p>◎木下是雄著：『理科系の作文技術』、中公新書</p>	
評価方法	年2回の期末テストを実施します。あと何回かのレポートの提出を求めます。出来の良いレポートについてはテストを免除します。レポートの書き方は参考文献を良く読んで下さい。		
受講者に対する要望など	<p>積極的な参加、すなわち質問したり、自分の考えを述べたりできるようにして下さい。お客さんだったり、欠席したり、私語をしたりすることは積極的な参加ではありません。</p> <p>それからレポートとは自分のメモでは無い。他の人（この場合は先生）に読んでもらうということを良く考えてください。授業ではときどきこの点を注意していても『私は聞いていません』と平然としている先輩もいました。よう考えて下さい。</p>		

年 間 授 業 計 画	1.	1. 序 高年齢者エルゴノミクスとは
	2.	2. 高齢者をとりまく鴨境
	3.	3. 高年齢者の特徴
		3.1 加齢効果
	4.	3.2 生理的变化について—1 視覚系
	5.	3.2 生理的变化について—2 聴覚系
	6.	3.2 生理的变化について—3 呼吸器、循環器系
	7.	3.3 精神的变化について—1 記憶等
	8.	3.3 精神的变化について—2 精神的活動
	9.	4. 人間工学の原則 (ISO6385)
	10.	5. 高年齢者にとってのユーザビリティとは
	11.	6. 高年齢者の機能測定法
		6.1 身体計測
	12.	6.2 生理的反応計測
	13.	7. 高年齢者の情報処理
		7.1 情報処理能力と加齢
	14.	7.2 高年齢者用 OA 作業
	15.	8. 高年齢者用住環境
		8.1 家庭内災害
	16.	8.2 高齢者用住宅
	17.	9. 高齢者と安全 ヒヤリ・ハット
	18.	10. 高齢化社会と社会システム
		10.1 社会システムからの見方
	19.	10.2 現状とその対策
20.	11. 高齢化社会への実践的取り組み方	
	11.1 家庭編	
21.	11.2 交通編	
22.	11.3 公共施設	
23.	12. 諸外国の取り組み方	
	12.1 ヨーロッパ	
24.	12.2 アメリカ	

科目名	経済原論(営)	担当者名	高橋 房二
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>本講においては経済原論として標準的な現代理論におけるミクロ経済学の基礎の体系的な講義を行なう。ここで取り扱われる授業内容は経営学科の学生にとっていずれも重要であり、有益なものである。とりあげられる各問題について理解を容易にするために図解的説明が中心とされる。適宜、現実的な経済問題について言及される。この講義は微視的経済理論に関する大学専門課程の学生としての学力の育成と充実を目標とする。</p>		
講義概要	<p>本年はミクロ経済理論に統一して講義を行なう。経済主体として消費者と企業者のそれぞれの合理的経済行動が対象とされる。その場合、いずれの経済主体もある条件のもとで最適化行動を行なうものとして議論される。まず、家計、あるいは消費者の行動に関する分析として消費における重要な基本概念や無差別曲線理論が述べられ、そしてその応用が種々展開される。ついで、需要に関連する概念と需要理論が上記の議論の延長として取り扱われる。つぎの段階として、企業者行動の理論分析のため、生産と費用に関する必須の事項が講義される。その基礎のうえに立って、完全競争や独占における短期と長期の均衡を取り扱う。さらに、独占的競争や複占に関する問題がとりあげられる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヴァリアン『ミクロ経済分析』勁草書房</li> <li>・マランポー『ミクロ経済理論講義』創文社</li> <li>・Gould &amp; Lazear, Microeconomic Theory, Irvin</li> <li>・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社</li> </ul> 他	
評価方法	定期試験、ミニテスト		
受講者に対する要望など	出席を十分留意すること。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の主な内容と授業展開の概要と学習上の留意点の説明。 消費者行動の理論 (I) 効用、効用指標、選好、効用曲面、限界効用、無差別曲線とその性質 期待効用仮説</li> <li>2. 消費者行動の理論 (II) 限界代替率、商品空間、予算空間、効用極大化、消費者の均衡</li> <li>3. 需要の理論 (I) 価格変化、価格消費曲線、需要曲線、需要法則、需要の価格弾力性</li> <li>4. 需要の理論 (II) 貨幣所得の変化、正常財と劣等財、所得消費曲線、需要の所得弾力性</li> <li>5. 消費者需要の問題 (I) 代替効果、所得効果、全部効果 (正常財のケース)</li> <li>6. 消費者需要の問題 (II) 代替と補完、代替財、補完財、価格交差弾力性等</li> <li>7. 無差別曲線理論の応用 所得と余暇のトレードオフ、消費者・雇用者均衡、異時点間における消費の決定、オーバータイムの問題等</li> <li>8. 市場需要 (I) 需要の決定因、個別需要、市場需要、需要の価格弾力性</li> <li>9. 市場需要 (II) 総収入、限界収入、需要の価格弾力性と総収入</li> <li>10. 生産の理論 (I) 固定的投入と可変的投入、短期と長期の概念、生産関数 (1要素の場合)、総生産物、平均生産物、限界生産物、限界生産物逓減の法則</li> <li>11. 生産の理論 (II) 固定比率と可変比率、生産関数 (2要素の場合)、規模に関する収益不変、収益逓増、および収益逓減、生産曲面、生産物等量曲線。</li> <li>12. 生産の理論 (III) 生産物等量曲線の性質、技術的限界代替率、生産物空間と費用空間</li> <li>13. 生産の理論 (IV) 所与の費用のもので産出を極大にする最適投入結合、生産設備の長期的適応過程、拡張経路、産出効果と代替効果</li> <li>14. 費用の理論 (I) 費用、機会費用、短期の総費用、可変費用、平均費用、および限界費用、短期の総費用曲線、平均費用曲線、および限界費用曲線</li> <li>15. 費用の理論 (II) 長期の総費用、平均費用、および限界費用、費用からみた工場規模の選択、長期平均費用曲線、長期限界費用曲線、規模の経済と不経済</li> <li>16. 完全競争市場における価格理論 (I) 完全競争、完全競争のもとにおける企業の短期均衡、短期における操業の停止</li> <li>17. 完全競争市場における価格理論 (II) 短期の供給曲線、既存企業の長期均衡、産業の長期的調整過程</li> <li>18. 純粋独占下における均衡 (I) 独占、独占の要因、総収入、限界収入、総費用、限界費用、独占下における短期均衡、総収入と総費用による接近</li> <li>19. 純粋独占下における均衡 (II) 前週につづいて、限界収入と限界費用による接近、独占価格、独占利潤、多工場独占、短期の独占供給</li> <li>20. 純粋独占下における均衡 (III) 独占下における長期均衡、単一工場独占における長期的調整</li> <li>21. 独占理論の特殊問題 価格差別化、双方独占</li> <li>22. 独占的競争の理論 生産物差別化、独占的競争下の短期均衡と長期均衡</li> <li>23. 寡占の理論 (I) 寡占、寡占市場、複占</li> <li>24. 寡占の理論 (II) 複占についての若干のモデル、寡占市場の安定性</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	経済原論(営)	担当者名	西村 允克
-----	---------	------	-------

講義の目標	<p>市場経済は1つの組織である。それゆえ経済学は市場経済という組織を理解することを目的とする。組織が永続的に機能するのは、そこになんらかの秩序原理が存在するからである。経済学はこの秩序を市場均衡理論によって把握説明する。それゆえ、市場均衡のメカニズムを学習することが前期の目標となる。しかし現実経済は市場均衡状態にあるわけではない。現実経済が市場均衡を乖離しているとき、現実経済はどう進むか、すなわち変動と成長の過程が後期の主要目標となる。</p>	
講義概要	<p>予定の1～2は、経済学を学ぶための基礎となることを集中的に学習する。以下の講義はこれに基づいて進行するから、常に講義の進行にともなって参照する必要がある。</p> <p>3～4はGDP(国内総生産)の定義をもとにマクロ経済変数の関係を述べる。5～7は具体的な関数を説明することによって、関数の意味とその利用方法を完全に学習する。</p> <p>8～12では、経済理論の中心となる市場均衡理論を学習することによって、主要な経済問題を考える論理システムを学習する。13～24は市場均衡理論を財市場から貨幣市場へ拡大し、より現実的な経済問題理解のための基礎を整えることにある。</p>	
使用教材	テキスト	<p>・中谷 巖著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</p>
	参考文献	<p>・幸村千佳良著 『経済学事始』 多賀出版</p> <p>・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多賀出版</p> <p>・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社</p> <p>・井堀利宏 『入門マクロ経済学』 新世社</p>
評価方法	<p>前期と後期の2回の定期試験の結果による。試験は講義をいかに理解したかをテストするのであるから、講義中に注意した点を必ず答案に反映することが必要である。</p>	
受講者に対する要望など	<p>学習効果を上げるには、日々の学修が必要である。講義はそれまでの講義を基礎に展開されるから、絶えずそれまでの講義内容を反復学習することを望む。</p>	

1. 経済学を学ぶための基礎（Ⅰ） 経済主体、経済活動、経済資源、財と用役（サービス）、資産（実物資産と金融資産）
2. 経済学を学ぶための基礎（Ⅱ） 分析ツール 関数と曲線、図の読み方、市場（完全競争市場、独占的競争市場）
3. 国民経済計算（Ⅰ） 付加価値額、国内総生産、国内総支出、国民所得、内需と外需、グロスとネット
4. 国民経済計算（Ⅱ） 物価指数（デフレーター）、名目値と実質値、経済成長率
5. 生産関数 産出量と投入量、限界生産力、規模の経済
6. 消費関数（Ⅰ） 限界消費性向と限界貯蓄性向、両者の関係、平均消費性向と平均貯蓄性向、両者の関係
7. 消費関数（Ⅱ） 長期消費関数
8. 価格決定理論（Ⅰ） 価格の決定と変動の理論、完全競争市場における価格決定、独占市場における価格決定
9. 価格決定理論（Ⅱ） 消費税率を上げると価格はどうか変化するかなど価格決定理論の応用問題
10. 国民所得決定理論（Ⅰ） 貿易がない場合の国民所得決定理論
11. 国民所得決定理論（Ⅱ） 乗数理論、財政々策の効果
12. 前期のまとめ 前期の講義内容を体系的にまとめ、それぞれの相互関係を明らかにする
13. 貨幣市場について マネー・サプライとその決定因、金融政策——公定割引歩合、公開市場操作、予金準備率
14. 貨幣需要量について 所得動機による貨幣需要、投機的動機による貨幣需要
15. IS=LM分析（Ⅰ） IS曲線の導出、LM曲線の導出、国民所得と利子率の同時決定のメカニズム
16. IS=LM分析（Ⅱ） 財政々策と金融政策の効果の分析
17. 失業とインフレーション 自然失業率、フィリップス曲線
18. 景気変動 キッチン波動、ジュグラール波動、コンドラチエフ波動
19. 経済成長論（Ⅰ） 経済成長率、限界資本係数と貯蓄性向の関係
20. 経済成長論（Ⅱ）
21. 国際マクロ経済理論（Ⅰ） 外国貿易乗数、外国為替相場（固定相場と変動相場制）、国際収支（貿易収支、経常収支、資本収支）
22. 国際マクロ経済理論（Ⅱ）
23. 総供給・総需要分析 総供給曲線の導出、総需要曲線の導出
24. まとめ 経済理論のより高度な学習にむけての注意と一年間の講義内容のまとめ

科目名	経済学(済)(98年度)	担当者名	小林 進
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>最近は経済学の重要性が増しているにもかかわらず、たとえば若い人の多重債務者の増加にみられるように経済学の基礎が十分に理解できないことが憂慮されるので、一年生を対象にしたこの講義では特に経済理論の必要性を十分に理解できるように講義を進める。また身近な経済の話題を通じて経済学への関心を高めたい。</p>		
講義概要	<p>マクロ経済学を前半にそして後半にはミクロ経済学の初歩的概念を講義する。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義の中で適時に指示する。	
評価方法	<p>前期と後期の二回の試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など			

1. マクロ経済学
2. 国民所得概念
  - 付加価値の定義 (単なる所有権の移転だけでは変化しないことに注意)
  - GNP = 雇用者所得 (賃金) + 営業余剰 (利潤) + (間接税 - 補助金) + 資本減耗分
  - GNP - 資本減耗分 = NNP (資本減耗分 = 減価償却費)
  - GNP と GDP (国内総生産) の相違 (海外からの要素所得の純受取分)
  - GNP = C + I + G + X - Q (総需要)
  - (C : 消費、I : 投資、G : 政府支出、X : 輸出、Q : 輸入)
  - 主婦の労働と農家の自家消費は国民所得に含まれるか?
  - 消費関数  $C = cY + A$  の性質
  - 限界消費性向  $c = \frac{\Delta C}{\Delta Y}$  ( $0 < c < 1$  経済的意味に注意)
- 貯蓄の定義及び貯蓄関数
  - 国民所得の決定 I. 単純モデル ( $Y = C + I$ )
  - ① 代数解
    - $Y = \frac{1}{1-c} (A + I)$
  - ② 45度線図による理解
  - ③ 貯蓄と投資の均等による図からの理解
  - (投資) 乗数理論
    - $\Delta Y = \frac{1}{1-c} \Delta I$
  - 生産関数  $Y = F(K, N)$  (Kは資本、Nは労働)
  - 短期生産関数  $Y = f(N)$  (Kは短期では一定と見なす、したがって; のみの関数)
  - インフレギャップとデフレギャップ
    - (完全雇用時の円民所得  $Y_f$  と現実の国民所得の乖離)
  - 国民所得の決定 II. 政府を含むモデル ( $Y = C + I + G$ )
  - 可処分所得  $Y_d = Y - T$
  - 貯蓄と投資の関係式  $I = S + (T - G)$
  - 均衡予算乗数は 1 ( $\Delta Y = \Delta G$ )
  - 貯蓄のパラドックス (貯蓄は美徳か?)
  - マネタリストの主張 (大恐慌の原因は貨幣量の異常な縮小)
  - 資本の限界効率と投資関数
  - IS 曲線とその右下がりの性質
  - 貨幣需要曲線と LM 曲線
  - IS・LM 曲線と経済政策の有効性
  - 貨幣数量説 (フィッシャーの交換方程式とケンブリッジ残高方程式)
  - マーシャルの  $k$  といわゆる「カネ余り」の問題
    - $\frac{\Delta M}{M} = \frac{\Delta k}{k} + \frac{\Delta p}{p} + \frac{\Delta y}{y}$  ( $y$ : 実質国民所得)
  - 短期及び長期のフィリップス曲線
- II ミクロ経済学
  - 経済主体 (消費者及び企業) の合理的行動 → 最大化行動
  - ・ 消費者行動
    - 効用関数
    - 無差別曲線
    - 限界代替率 (MRS) 逓減の経済的意味
    - 予算線
    - 最適消費点 →  $MRS = \text{価格比}$
    - 所得効果、上級財 (正常財)、下級財 (劣等財)
    - 価格変化と代替効果
    - 下級財の特殊例としてのギッフェン財
    - 個別需要曲線の導出
    - 需要の価格弾力性
    - 豊作貧乏の理論分析
    - Jカーブ効果
  - ・ 企業の理論
    - 総費用 (TC) = 可変費用 (VC) + 固定費用 (FC)
    - 平均費用 (AC) と限界費用 (MC) の関係 (平均概念と限界概念の把握)
    - $MC > AC$  ならば AC は増加する
    - $MC < AC$  ならば AC は減少する
    - 利潤最大条件 → 価格  $P = MC$
    - 個別供給曲線の導出、損益分岐点、操業停止点
    - ワルラス的安定条件



科目名	経済学(済)(98年度)	担当者名	仙波 憲一
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>個人の消費や生産活動、国と国との諸取引等の背景には、何らかの行動原理や経済法則が働いている。経済学はこれらを体系的に解明することを目指す学問である。我々の身近な問題から世界の諸問題に至るまで、経済的要因を抜きにしては議論できない。したがって、経済学は極めて身近な学問である。本講では具体的な事例を用いて、経済学特有の考え方、分析方法をわかりやすく解説し、経済学の基本体系を理解できるようにする。</p>		
講義概要	<p>経済学にはミクロ経済学あるいは価格理論と、マクロ経済学あるいは所得理論と呼ばれる分野がある。ともに、有限な資源を用いて経済活動を無駄なく行う為に、また得られた利益を公平に分配する為に望ましい経済システムは何かを考える。なお、ミクロ経済学は個々の消費者や生産者の行動原理及び市場における価格決定原理を分析する。マクロ経済学は個々の集合体である民間部門(消費部門と生産部門)、政府部門、海外部門ごとの行動論及び各部門の有機的な相互関連を分析する。前期はミクロ経済学を、後期はマクロ経済学を解説する。</p>		
使用教材	テキスト	未定	
	参考文献		
評価方法	試験、レポート等の総合点で評価します。		
受講者に対する要望など	主体的に考える姿勢を持って出席してください。		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義の概要</li> <li>2. 経済学の役割</li> <li>3. 経済学の構成</li> <li>4. 分析の手法(1)</li> <li>5. 分析の手法(2)</li> <li>6. 需要について</li> <li>7. 供給について</li> <li>8. 市場の機能(1)―価格の決定</li> <li>9. 市場の機能(2)―需給調整</li> <li>10. 消費者余剰と生産者余剰</li> <li>11. 市場の失敗</li> <li>12. 規制緩和と経済厚生</li> <li>13. 経済のマクロ的側面</li> <li>14. 国民経済計算、フローとストック</li> <li>15. 財市場の構成</li> <li>16. 国民所得の決定―有効需要の原理</li> <li>17. 財政政策</li> <li>18. 金融市場の構成、金利の決定</li> <li>19. 金融政策</li> <li>20. 総需要関数</li> <li>21. 労働市場と失業</li> <li>22. 総供給関数、物価の決定</li> <li>23. 開放経済(1)</li> <li>24. 開放経済(2)</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	経済学(済)(98年度)	担当者名	松本正信
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>現代経済の実際と理論を知識すること。——経済学・社会科学の面白さの一面に、「個人にとって真なる行動も社会全体から見ると必ずしも真ではない、つまり逆もまた真」とか、「経済学を学ぶ前の常識と学んだ後の常識とは異なる」といった事があります。しかしもっと大切な事は経済理論・経済思想がその時代々々の背景とともに変遷してきた事実を見極める事です。そのうえに立って出来れば現代世界の政治経済的動向を、人類の未来像へのビジョンを、年間の経済学を通じて探してみたいと考える。</p>		
講義概要	<p>年間を通じて、ミクロ・マクロの経済理論の概要を講義します。後記の年間講義予定に示す通り、前期ではほぼミクロ経済学を、後期ではほぼマクロ経済学を配当します。前期のミクロ理論は個人(消費者)や企業など個々の経済主体が経済合理性にしたがって行動するとき、その経済社会はどのような経済状態を実現することになるか。そのキーワードは価格、市場、外部性等である。後期のマクロ理論は個々の経済主体の行動を社会全体の1つの集合体と考え、その行動を1つの集計量としてとらえるとき、社会全体がどのような状態になるかを分析する。そのキーワードは所得、消費、貯蓄、投資、物価水準、利子率、政府の財政・金融政策等々である。これらを講義の目標に関連させるようにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・小野俊夫編著『現代経済学の基礎』学文社</p>	
	参考文献	<p>・根岸隆他共著『近代経済学—経済分析の基礎理論』(有斐閣大学双書)有斐閣          ・サミュエルソン・ノードハウス共著『経済学上・下』(第13版)(都留重人訳)岩波書店</p>	
評価方法	<p>前期・後期の2回ある定期試験の結果に出席状況・受講態度を加味して評価する。もとより定期試験の結果を最重要視する。かといって試験さえ出来れば出席しなくともよいと思えば大間違い。自身で自学自習すれば受講時間の5倍、10倍の時間を要するであろう。努々忘れ給もうな。</p>		
受講者に対する要望など	<p>静かに眠っている分にはさしつかえないが、雑談・私語は真面目で熱心な受講生と講義をしている私にとっては騒音という名の一大外部不経済。排除さるべきは当然。まずは熱心に聴き給え。授業料が不経済。</p>		

つぎの序・終章を含めた12の章を2～3回の講義で進めて行く積もりである。

○ 序章 (プロローグ)

経済学と経済系、現代経済の問題：南北問題と環境問題 (地球系と人間系)、人類の経済発展：とりわけ産業革命前と後、さらびに経済思想の変遷 (アダム・スミス、リカード、マルサス、マルクス、シュンペーター、ケインズ等々)、資本主義経済の変遷 (とりわけ第二次世界戦争前と後の移り変わり)、現代の経済思想。

○ 第Ⅰ部 ミクロ経済学 (価格分析)

1 消費の理論

(狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。)

消費者行動の理論、消費選好理論に基づく解説；消費者の均衡点、価格・消費曲線、個別および社会需要曲線、所得効果と代替効果、代替財 (競争財) と補完財、需要の価格 (所得) 弾力性、消費者余剰。

1章の最後にいたっては、工業製品と農産物の需要の違い、特質を考えてみよう。昨今、ガット・多角的貿易交渉 (ウルグアイラウンド) において日本の米の輸入自由化問題が宣伝されているのでこの問題も考えてみよう。

2 生産の理論

(狙いは「供給の法則」の背後にある経済的意義ならびにそれを導き出す過程を理解すること。)

生産とは、企業 (生産者) 行動の理論、費用分析、平均費用と限界費用、損益分岐点と操業中止点、個別および社会供給曲線、短期および長期供給曲線、技術進歩の供給曲線に与える影響、大都市集中の問題。

3 市場：マーケット (交換の理論)

市場と取引：その形態、市場における均衡と不均衡、市場機構 (マーケット・メカニズム) の果たす役割とその効率性、価格の媒介機能 (Parametric function of price)、部分均衡と一般均衡、マーシャル調整とワルラス調整、くもの巣の理論 (農産物価格の形成過程)

4 競争の問題

競争市場と自由市場、完全競争市場の定義、不完全競争市場の諸形態、独占の問題；ここでは売手独占について考える。独占均衡と独占利潤、完全競争均衡との相違 (短期・長期)、市場の効率性と資源の最適配分ならびに消費者主権との関連、生産者余剰と社会的余剰；その完全競争者と独占者の相違、社会的余剰の独占による死重的損失、最後にアメリカの生産者が日本の輸出品に対してしばしばなされるダンピング (廉価販売) 提訴について考えてみたい。消費者がとるべき態度、消費者教育の問題も考えよう。

5 市場の限界と失敗・欠落

市場には大なり小なり不完全、ただその程度が問題だ。非価格競争、品質競争、アフター・サービスばよしとして、ビホアー・サービス (ワイロ)、談合・慣れ合いはかつてアメリカにもあった。日本でも建設業界ばかりではない。もともと、市場での取引にそぐわない財貨・サービスが増大しているのも現代社会の特質。ゴミをだれが金をだして買いますか。負の価格の意味するもの、一般道路で通行料を徴収するか税では賄うかどうか効率的か火を見るより明らか。

外部経済・不経済、公共財 (公共サービス)、パブリック・ユーティリティ、公的独占と公共料金、投票と納税、パレート最適と社会的厚生。

○ 第Ⅱ部 マクロ経済学 (所得分析)

6 国民所得の分析

マクロ経済学の生成と意義、大恐慌とケインズ思想、修正資本主義と混合経済、第二次世界戦争後の自由主義圏工業先進国の経済成長と現代経済思想。

マクロの経済循環、国民所得の諸概念、総需要・総供給 (総生産) あるいは集計需要・集計供給、消費とマクロ消費関数、貯蓄と投資の意義、その行動主体と動機の違い、投資の変動性；投資の限界効用；投資対象の価値、将来の期待収益と割引利率、貯蓄と投資の不均等による均衡国民所得水準の変動、乗数過程、節儉のパラドックス、政府部門と外圍貿易を加えた乗数理論。国民所得水準と労働雇用水準との関係。

7 貨幣・金融市場

金本位制と管理通貨制度；その歴史的意義と機能の違い、銀行のはじまりと近代銀行制度、金融市場における銀行の信用創造過程と貨幣供給、ケインズの流動性選好説と貨幣需要、金融市場の均衡利率いわゆる市場利率

8 中央銀行の機能と役割：金融政策

現金通貨の発行と通貨価値の維持；その社会的意義と責任、その歴史的・現代的素描、中央銀行の金融政策の主たる手段、とりわけ法定歩合操作、公開市場操作とその金融市場に与える効果。

9 政府の経済的役割：財政政策

政府の経済的役割すなわち経済政策には大きく分けて2つ；その1つは将来の国民経済の構造をどのような方向に誘導するか、例えば福祉政策、年金制度、農業問題、租税制度、社会基盤整備等々である。もう1つは、いわゆる景気の変動に対する調整的機能としてのマクロ経済政策である。ここでは後者の役割をの狭義の財政政策 (フィスカル・ポリシー) として考える。

その見本は1930年代前半のアメリカのニュー・ディール政策 (当時のルーズベルト大統領による) に見ることができる。政府は財政赤字の時は減税もしくは歳出を増大して短期的には益々赤字が拡大するように、黒字の時には財源があるからといって減税などしないで増税もしくは歳出を削減して益々黒字が拡大するように行動するのが、現代のマクロ経済学の原理なのである。

政府も1つの主体、その主体の行動としては不合理である。しかし、社会全体、国民経済にとっては合理的なのである。これはひいては政府にとっても長期的には合理的であるはずだ。逆もまた真パラドックスなる由縁である。

分析：政府財制支出と減税の国民所得水準に与える影響、租税体系の変更と国民所得、ラフファー曲線、完全雇用政策と物価水準安定 (貨幣価値の維持)、フィリップ曲線

10 財政・金融政策とヒックス=ハンセン 総合 (IS-LM 曲線)

ポリシー・ミックスについて、国民生産物資市場と貨幣・金融市場の相互作用、これまでのマクロ経済理論の再論とまとめ；IS-LM 分析、古典派の理論；セーの販路法則と完全雇用理論およびその時代的背景、ケインズの有効需要原理と不完全雇用理論、ならびにその時代的背景、現代マネタリストの思想と理論；修正型貨幣数量説、集計供給からみたポスト・ケインズ学派との違い、付論：サプライサイド経済学派とネオ・ケインジアン、景気循環と民主政治、政策のタイム・ラグ。

○ 終章 (エピローグ) 一結びにかえて一

人間社会と経済と政治と価値観と、経済発展と自然環境、国際貿易；古典派リカードの比較生産費説と現代のオーリン・ヘクシャー理論、現代の貿易不均衡問題、技術移転と資本移動、長期的有効需要の拡大と世界規模化

科目名	経済学(済)(98年度)	担当者名	山本美樹子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>イギリスの経済学者ジョーロビンソンは「経済学は人間の行動の学問である」という。さて、日常の経済活動の背後にはどのような経済的法則があるのだろうか？経済理論とはそのような法則について取り扱う学問と考えればわかりやすいだろう。この講義は大学の経済学部に入學したばかりの一年生が対象である。経済学部の一年の学生として最低限知ってほしい経済理論の基礎を講義する。</p>		
講義概要	<p>経済理論は大きく分けてミクロ経済理論、マクロ経済理論に分けることができる。</p> <p>ミクロ経済理論：個々の消費者は会社の意志決定に廻り、各自の行動を分析する。</p> <p>マクロ経済理論：経済全体、特に一国レベルを一つの巨大な単位と考え、その単位の各集計量の間関係について扱う。</p> <p>前期はマクロ、後期はミクロ経済学を講義する予定である。</p>		
使用教材	テキスト	<p>平成10年度は『エレメンタルミクロ経済学』『エレメンタルマクロ経済学』を使う予定である。</p>	
	参考文献	<p>中谷 徹『入門マクロ経済学』日本評論社  伊藤元重『入門ミクロ経済学』日本評論社  福岡正夫『ゼミナール経済学入門』日経新聞社  松下他『チャートで学ぶ経済学』有斐閣</p>	
評価方法	<p>前期、後期の学期末試験</p> <p>出席回数（5回以上欠席した場合には単位は出さない）</p>		
受講者に対する要望など	<p>1年間ミクロ経済学、マクロ経済学を駆け足で講義するので、1回でも休むとついていけなくなる。できる限り欠席しないで講義を受けてほしい。</p>		

1. 第1章 経済学とは何か
  1. 経済学を学ぶ目的
  2. 経済学と経済理論
2. 第2章 経済体制
  1. 混合資本主義体制の課題
  2. 社会主義体制の性格
3. 第二部 マクロ経済学の基礎理論
  - 第3章 マクロ経済学の課題
    1. マクロ経済学で取り扱うこと
    2. ストックとフロー
4. 第4章 国民所得とそれに関連する集計量
  1. 国民総生産、国民純生産、国民所得
  2. 三面等価の原則
  3. 国民所得集計上の留意点
5. 第5章 有効需要の理論
  1. 消費関数
  2. 投資関数
  3. 簡単な国民所得の決定の理論
  4. 海外部門を含めた場合
  5. 乗数効果
6. 第6章 貨幣の需要、供給
  1. 貨幣とは何か
  2. 貨幣の需要
  3. 貨幣の供給
  4. 信用乗数
7. 第7章 IS-LM 分析
  1. IS 曲線
  2. LM 曲線
  3. IS-LM 曲線の同時均衡の意味すること
  4. 財政政策の効果
  5. 金融政策の効果
8. 第三部 ミクロ経済の基礎理論
  - 第8章 ミクロ経済学（理論）の課題
9. 第9章 消費者行動の理論
  1. 効用、限界効用
  2. 無差別曲線
  3. 限界代替率、限界代替率逓減の法則
  4. 消費者の利潤極大化行動
  5. 所得消費曲線
  6. 価格消費曲線
  7. 財の分類
  8. 社会的需要曲線、消費者余剰
10. 第10章 生産者の行動
  1. 等量曲線と限界代替率
  2. 生産者の利潤極大化行動
  3. 生産可能性曲線と限界変形率
  4. 費用関数(1)
  5. 費用関数(2)
  6. 供給関数と生産者余剰
11. 第11章 市場価格の決定
  1. 市場価格の決定
  2. 価格調整—フルラス
  3. 価格調整—マーシャル  
蜘蛛の巣
12. 第12章 独占、寡占、独占的競争
  1. 完全独占
  2. 差別独占
  3. 独占的競争
  4. 寡占と複占
  5. 独占の弊害
13. 第13章 まとめ

科目名	経営学(営)(98年度)	担当者名	河野重榮(半期)
-----	--------------	------	----------

講義の目標	経営学科で学んでいく専門科目の基礎として、経営学の基本的な考え方、経営学で取り上げられる諸問題について講義する。		
講義概要	はじめに、経営学で用いられる「経営」「管理」などの意味・内容の理解を進め、ついでマネジメントの過程(意思決定—計画—組織—統制)を説明する。最後に今日の経営課題である経営革新について、技術、人材、資金、市場の各側面から取り上げる。		
使用教材	テキスト	河野重榮編著『マネジメント要論』八千代出版	
	参考文献	講義の中で、その都度指示する。	
評価方法	定期試験の結果による。出題形式は最終授業で説明する。		
受講者に対する要望など	講義に出席し、キチンと講義ノートをとること。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経営学の学び方</li> <li>2. 経営原理—行動の指針</li> <li>3. 経営—管理—作業</li> <li>4. 経営者の仕事</li> <li>5. テイラーとフォード</li> <li>6. ファヨールとフォレット</li> <li>7. 計画—組織—統制</li> <li>8. 責任と権限</li> <li>9. 事業部制</li> <li>10. 経営革新と経営戦略</li> <li>11. 技術、資金、人材、市場</li> <li>12. 大競争時代の経営</li> </ol>		

科目名	経営学(営)(98年度)	担当者名	西川純子(半期)
-----	--------------	------	----------

講義の目標	経営学の入門講座。基礎的な知識を与えながら、学生諸君の経営学への興味をかきたてていくような講義を心掛けたい。
-------	--

講義概要	歴史的な考証、理論的な整理、現状分析など、いろいろな方法を用いながら、企業を中心にその社会における役割を検討する。
------	---

使用教材	テキスト	西川純子編『冷戦後のアメリカ軍需産業』(日本経済評論社、1997)
	参考文献	その都度指示する。

評価方法	筆記試験
------	------

受講者に対する要望など	質問大歓迎、授業中は私語をつつしむこと。
-------------	----------------------

年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業家、資本家、経営者/序論 三題断</li> <li>2. 営業の自由/企業者精神の発露は営業の自由なしには不可能である。</li> <li>3. 自由と競争/自由と競争は無政府的な混乱を招来する。しかし、いずれは「見えざる神の手」によって調和が回復する。アダム・スミスの世界</li> <li>4. 資本家と労働者/資本家と労働者の対立の構図 カール・マルクスの世界</li> <li>5. 株式会社/企業は大きくなることによって競争力を獲得しようとする。</li> <li>6. 競争と独占/大きくなった企業は競争をやめて独占を形成する。</li> <li>7. ビッグ・ビジネス形成の論理 その1/アルフレッド・チャンドラーの世界</li> <li>8. ビッグ・ビジネス形成の論理 その2/ソースタイン・ヴェブレンの世界</li> <li>9. 所有と経営の分離/バーリ=ミーンズの問題提起</li> <li>10. 財閥と企業集団</li> <li>11. 元請企業と下請企業</li> <li>12. 多国籍企業と国家</li> </ol>
--------	---



科目名	経営学(営)(98年度)	担当者名	栗村英二(半期) 高松和幸(半期)
-----	--------------	------	----------------------

講義の目標	この講義は、以下の理由から入門「経営学」と位置づけられる。会社のなかでは、組織やそのはたらき、それをとりまく経済や社会がふくぎつに絡み合っている。その結果、それをあつかう「経営」はとても範囲がひろくなる。「会社」は日本経済を動かす舞台であり、「経営」の理解なくしては日本経済がわからない。そこで、できるだけわかりやすく講義することを旨とする。	
講義概要	前期後期交代による講義のため、前期後期開講時に講義概説を行う。概ね年間講義予定に従う。	
使用教材	テキスト	開講時に指示する
	参考文献	『テラスで読む日本の経営』日本経済新聞社 『企業の論理』三嶺書房 『現代マネジメント』同文館 『企業形態論』八千代出版 『経営管理』中央経済社 『経営情報システム』中央経済社 など
評価方法	前期・後期末の定期試験と、平常授業への出席状況による。出題傾向などは前期後期の最終授業で説明する。	
受講者に対する要望など		

年 間 授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 半期授業計画の概説（概ね以下の内容に沿って講義する）</li> <li>2. 経営とは何か</li> <li>3. 管理とは何か</li> <li>4. 企業とは何か</li> <li>5. 企業形態とは何か</li> <li>6. 組織とは何か</li> <li>7. オフィスとは何か</li> <li>8. 意思決定とは何か</li> <li>9. 国際経営とは何か</li> <li>10. マーケティングとは何か</li> <li>11. 経営情報とは何か</li> <li>12. 経営戦略とは何か</li> <li>13. 経営財務とは何か…資金調達など</li> <li>14. 株式会社とは何か</li> <li>15. 日本的経営とは何か…日本的経営の三種の神器（終身雇用・年功序列・企業内組合）</li> <li>16. グロバリゼーションとは何か…内なる国際化・眠らない企業・本当の国際化など</li> <li>17. ベンチャー・ビジネスとは何か…誰もができるベンチャーなど</li> <li>18. トップの条件とは何か…責任・正義感など</li> <li>19. 人材とは何か…人材になろう</li> <li>20. ネットワーク・ビジネスとは何か…マーケティングにおける新ビジネスなど</li> <li>21. よい会社（美しい会社）とは何か…必要十分条件など</li> <li>22. メセナとは何か…企業内・外環境への配慮など</li> <li>23. 社会的責任とは何か…企業内・外環境への配慮など</li> <li>24. ビジネスマンの異質・国際化の問題…外国人雇用・男女均等法など</li> </ol>
----------------------------	---

科目名	ドイツ語Ⅰ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>独Ⅰ（文法）ドイツ語の文法を一通り体系的に学ぶ。</p> <p>独Ⅰ（L）／LL 機器を用いて、主に聞き取り能力を養成する。</p> <p>独Ⅰ（総合）／ドイツ語の運用能力（読む・書く・聞く・話す力）を総合的に養成する。</p> <p>独Ⅰ（講読S）／独Ⅰ（総合）と同じ教材を用い、独Ⅰ（総合）の授業を補足し、理解を深める。</p>		
講義概要	<p>独Ⅰ（文法）／週2時間同じ日本人教員のもとで、ドイツ文法を接続法まで体系的に学習する。</p> <p>独Ⅰ（L）／日本人教員のもとで、ビデオ、カセット等を用いて主に聞き取りの訓練をする。</p> <p>独Ⅰ（総合）／週2時間同じネイティブ教員のもとで、ドイツ語運用能力をバランスよく身につける。少人数クラスで、授業は全てドイツ語で行われる。</p> <p>独Ⅰ（講読S）／日本人教員が担当。独Ⅰ（総合）の授業で残った疑問点の解明、文法事項の説明が中心となる。</p> <p>*5組で履修する場合は、独Ⅰ（文法）は、週1時間。残り1時間は独Ⅰ（講読）となり、ドイツ語の読解力を身につけるための授業となる。なお、5組は既習者クラスなので、どの科目も他のクラスよりはレベルの高い授業となる。</p>		
使用教材	テキスト	<p>独Ⅰ（文法）／担当教員により異なるので、教科書販売所の掲示をよく見ること。</p> <p>独Ⅰ（L）／毎時間コピーで配布する。</p> <p>独Ⅰ（総合）／Stufen international 1</p> <p>独Ⅰ（講読S）／Stufen international 1</p>	
	参考文献	<p>各教員から必要に応じて指示がある。</p>	
評価方法	<p>独Ⅰ（文法）／担当教員により若干異なるが、定期試験、授業中の小テスト、宿題の提出状況、出席状況などを総合的に判断して評価する。</p> <p>独Ⅰ（L）／前・後期定期試験の結果と出席状況により評価。</p> <p>独Ⅰ（総合）／各課が終了するごとに行われる筆記試験（年7回の予定）と、年度末に行われる口頭試験、平常点（普通の授業への貢献度等）により評価。</p> <p>独Ⅰ（講読S）／各課が終了するごとに筆記試験（年7回の予定）を行う。評価は独Ⅰ（総合）と同一評価。</p>		
受講者に対する要望など	<p>上述した6コマの中から2コマを選んで履修することになるが、履修登録前に必ず所属学部の教務主任、およびドイツ語学科教務委員に相談すること。</p>		

科目名	英語 I (講読) (一外)	担当者名	各担当教員
-----	----------------	------	-------

講義の目標	本講義は、英語で書かれた小説、随筆、雑誌、新聞など様々な文章を読みこなすことができる読解力の基礎を養うことを目標とする。	
講義概要	講義は、学生の英語力を考慮した上で決めた教材により行う。教材の内容は、現代英語で平易に書かれたものとし、読解力をつけるために訳読、要約、文法など総合的に学ぶ。	
使用教材	テキスト	各担当講師が決める。
	参考文献	各担当講師の指示による。
評価方法	各担当講師による。	
受講者に対する要望など	予習、復習を欠かさず、積極的に学習して欲しい。 年間講義予定については、授業時に指示する。	

科目名	フランス語Ⅰ（一外）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基本的な知識を復習しながら、さらに確かなものにします。		
講義概要	この科目は、二人の担当者により週2コマ開講されます。授業の進め方などの詳細については、第一回目に各担当者から説明がありますので、必ず出席して下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による。	
	参考文献	辞書や参考書については、直接担当者に相談して下さい。	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など			

科目名	ドイツ語Ⅰ(二外)	担当者名	各担当教員
-----	-----------	------	-------

講義の目標	I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化についての基礎的な知識の獲得と、ドイツ語の基本能力の修得を目標とします。 I B (読解練習) / 読解に重点を置きながら、ドイツ語の基本的な語彙や構文が理解できるよう指導します。 I C (口頭練習) / 日常会話における基本的な表現を使って、ドイツ語での応答ができるよう指導します。 I Aを中心に、I AとI B、またはI AとI Cというように組み合わせて履修して下さい。		
講義概要	I A (基礎) / ドイツ語圏の社会や文化にさまざまな形で触れた後、発音・数字・日常的な表現等の導入を経て、徐々にドイツ語の基本的語彙・表現・文法事項を学んでいきます。 I B (読解練習) / 易しい文章を読みながら、そこに出てくる基本的な語彙や構文を理解し、修得していきます。 I C (口頭練習) / コミュニケーションを意識しながら、日常会話における場面ごとの基本表現を学び、口頭で応答できるように練習を行います。		
使用教材	テキスト	各担当者により使用テキストが異なります。詳しくは教科書販売所の掲示を見て下さい。	
	参考文献	・独和辞典(中型のもの)	
評価方法	前・後期定期試験の成績と授業への出席状況などを総合的に判断して評価します。		
受講者に対する要望など	練習が主体の科目ですから、授業には必ず出席し、積極的に発言して下さい。		
年間授業計画	1. 第1週 テキストの内容を紹介し、今後の授業の進め方・進度等について説明します。 2. 第2週～第24週は、テキストに基づいた練習。		

科目名	フランス語Ⅰ(二外)	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	フランス語の基礎的文法を習得し、簡単なテキストを読む力をつけます。		
講義概要	フランス語の基礎を学びます。発音、動詞の活用、文法事項など、最初は複雑に思えるかも知れませんが、ある程度の根気と努力さえあれば、習得できます。予習、復習に力を入れて、その都度マスターするように心掛けて下さい。		
使用教材	テキスト	各担当者による(場合によっては、二人の担当で共通の教科書を用いることもありますので、教科書販売所の掲示を確認して下さい)。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初学者のために工夫された仏和辞典がいろいろとありますので、担当者の説明を聞いて必ず購入して下さい。</li> <li>・その他の参考書については、担当者に直接相談して下さい。</li> </ul>	
評価方法	評価方法については各担当者から説明があります。		
受講者に対する要望など	どの学習もそうですが、とくに語学では持続的な積み重ねが大切です。毎日少しの時間でもよいから、フランス語に触れるように努力して下さい。		

科目名	スペイン語 I (総合)	担当者名	各担当教員
-----	--------------	------	-------

講義の目標	スペイン語入門の授業である。基礎的文法を、基本単語を用いた会話文を通して学ぶ。声に出して練習することによって、あいさつ文、現在形を使う文、過去形を使う文まで学びたい。		
講義概要	テキストにそって、第6課(点過去)まで進む。		
使用教材	テキスト	<i>¡Hola, amigos!</i> (芸林書房)	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。および小テストがある場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語 I (会話) との同時履修を望む。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストにそって第1課から第3課まで前期でおこなう。</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13. テキストにそって第4課から第6課まで後期でおこなう。</li> <li>14.</li> <li>15.</li> <li>16.</li> <li>17.</li> <li>18.</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> </ol>		



科目名	スペイン語Ⅰ（会話）	担当者名	各担当教員
-----	------------	------	-------

講義の目標	スペイン語会話入門の授業である。基本単語を用いた会話文を練習し、あいさつ文、現在形の文、過去形の文までを使えるようにする。		
講義概要	スペイン語Ⅰ（総合）と同じテキストを使い、その進度にあわせながら、会話練習をおこなう。		
使用教材	テキスト	<i>iHola, amigos!</i> （芸林書房）	
	参考文献		
評価方法	授業への積極的参加。年2回のテスト。小テストをおこなう場合もある。		
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅰ（総合）との同時履修を望む。		
年間授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキストにそって第1課から第3課まで（前期）</li> <li>2.</li> <li>3.</li> <li>4.</li> <li>5.</li> <li>6.</li> <li>7.</li> <li>8.</li> <li>9.</li> <li>10.</li> <li>11.</li> <li>12.</li> <li>13. テキストにそって第4課から第6課まで（後期）</li> <li>14.</li> <li>15.</li> <li>16.</li> <li>17.</li> <li>18.</li> <li>19.</li> <li>20.</li> <li>21.</li> <li>22.</li> <li>23.</li> <li>24.</li> </ol>		

科目名	中国語Ⅰ（講読）	担当者名	秦 敏
-----	----------	------	-----

講義の目標	はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、一年で基本的な会話と平易的な文章を読みとることを目標とする。		
講義概要	講義の内容は発音、文型、文法です。発音は声調から母音、子音の発音と組合せまで、文型は挨拶、買物、旅行など初歩段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深める。		
使用教材	テキスト	榎本英雄『できる中国語』 同学社	
	参考文献	授業中に必要に応じてその都度紹介します。	
評価方法	授業中の学習態度、前後期とも筆記試験と出席回数によって評価する。		
受講者に対する要望など	復習することを望みます。		

科目名	中国語 I (講読)	担当者名	陳 跡
-----	------------	------	-----

講義の目標	中国語の基礎発音と、文法の仕組みを学んだ上で日常生活において必要とされる言葉を習得することを目指す。		
講義概要	発音は初心者にとって最難しい課題である。中国語独特の音声で、日本語の音声体系にならないもの、つまり四声一四種の調子音や、その他の特に注意すべき子音と母音の読み方を、集中的に練習する。言葉はコミュニケーションの手段の一つである。初級中国語の授業は簡単で実用的な言葉や短い会話を用いて行う。		
使用教材	テキスト	荒屋 勳・尹 景春・岡部謙治『中国語ネットワーク』(朝日出版社)	
	参考文献		
評価方法	平常点と年間二回の定期試験を総合的に評価する。		
受講者に対する要望など			

科目名	中国語Ⅰ（文法）	担当者名	頼 明
-----	----------	------	-----

講義の目標	<p>一つの外国語をマスターするには、書く・聞く・話すの三つがともにできなくてはならない。この授業では、発音に力を入れ、特に前期においては、中国語の発音表記である「ピンイン」のマスターに重点を置く。授業では各課の本文を正確な音で発音でき、かつ暗記できることを目指す。テキストにはCD付きの教材を採用し、学生が普段自宅において容易にヒアリング・発音の練習ができるようにする。さらに応用力が付くように、必要な文法事項について説明を行い、各課で出現した文法事項を生かした作文ができることを目指す。</p>		
講義概要	<p>テキストに沿って授業を進める。前期においては四百あまりある中国語の音節の習得に力を入れ、中国語の発音表記である「ピンイン」を多用した授業を行う。この段階では特にヒアリングと実際の発音が重要である。</p> <p>次の段階では、各課のテキストの内容に沿って、実用的な中国語の表現について学習する。授業では全体で繰り返し発音練習を行った上で、個別に学生を中心とした会話形式の発音練習を行う。さらに、各課で出現した文法事項について説明し、それを生かした作文練習をする。</p> <p>理解度を確認するため毎回小テストを行う。</p>		
使用教材	テキスト	守屋宏則著『中国ひとくにことば』朝日出版	
	参考文献	授業で必要に応じて紹介する。	
評価方法	出席率・授業態度を平常点として、小テストや前後期の筆記試験を総合して評価する。		
受講者に対する要望など	特に出席を重視する。授業で学んだことはCDを生かして、次の授業までに暗記する。疑問点は積極的に質問する。		

1. 中国、中国語を紹介し、中国語を学ぶ上での留意点や同じ漢字圏に属する私達が特に注意すべき事柄について紹介する。簡単な発音（声調など）の導入を行う。
2. 単母音・複合母音について学習する。
3. 有気音と無気音・巻舌音などの子音について学習する。
4. 鼻音を含む母音について学習する。
5. 中国語の音節構造・声調変化・巻舌母音・r化音・軽声・声調符号の位置など中国語の音について総合的に触れる。
6. ①人称代名詞 ②動詞“是” ③“吗”疑問文 ④“的” ⑤副詞“都”について学習する。
7. ①指示代詞(1) ②否定の副詞“不” ③反復疑問文 ④副詞“也”について学習する。
8. ①動詞“有” ②否定の副詞“没” ③動詞と目的語 ④“呢”疑問文 ⑤時を表す語句について学習する。
9. ①指示代詞(2) ②形容詞 ③選択疑問文 ④疑問詞疑問文について学習する。
10. ①動詞句を目的語にとる動詞 ②方位詞 ③存在を表す動詞“有” ④存在を表す動詞“在”について学習する。
11. ①動作・行為の「経験」を表す“了” ②語気助詞“了” ③比較の表現 ④“二”と“兩”について学習する。
12. これまで学んだことのまとめ・復習・応用練習を行う。
13. ①動作・行為の「経験」を表す“过” ②動量詞 ③数量補語 ④離合詞について学習する。
14. ①量詞 ②近接未来の表現 ③存現文 ④“几”と“多少”について学習する。
15. ①動作・行為の「進行」を表す“在” ②介詞 ③“是……的”構文 ④動詞の重ね型について学習する。
16. ①助動詞(1)…可能を表す助動詞 ②助動詞(2)…願望・必要性などを表す助動詞 ③“着”の用法 ④家族・親族の言い方について学習する。
17. ①結果補語 ②方向補語 ③“多”+動詞+“点儿”について学習する。
18. 可能補語 ②“有点儿”+形容詞 ③動作・行為の「終了」を表す“过”について学習する。
19. ①受身文 ②“把”構文 ③疑問詞の不定用法について学習する。
20. ①程度補語 ②方向補語の拡張用法について学習する。
21. ①使役文 ②語気助詞のまとめについて学習する。
22. ①様態補語 ②複文 ③二重目的語について学習する。
23. これまで学んだことのまとめ・復習・応用練習を行う。
24. 「応用」：短文の読解

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、18世紀の産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そしてこれに引き続いて起こる脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>	
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>	
使用教材	テキスト	プリントを渡す。
	参考文献	随時紹介。
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>	

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. 社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2. 古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3. 古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4. 古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5. 社会学における産業社会および脱産業社会のとりえ方
6. 社会学における産業社会および脱産業社会のとりえ方
7. 現代の職業構造の分析
8. 雇用社会と職業的キャリア
9. 産業社会における知識の性格と教育
10. 日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11. 社会的不平等の諸次元
12. 不平等の構造化
13. 社会移動の現実
14. 日本の階層社会と社会移動
15. 管理社会の中核としての近代官僚制
16. 近代的経営の社会構造
17. 日本的組織構造
18. 都市化と地域社会
19. 家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
20. 家族のライフサイクルの変化
21. 高齢化社会の人口学および社会学的分析
22. 高齢化社会における社会問題
23. 生活の質を考える。
24. まとめ

科目名	文化人類学	担当者名	井上兼行
-----	-------	------	------

講義の目標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおおよそを知る。	
講義概要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	随時紹介する。
評価方法	試験を考えているが、登録者が極端に少ない場合はレポートもありうる。	
受講者に対する要望など	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。	



1. 序——どんな学問か。
2. 学問形成の歴史——（1）スペイン人のインディオ観①
3.       "       —（2）               "               ②
4.       "       —（3）16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5.       "       —（4）18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6. 19C後半 文化人類学の誕生——（1）“文化”の概念①
7.               "       —（2）“文化”の概念②
8.               "       —（3）“進化”の概念
9. 19C末～20C初 現代の文化人類学へ
10. 研究方法としての“実地調査”——（1）
11.               "       —（2）
12. これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
- 13.
- 14.
- 15.
- 16.
- 17.
- 18.
- 19.
- 20.
- 21.
- 22.
- 23.
- 24.

科目名	スポーツ・健康論	担当者名	和田 智
-----	----------	------	------

講義の目標	生涯スポーツの創造に向けて、自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツを生活の中に取り入れ、健康で豊かなライフスタイルを形成できる能力を身に付けるため、生涯スポーツの理論を学ぶ。実践については、体育実技として開設されている授業を履習してもらいたい。		
講義概要	前期には、我々を取り巻く、スポーツ、自由時間、健康などの現状を把握し、プレー・レジャー論についての文化的視点から、その価値について解説していく。後期では、健康づくりのためのスポーツを生物的視点、運動学的視点から解説していく。		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	中野孝次『清貧の思想』、草思社 松田義幸他『人生80年時代のライフスタイル』日経マーケディア ミヒャエル・エンデ（大島かおり訳）『モモ』岩波書店	
評価方法	出席状況（40%）、前期・後期テストの結果（60%）で評価する。		
受講者に対する要望など	体育実技：アウトドアレクリエーション山岳型・アウトドアレクリエーション海派型（和田担当）と同時に履修することが望ましい。		

年  
間  
授  
業  
計  
画

1. ガイダンス・なぜ自由時間について考えることが大切なのか
2. 自由時間の現状
3. 自由時間の意味の変遷
4. レジャーとレクリエーション
5. レジャーの本来の意味
6. わたしの自由時間の過ごし方
7. わたしの自由時間の過ごし方の分析
8. レジャーとライフスタイル
9. レジャーの実践のための手順
10. レジャー実習
11. わたしのレジャーライフの創造
12. わたしのレジャーライフの創造
13. 現代社会と運動の必要性
14. 栄養と運動
15. 筋力アップ運動とは
16. 筋力アップ運動とは (実技)
17. エアロビクス運動とは
18. エアロビクス運動とは (実技)
19. コンディショニング運動とは
20. コンディショニング運動とは (実技)
21. 体力測定
22. 体力測定結果の分析
23. 運動中に起こる事故と、応急処置 その1
24. 運動中に起こる事故と、応急処置 その2

科目名	東アジア・中国経済論（98年度）	担当者名	駒形哲哉
-----	------------------	------	------

講義の目標	<p>一躍成長のセンターに躍り出て「東アジアの奇蹟」とまで称されたアジア経済が、昨年のタイの金融不安をきっかけに一転して危機を迎えている。香港という開かれた経済センターを回収して、国内経済改革の加速をもくろんだ中国にとって、香港を含めたアジアの経済不安は大きな誤算であったかもしれない。本講義では、激動のアジア経済を分析するための基礎を身につけ、受講終了後もひきつづき、地域経済に関心を持ち続けてもらうことを最大の目標としている。</p>		
講義概要	<p>本年は、東アジアのなかでも、近年とりわけ急激な経済成長を遂げてきた中国に焦点をあて、中国の「社会主義市場経済」化の道りを内外情勢をふまえて論じることにした。そこで、まずカレントなトピックをいくつか紹介した後、中国の経済発展と制度改革および解決を迫られる諸課題について、アジア諸国との比較を交えながら説明する。経済分析を行う枠組みの入り口のさらに入り口も、同時に学ぶことにしたい。</p>		
使用教材	テキスト	渡辺利夫、白砂堤津郎『図説中国経済』日本評論社、1993年	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阿部純一編著『中国—21世紀への課題』人と文化社、1997年</li> <li>・渡辺利夫、足立文彦、文大字『図説アジア経済（第2版）』日本評論社、1997年</li> </ul>	
評価方法	<p>夏休み中の課題（ブックレポート）提出を後期試験参加の資格とし、ブックレポートと後期試験などをもとに成績評価を決定する。</p>		
受講者に対する要望など			

1. 概要説明
2. 最近のトピック
3. 経済発展のメカニズム①：計画経済の時代
4. 経済発展のメカニズム②：改革開放の時代
5. 国民生活と教育水準
6. 人口動態
7. 農業の発展①：アジアの農業と中国
8. 農業の発展②：集団農業の形成と解体
9. 農業の発展③：中国の食糧問題
10. 工業化①：計画経済の時代
11. 工業化②：改革開放下の企業
12. 工業化③：産業構造の変化と国有企業
13. 前期の復習と最近のトピック
14. 郷鎮企業①：地域開発
15. 郷鎮企業②：急進的改革と漸進的改革
16. 財政
17. 金融・証券市場
18. エネルギーと交通運輸
19. 対外経済①：対外貿易、直接投資
20. 対外経済②：WTO 加盟
21. 香港返還
22. 中台兩岸経済交流
23. 環境問題
24. まとめ